

会 議 録

会議の名称	令和8年度第1回小金井市食育推進会議
事務局	福祉保健部健康課健康係
開催日時	令和8年6月10日(水)午後2時
開催場所	小金井市保健センター1階大会議室
出席者	別紙のとおり
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可 ・ <input type="radio"/> 一部不可 ・ <input type="radio"/> 不可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	
会議次第	別紙のとおり
会議結果	
発言内容・ 発言者名(主な 発言要旨)	
提出資料	別紙のとおり
その他	

令和8年度第1回食育推進会議次第

日 時 令和8年6月10日（水）午後2時から
場 所 小金井市保健センター1階 大会議室

1 開 会

2 新委員紹介

3 議 事

- (1) 第5次小金井市食育推進計画に係る市民アンケート調査報告書（案）について
- (2) 第5次小金井市食育推進計画（案）について
- (3) 小金井市食育推進計画進捗状況調査結果について
- (4) 令和7年度食育コーディネータ実績について
- (5) 小金井市食育ホームページについて

4 その他

5 閉 会

小金井市食育推進会議委員名簿

令和8年6月10日

No.	選出区分	氏名
●市民（4人）		
1	公募市民	みけ あきと 三毛 明人
2	公募市民	まきの 牧野 まや
3	公募市民	なかむら やすお 中村 靖夫
4	公募市民	さいとう けいこ 斎藤 恵子
5		
●学識経験者（2人）		
6	実践女子大学生活科学部食生活科学科准教授	やまぎし ひろみ 山岸 博美
7	辻調理師専門学校東京	たか た みちこ 高田 倫子
●関係機関の役員又は職員（6人）		
8		
9	小金井市立小中学校PTA連合会	なかにし まさひろ 中西 晶大
10	小金井市社会福祉協議会	たかはし あんじゅ 高橋 杏樹
11	東京都小金井歯科医師会	さかもと まさあき 坂元 雅明
12	小金井市農業振興連合会	おおほり ゆうき 大堀 雄紀
13	東京むさし農業協同組合小金井支店	くわはら いちろう 桑原 一朗
14	小金井市商工会	ふじさわ ひろし 藤澤 弘
●関係行政機関の職員（1人）		
15	東京都多摩府中保健所	こいけ のりこ 小池 紀子
●市の職員（1人）		
16	小金井市福祉保健部長	たかはし まさえ 高橋 正恵

第5回食育市民アンケート調査 報告書（案）

令和8年3月
小金井市

目次

I 調査概要	1
1. 調査概要.....	3
(1) 調査の目的及び実施状況.....	3
(2) 報告書の読み方等.....	4
II 調査結果	5
1. 一般市民調査.....	7
(1) 回答者の状況.....	7
(2) 「食育」への関心について.....	35
(3) 現在の食生活・生活習慣について.....	48
(4) 野菜の消費・購入について.....	81
(5) 食品に関する意識について.....	90
(6) 家族との食事について.....	93
(7) 外食について.....	95
(8) 家族以外との共食と子ども食堂の利用状況について.....	100
(9) 中食や間食、非常食について.....	103
(10) 行事食について.....	109
(11) 食生活の選択基準と情報源について.....	115
2. 小中学生調査.....	131
(1) 回答者の状況.....	131
(2) 朝ごはんについて.....	132
(3) 夕ごはんについて.....	140
(4) 食事全般について.....	142
(5) 自分の体について.....	148
(6) 給食について.....	151
III 調査票	156
(1) 一般市民調査票.....	158
(2) 小中学生調査票.....	166

I 調査概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的及び実施状況

①調査目的

小金井市では、「小金井市らしい食生活」が達成できているかを把握し、市民の食生活の実態を明らかにすることを目的として、平成20年11月、平成22年12月、平成28年7月、令和2年11月に食育市民アンケートを実施しました。今回、令和13年度までを計画期間とする小金井市食育推進計画の見直しにあたり、市民の食に関する意識や行動の変化を把握し、今後の小金井市の食育のあり方を検討するための基礎調査として本調査を実施しました。

②調査対象及び調査方法

区分	調査対象	調査方法	対象者数
一般市民調査	小金井市在住の18歳以上の市民（住民基本台帳無作為抽出）	郵送配付・郵送回収及びWEB回答	2,000人
小中学生調査	小金井市立小中学校各2校の小学4年生、中学1年生・2年生	対象の全児童・生徒にアンケートを配付	821人

③調査期間

区分	調査期間
一般市民調査	令和7年11月1日（土）～11月21日（金）
小中学生調査	令和7年11月3日（月）～11月21日（金）

④回答状況

対象者	配付数	宛先不明	有効配付数*	回収数	有効回収率
一般市民	2,000	10	1,990	758	38.1%

※宛先不明等で戻ってきた10通を除いています。

対象者	配付数	回収数	回収率
小中学生	821	734	89.4%

(2) 報告書の読み方等

- 各設問に対し、全体的な結果を示し、下段には年代別クロス集計表で傾向のみられる点を記述しています。また、回答の状況をグラフ化しており、一般市民調査については全体に続き、年代別の回答状況を、小中学生調査は学年別の回答状況をグラフ化しています。
- 各設問の選択肢が長い場合、グラフの選択肢を表記上省略して記載している場合があります。各設問の選択肢の詳細については、調査票を参考にしてください。
- 各回答のグラフは、各設問の回答者数（件数）を基数として%で示しています。また、割合は小数点2位以下を四捨五入して少数点第1位で表示しており、合計が100.0%にならない場合があります。複数回答の設問は、回答が回答者全体に対しての比率であるため、各割合の合計は100.0%を超えています。
- 自由記述設問は、基本的には記述を原文のまま掲載していますが、「てにをは」や誤字については修正を加えています。また、内容を損なわない範囲内で、要約や修正をして表記しているものがあります。

Ⅱ 調査結果

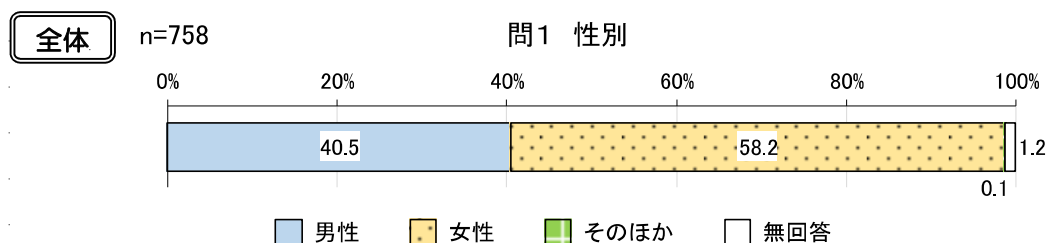
1. 一般市民調査

(1) 回答者の状況

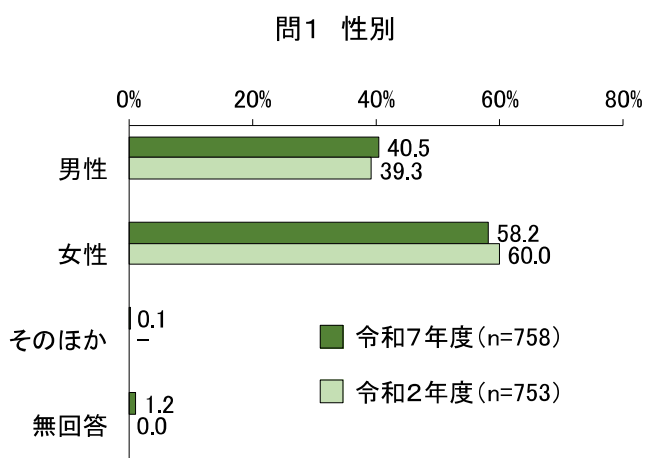
問1 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

全体では、「男性」が40.5%、「女性」が58.2%となっています。

令和2年度と比較すると、「男性」の割合が増加しています。



経年比較



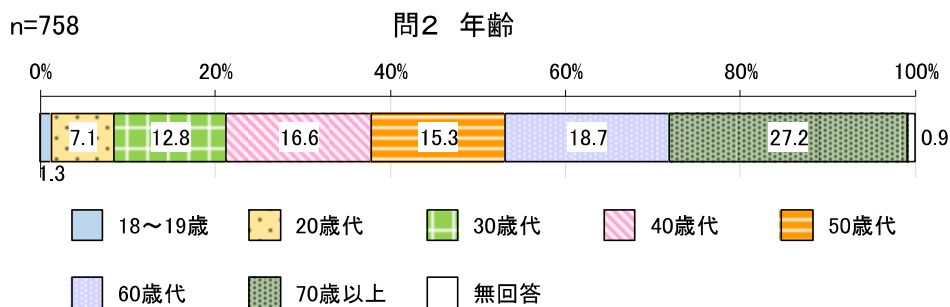
※令和2年度では、「そのほか」という選択肢は設けておりませんでした。

問2 アンケートに答えてくださるあなたの年齢をお答えください。(〇は1つ)

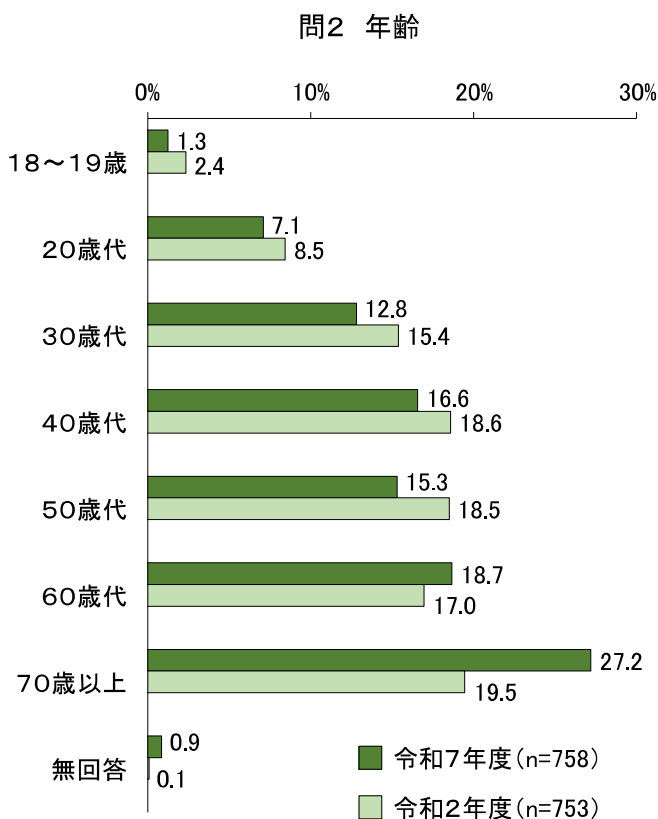
全体では、「70歳以上」が27.2%と最も多く、次いで「60歳代」が18.7%、「40歳代」が16.6%となっています。

令和2年度と比較すると、「60歳代」、「70歳以上」の割合が増加しています。

全体



経年比較



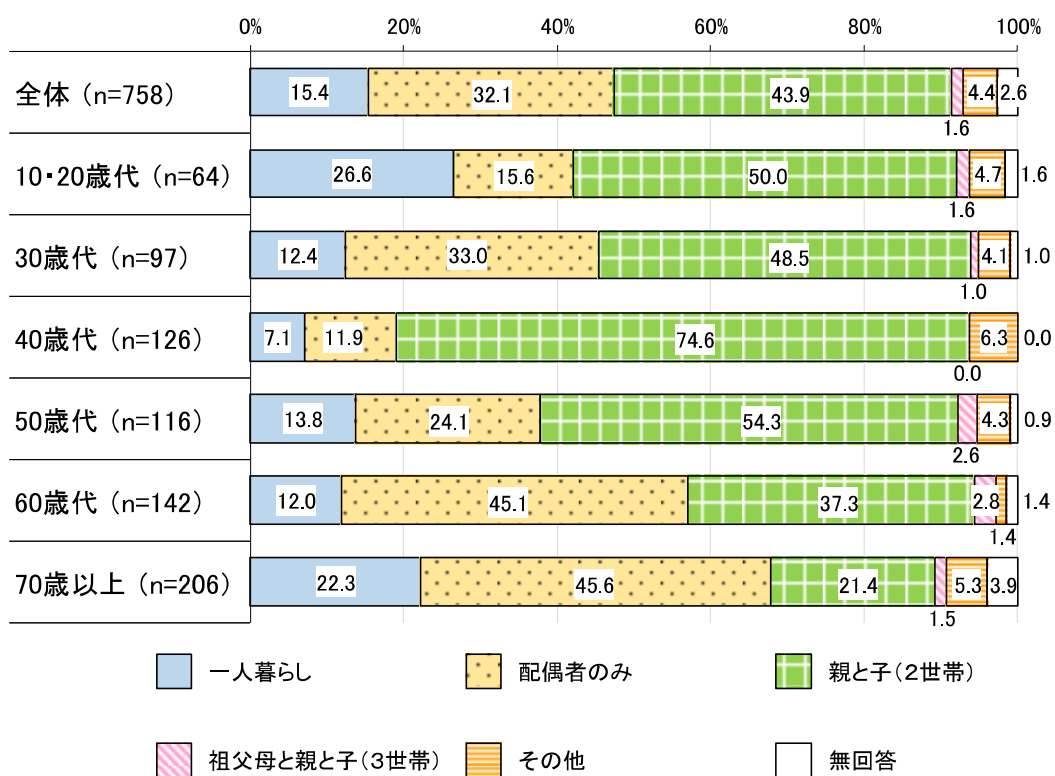
問3 あなたの現在の家族構成はどのようになっていますか。(〇は1つ)

全体では、「親と子(2世帯)」が43.9%と最も多く、次いで「配偶者のみ」が32.1%、「一人暮らし」が15.4%となっています。

年齢別にみると、「配偶者のみ」では70歳以上が45.6%、60歳代で45.1%と、他の年代に比べて多くなっています。一方で40歳代では「親と子(2世帯)」が74.6%と、突出して多い割合となっています。

年齢別

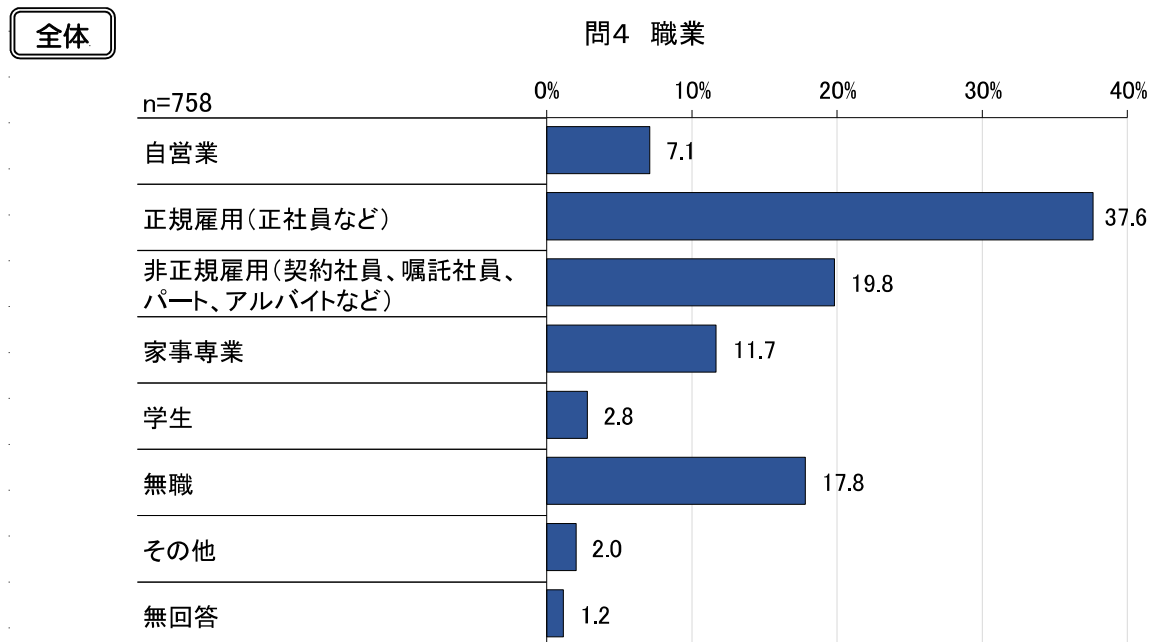
問3 家族構成



問4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(〇は1つ)

全体では、「正規雇用(正社員など)」が37.6%と最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート、アルバイトなど)」が19.8%、「無職」が17.8%となっています。

年齢別にみると、「正規雇用(正社員など)」では30歳代の77.3%が、「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート、アルバイトなど)」では60歳代の32.4%が、「家事専業」では70歳以上の21.4%が、それぞれ他の年代よりも多い割合となっています。



年齢別

問4 職業

上段:度数 下段:%		全体	自営業	(正規雇用 社員など)	嘱託社員、 アルバイトなど)	非正規雇用 (契約社員、 パート)	家事専業	学生	無職	その他	無回答
全体		758 100.0	54 7.1	285 37.6	150 19.8	89 11.7	21 2.8	135 17.8	15 2.0	9 1.2	
年齢	10・20歳代	64 100.0	-	37 57.8	3 4.7	1 1.6	21 32.8	2 3.1	-	-	
	30歳代	97 100.0	2 2.1	75 77.3	18 18.6	2 2.1	-	-	-	-	
	40歳代	126 100.0	13 10.3	77 61.1	20 15.9	10 7.9	-	4 3.2	2 1.6	-	
	50歳代	116 100.0	10 8.6	58 50.0	34 29.3	11 9.5	-	2 1.7	1 0.9	-	
	60歳代	142 100.0	16 11.3	33 23.2	46 32.4	21 14.8	-	24 16.9	2 1.4	-	
	70歳以上	206 100.0	13 6.3	5 2.4	29 14.1	44 21.4	-	103 50.0	10 4.9	2.0 1.0	

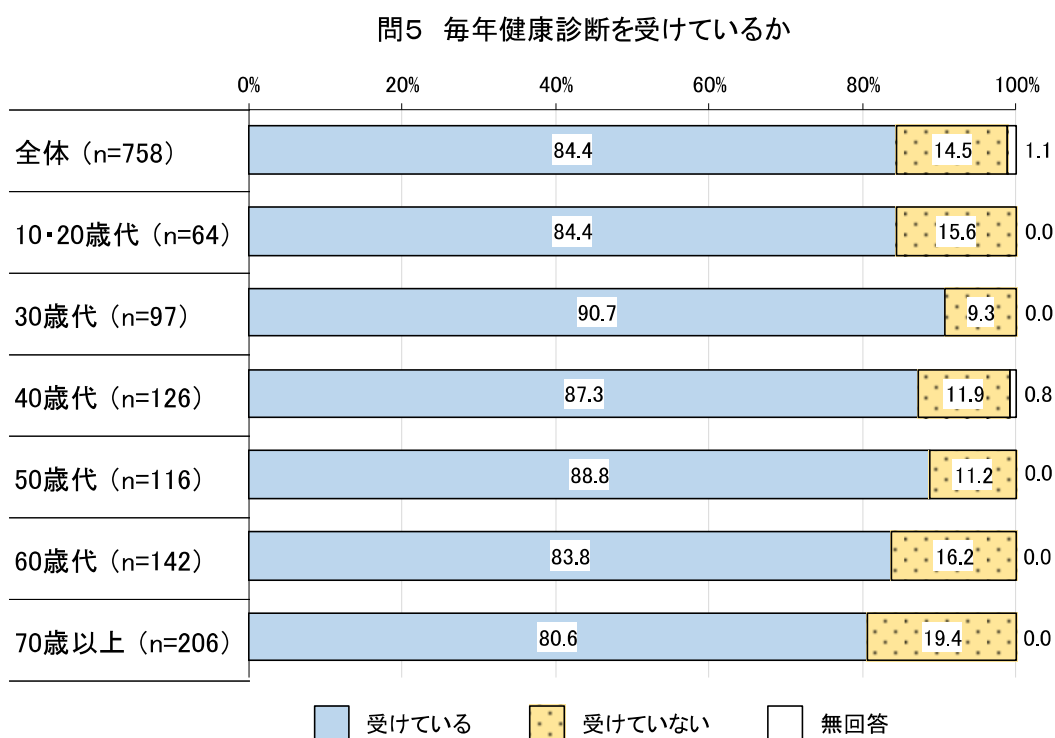
問5 あなたは毎年健康診断を受けていますか。(〇は1つ)

全体では、「受けている」が84.4%、「受けていない」が14.5%となっています。

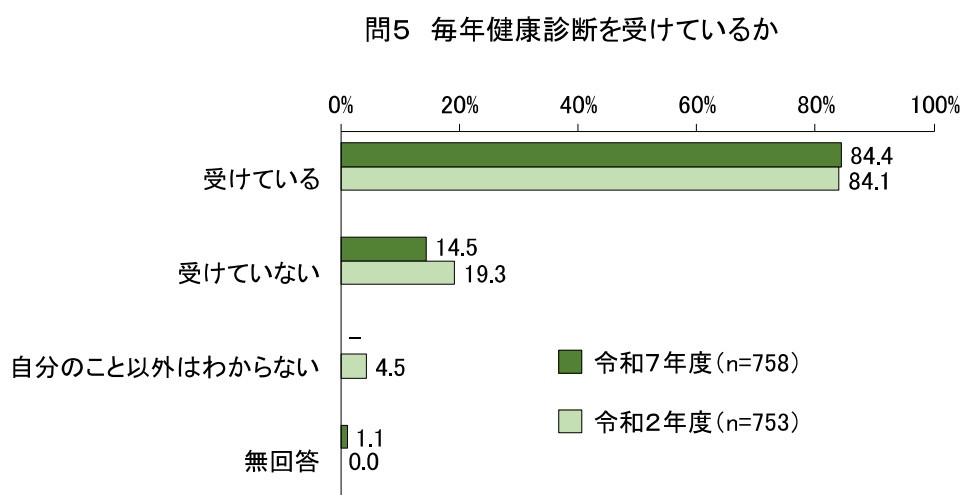
年齢別にみると、どの年齢層でも「受けている」が8割を超える一方、70歳以上では「受けていない」が2割近くとなっています。

令和2年度と比較すると、「受けていない」の割合が減少しています。

年齢別



経年比較

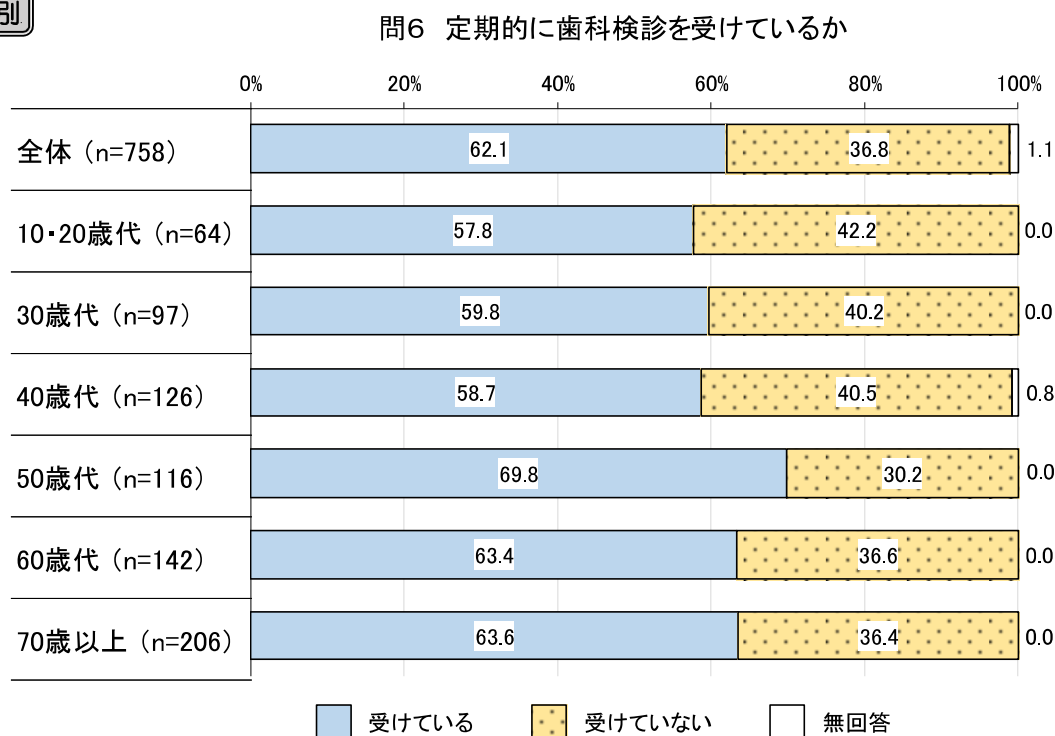


※令和7年度では、「自分以外はわからない」という選択肢は設けておりません。

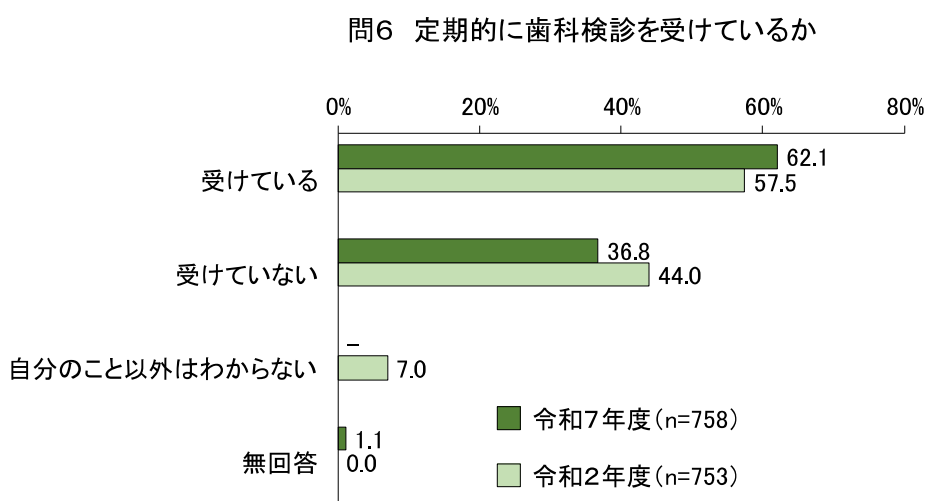
問6 あなたは定期的に歯科検診を受けていますか。(〇は1つ)

全体では、「受けている」が62.1%、「受けていない」が36.8%となっています。
 年齢別にみると、「受けている」は50歳代(69.8%)が最も多く、次いで70歳以上が63.6%、
 「受けていない」は10・20歳代が42.2%と最も多く、40歳代が40.5%と続いています。
 令和2年度と比較すると、「受けていない」の割合が減少しています。

年齢別



経年比較



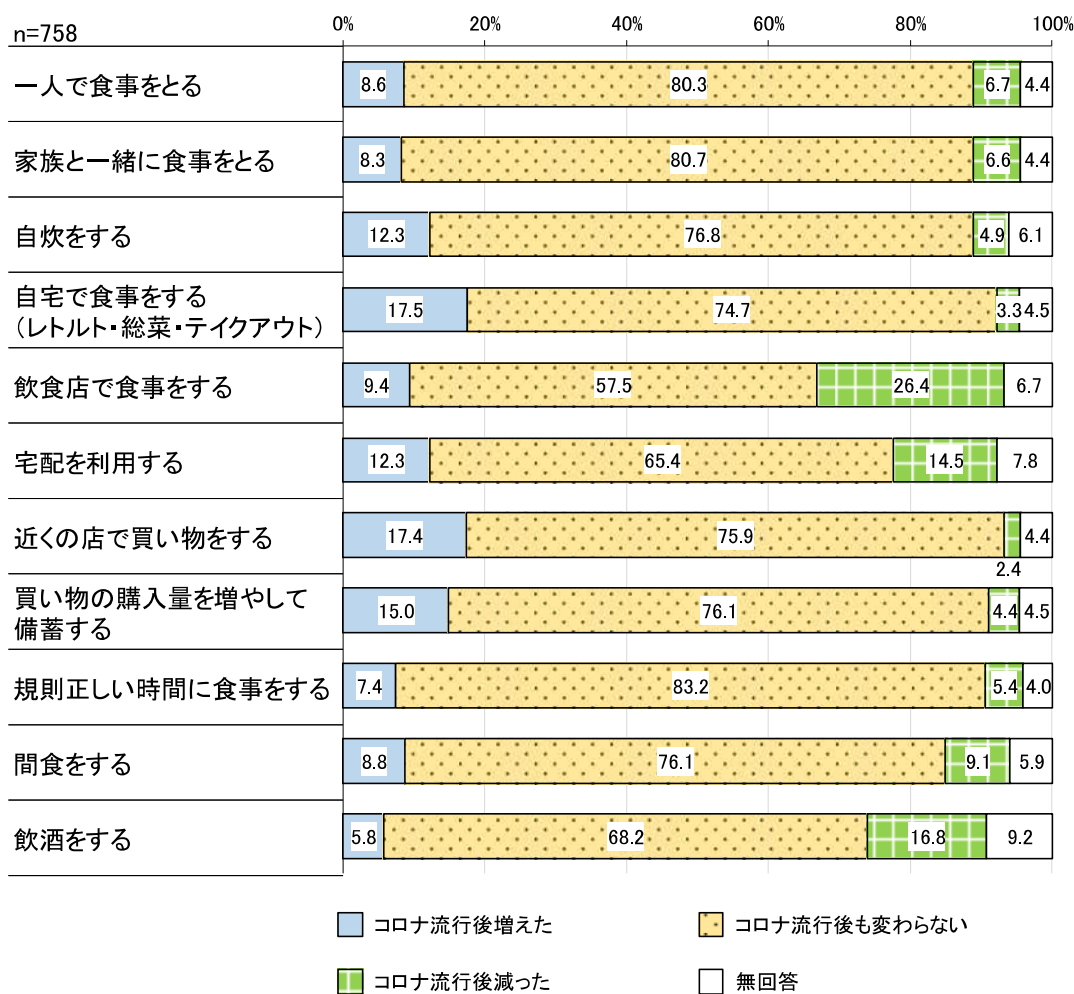
※令和7年度では、「自分以外のことはわからない」という選択肢は設けておりません。

問7 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在を比較して、食生活に変化はありましたか。(①~⑪それぞれに○は1つ)

全体では、コロナ流行後増えたのは「自宅で食事をする(レトルト・総菜・テイクアウト)」が17.5%、コロナ流行後減ったでは「飲食店で食事をする」が26.4%と他の項目より多くなっています。

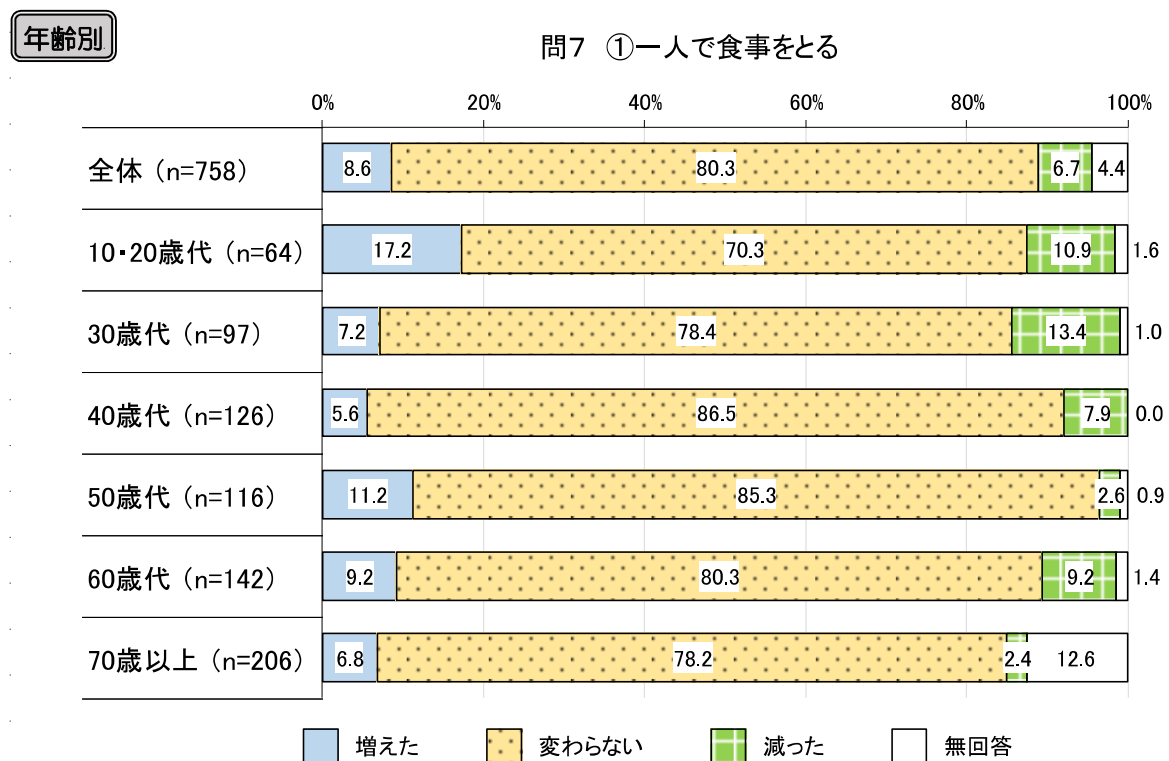
全体

問7 新型コロナウイルス感染症流行前後による食生活への影響



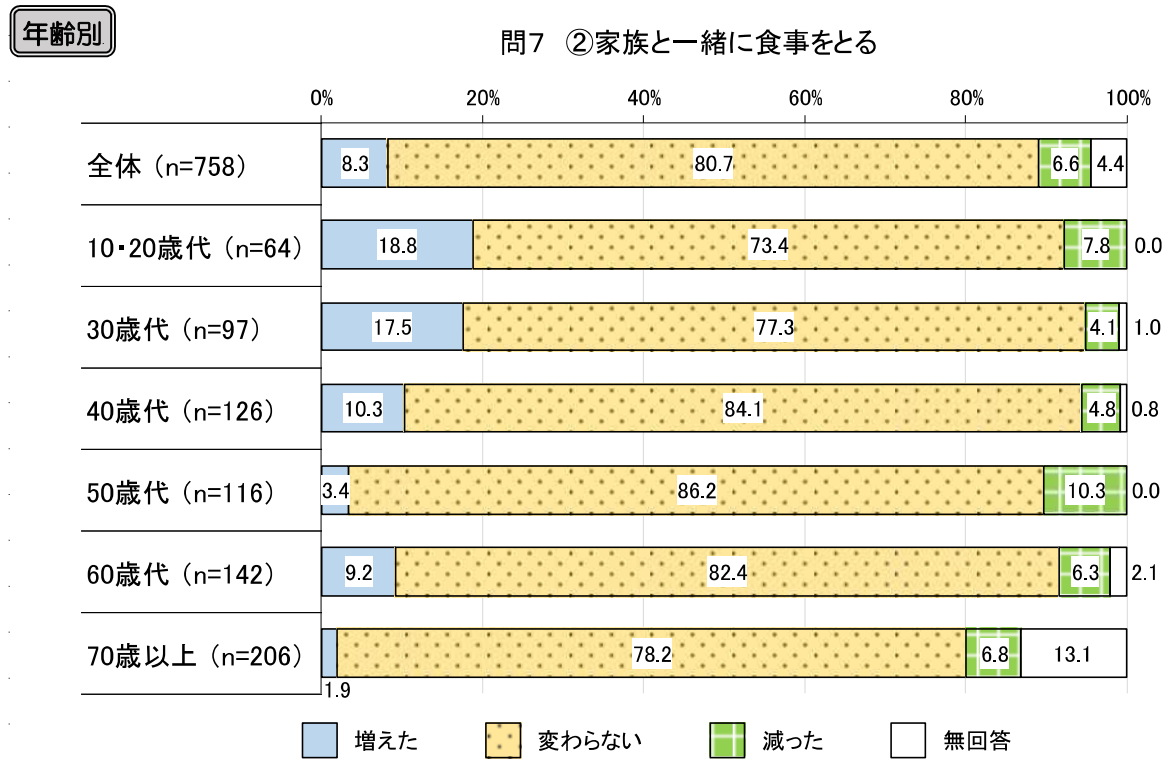
①一人で食事をとる

年齢別にみると、どの年齢層でも「変わらない」が7割を超える一方、「増えた」が10・20歳代で17.2%、「減った」が30歳代で13.4%と、それぞれ他の年代に比べて多い割合となっています。



②家族と一緒に食事をとる

年齢別にみると、どの年齢層でも「変わらない」が7割を超える一方、「増えた」が10・20歳代で18.8%、30歳代で17.5%と、他の年代より多い割合となっています。

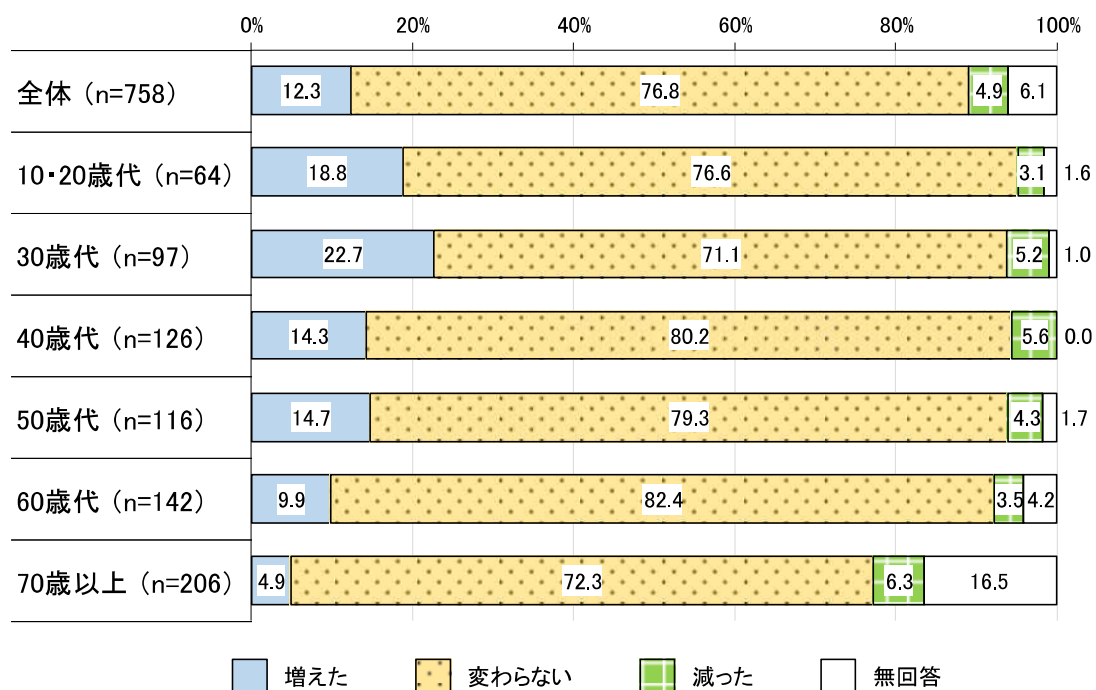


③自炊をする（レトルト・総菜・テイクアウト）

年齢別にみると、どの年齢層でも「変わらない」が7割を超える一方、「増えた」が30歳代で22.7%、10・20歳代で18.8%となっています。

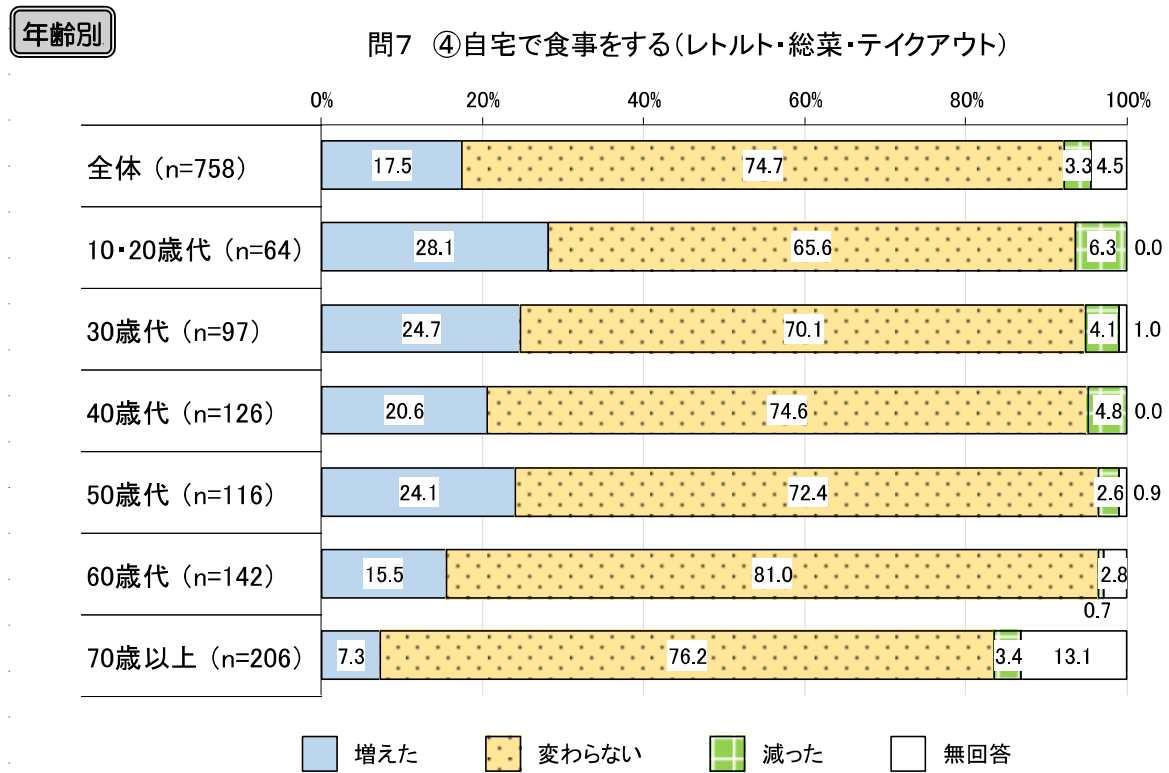
年齢別

問7 ③自炊をする(レトルト・総菜・テイクアウト)



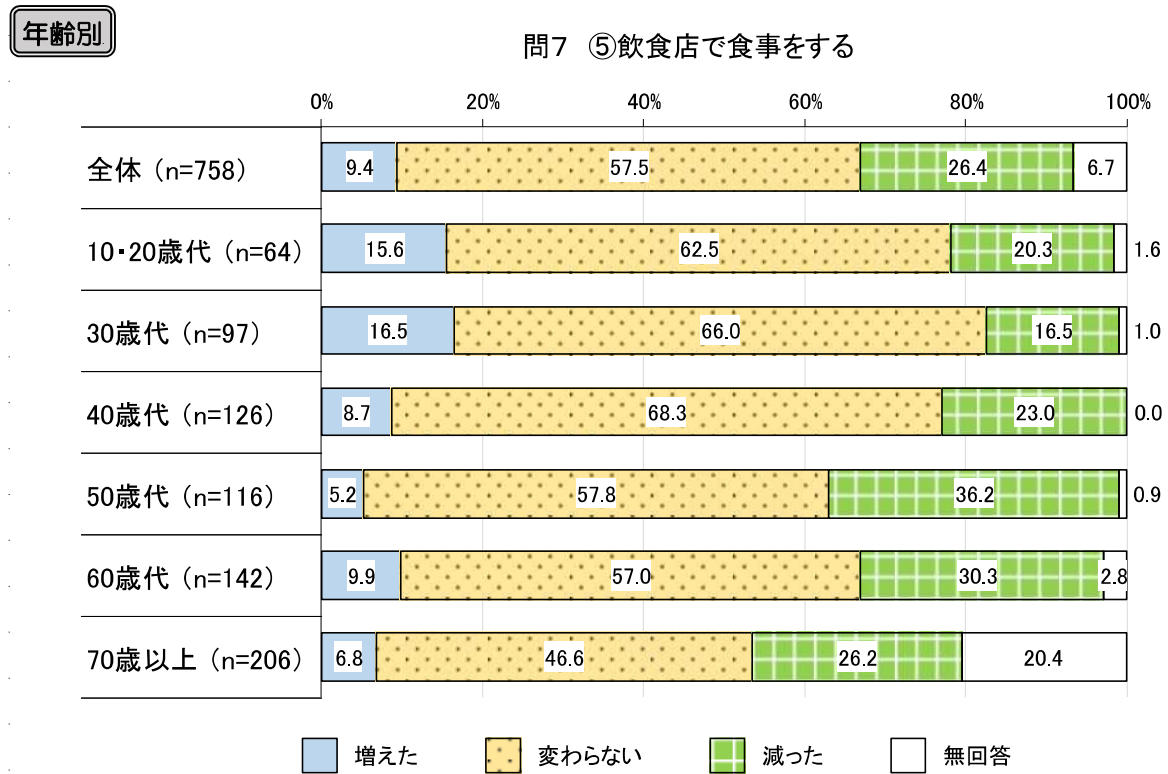
④自宅で食事をする（レトルト・総菜・テイクアウト）

年齢別にみると、他の項目と比べて「増えた」の割合が多く、10・20歳代～50歳代までの広い年代で2割を超えています。



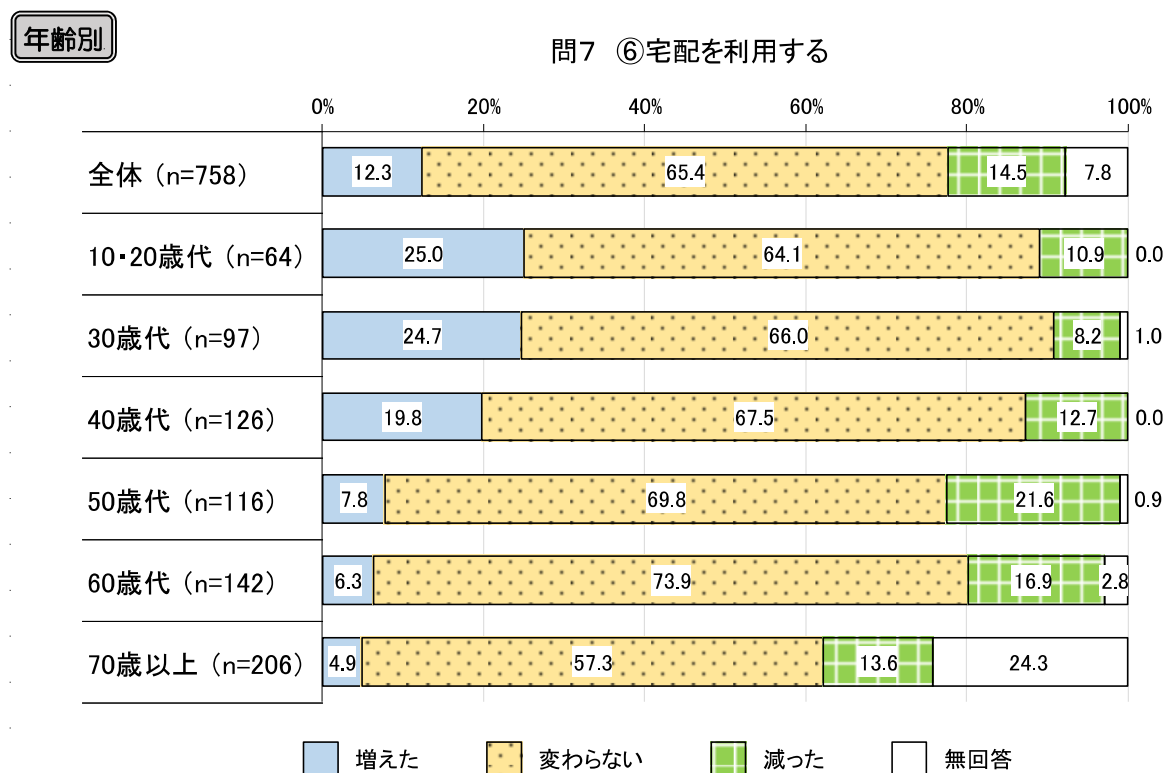
⑤飲食店で食事をする

年齢別にみると、他の項目と比べて「減った」の割合が多く、特に50歳代・60歳代では、それぞれ3割を超えています。



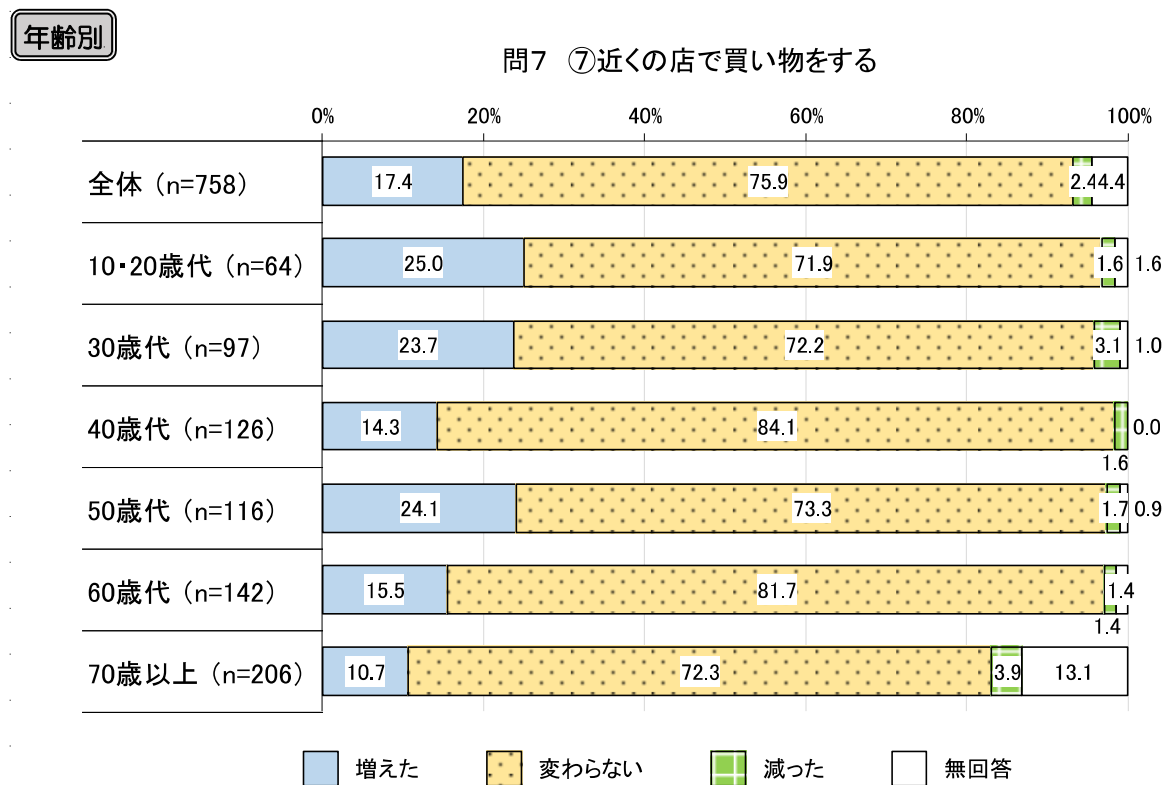
⑥宅配を利用する

年齢別にみると、10・20歳代～30歳代で「増えた」が2割台半ば、50歳代で「減った」が2割以上と、他の年代と比べて多い割合となっています。



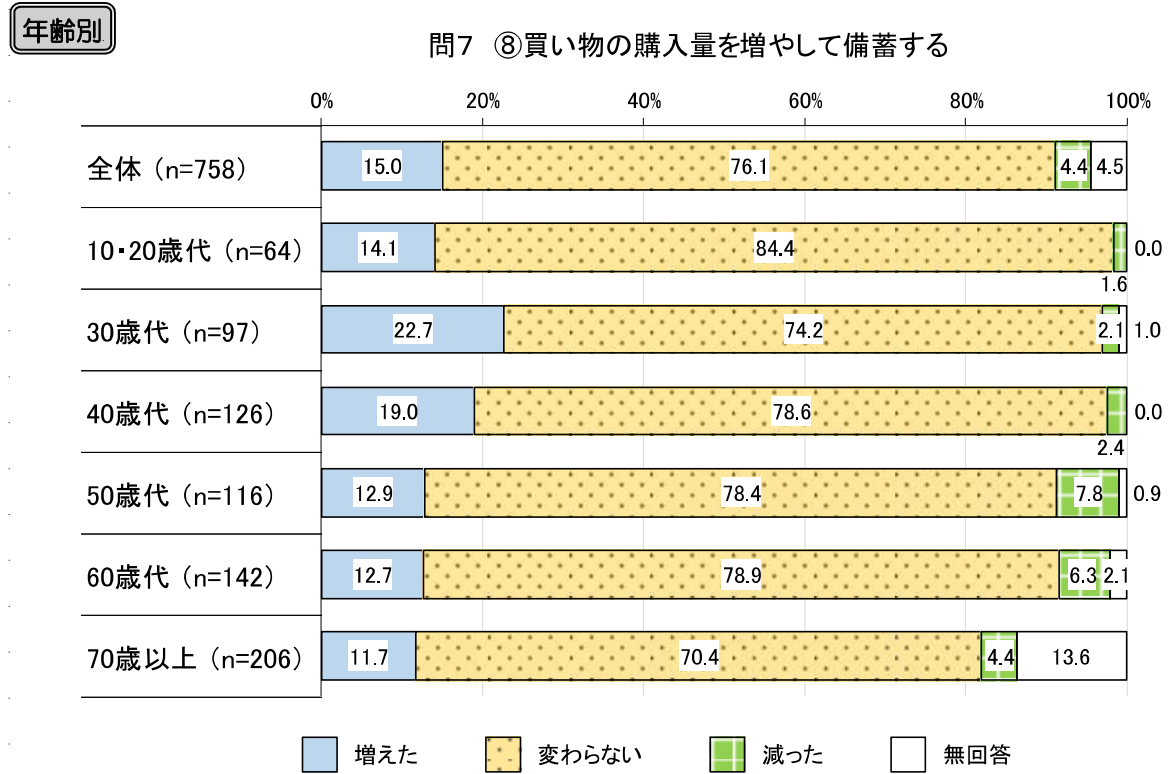
⑦近くの店で買い物をする

年齢別にみると、どの年齢層でも「変わらない」が7割を超える一方、「増えた」が10・20歳代、30歳代、50歳代でそれぞれ2割台半ばとなっています。



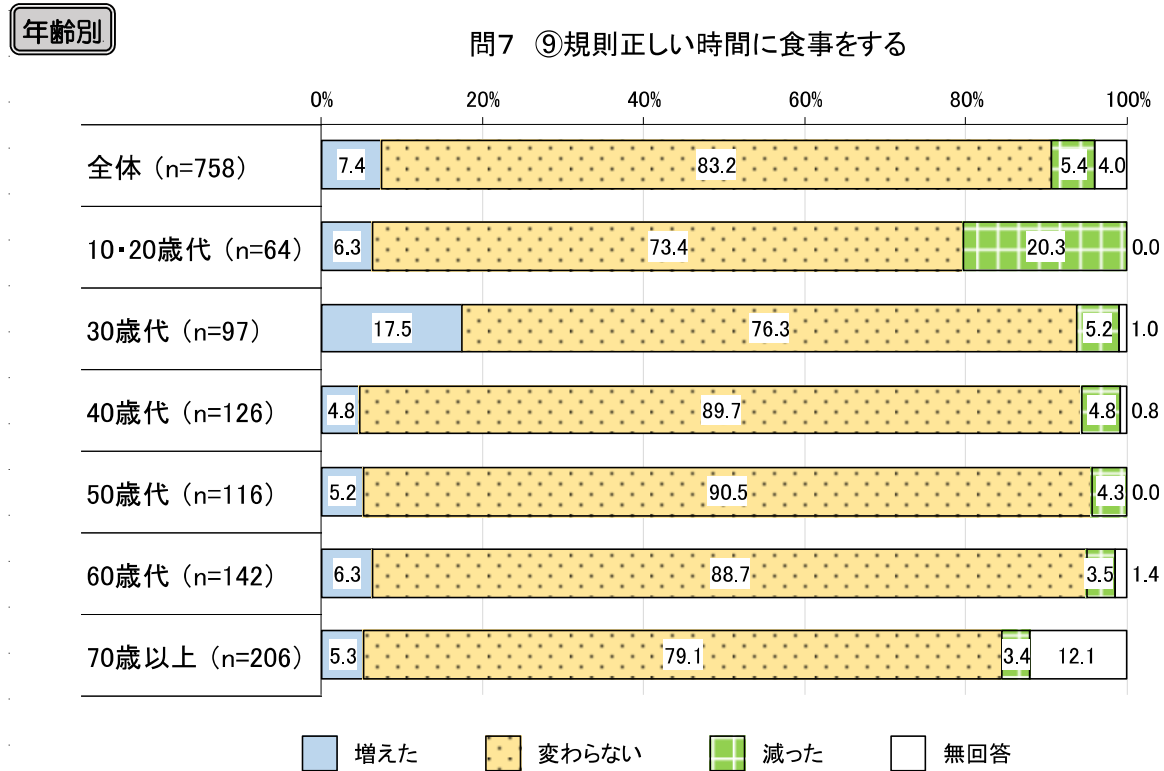
⑧買い物の購入量を増やして備蓄する

年齢別にみると、どの年齢層でも「変わらない」が7割を超える一方、「増えた」が30歳代で2割以上と、他の年代と比べて多い割合となっています。



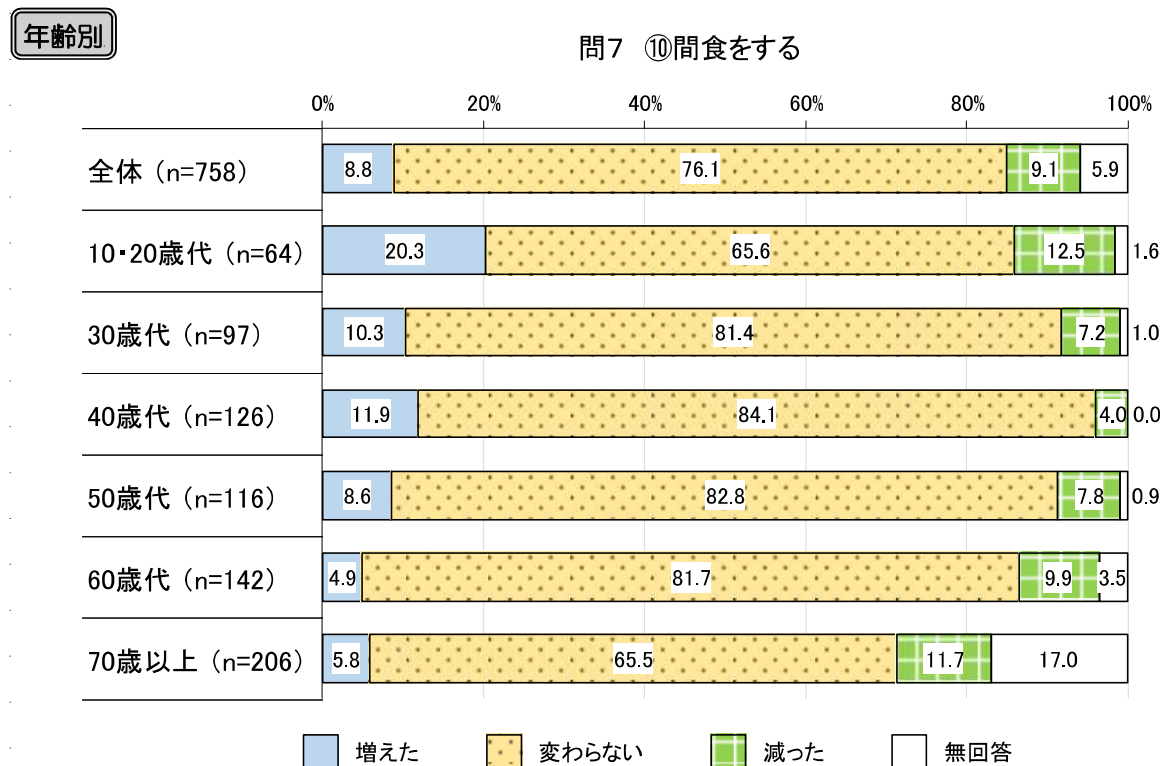
⑨規則正しい時間に食事をする

年齢別にみると、どの年齢層でも「変わらない」が7割以上、特に50歳代では9割を超えています。一方、「減った」が10・20歳代で20.3%、「増えた」が30歳代で17.5%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。



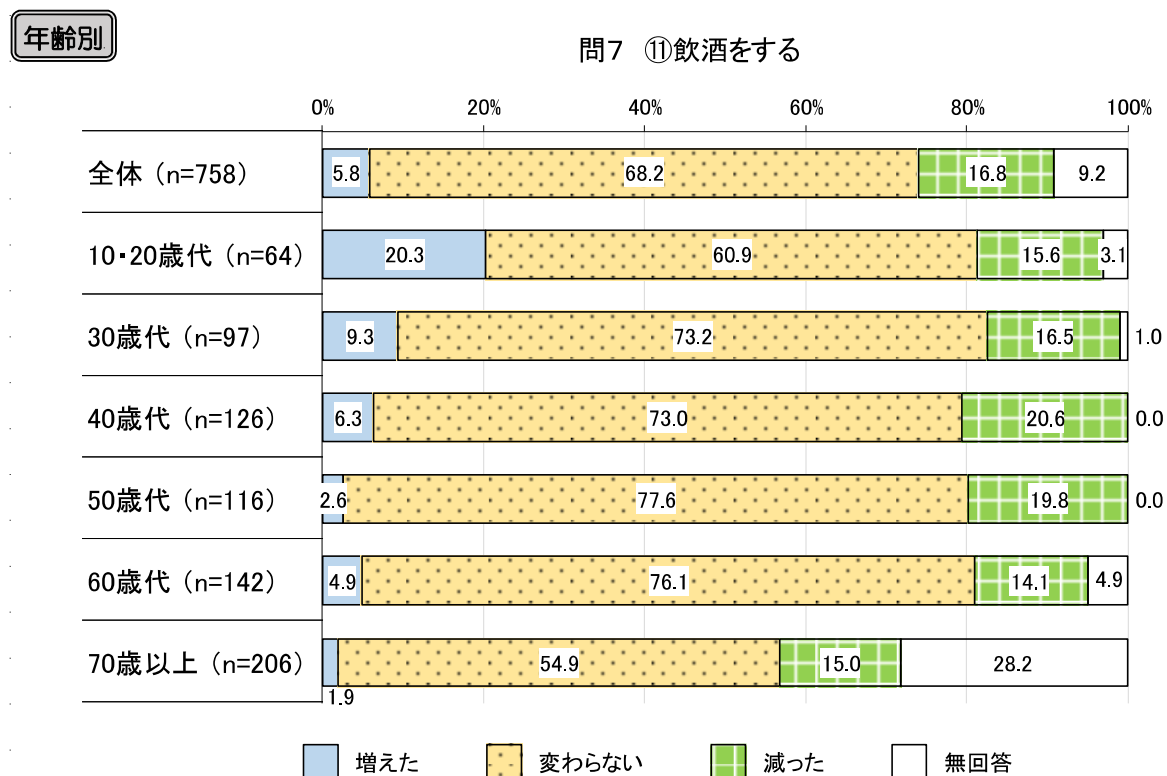
⑩間食をする

年齢別にみると、30歳代～60歳代で「変わらない」が8割を超えています。また、10・20歳代では「増えた」が20.3%と、他の年代と比べて多い割合となっています。



⑪飲酒をする

年齢別にみると、30歳代～60歳代で「変わらない」がいずれも7割を超えています。また、40歳代、50歳代では「減った」が約2割と、他の年代と比べて多い割合となっています。



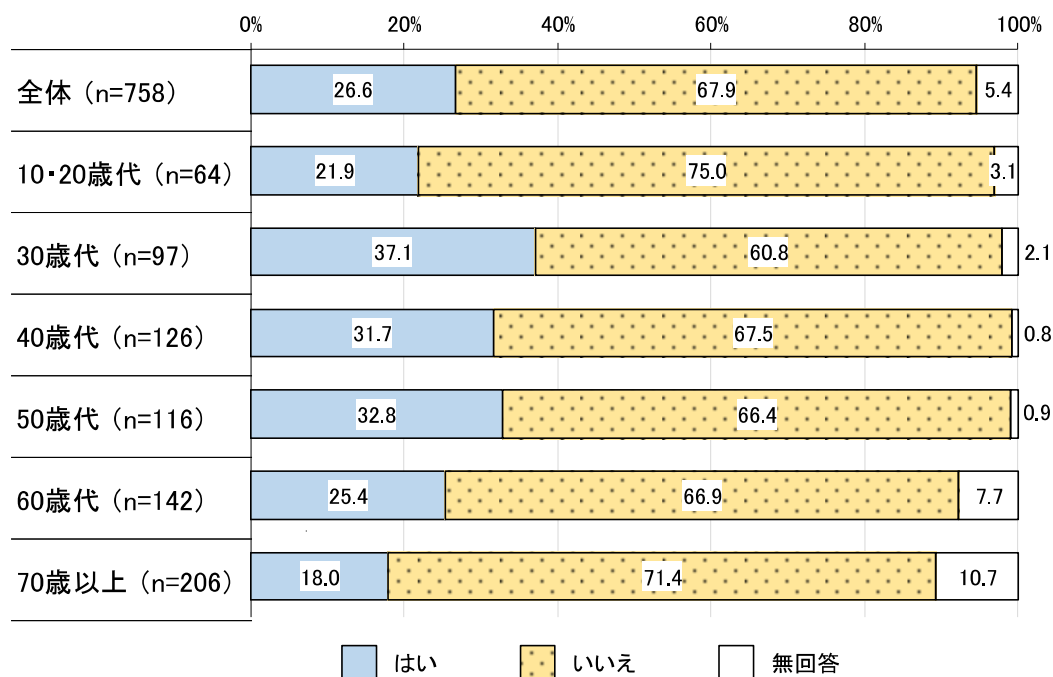
問8-1 あなたが食生活で不安に思っていることはありますか。(〇は1つ)

全体では、「はい」が26.6%、「いいえ」が67.9%となっています。

年齢別にみると、どの年齢層でも「いいえ」が6割を超える一方、30歳代、40歳代、50歳代では「はい」がいずれも3割以上となっています。

年齢別

問8-1 食生活に関する不安



問8-2 (問8-1で「1」と答えた方に伺います)

食生活で不安に思っていることをこちらの自由記述欄にご記入ください。

<分類別件数>

No.	分類	件数
1	物価の高騰について	76
2	栄養バランスについて	52
3	食品添加物について	15
4	食事を用意することについて	10
5	その他について	98

<主な意見>

1. 物価の高騰について

- 食べ物が高くて買うのをためらう
- 値段が高いのと、子供の食べる量が増えているので、今後も買えるか心配
- 物価が高くて、好きな物がたべられない
- 何でも値上がりするので、年金生活者はこの先やっていけるのだろうか、心配である

2. 栄養バランスについて

- 栄養バランスが取れているか 栄養が足りているか
- 子どもたちが栄養をしっかり取れているか。成長に必要な食生活を送れているか
- 自分の好きな物ばかり食べるようになり栄養が片寄ってしまった
- 年齢と共に代謝に相応した摂取量や栄養についてのバランスの取り方が難しい。体重増加になりがち

3. 食品添加物について

- 添加物が多く食品に含まれているところ。それにもかかわらず、一括名表示が許されているため、何の物質が使われているか分からないことが多いこと
- 知らずに害のある食べ方をしたり、害のある食品を食べていないか

4. 食事を用意することについて

- 年をとって、自分で食事の用意ができなくなったら、どうしたらいいのか
- すべて手作りの現在の生活が維持できるか否かも不安

5. その他について

- 塩分を摂りすぎていないかどうかが不安に思う
- どこ産なのか気になってしまう
- スーパーで購入をしているものが、本当に安心安全の食材なのか
- 甘い物の食べ過ぎ

- 食糧自給率が低く、国力も人口も衰退しつつあるため、今のようにたくさんの食べ物が手にはいる状況がいつまで続くか、非常に不安。孫達の時代が心配
- 栄養バランスが悪く野菜が取れていない
- 噛む力が弱くなり食物の制限がある
- 飲み込む力が落ちて、のどにひかかることがあり不安
- 未就学児の子供と一緒に寝るため、夕食から寝るまでの時間が短く、消化しきれてない
- 終業後の帰宅が遅く、夕食の時間が遅い
- 内臓機能を健康に保つ為に年齢に合わせた食材や食べ合せの良いものなど、食材の特徴を教えてくださいですね
- 共働き、かつ自分自身料理が苦手なこともあり、レトルトや外食が多いこと
- 間食で甘いものを食べてしまう
- 正社員になり、ほとんど自炊しなくなり、お惣菜で済ませてばかりになり、家族の健康に悪影響を及ぼしていると思う
- 小学生の子どもが食べずきらいなので新しいメニューのレパートリーが増えない
- 伝統的な良質で自然な食文化を失っていないか

問9-1 あなたは食物アレルギーがありますか。(〇は1つ)

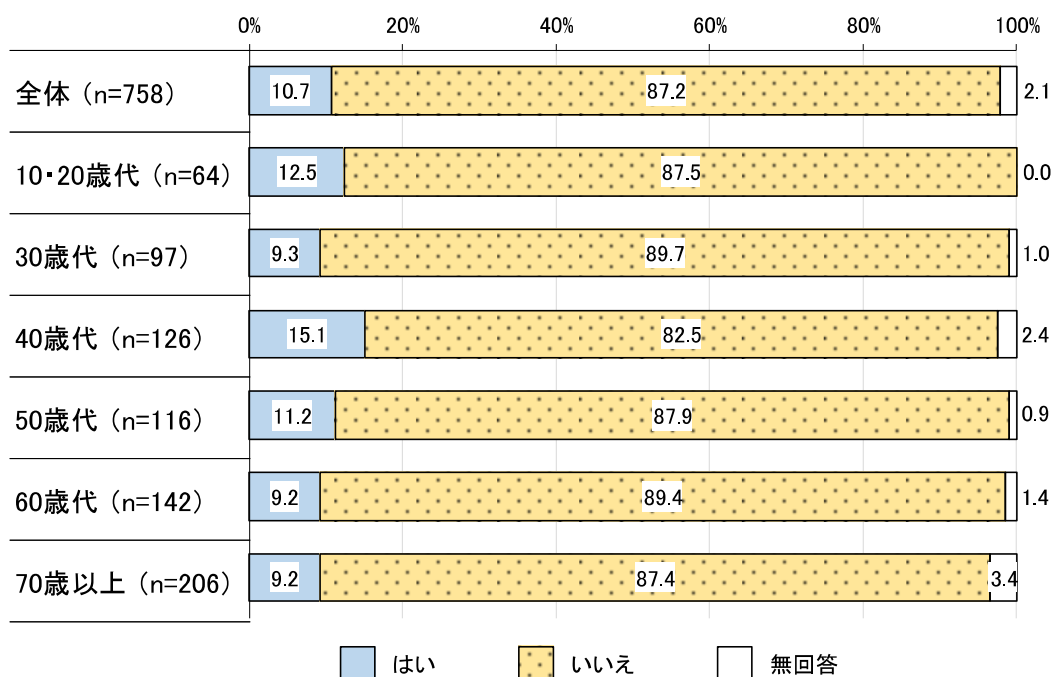
全体では、「はい」が10.7%、「いいえ」が87.2%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向にあります。

令和2年度と比較すると、「いいえ」の割合が増加しています。

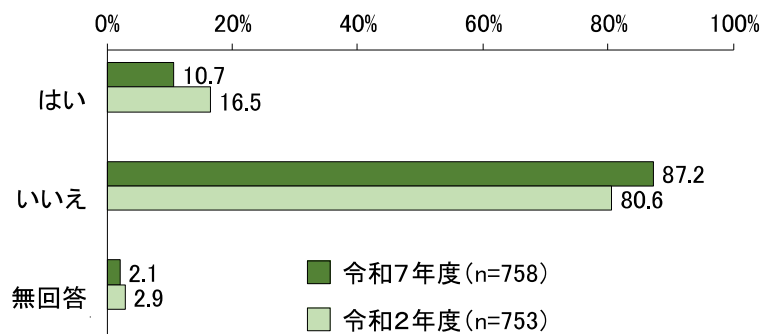
年齢別

問9-1 食物アレルギーを持っているかについて



経年比較

問9-1 食物アレルギーを持っているかについて



問9-2 (問9-1で「1」と答えた方に伺います)
 該当するアレルギーを教えてください。(〇はいくつでも)

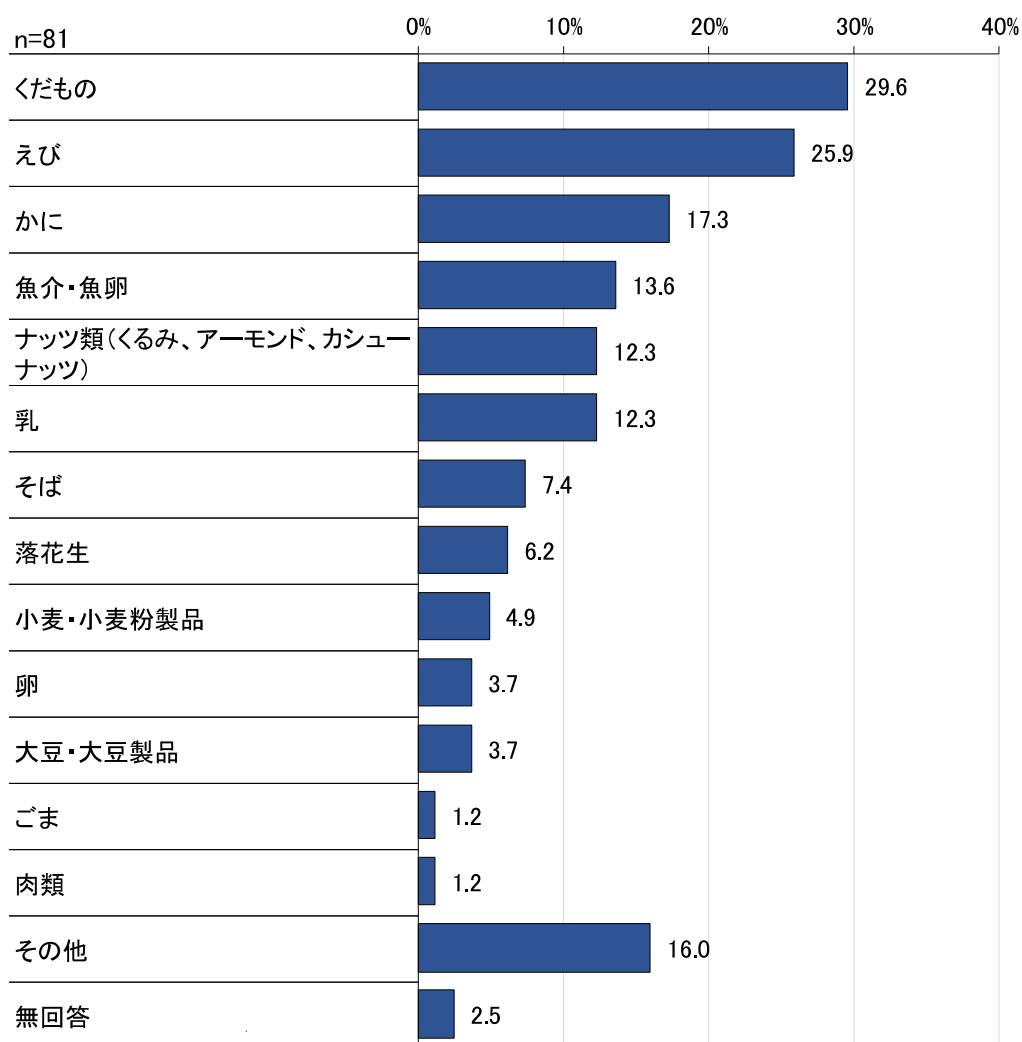
全体では、「くだもの」が29.6%と最も多く、次いで「えび」が25.9%、「かに」が17.3%となっています。

年齢別にみると、「くだもの」では60歳代の46.2%が、「えび」では40歳代の36.8%が、「魚介・魚卵」では70歳以上の26.3%が、それぞれ他の年代よりも多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「ナッツ類(くるみ、アーモンド、カシューナッツ)」、「乳」、「小麦・小麦粉製品」の割合が増加しています。

全体

問9-2 該当するアレルギー

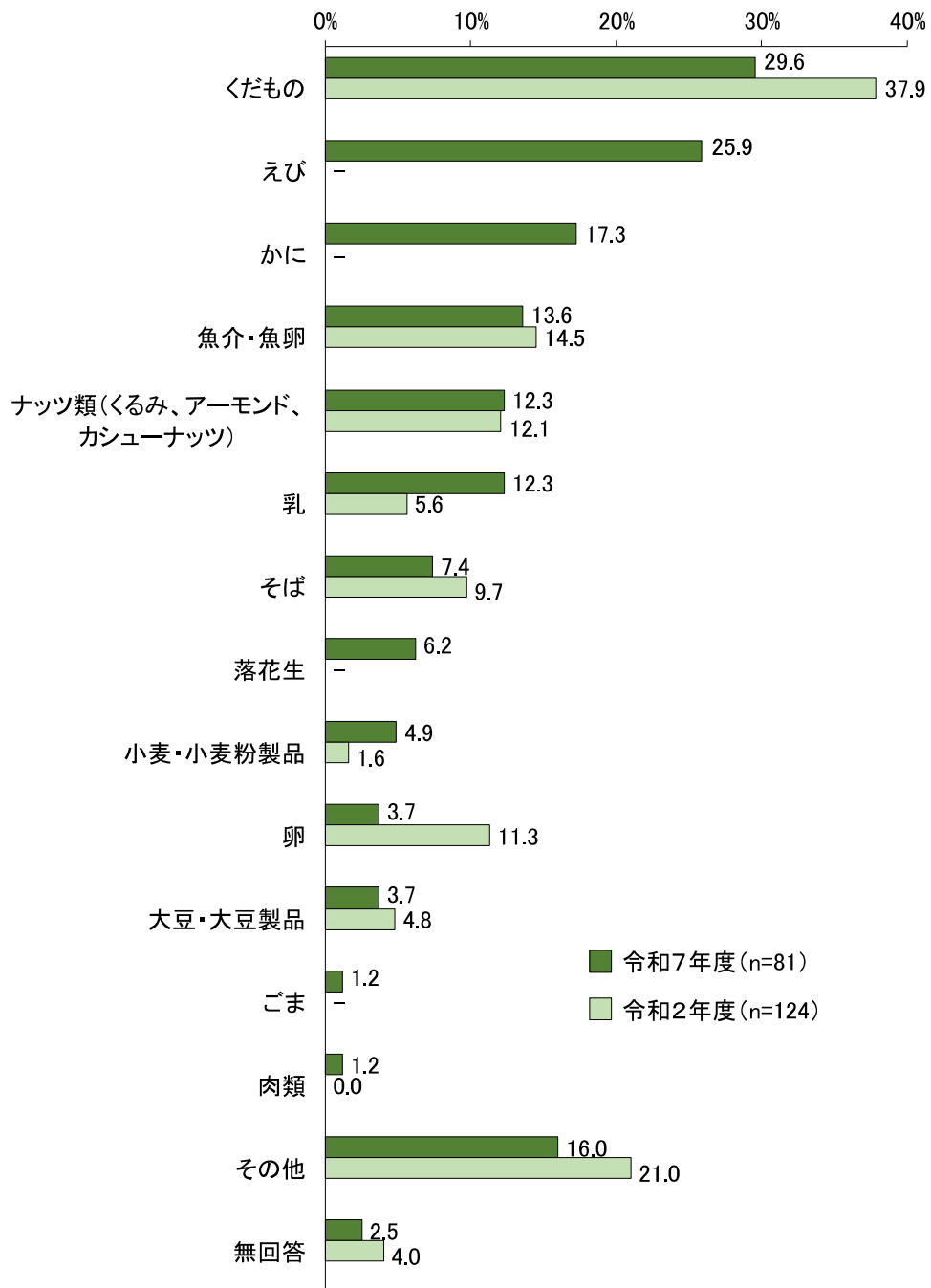


年齢別

問9-2 該当するアレルギー

上段:度数 下段:%		全体	くだもの	えび	かに	魚介・魚卵	ドーナツ類(くるみ、アーモン、カシユーナツ)	乳	そば	
全体		81 100.0	24 29.6	21 25.9	14 17.3	11 13.6	10 12.3	10 12.3	6 7.4	
年齢	10-20歳代	8 100.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	- -	
	30歳代	9 100.0	2 22.2	3 33.3	2 22.2	- -	- -	1 11.1	2 22.2	
	40歳代	19 100.0	5 26.3	7 36.8	3 15.8	1 5.3	2 10.5	2 10.5	- -	
	50歳代	13 100.0	3 23.1	2 15.4	3 23.1	2 15.4	3 23.1	4 30.8	2 15.4	
	60歳代	13 100.0	6 46.2	2 15.4	- -	2 15.4	2 15.4	- -	- -	
	70歳以上	19 100.0	6 31.6	6 31.6	4 21.1	5 26.3	1 5.3	2 10.5	2 10.5	
	上段:度数 下段:%		全体	落花生	小麦・小麦粉製品	卵	大豆・大豆製品	ごま	肉類	その他
全体		5 6.2	4 4.9	3 3.7	3 3.7	1 1.2	1 1.2	13 16.0	2 2.5	
年齢	10-20歳代	1 12.5	- -	1 12.5	- -	- -	- -	2 25.0	- -	
	30歳代	1 11.1	- -	- -	- -	- -	- -	1 11.1	- -	
	40歳代	1 5.3	1 5.3	1 5.3	3 15.8	- -	- -	3 15.8	- -	
	50歳代	1 7.7	2 15.4	1 7.7	- -	- -	- -	3 23.1	- -	
	60歳代	1 7.7	- -	- -	- -	- -	- -	2 15.4	1 7.7	
	70歳以上	- -	1 5.3	- -	- -	1 5.3	1 5.3	2 10.5	1 5.3	

問9-2 該当するアレルギー



※令和2年度では、「落花生」、「ごま」という選択肢は設けておりませんでした。また、「えび」と「かに」は、令和2年度では同一の選択肢として集計されていたため、本調査の結果のみを記載しています。

問9-3 (問9-1で「1」と答えた方に伺います)
 食物アレルギーがあることでお困りのことは、ありますか。(〇は1つ)

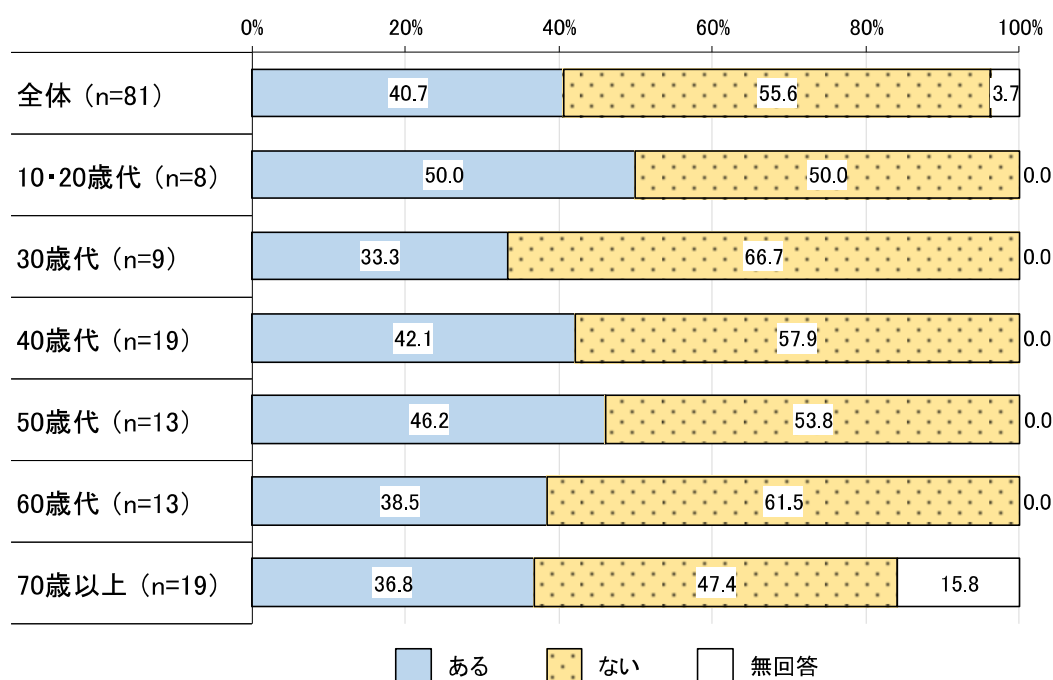
全体では、「ある」が40.7%、「ない」が55.6%となっています。

年齢別にみると、「ある」では10・20歳代が50.0%、50歳代が46.2%と、比較的多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「ある」の割合が増加しています。

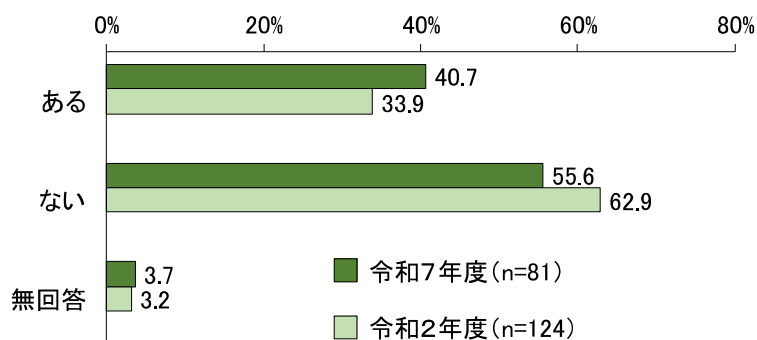
年齢別

問9-3 アレルギーでの困りごと



経年比較

問9-3 アレルギーでの困りごと



問9-4 (問9-1で「1」と答えた方に伺います)
 食物アレルギーでお困りのことをこちらの自由記述欄にご記入ください。

〈分類別件数〉

No.	分類	件数
1	外食について	15
2	かゆみや赤みが出ることについて	8
3	食べられるものが限られてしまうことについて	15
4	その他について	26

〈主な意見〉

1. 外食について

- ・レストランなどで、えびを、ぬいてもらうのが、大変です
- ・飲食店で食品アレルギー表示がない場合の対応
- ・外食するときに食べられるものが少なくなる
- ・外食やテイクアウトのものに、何が含まれているか全ての記載が必要だと思う

2. かゆみや赤みが出ることについて

- ・かゆくなり赤くなる
- ・身体に発疹がでて痒くなること
- ・メロン、パイナップルを食べるとのどがかゆくなることがあるので避ける様になっている

3. 食べられるものが限られてしまうことについて

- ・食べたい果物が食べられない(さくらんぼ等)
- ・アーモンドがはいっているアイスお菓子ケーキが食べられない

4. その他について

- ・うっかり食べてしまったあと、口の中がかゆくなったりするので
- ・災害時はどうなってしまうのだろうかと常に不安
- ・卵は色々なものに使用されており、完全に避けることは難しい
- ・他人との食事では気を遣ったり、遣われたりすること

(2)「食育」への関心について

問 10-1 あなたは、「食育」(※)という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つ)

※「食育」とは、生きる上での基本であり、知育・徳育及び体育の基礎となるもので、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることをいいます。

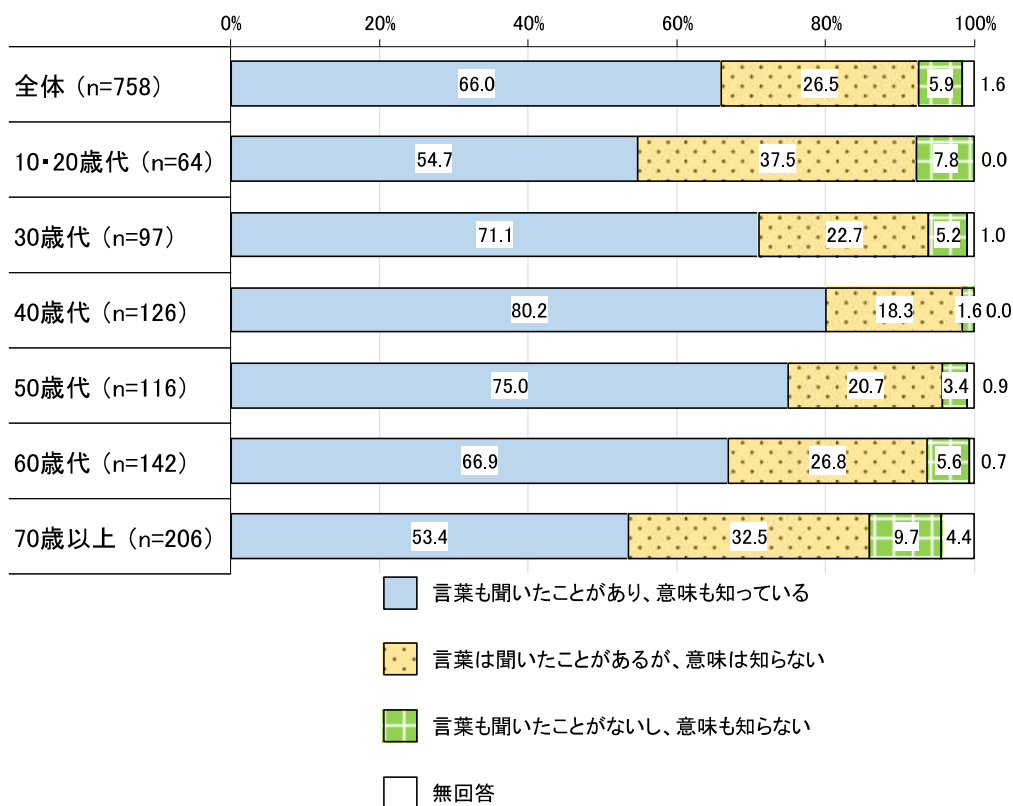
全体では、「言葉も聞いたことがあり、意味も知っている」が66.0%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」が26.5%、「言葉も聞いたことがないし、意味も知らない」が5.9%となっています。

年齢別にみると、40歳代では「言葉も聞いたことがあり、意味も知っている」が80.2%と他の年代に比べて多く、「言葉も聞いたことがないし、意味も知らない」は1.6%にとどまっています。一方で70歳以上では「言葉も聞いたことがないし、意味も知らない」が9.7%と、他の年代と比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「言葉も聞いたことがあり、意味も知っている」の割合が増加しています。

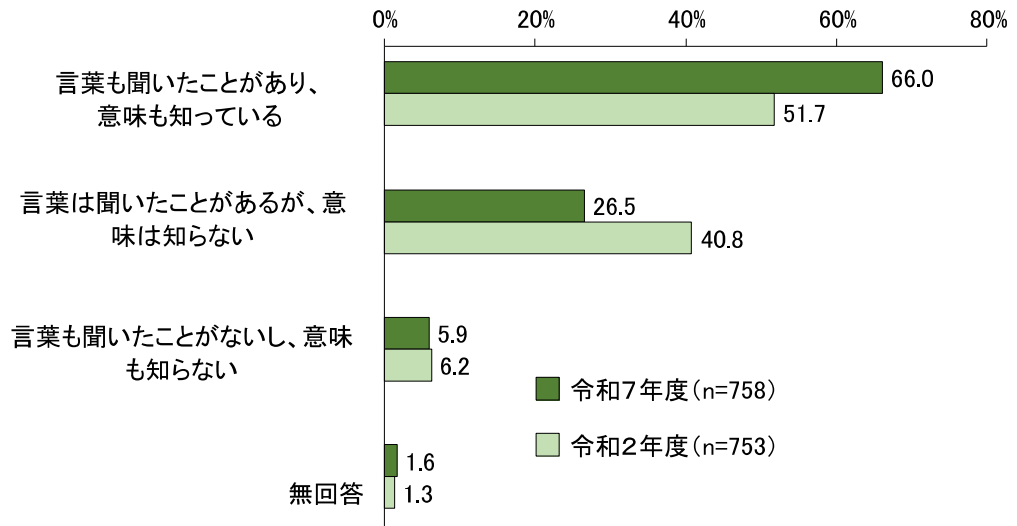
年齢別

問10-1 「食育」の認知度



経年比較

問10-1 「食育」の認知度



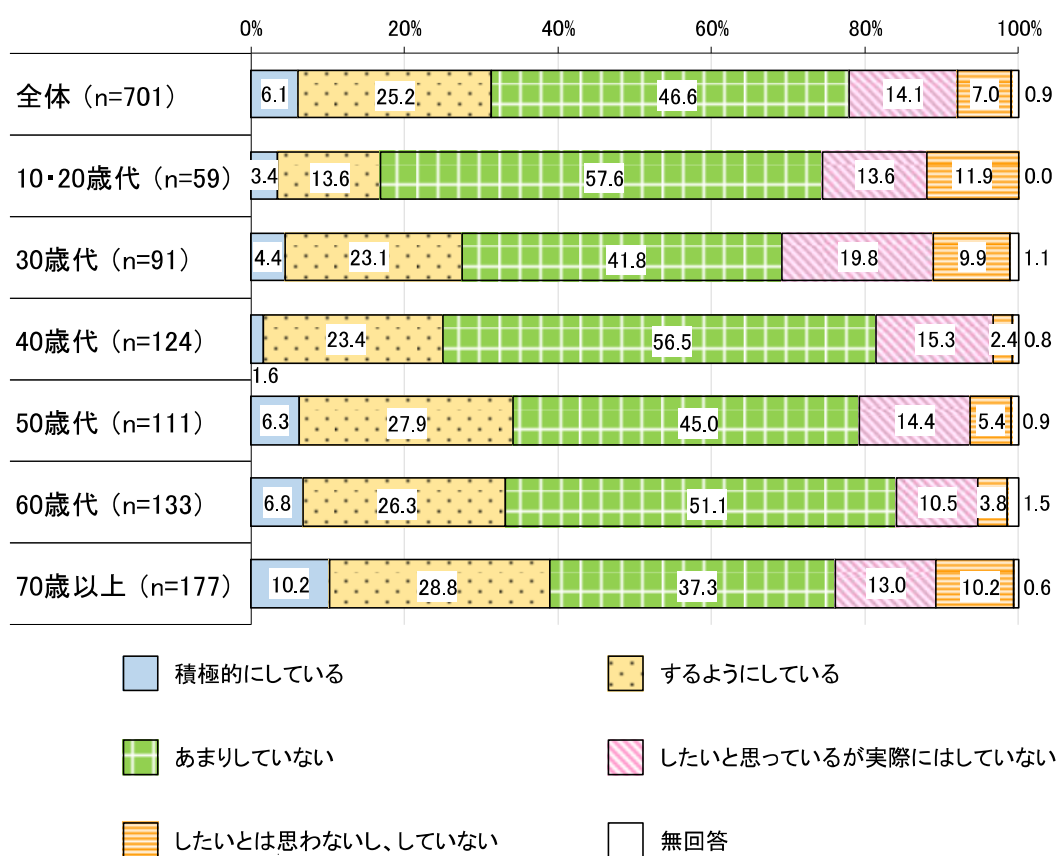
問10-2 (問10-1で「1」～「2」と答えた方に伺います)
 日ごろから「食育」に関する活動や行動をしていますか。(〇は1つ)

全体では、「あまりしていない」が46.6%と最も多く、次いで「するようにしている」が25.2%、「したいと思っているが実際にはしていない」が14.1%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向にありますが、「あまりしていない」では10・20歳代が57.6%、「するようにしている」では70歳以上が28.8%、「したいと思っているが実際にはしていない」では30歳代が19.8%と、それぞれ他の年代と比べて多くなっています。

年齢別

問10-2 食育に関する活動状況



問 10-3 (問 10-2 で「1」～「2」と答えた方に伺います)

「食育」に関する活動や行動内容をこちらの自由記述欄にご記入ください。

<分類別件数>

No.	分類	件数
1	栄養バランスについて	47
2	旬の食材を使うことについて	24
3	食事づくりについて	22
4	会話の中で話題にすることについて	19
5	魚や野菜を採っていることについて	17
6	食品ロス・フードロスについて	16
7	国産品について	12
8	テレビやインターネット等で情報収集していることについて	12
9	仕事で取り組んでいることについて	11
10	その他について	117

<主な意見>

1. 栄養バランスについて

- ・栄養を考えいろいろな食材を使うようになった
- ・育ち盛りの子供がいるので、栄養バランスや食事のマナーを意識しています
- ・過度に炭水化物を摂らないよう注意し、野菜、タンパク質とのバランスを考えて食事をするよう心掛けている
- ・高齢であることを考えて栄養分をとることを心がけている
- ・彩を考えて偏食しないようにすること

2. 旬の食材を使うことについて

- ・できるだけ旬の季節のものを使い、子供にも意味を教えるようにしている
- ・一緒に食べることや、食材の仕入でスーパーで生鮮食品なら「旬」なものを一緒に選んだり、魚なら切り身を選ばず、丸ごとの魚を買って、自分でほぐして食べさせたりしています
- ・家族で食べることを楽しめるよう、季節の食材、目新しいメニューを取り入れるようにしています
- ・田舎から送られてくる季節の野菜で四季を感じ、又、田舎に行った時は、畑に行き、どんな所で、どのように育ったものを口にできているのか、知ることによってムダなく調理し、有難く食べることができる。安心して食べることができる

3. 食事づくりについて

- ・極力外食はせず自宅で準備して食べさせる
- ・孫たちが遊びに来た時は、なるべく手作りの料理を提供し、昔ながらの和食(きんぴらごぼう、切干し大根、おから、など)を多くするようにしている
- ・知らない料理を積極的に作って食べるようにしている

4. 会話の中で話題にすることについて

- たんぱく質など栄養素の名前を具体的に出して、これから食べる食事にどれくらい含まれているか話題にする
- 妻や子どもと食材や栄養について日頃から話して食事している
- 食べ物の安全性や食の重要性について、日頃から家族と会話をしている

5. 魚や野菜を採っていることについて

- 野菜を食する 肉より魚中心に 大豆（トーフ、納豆など）食する 海藻を食する
- 野菜多めのバランスの良い食事をするようにしている お魚をもっと食べたいがなかなか大変
- 野菜、海藻類、キノコ類も入れて、炭水化物はご飯を主に取るようにしている

6. 食品ロス・フードロスについて

- 食材等を無駄が出ないように余分を買わない 家庭で出るゴミ等も気をつけている 食べ切れなさそうな物はスーパー等に持ち込み必要としている方の為に譲っている 時々子供食堂などにも寄付している
- 一緒に料理をして、ロスのない使い方を教えるようにしている

7. 国産品について

- なるべく国産の食品を使う
- 国産の商品を選ぶようにしている。産地を確認するようにしている

8. テレビやインターネット等で情報収集していることについて

- テレビやインターネットで健康にかんする情報を入手したり、身体によい食品をなるべく毎日の食事にとりいれるようにしている
- ダイエットをする傍ら、食べ物と栄養について情報収集している

9. 仕事で取り組んでいることについて

- 仕事が食品卸なので、学校給食向けに子供の体に商品等を勧めている
- 仕事柄、日常的に食育に触れている
- 作業療法士であり、勤務先の病院で入院の方に食生活についての講義やサポートをしている

10. その他について

- 子どもと一緒にご飯を作って楽しむ
- 家庭菜園で野菜を育てるなど
- 食事のマナー（ひじつき、はしの使い方）は意識して声をかけている
- 家族と一緒にごはんを食べる時間を毎日作っている
- 親向けの、子どもの食育セミナーへの参加
- 食材を作った人、食事を作った人への感謝の気持ちを持つこと

問10-4 平成17年に定められた食育基本法では毎月19日は食育の日、毎年6月は食育月間と決められていることを知っていますか。(〇は1つ)

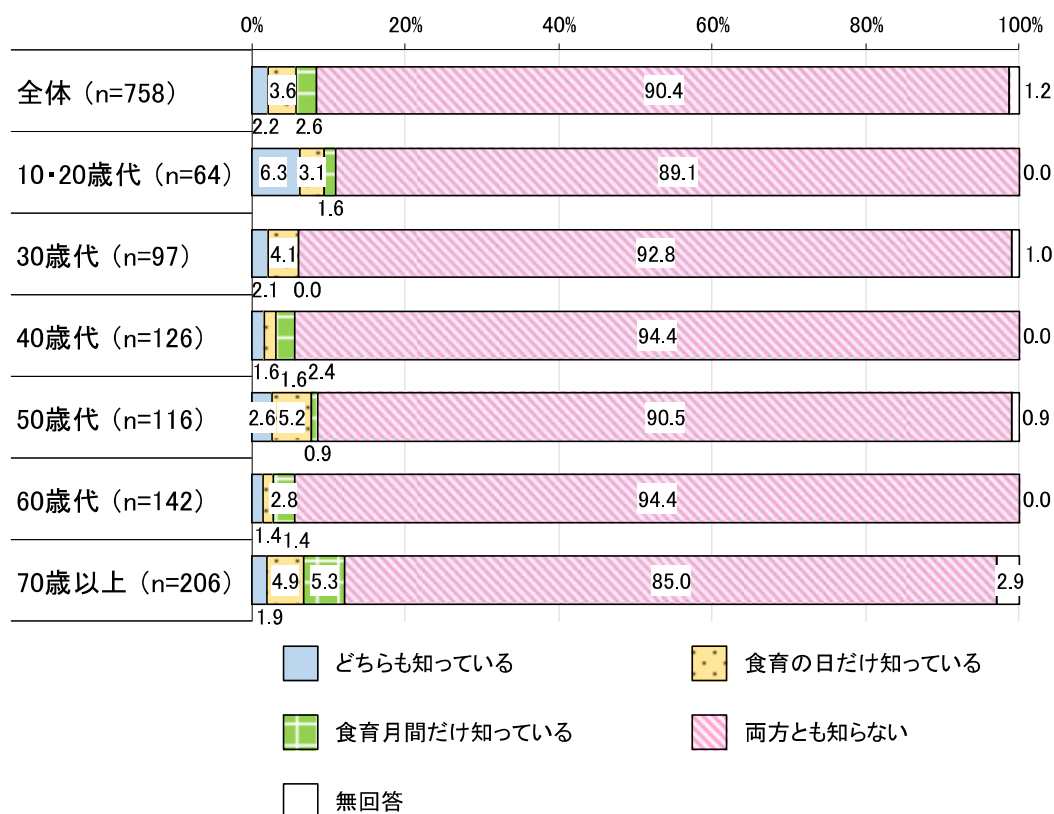
全体では、「両方とも知らない」が90.4%と最も多く、次いで「食育の日だけ知っている」が3.6%、「食育月間だけ知っている」が2.6%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向にありますが、「両方とも知らない」は30歳代～60歳の広い年齢層でそれぞれ9割を超えています。一方、10・20歳代では「どちらも知っている」が6.3%と他の年代に比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、おおむね同様の傾向となっています。

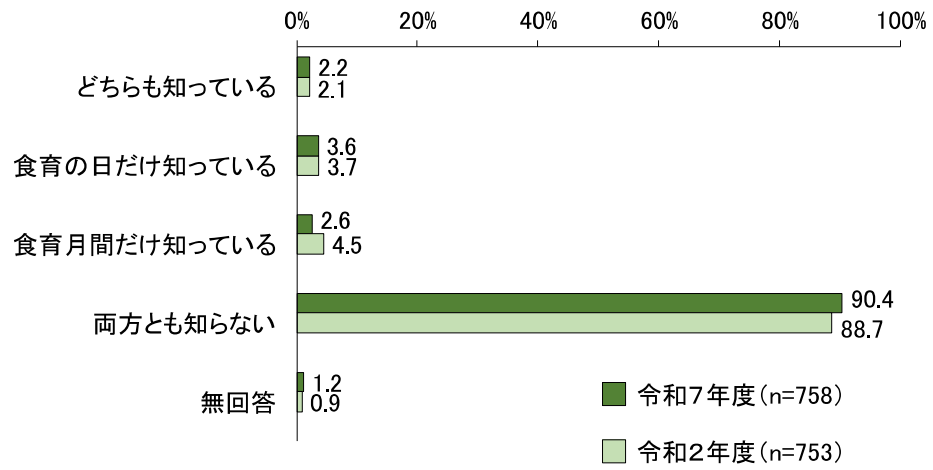
年齢別

問10-4 食育の日・食育月間の認知度



経年比較

問10-4 食育の日・食育月間の認知度



問 11-1 あなたが参加したことのある小金井市の食育のイベントや、あなたが行ったことがある食育に関する取組みは何ですか。(〇はいくつでも)

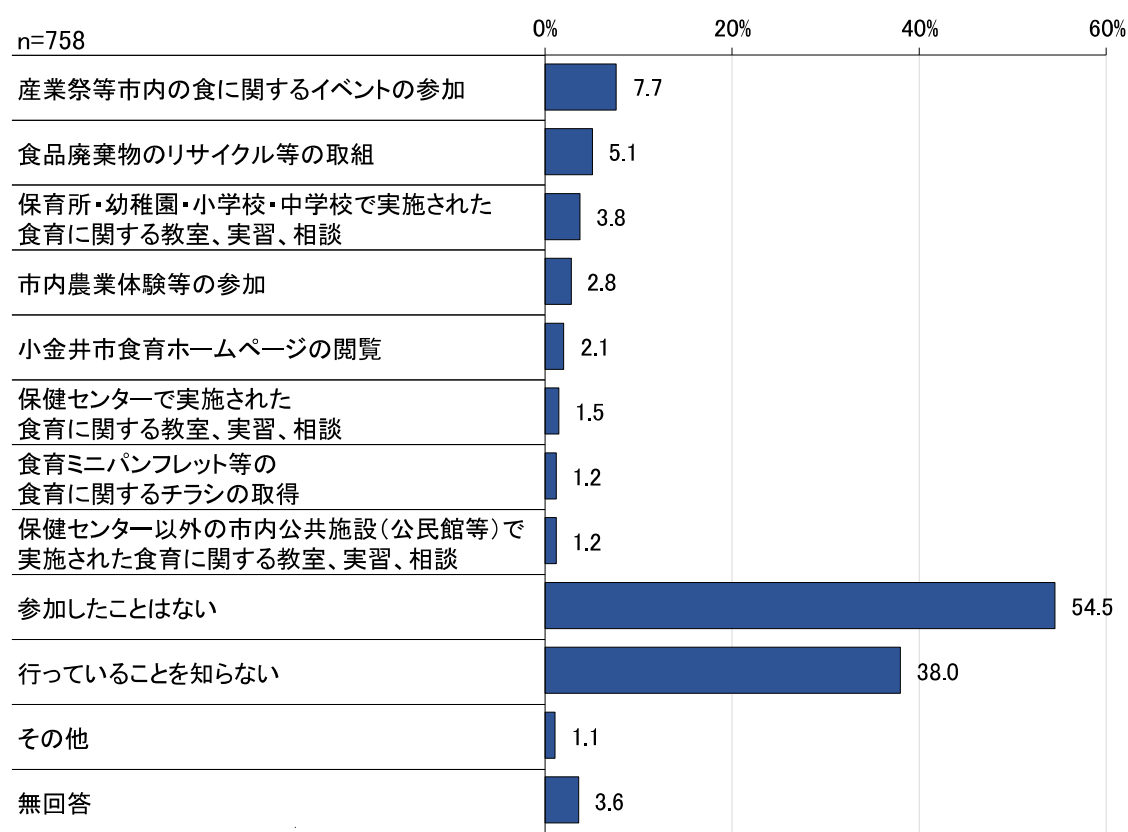
全体では、「参加したことはない」が54.5%で最も多く、次いで「行っていることを知らない」が38.0%、「農業祭等市内の食に関するイベントの参加」が7.7%となっています。

年齢別にみると、30歳代と40歳代で「産業祭等市内の食に関するイベントの参加」がそれぞれ1割以上と他の年代よりも多くなっています。

令和2年度と比較すると、「小金井市食育ホームページの閲覧」、「食育ミニパンフレット等の食育に関するチラシの取得」、「参加したことはない」、「行っていることを知らない」の割合が増加しています。

全体

問11-1 参加したことのある小金井市の食育のイベント



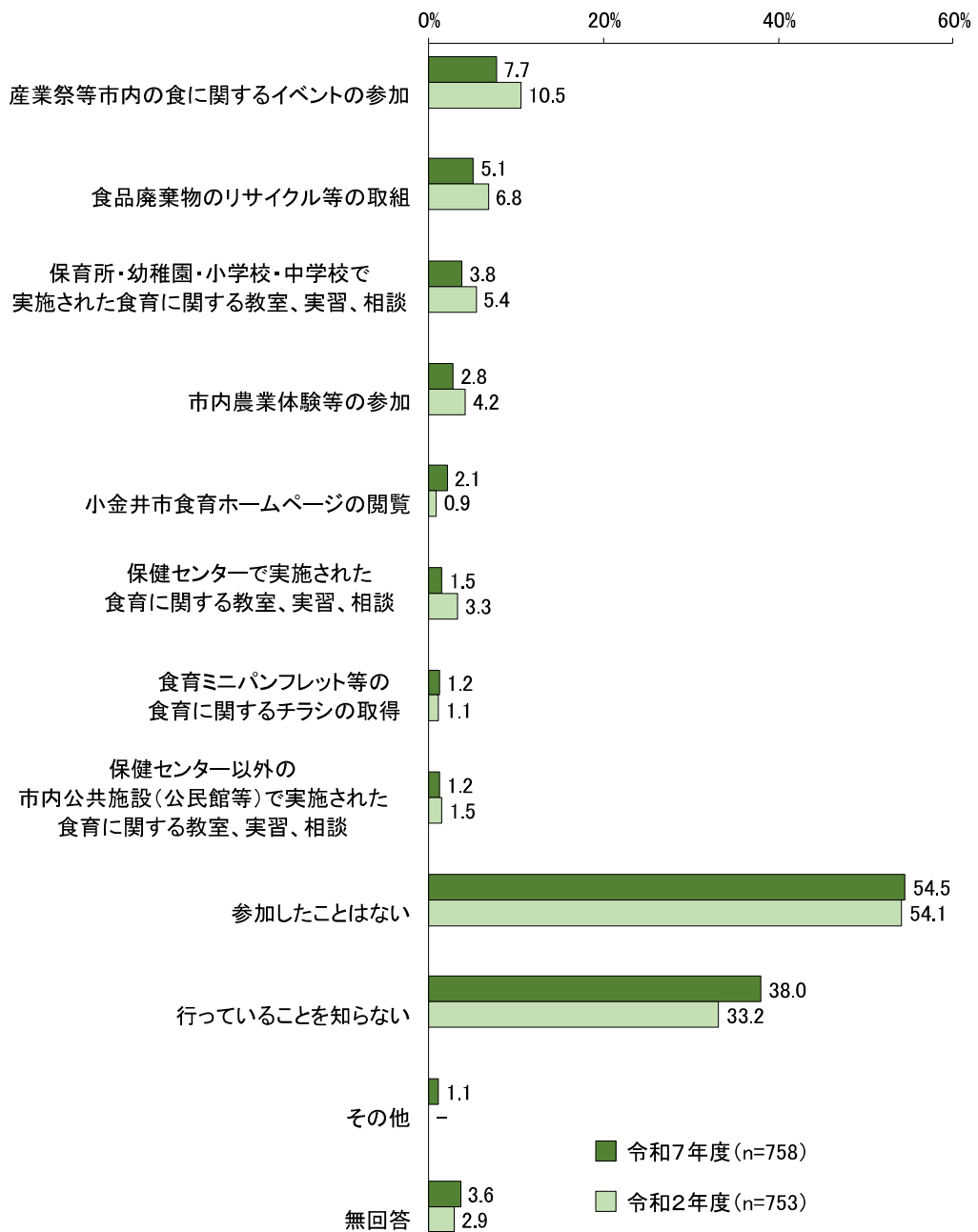
年齢別

問11-1 参加したことがある小金井市の食育のイベント

上段:度数 下段:%		全体	食産業祭等市内のイベントの参加	リ食品廃棄物の取組	関中保育所・幼稚園・小学校・中学校で実施された食育に関する教室、実習、相談	市内農業体験等の参加	関覧小金井市食育ホームページの	
全体		758 100.0	58 7.7	39 5.1	29 3.8	21 2.8	16 2.1	
年齢	10・20歳代	64 100.0	2 3.1	4 6.3	2 3.1	2 3.1	3 4.7	
	30歳代	97 100.0	10 10.3	5 5.2	5 5.2	4 4.1	1 1.0	
	40歳代	126 100.0	13 10.3	4 3.2	12 9.5	4 3.2	2 1.6	
	50歳代	116 100.0	8 6.9	9 7.8	9 7.8	4 3.4	3 2.6	
	60歳代	142 100.0	12 8.5	6 4.2	1 0.7	3 2.1	1 0.7	
	70歳以上	206 100.0	13 6.3	10 4.9	-	-	4 1.9	6 2.9
	上段:度数 下段:%		相食保 談育健 にセ 関ン するター 教室で 実実施 習され た	食食育 育にミ 関ニ するパン するフレ シット の取等 得の	相育設保 談に(公健 関セ する民ン 教室等)タ 、実習、以外 、実の市 施内 され公 た施	参加 した こと は ない	行 っ て い る こ と を 知 ら な い	そ の 他
全体		11 1.5	9 1.2	9 1.2	413 54.5	288 38.0	8 1.1	27 3.6
年齢	10・20歳代	- -	1 1.6	-	30 46.9	33 51.6	-	-
	30歳代	3 3.1	1 1.0	3 3.1	50 51.5	43 44.3	2 2.1	1 1.0
	40歳代	3 2.4	1 0.8	3 2.4	68 54.0	42 33.3	1 0.8	2 1.6
	50歳代	- -	-	-	52 44.8	45 38.8	1 0.9	6 5.2
	60歳代	2 1.4	1 0.7	-	82 57.7	57 40.1	1 0.7	2 1.4
	70歳以上	2 1.0	4 1.9	3 1.5	127 61.7	65 31.6	3 1.5	16 7.8

経年比較

問11-1 参加したことのある小金井市の食育のイベント



※令和2年度では、「その他」という選択肢は設けておりませんでした。

問 11-2 あなたはどのような食育活動に参加してみたいと思いますか。(〇は3つまで)

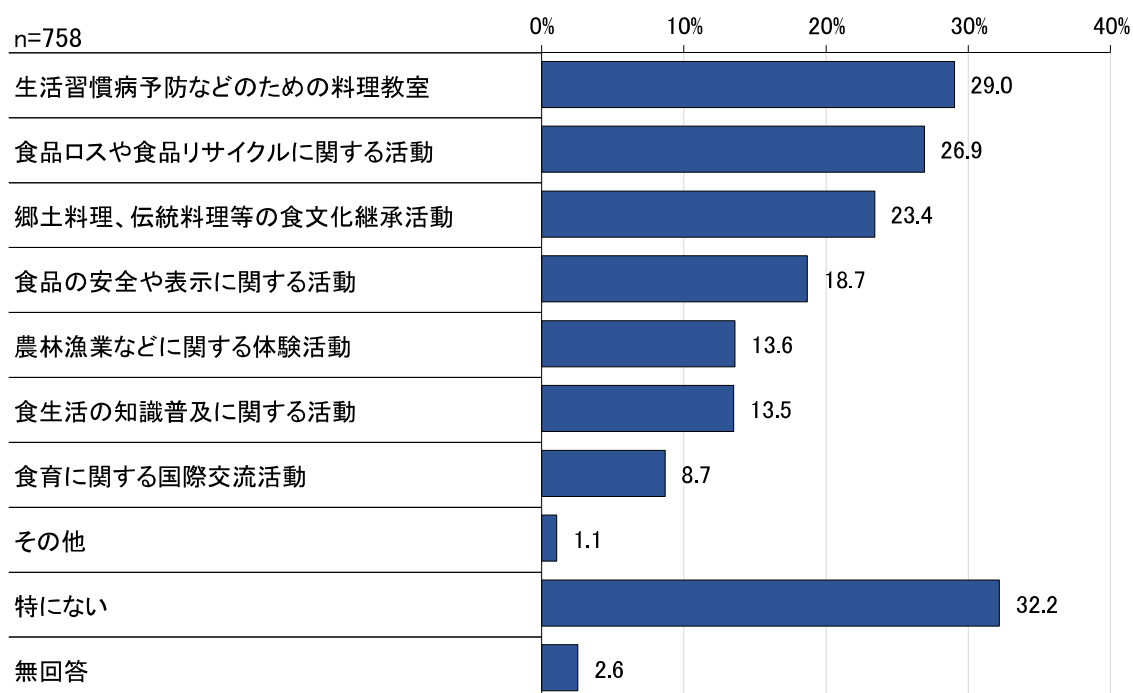
全体では、「生活習慣病予防などのための料理教室」が 29.0%と最も多く、次いで「食品ロスや食品リサイクルに関する活動」が 26.9%、「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」が 23.4%となっています。

年齢別にみると、10・20 歳代で「生活習慣病予防などのための料理教室」が 37.5%、60 歳代で「食品ロスや食品リサイクルに関する活動」が 31.0%、70 歳以上で「食品の安全や表示に関する活動」が 20.9%と、それぞれ他の年代に比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、全ての項目で増加している中、特に「食品ロスや食品リサイクルに関する活動」の割合が最も増加しています。

全体

問11-2 参加してみたい食育活動



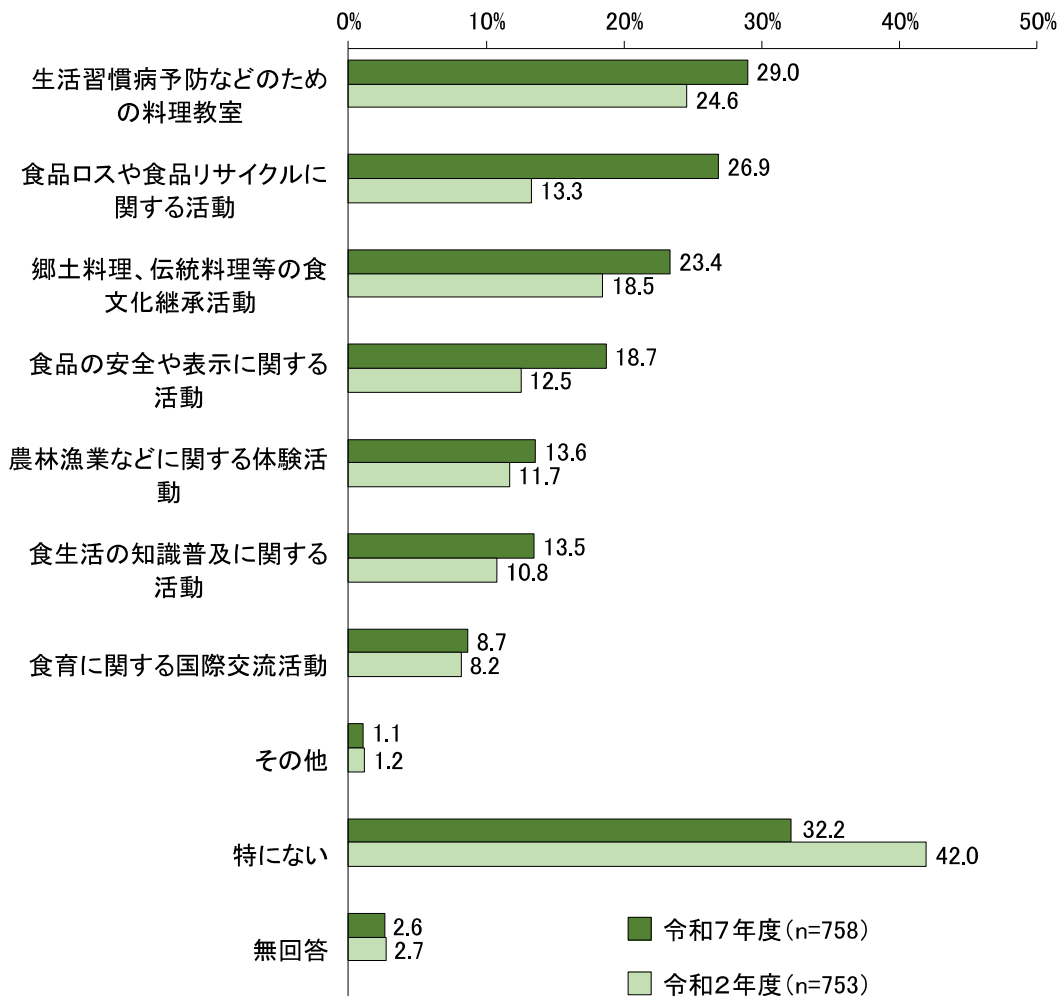
年齢別

問11-2 参加してみたい食育活動

上段:度数 下段:%		全体	料理生活 習慣病 教室 予 防など のため の	食品ロス や食品 リサイ クルに 関する 活動	郷土料理 、伝統 料理等 の食文 化継承 活動	食品の 安全や 表示に 関する 活動	
全体		758 100.0	220 29.0	204 26.9	177 23.4	142 18.7	
年齢	10・20歳代	64 100.0	24 37.5	13 20.3	18 28.1	9 14.1	
	30歳代	97 100.0	30 30.9	25 25.8	31 32.0	19 19.6	
	40歳代	126 100.0	29 23.0	34 27.0	43 34.1	26 20.6	
	50歳代	116 100.0	39 33.6	34 29.3	23 19.8	21 18.1	
	60歳代	142 100.0	45 31.7	44 31.0	34 23.9	23 16.2	
	70歳以上	206 100.0	51 24.8	54 26.2	26 12.6	43 20.9	
	上段:度数 下段:%		103 13.6	102 13.5	66 8.7	8 1.1	244 32.2
年齢	10・20歳代	7 10.9	8 12.5	7 10.9	-	20 31.3	1 1.6
	30歳代	26 26.8	18 18.6	7 7.2	1 1.0	19 19.6	4 4.1
	40歳代	26 20.6	20 15.9	19 15.1	1 0.8	27 21.4	2 1.6
	50歳代	18 15.5	12 10.3	11 9.5	-	37 31.9	3 2.6
	60歳代	21 14.8	18 12.7	13 9.2	1 0.7	50 35.2	1 0.7
	70歳以上	5 2.4	25 12.1	7 3.4	5 2.4	89 43.2	9 4.4

経年比較

問11-2 参加してみたい食育活動



(3) 現在の食生活・生活習慣について

1. 朝食について

問12-1 あなたは普段朝食を食べますか。(〇は1つ)

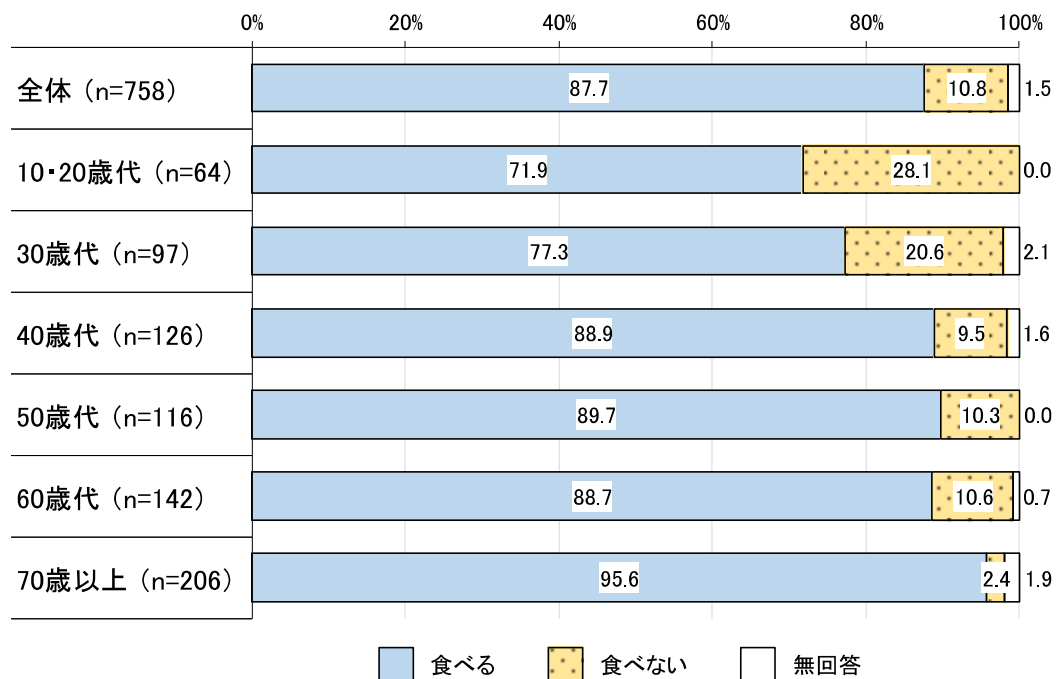
全体では、「食べる」が87.7%、「食べない」が10.8%となっています。

年齢別にみると、「食べる」はどの年代でも7割を超える一方、「食べない」は10・20歳代、30歳代で2割以上となっています。

令和2年度と比較すると、「食べる」の割合が最も増加しています。

年齢別

問12-1 朝食を食べるかについて



経年比較

問12-1 朝食を食べるかについて



※令和7年度では、「食べる人もいれば食べない人もいる」という選択肢は設けておりません。

問 12-2 (問 12-1 で「1」と答えた方に伺います)

あなたは、朝食で主食に何をよく食べますか。(〇は3つまで)

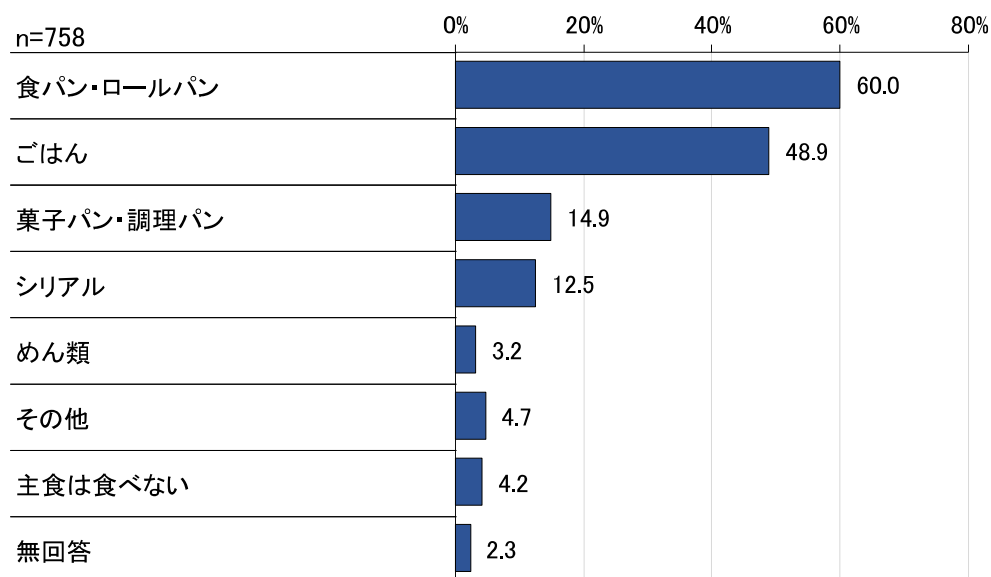
全体では、「食パン・ロールパン」が60.0%と最も多く、次いで「ごはん」が48.9%、「菓子パン・調理パン」が14.9%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向ですが、40歳代で「食パン・ロールパン」が66.1%、10・20歳代で「ごはん」が60.9%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「食パン・ロールパン」、「ごはん」、「めん類」の割合が減少しています。

全体

問12-2 朝食に主食で食べるもの



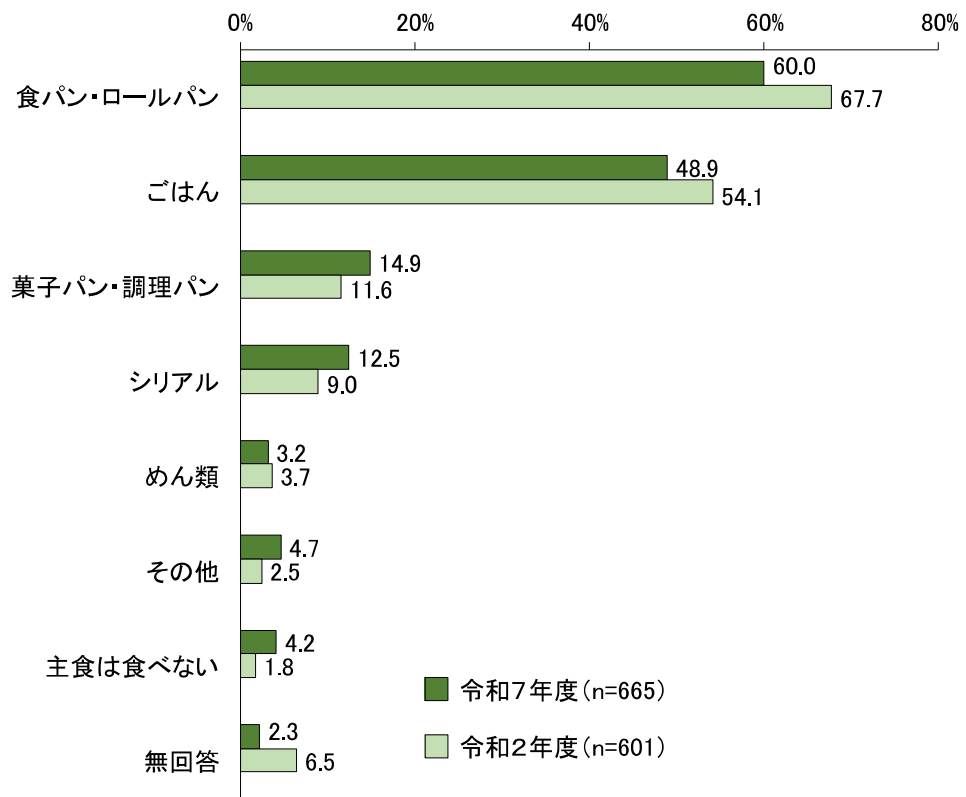
年齢別

問12-2 朝食に主食で食べるもの

上段:度数 下段:%		全体	食パン・ロールパン	ごはん	菓子パン・調理パン	シリアル	めん類	その他	主食は食べない	無回答
全体		665 100.0	399 60.0	325 48.9	99 14.9	83 12.5	21 3.2	31 4.7	28 4.2	15 2.3
年齢	10・20歳代	46 100.0	27 58.7	28 60.9	5 10.9	4 8.7	1 2.2	2 4.3	2 4.3	1 2.2
	30歳代	75 100.0	44 58.7	41 54.7	17 22.7	15 20.0	3 4.0	5 6.7	4 5.3	-
	40歳代	112 100.0	74 66.1	66 58.9	26 23.2	19 17.0	6 5.4	2 1.8	7 6.3	-
	50歳代	104 100.0	53 51.0	61 58.7	16 15.4	19 18.3	6 5.8	5 4.8	5 4.8	2 1.9
	60歳代	126 100.0	78 61.9	45 35.7	18 14.3	11 8.7	1 0.8	11 8.7	5 4.0	2 1.6
	70歳以上	197 100.0	122 61.9	81 41.1	17 8.6	15 7.6	4 2.0	5 2.5	5 2.5	9 4.6

経年比較

問12-2 朝食に主食で食べるもの



問 12-3 (問 12-1 で「1」と答えた方に伺います)

あなたは、朝食で主食以外に主に何をよく食べますか。(〇はいくつでも)

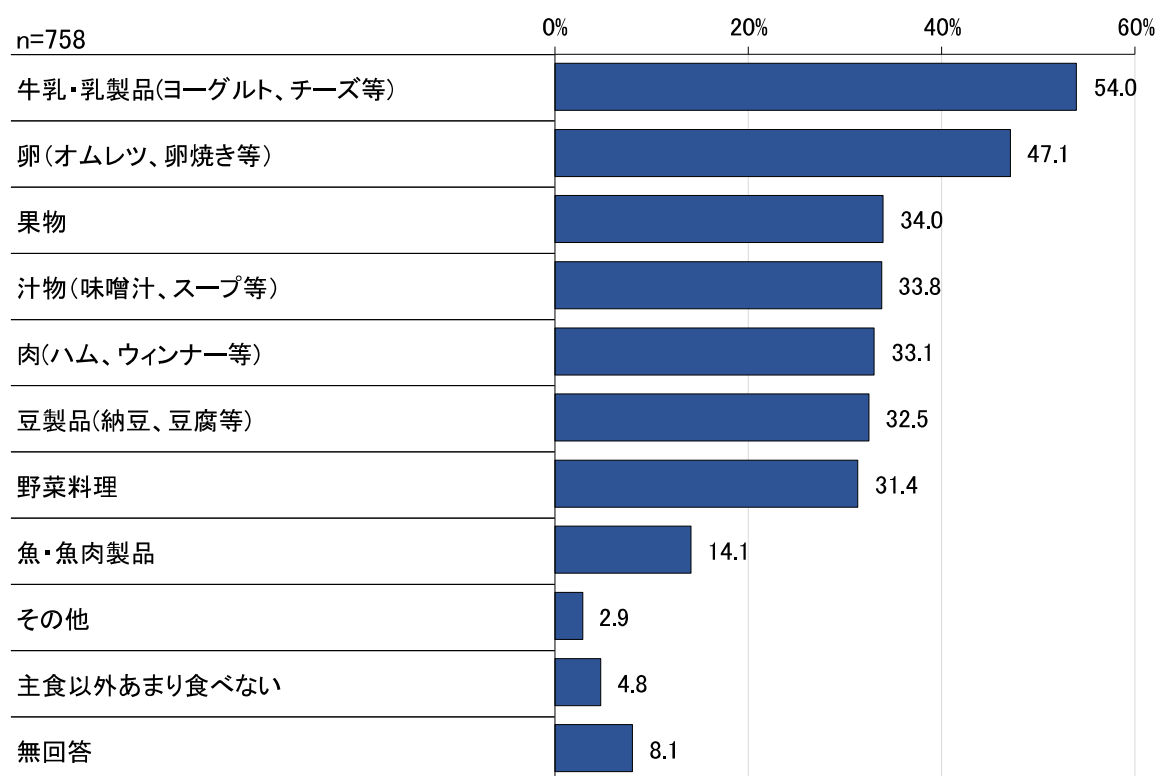
全体では、「牛乳・乳製品(ヨーグルト、チーズ等)」が54.0%と最も多く、次いで「卵(オムレツ、卵焼き等)」が47.1%、「果物」が34.0%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向ですが、70歳以上で「野菜料理」が53.3%、10・20歳代で「汁物(味噌汁、スープ等)」が41.3%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「卵(オムレツ、卵焼き等)」、「肉(ハム、ウィンナー等)」の割合が減少しています。

全体

問12-3 朝食で主食以外に食べるもの



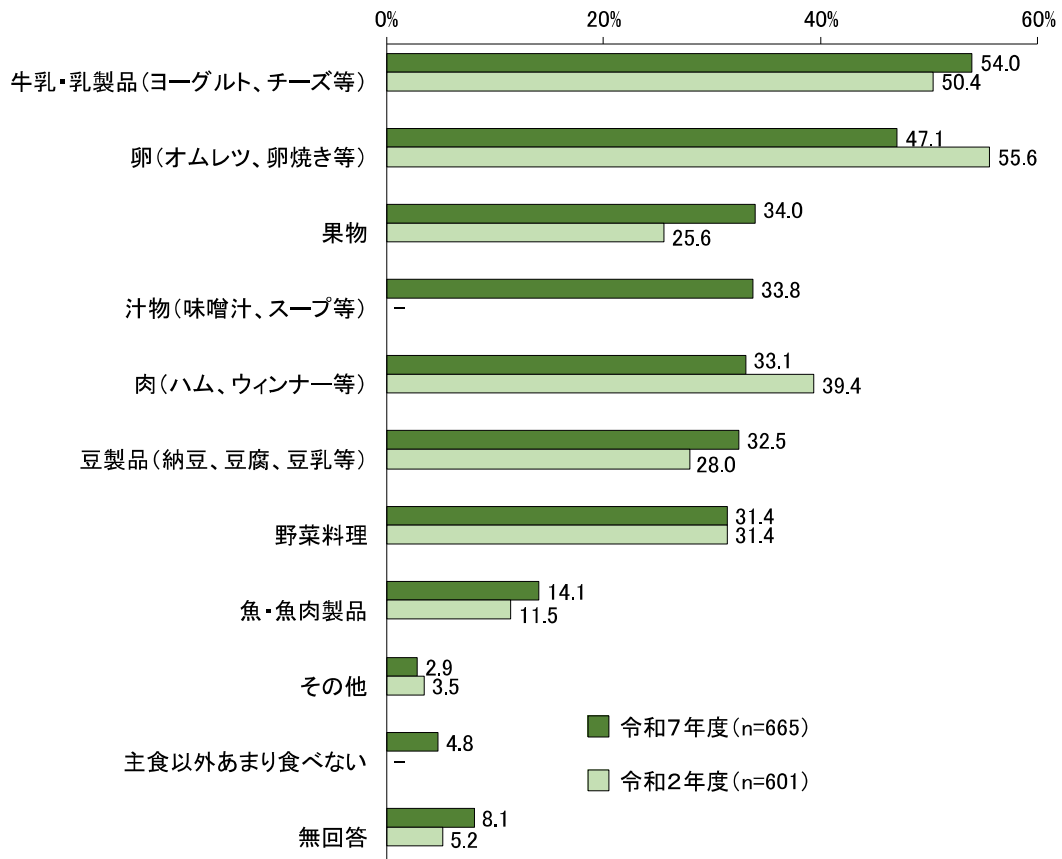
年齢別

問12-3 朝食で主食以外に食べるもの

上段:度数 下段:%		全体	牛乳・乳製品 (ヨーグルト、チーズ等)	卵 (オムレツ、卵焼き等)	果物	汁物 (味噌汁、スープ等)	肉 (ハム、ウィンナー等)
全体		665 100.0	359 54.0	313 47.1	226 34.0	225 33.8	220 33.1
年齢	10・20歳代	46 100.0	22 47.8	21 45.7	10 21.7	19 41.3	13 28.3
	30歳代	75 100.0	35 46.7	29 38.7	22 29.3	23 30.7	23 30.7
	40歳代	112 100.0	50 44.6	48 42.9	32 28.6	29 25.9	38 33.9
	50歳代	104 100.0	57 54.8	43 41.3	37 35.6	35 33.7	29 27.9
	60歳代	126 100.0	70 55.6	59 46.8	39 31.0	41 32.5	43 34.1
	70歳以上	197 100.0	122 61.9	112 56.9	85 43.1	76 38.6	72 36.5
	上段:度数 下段:%		(納豆、豆腐、豆乳等)	野菜料理	魚・魚肉製品	その他	主食以外あまり食べない
全体		216 32.5	209 31.4	94 14.1	19 2.9	32 4.8	54 8.1
年齢	10・20歳代	10 21.7	10 21.7	6 13.0	1 2.2	4 8.7	1 2.2
	30歳代	18 24.0	9 12.0	7 9.3	2 2.7	13 17.3	4 5.3
	40歳代	30 26.8	14 12.5	7 6.3	6 5.4	7 6.3	12 10.7
	50歳代	40 38.5	30 28.8	21 20.2	3 2.9	4 3.8	8 7.7
	60歳代	39 31.0	40 31.7	18 14.3	3 2.4	2 1.6	14 11.1
	70歳以上	77 39.1	105 53.3	34 17.3	4 2.0	2 1.0	15 7.6

経年比較

問12-3 朝食で主食以外に食べるもの



※令和2年度では、「汁物（味噌汁、スープ等）」、「主食以外あまり食べない」という選択肢は設けておりませんでした。

問 13-1 (問 12-1 で「2」と答えた方に伺います)

あなたが朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(〇は1つ)

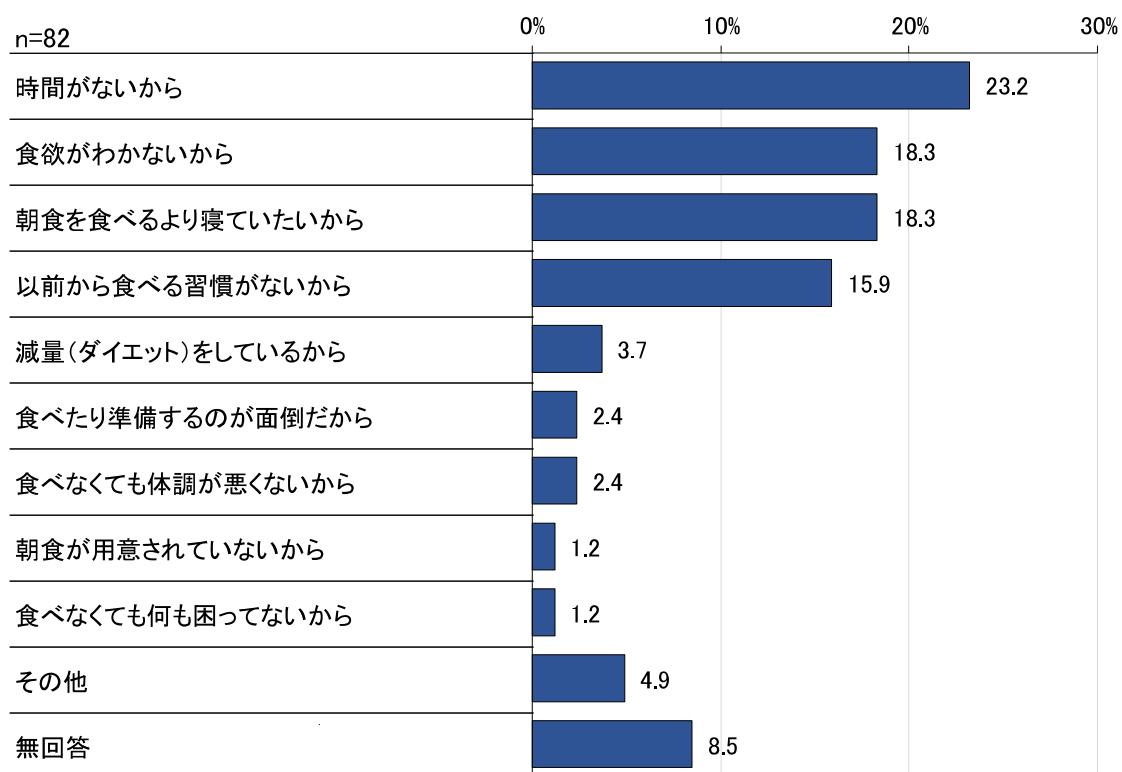
全体では、「時間がないから」が 23.2%と最も多く、次いで「食欲がわからないから」、「朝食を食べるより寝ていたいから」がともに 18.3%、「以前から食べる習慣がないから」が 15.9%となっています。

年齢別にみると、10・20 歳代では「朝食を食べるより寝ていたいから」が他の年代に比べて多く、30 歳代では「時間がないから」が4割となっています。

令和2年度と比較すると、全ての項目で減少し、「食べなくても何も困ってないから」の割合が最も減少しています。

全体

問13-1 朝食を食べない最も大きな理由



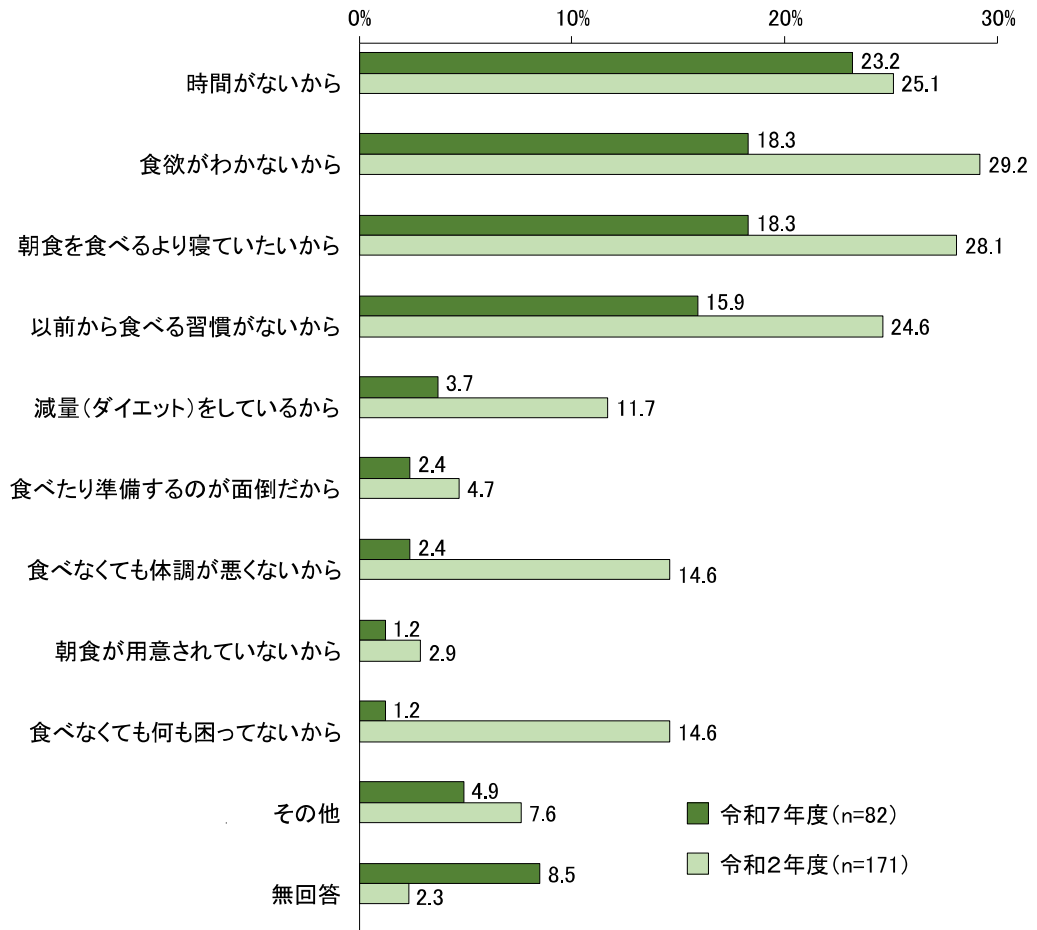
年齢別

問13-1 朝食を食べない最も大きな理由

上段:度数 下段:%		全体	時間がないから	食欲がわかないから	寝朝食を食べるより寝ていたいから	以前から食べる習慣がないから	減量(ダイエット)をしているから
全体		82 100.0	19 23.2	15 18.3	15 18.3	13 15.9	3 3.7
年齢	10・20歳代	18 100.0	7 38.9	3 16.7	6 33.3	1 5.6	-
	30歳代	20 100.0	8 40.0	4 20.0	4 20.0	2 10.0	-
	40歳代	12 100.0	2 16.7	3 25.0	2 16.7	2 16.7	1 8.3
	50歳代	12 100.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	3 25.0	1 8.3
	60歳代	15 100.0	-	3 20.0	-	4 26.7	1 6.7
	70歳以上	5 100.0	-	1 20.0	1 20.0	1 20.0	-
	上段:度数 下段:%			食べないから 悪くなくても体調が	朝食が用意されていないから	困ってなくても何も食べないから	その他
全体		2 2.4	2 2.4	1 1.2	1 1.2	4 4.9	7 8.5
年齢	10・20歳代	-	-	-	-	-	1 5.6
	30歳代	-	-	-	1.0	-	1 5.0
	40歳代	1 8.3	-	-	-	1 8.3	-
	50歳代	1 8.3	-	-	-	1 8.3	1 8.3
	60歳代	-	2 13.3	-	-	2 13.3	3 20.0
	70歳以上	-	-	1 20.0	-	-	1 20.0

経年比較

問13-1 朝食を食べない最も大きな理由



問 13-2 (問 12-1 で「2」と答えた方に伺います)

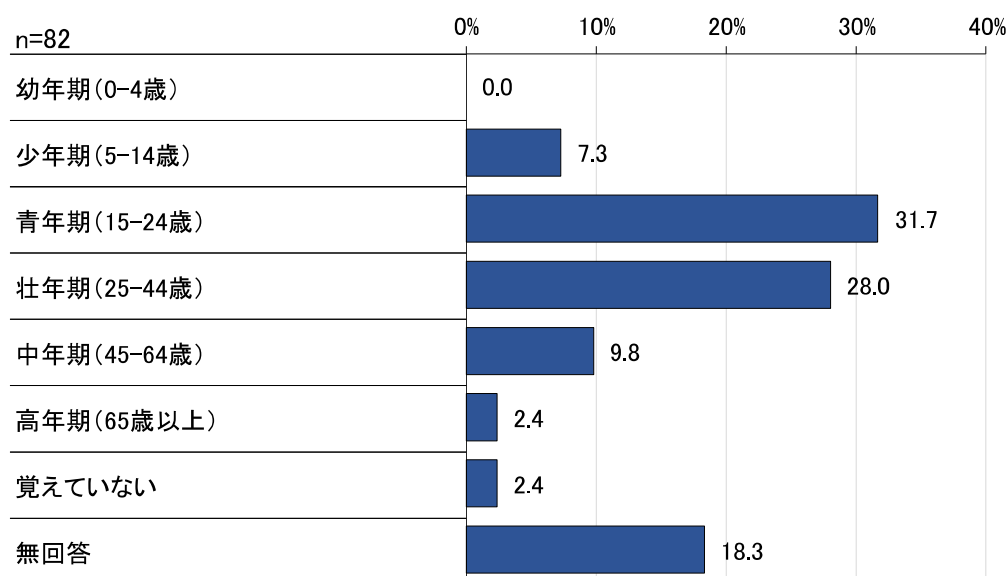
あなたはいつ頃から朝食を食べなくなりましたか。(〇は1つ)

全体では、「青年期(15-24歳)」が31.7%と最も多く、次いで「壮年期(25-44歳)」が28.0%、「中年期(45-64歳)」が9.8%となっています。

年齢別にみると、40歳代では「壮年期(25-44歳)」が他の年代に比べて多く、10・20歳代では「青年期(15-24歳)」が6割を超えています。

全体

問13-2 朝食を食べなくなった時期



年齢別

問13-2 朝食を食べなくなった時期

上段:度数 下段:%		全体	幼年期 (0 ～ 4 歳)	少年期 (5 ～ 14 歳)	青年期 (15 ～ 24 歳)	壮年期 (25 ～ 44 歳)	中年期 (45 ～ 64 歳)	高年期 (65 歳以上)	覚えていない	無回答	
全体		82 100.0	- -	6 7.3	26 31.7	23 28.0	8 9.8	2 2.4	2 2.4	15 18.3	
年齢	10・20歳代	18 100.0	- -	2 11.1	12 66.7	2 11.1	- -	- -	1 5.6	1 5.6	
	30歳代	20 100.0	- -	1 5.0	8 40.0	8 40.0	- -	- -	1 5.0	2 10.0	
	40歳代	12 100.0	- -	- -	1 8.3	6 50.0	1 8.3	- -	- -	4 33.3	
	50歳代	12 100.0	- -	1 8.3	4 33.3	4 33.3	2 16.7	- -	- -	1 8.3	
	60歳代	15 100.0	- -	2 13.3	1 6.7	2 13.3	5 33.3	1 6.7	- -	4 26.7	
	70歳以上	5 100.0	- -	- -	- -	- -	1 20.0	- -	1 20.0	- -	3 60.0

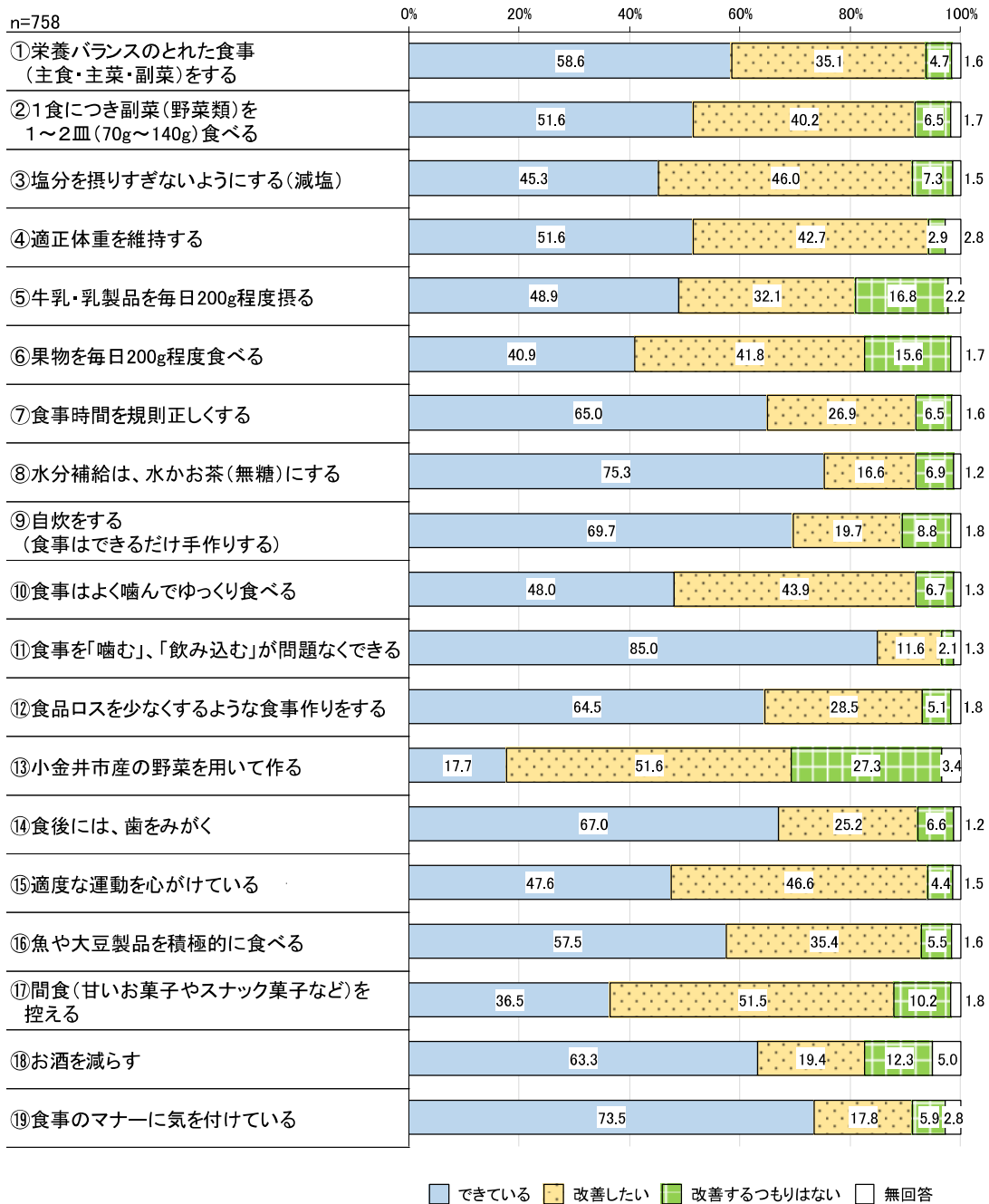
2. 食生活の改善について

問14 あなたは次の各々の項目について、できていますか。また、できていない場合、改善したいと思いますか。(①～⑱それぞれに○は1つ)

全体では、③、⑥、⑬、⑰の項目では「改善したい」が最も多くなっています。

全体

問14 食生活に関する現状と改善意欲について

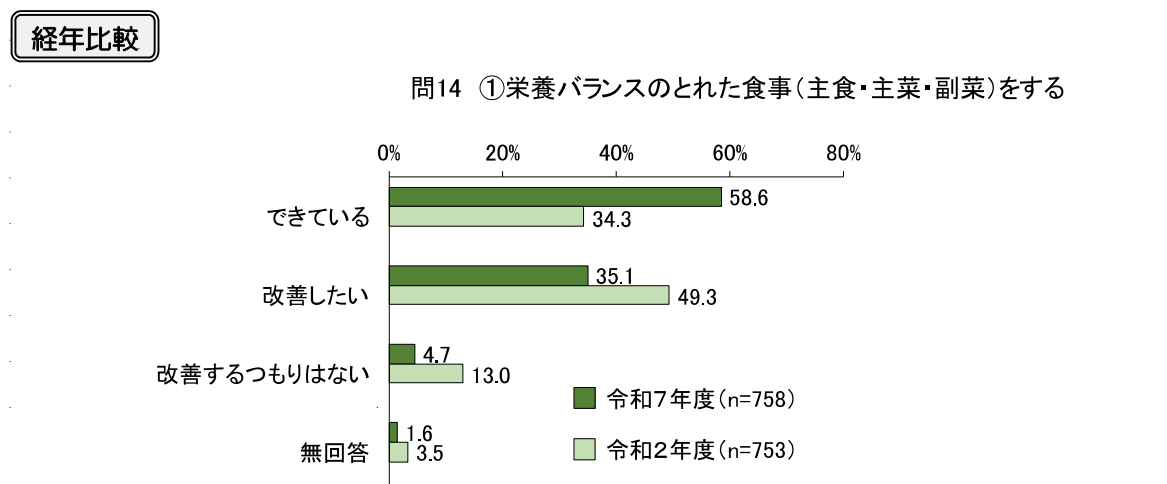
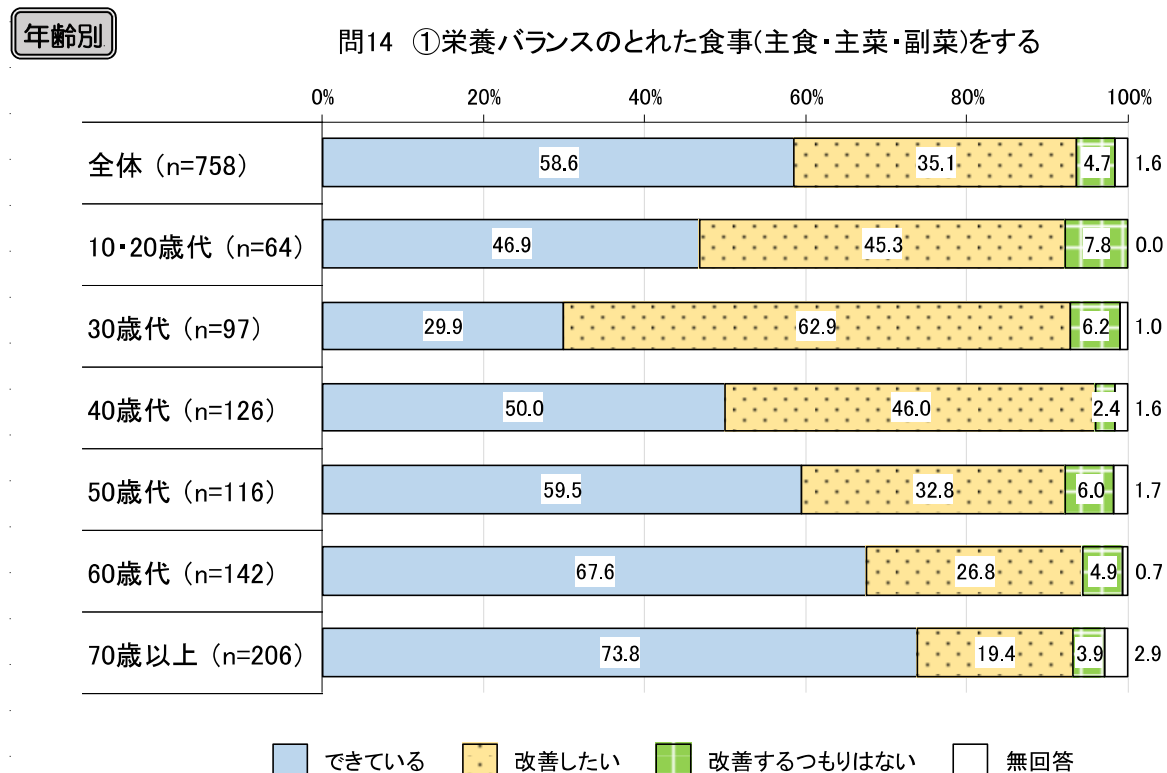


①栄養バランスのとれた食事（主食・主菜・副菜）をする

全体では、「できている」が 58.6%、「改善したい」が 35.1%、「改善するつもりはない」が 4.7%となっています。

年齢別にみると、30 歳代では「改善したい」が 62.9%、70 歳以上では「できている」が 73.8%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。

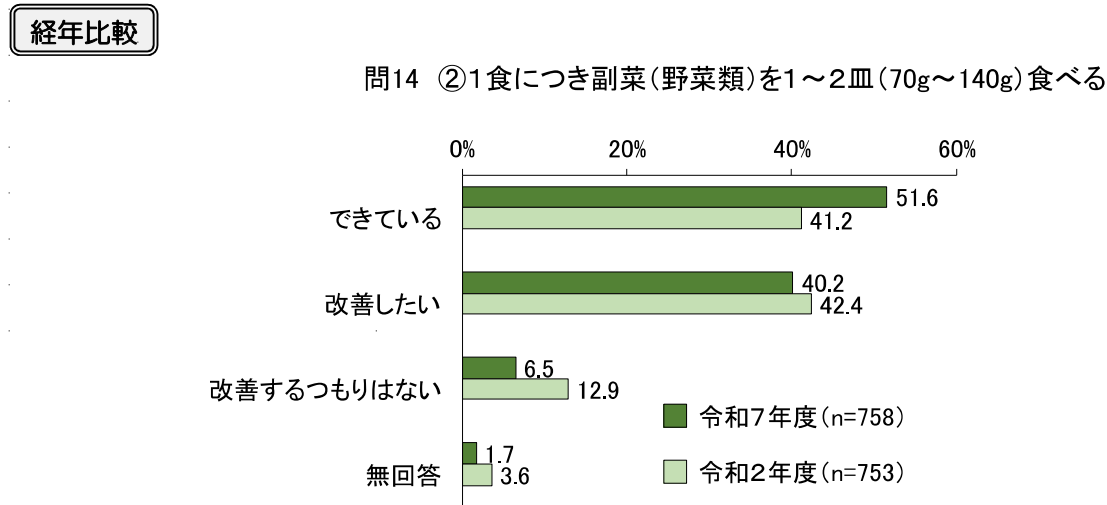
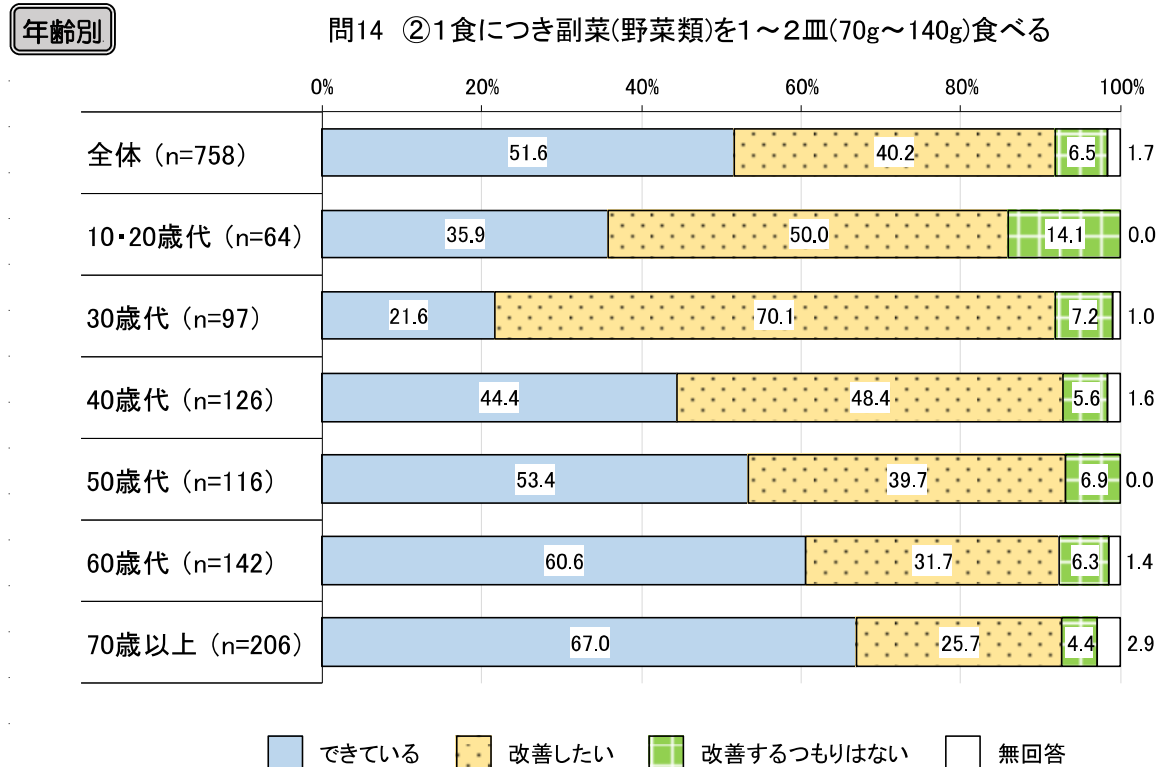


② 1食につき副菜（野菜類）を1～2皿（70g～140g）食べる

全体では、「できている」が51.6%、「改善したい」が40.2%、「改善するつもりはない」が6.5%となっています。

年齢別にみると、30歳代では「改善したい」が70.1%、70歳以上では「できている」が67.0%、10・20歳代では「改善するつもりはない」が14.1%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。



③塩分を摂りすぎないようにする（減塩）

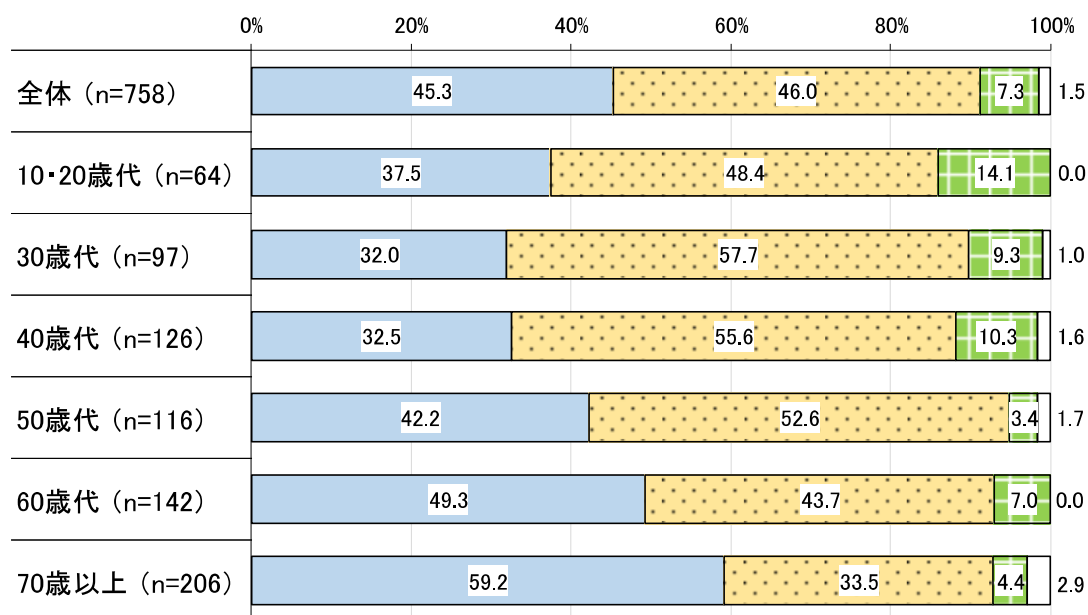
全体では、「できている」が45.3%、「改善したい」が46.0%、「改善するつもりはない」が7.3%となっています。

年齢別にみると、10・20歳代で「改善するつもりはない」が14.1%、70歳以上で「できている」が59.2%で、それぞれ他の年代と比べて多くなっています。また、30歳代、40歳代、50歳代では「改善したい」がそれぞれ5割を超えています。

令和2年度と比較すると、「改善するつもりはない」の割合が減少しています。

年齢別

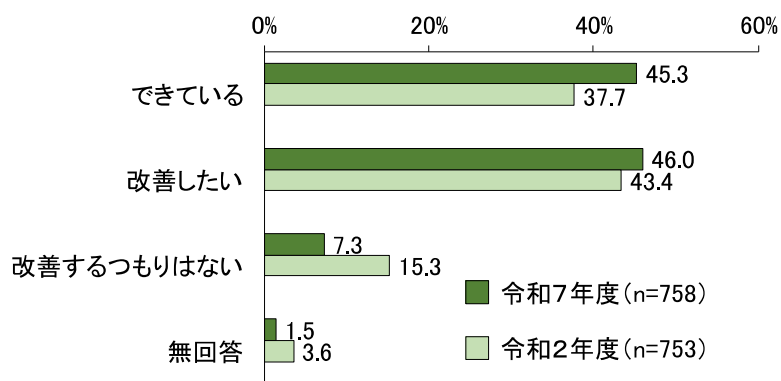
問14 ③塩分を摂りすぎないようにする（減塩）



■ できている ■ 改善したい ■ 改善するつもりはない □ 無回答

経年比較

問14 ③塩分を摂りすぎないようにする（減塩）



④適正体重を維持する

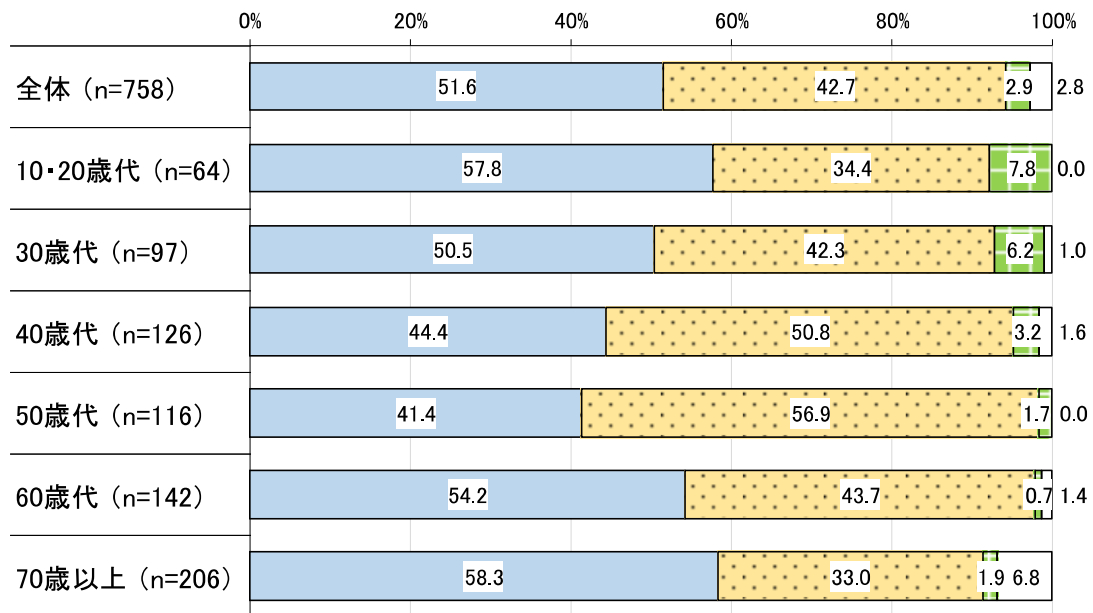
全体では、「できている」が 51.6%、「改善したい」が 42.7%、「改善するつもりはない」が 2.9%となっています。

年齢別にみると、50歳代で「改善したい」が 56.9%を占め、70歳以上では「できている」が 58.3%となっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。

年齢別

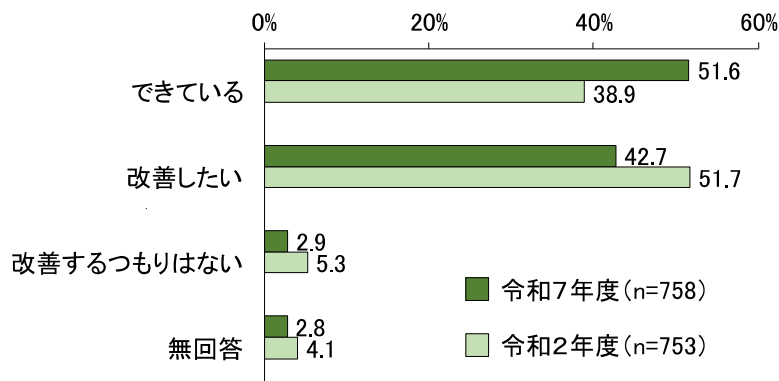
問14 ④適正体重を維持する



■ できている ■ 改善したい ■ 改善するつもりはない □ 無回答

経年比較

問14 ④適正体重を維持する



⑤牛乳・乳製品を毎日200g程度摂る（牛乳1杯＝約200g）

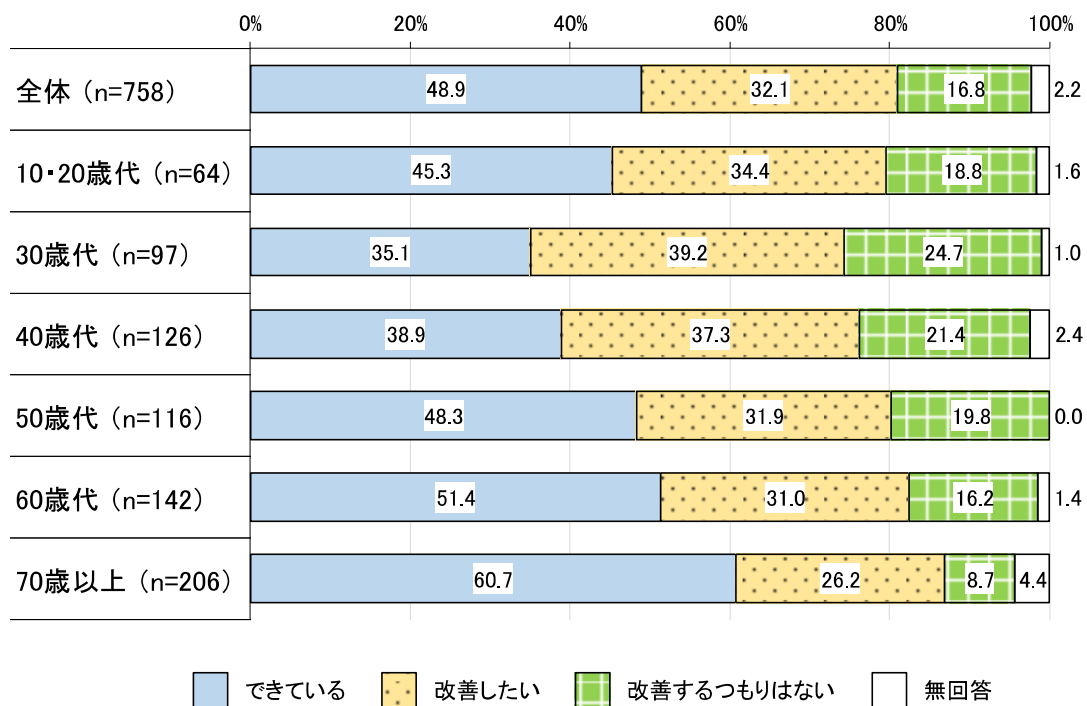
全体では、「できている」が48.9%、「改善したい」が32.1%、「改善するつもりはない」が16.8%となっています。

年齢別にみると、70歳以上で「できている」が60.7%となっています。また、30歳代では「改善したい」が39.2%、「改善するつもりはない」が24.7%と、それぞれ他の年代と比べて最も多くなっています。

令和2年度と比較すると、「改善するつもりはない」の割合が減少しています。

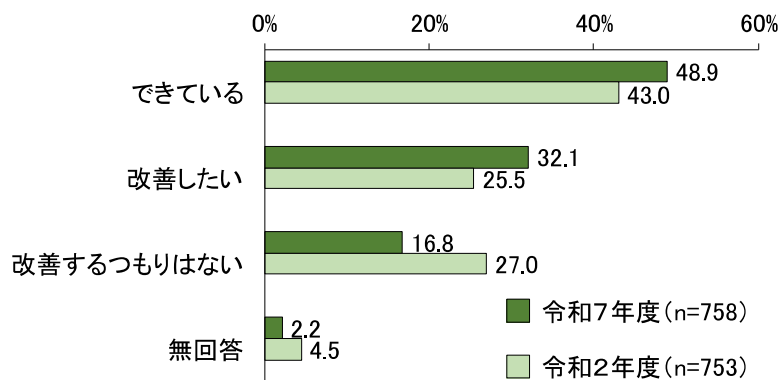
年齢別

問14 ⑤牛乳・乳製品を毎日200g程度摂る



経年比較

問14 ⑤牛乳・乳製品を毎日200g程度摂る



⑥果物を毎日 200g 程度食べる (100g の目安 : キウイ 1 個、バナナ 1 本など)

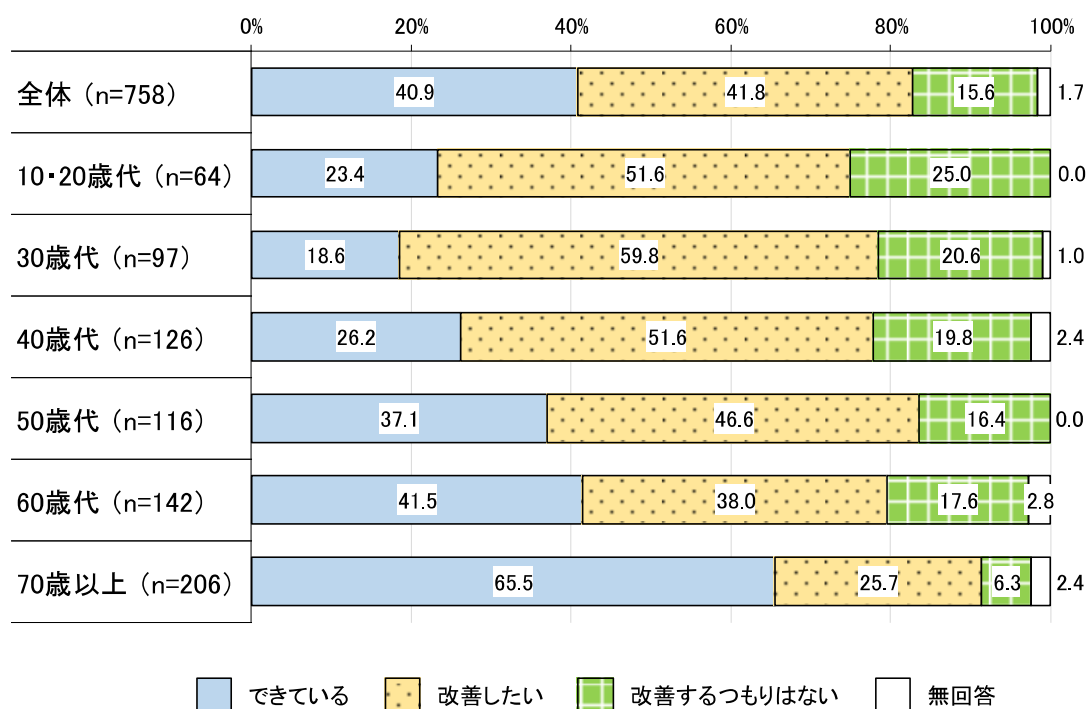
全体では、「できている」が 40.9%、「改善したい」が 41.8%、「改善するつもりはない」が 15.6%となっています。

年齢別にみると、70 歳以上では「できている」が 65.5%と、他の年代と比べて多くなっています。10・20 歳代～40 歳代では、「改善したい」がそれぞれ5割以上を占めていますが、10・20 歳代～30 歳代では「改善するつもりはない」も、それぞれ2割を超えています。

令和2年度と比較すると、「改善したい」の割合が増加しています。

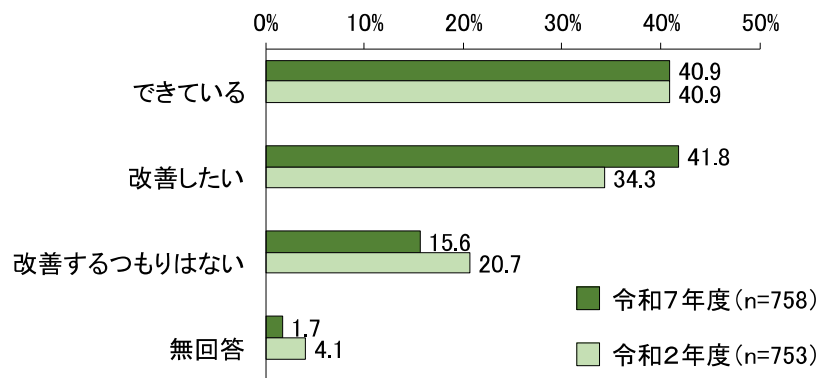
年齢別

問14 ⑥果物を毎日200g程度食べる



経年比較

問14 ⑥果物を毎日200g程度食べる



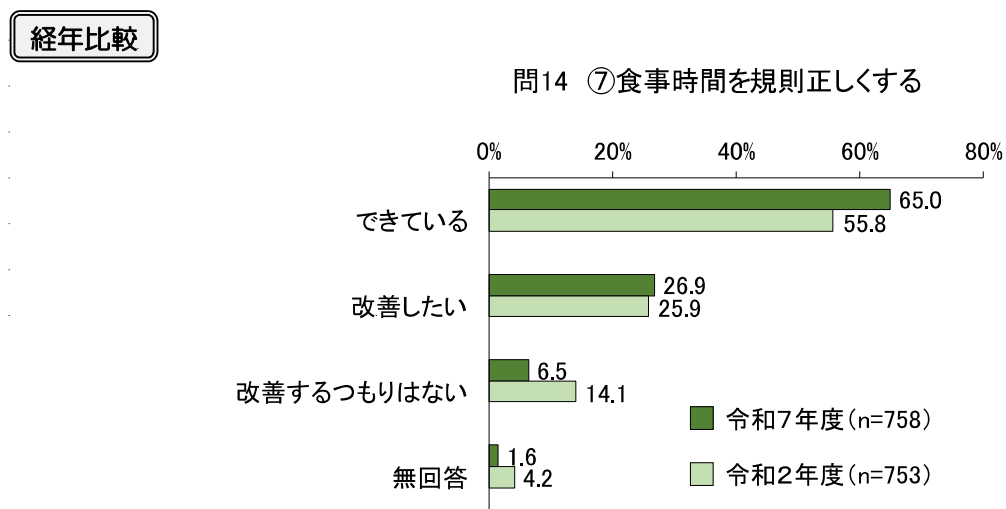
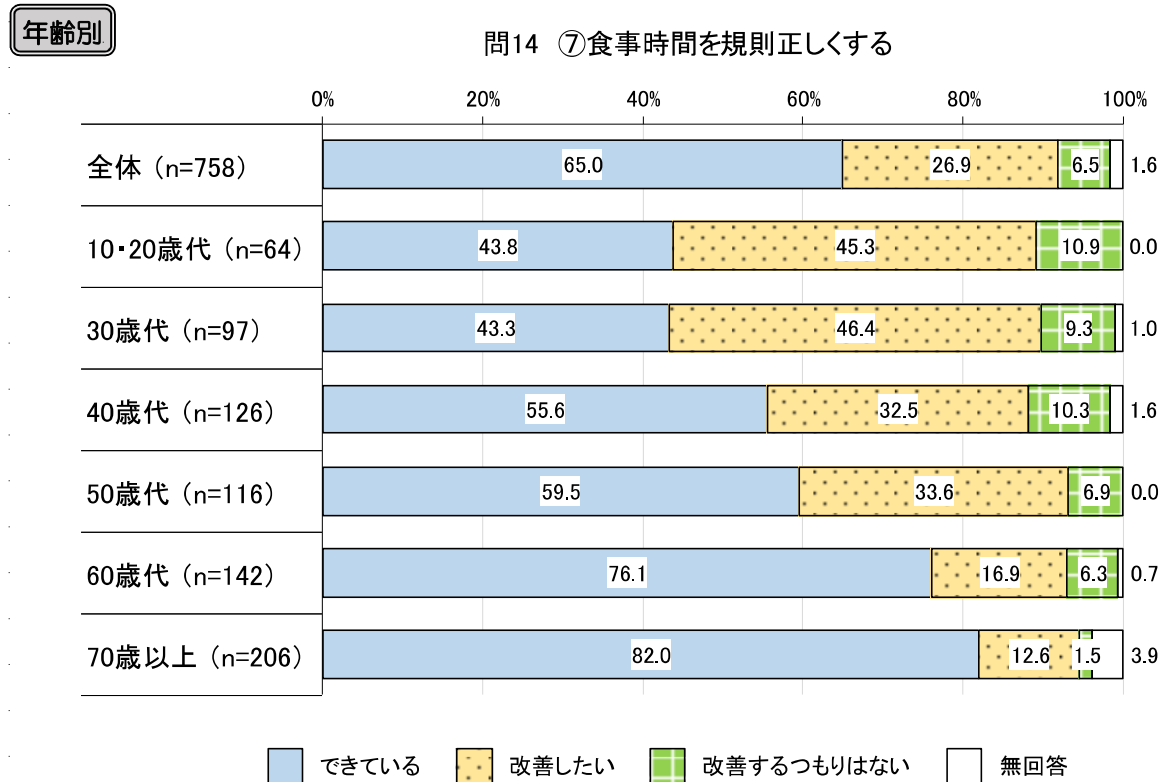
※令和2年度では、設問が「果物を毎日 100g 程度食べる」でした。

⑦食事時間を規則正しくする

全体では、「できている」が 65.0%、「改善したい」が 26.9%、「改善するつもりはない」が 6.5%となっています。

年齢別にみると、10・20歳代、30歳代では「改善したい」がともに4割台半ば、70歳以上では「できている」が8割以上で、それぞれ他の年代と比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。

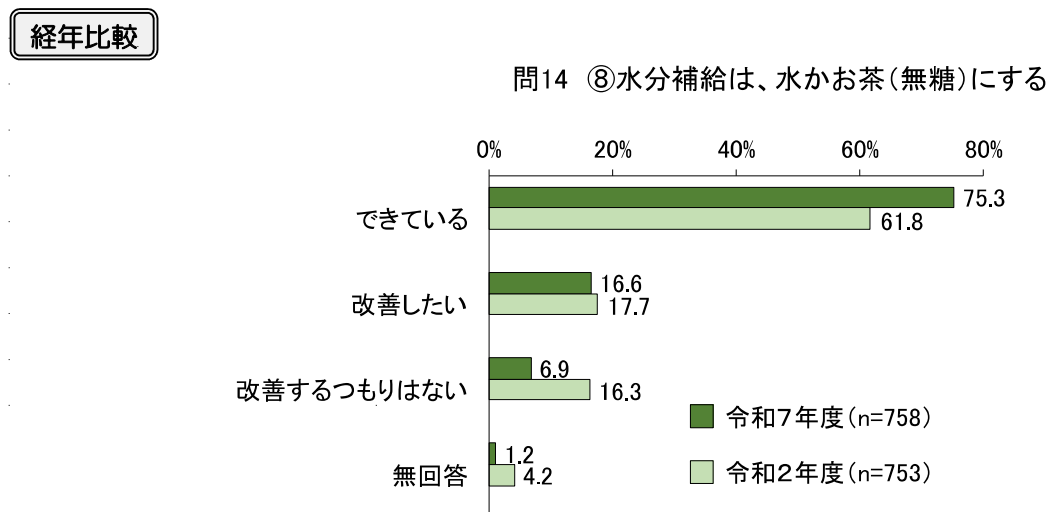
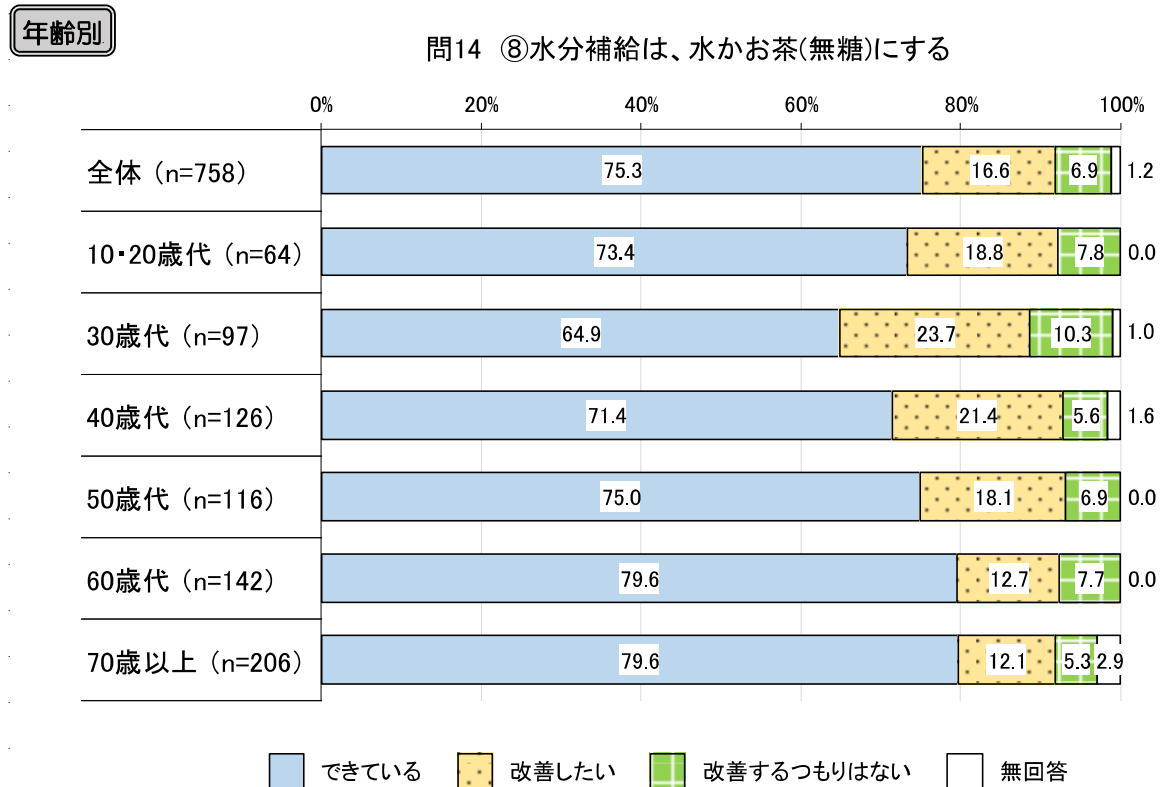


⑧水分補給は、水かお茶（無糖）にする

全体では、「できている」が 75.3%、「改善したい」が 16.6%、「改善するつもりはない」が 6.9%となっています。

年齢別にみると、どの年齢層でも「できている」が6割以上となっています。「改善したい」は30歳代、40歳代で2割を超え、他の年代と比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。



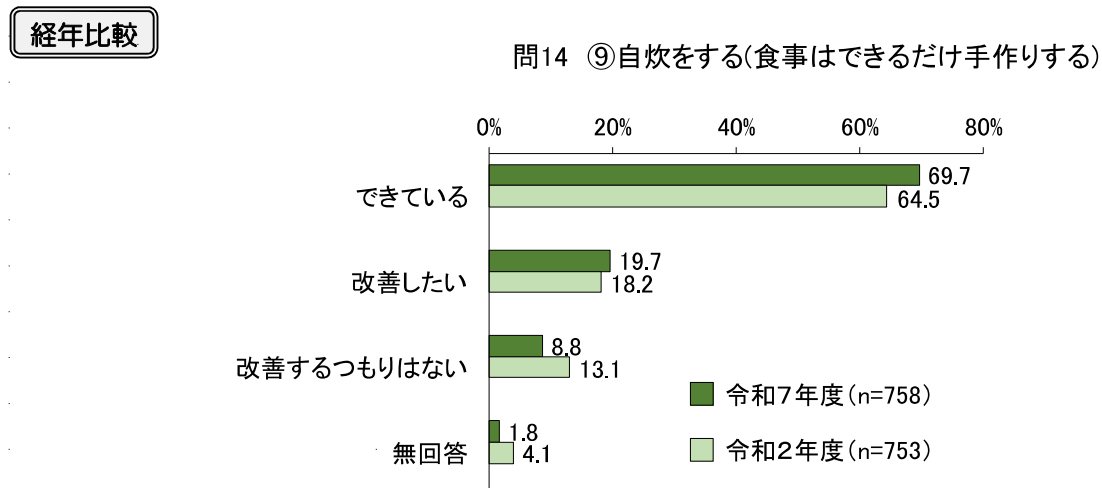
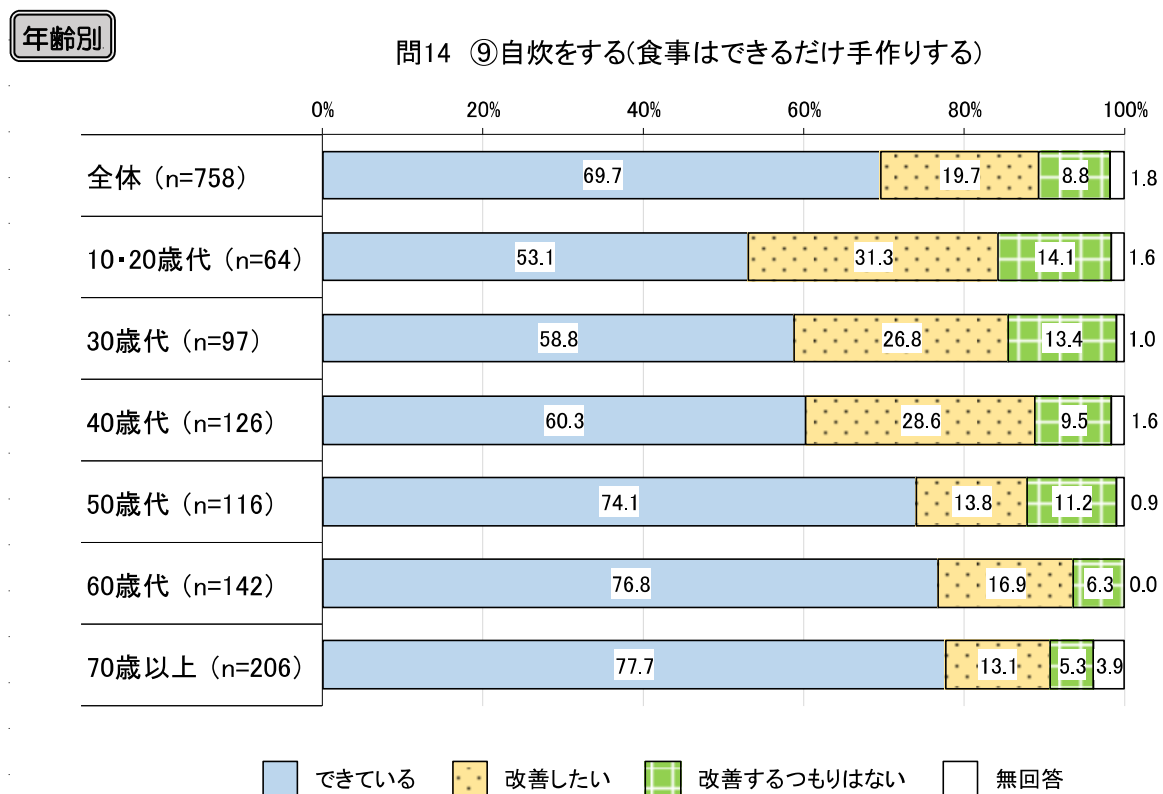
⑨自炊をする（食事はできるだけ手作りする）

全体では、「できている」が 69.7%、「改善したい」が 19.7%、「改善するつもりはない」が 8.8%となっています。

年齢別にみると、どの年齢層でも「できている」が5割以上となっています。特に 50 歳代、60 歳代、70 歳以上ではそれぞれ7割を超え、自炊ができている人の多いことがうかがえます。

10・20 歳代では「できている」が 53.1%となる一方で、「改善したい」も 31.3%を占めています。30 歳代、40 歳代もおおむね同様の傾向となっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。



⑩食事はよく噛んでゆっくり食べる

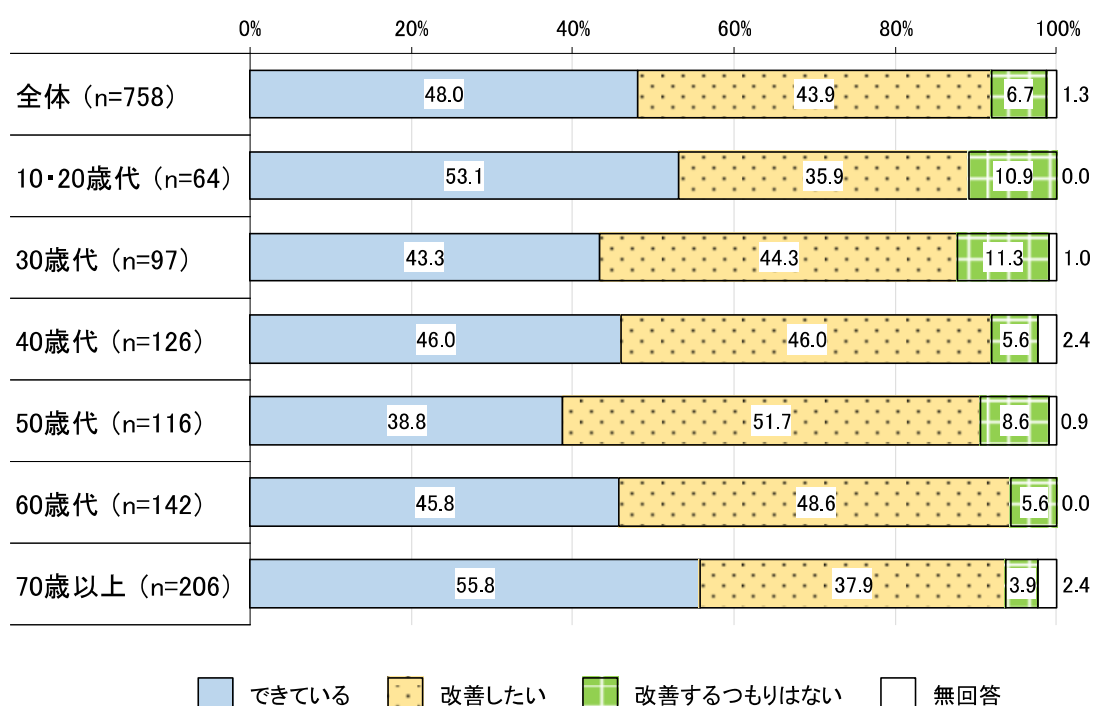
全体では、「できている」が48.0%、「改善したい」が43.9%、「改善するつもりはない」が6.7%となっています。

年齢別にみると、50歳代では「改善したい」が51.7%、70歳以上では「できている」が55.8%と、それぞれ他の年代に比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「改善するつもりはない」の割合が減少しています。

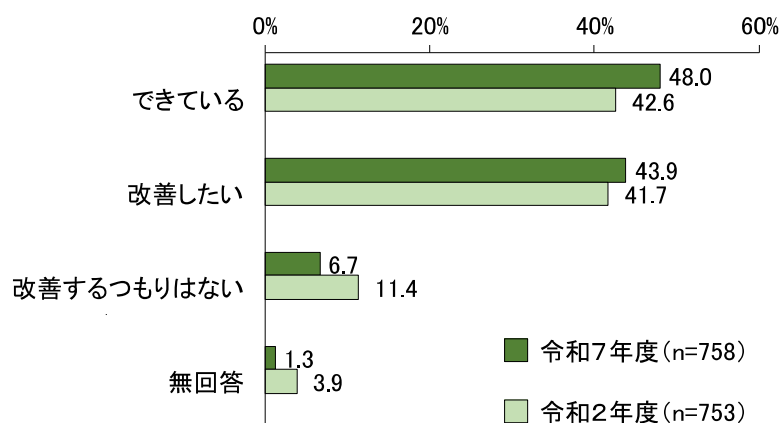
年齢別

問14 ⑩食事はよく噛んでゆっくり食べる



経年比較

問14 ⑩食事はよく噛んでゆっくり食べる

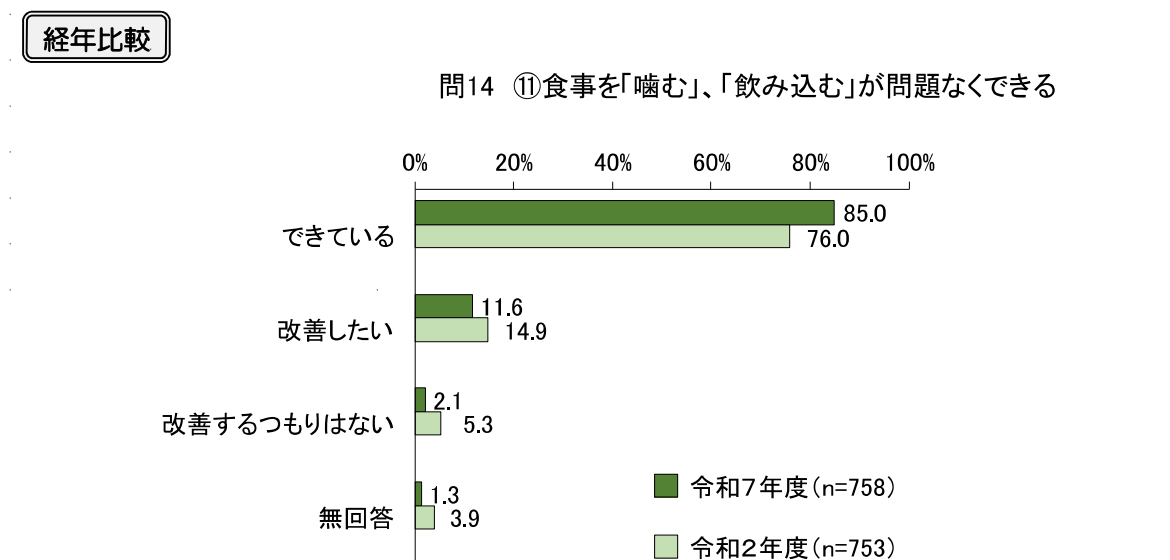
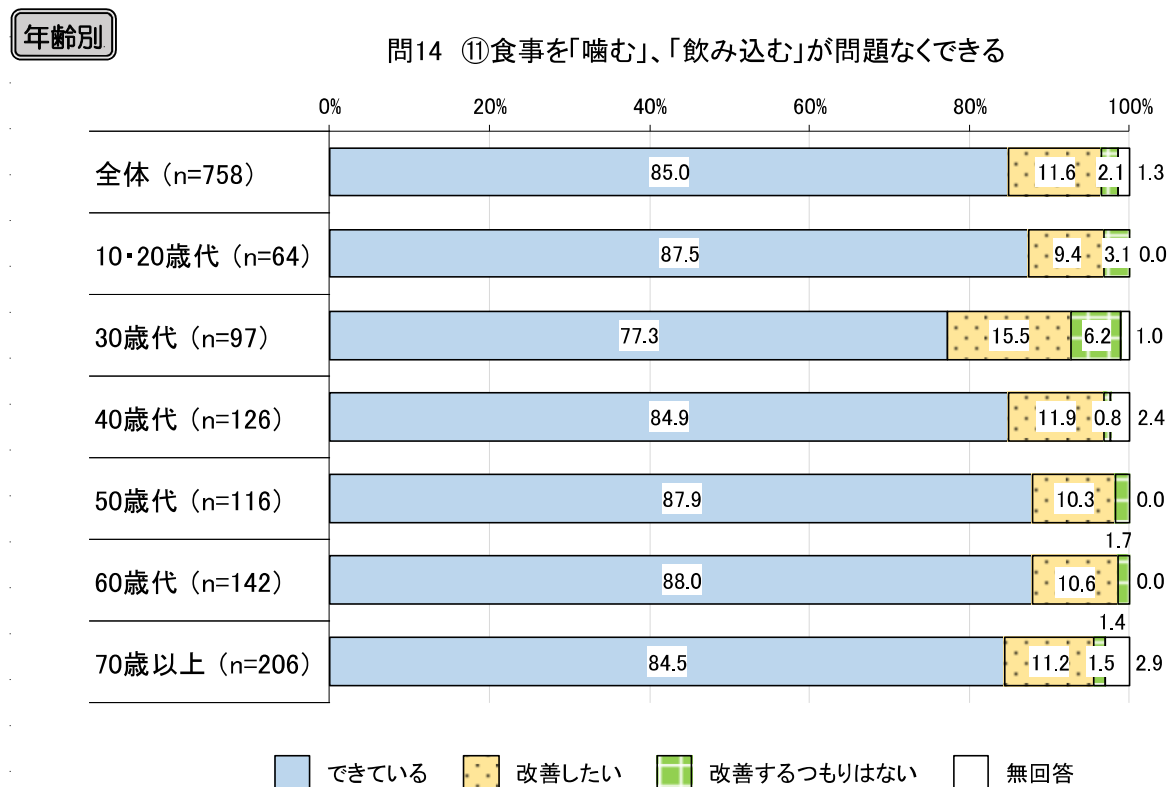


⑪食事を「噛む」、「飲み込む」が問題なくできる

全体では、「できている」が 85.0%、「改善したい」が 11.6%、「改善するつもりはない」が 2.1%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向がみられますが、30 歳代では「改善したい」が 15.5%と他の年代に比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。



⑫食品ロスを少なくするような食事作りをする

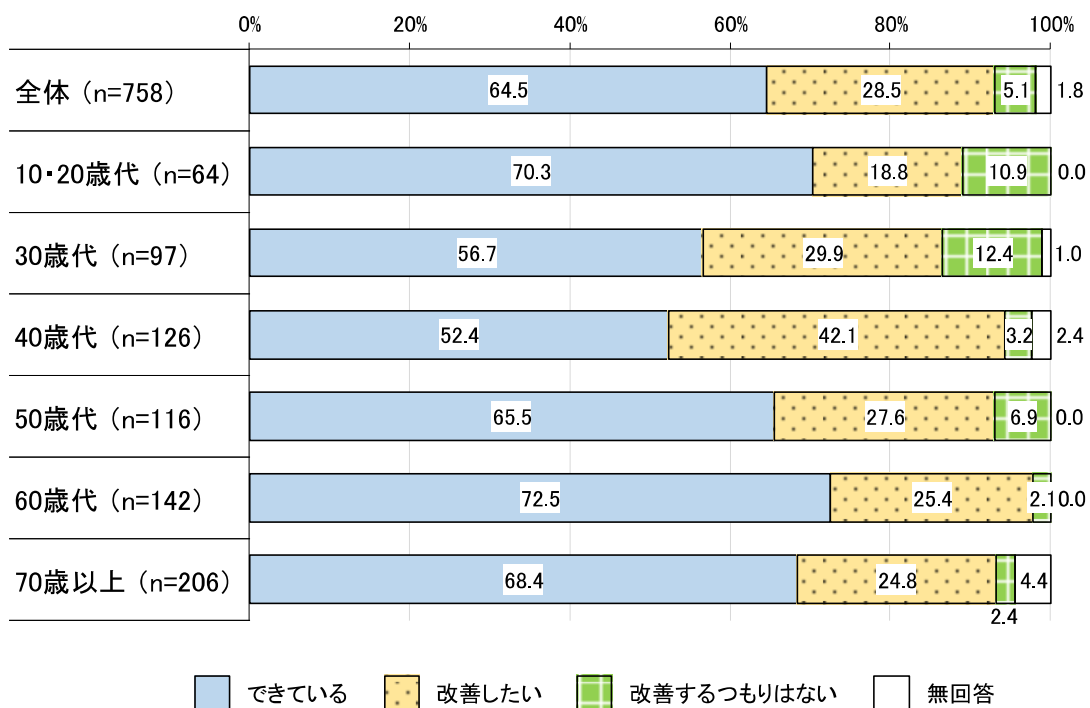
全体では、「できている」が 64.5%、「改善したい」が 28.5%、「改善するつもりはない」が 5.1%となっています。

年齢別にみると、「できている」では 60 歳代が 72.5%、10・20 歳代が 70.3%と他の年代と比べて多くなっており、取り組みへの意欲がうかがえます。また、「改善したい」では 40 歳代が 42.1%と、突出して多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。

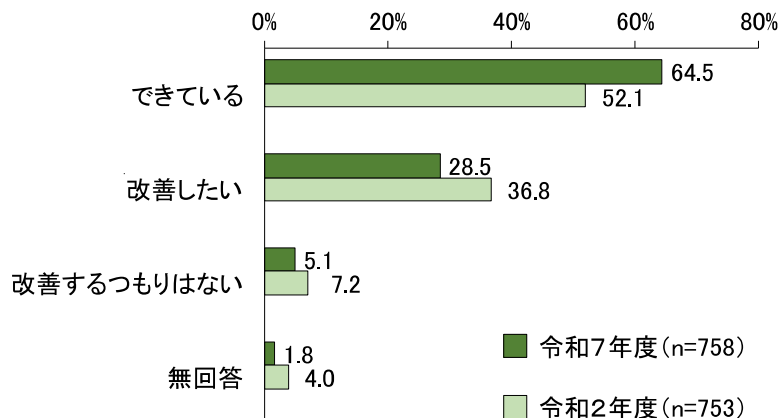
年齢別

問14 ⑫食品ロスを少なくするような食事作りをする



経年比較

問14 ⑫食品ロスを少なくするような食事作りをする



⑬小金井市産の野菜を用いて作る

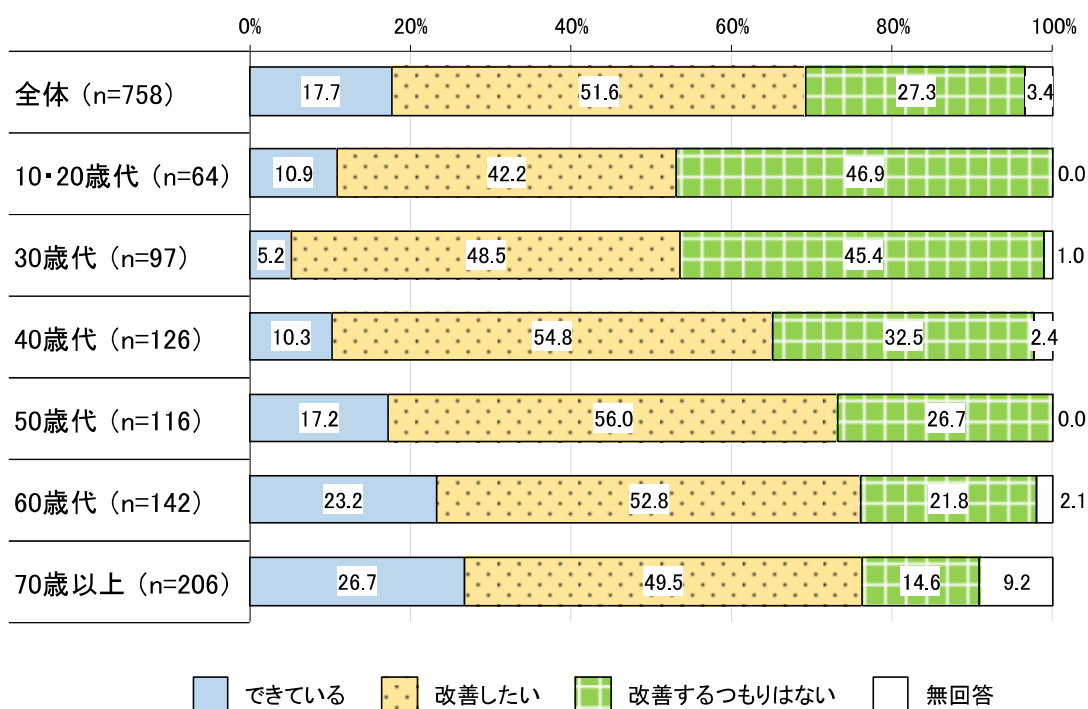
全体では、「できている」が 17.7%、「改善したい」が 51.6%、「改善するつもりはない」が 27.3%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向がみられますが、10・20歳代、30歳代、40歳代、で「できている」の割合が少なく、特に30歳代では5.2%と他の年代に比べて少なくなっています。

令和2年度と比較すると、「改善するつもりはない」の割合が減少しています。

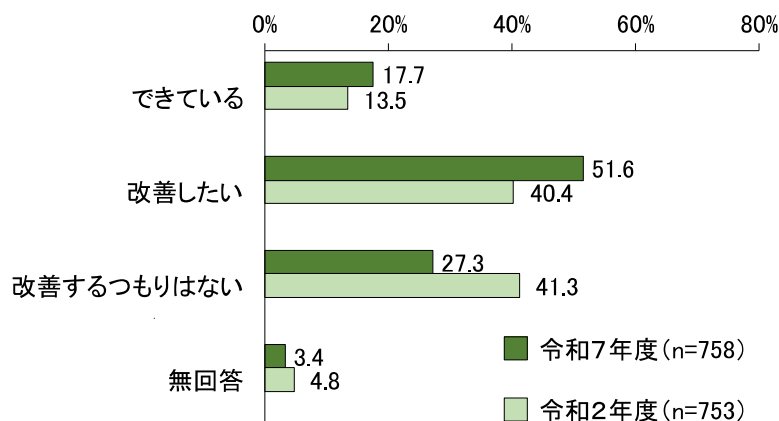
年齢別

問14 ⑬小金井市産の野菜を用いて作る



経年比較

問14 ⑬小金井市産の野菜を用いて作る



⑭食後には、歯をみがく

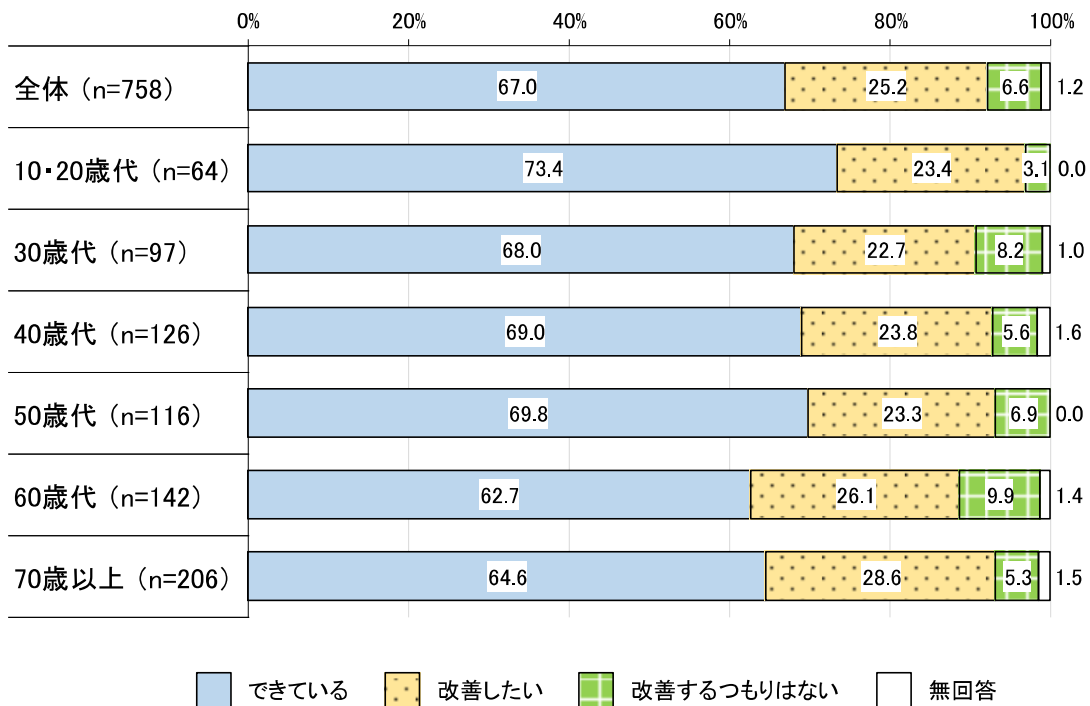
全体では、「できている」が 67.0%、「改善したい」が 25.2%、「改善するつもりはない」が 6.6%となっています。

年齢別にみると、10・20歳代で「できている」が7割以上、30歳代、40歳代、50歳代でも7割近くとなっています。また、どの年齢層でも「改善したい」がそれぞれ2割を超えており、歯の健康を心がけていることがうかがえます。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。

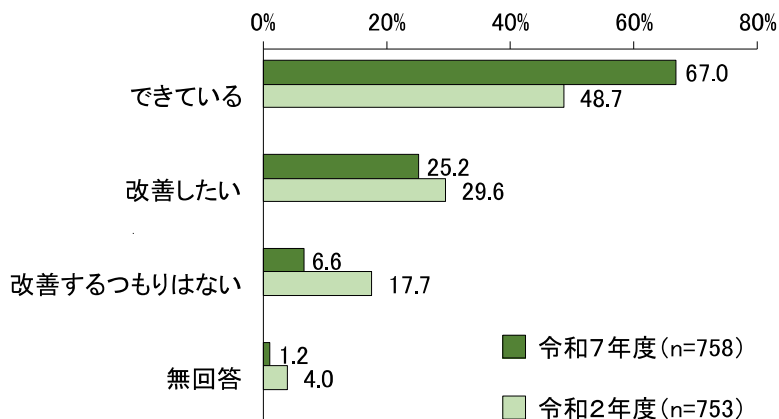
年齢別

問14 ⑭食後には、歯をみがく



経年比較

問14 ⑭食後には、歯をみがく

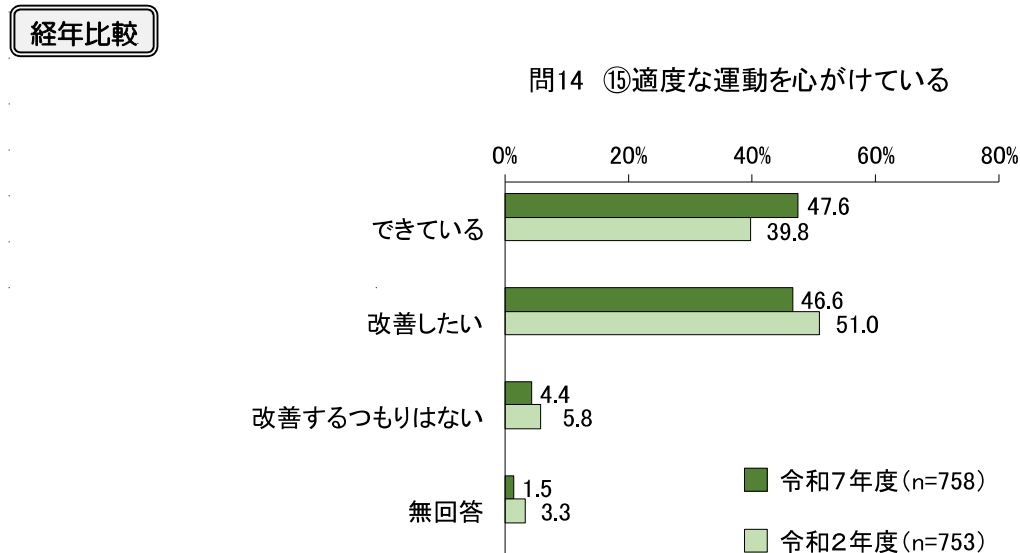
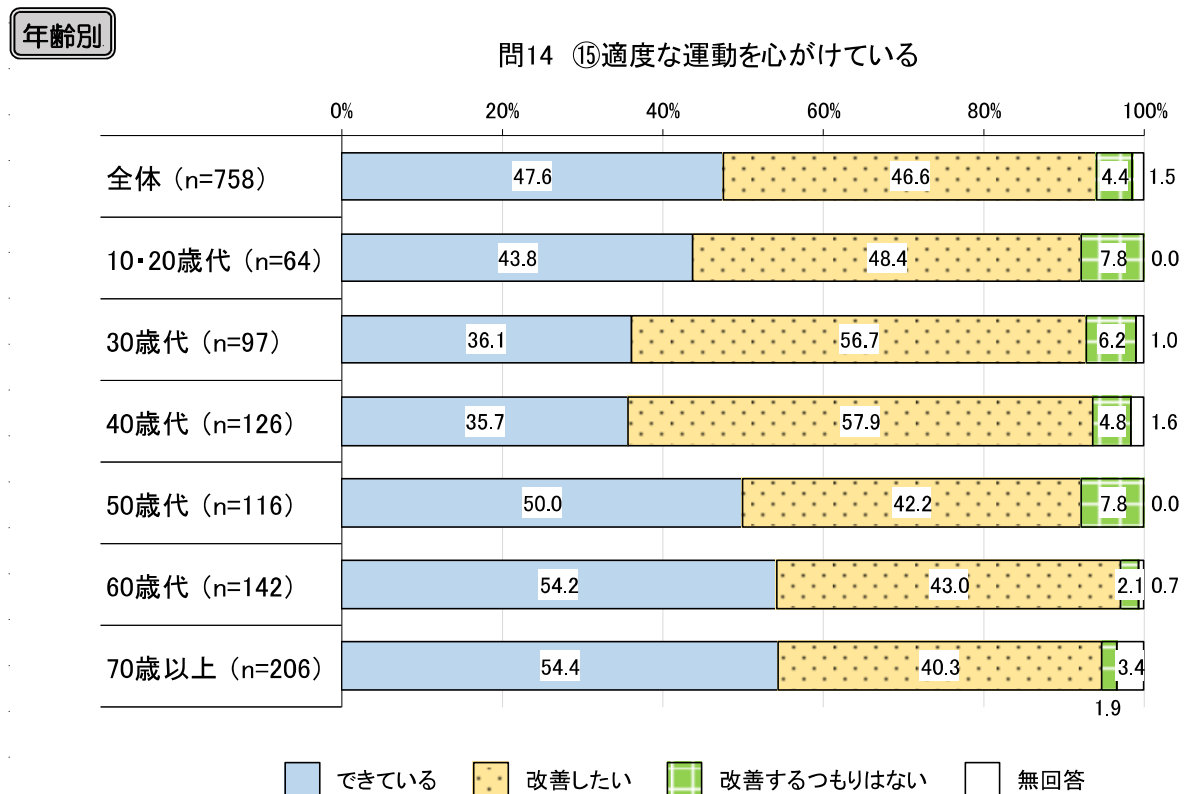


⑮適度な運動を心がけている

全体では、「できている」が 47.6%、「改善したい」が 46.6%、「改善するつもりはない」が 4.4%となっています。

年齢別にみると、50歳代、60歳代、70歳以上で「できている」がそれぞれ5割以上、「改善したい」もそれぞれ4割以上を占めています。30歳代・40歳代では「改善したい」がそれぞれ5割台半ばと、多くの年代で意欲の高いことがうかがえます。

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。

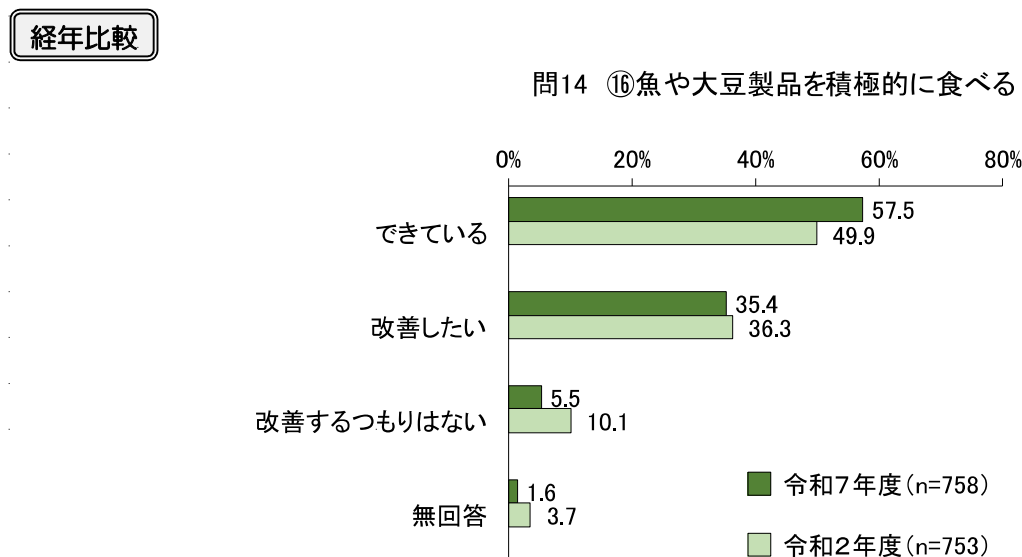
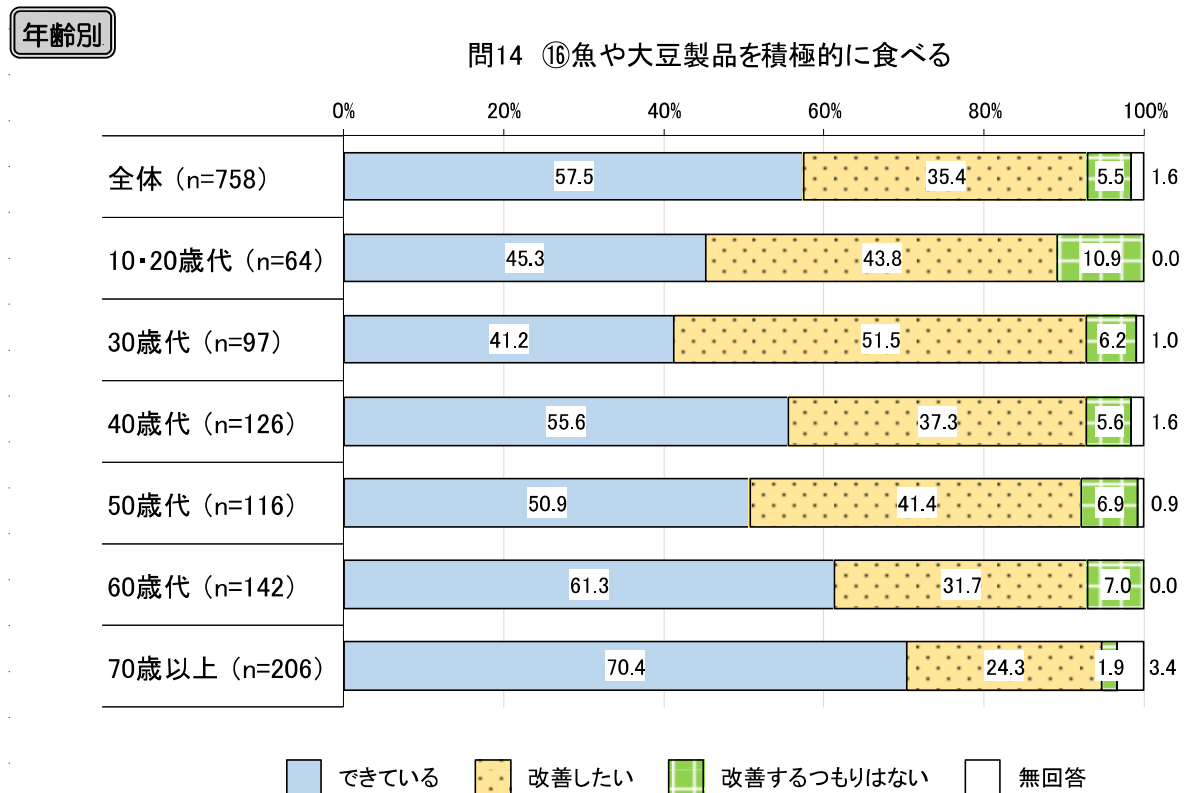


⑩魚や大豆製品を積極的に食べる

全体では、「できている」が 57.5%、「改善したい」が 35.4%、「改善するつもりはない」が 5.5%となっています。

年齢別にみると、「できている」は 70 歳以上で 7 割、60 歳代でも 6 割以上、40 歳代、50 歳代でも 5 割以上を占めています。「改善したい」は 30 歳代で 5 割を超え、10・20 歳代、50 歳代で 4 割以上となっています。

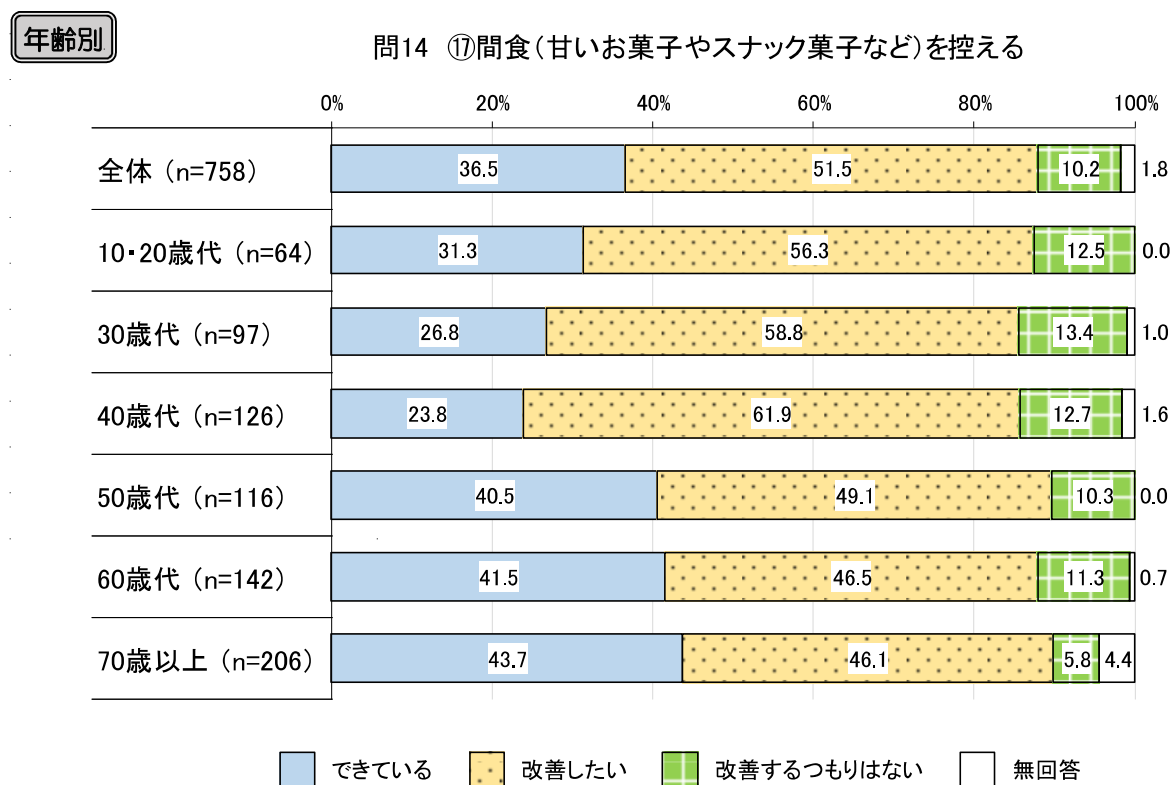
令和 2 年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。



⑰間食（甘いお菓子やスナック菓子など）を控える

全体では、「できている」が 36.5%、「改善したい」が 51.5%、「改善するつもりはない」が 10.2%となっています。

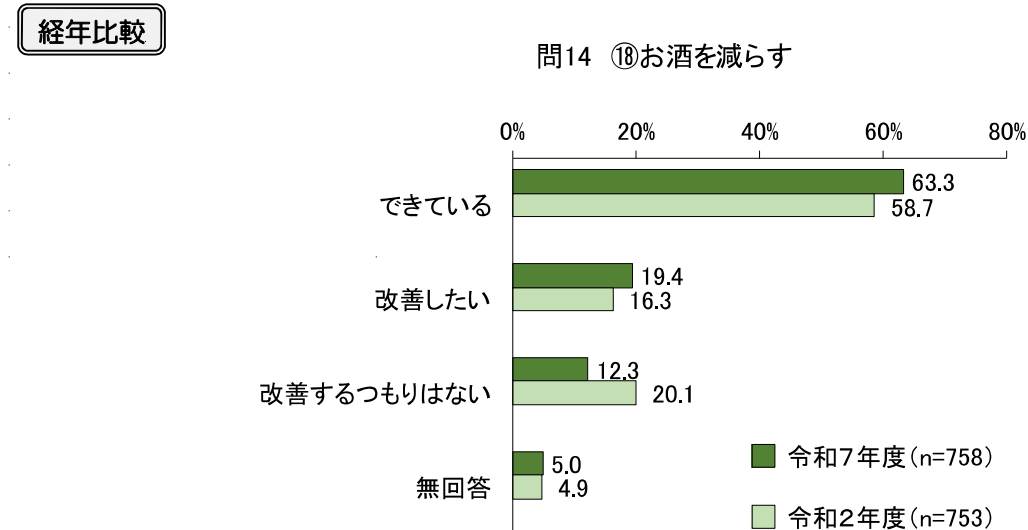
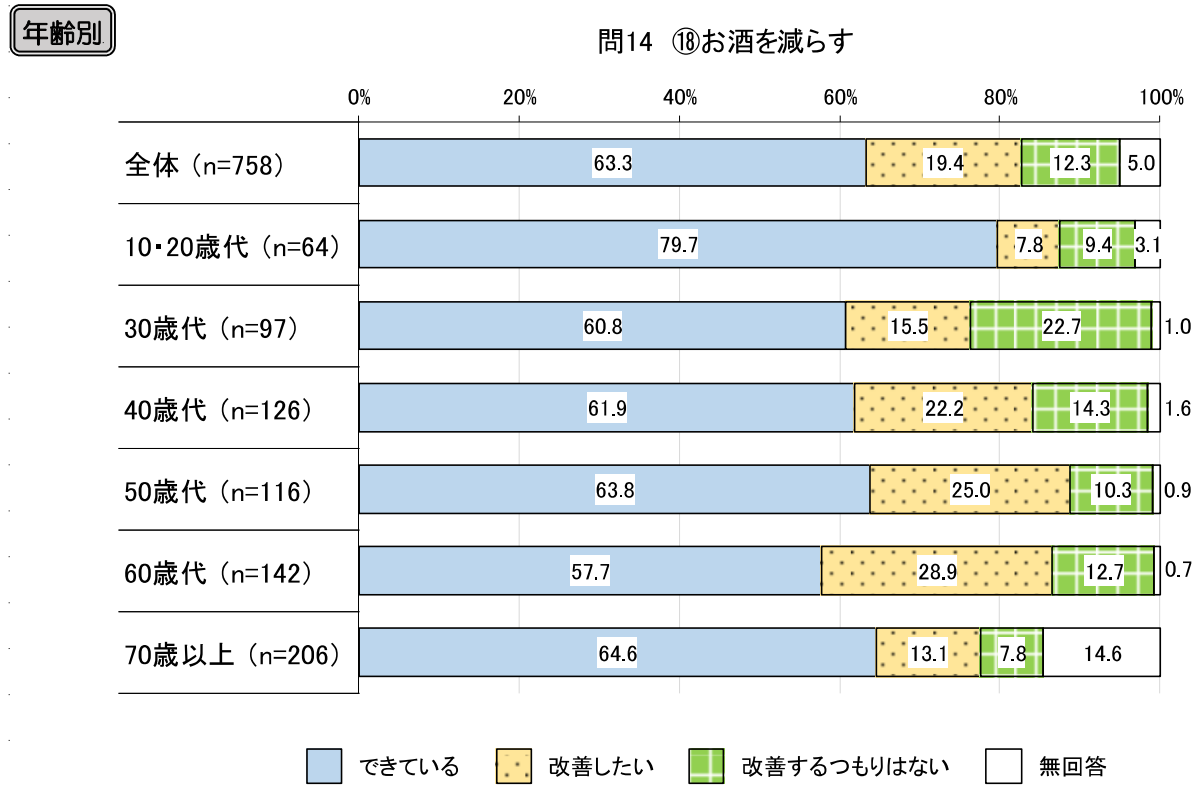
年齢別にみると、50 歳代、60 歳代、70 歳以上で「できている」が4割を超えています。一方で、10・20 歳代、30 歳代、40 歳代では「改善したい」が5割台半ば以上を占めています。



⑩お酒を減らす

全体では、「できている」が 63.3%、「改善したい」が 19.4%、「改善するつもりはない」が 12.3%となっています。

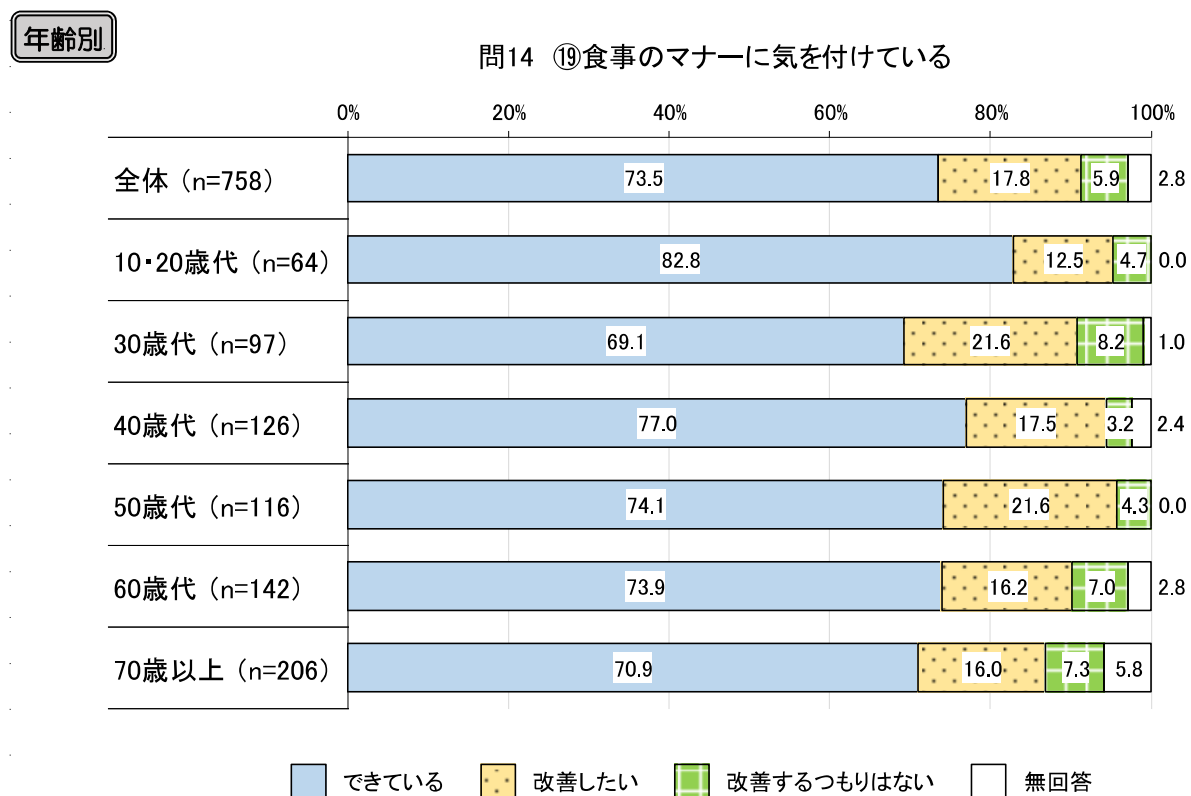
年齢別にみても、おおむね同様の傾向にありますが、10・20歳代で「できている」が約8割、30歳代で「改善するつもりはない」が2割以上と、それぞれ他の年代に比べて多くなっています。令和2年度と比較すると、「改善するつもりはない」の割合が減少しています。



⑩食事のマナーに気を付けている

全体では、「できている」が 73.5%、「改善したい」が 17.8%、「改善するつもりはない」が 5.9%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向にありますが、「できている」では 10・20 歳代が 8割を超えているほか、40 歳代から 70 歳以上までの各年代でもそれぞれ 7割以上と多くを占めています。



(4) 野菜の消費・購入について

問15 あなたは、普段の食事において1日で野菜をどれくらい食べますか。(〇は1つ)

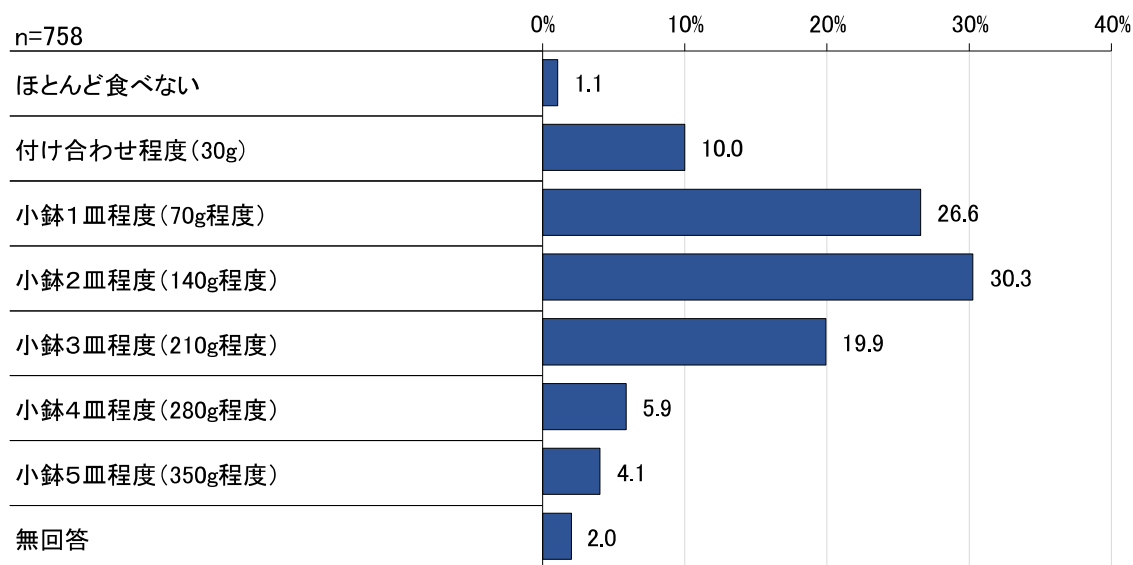
全体では、「小鉢2皿程度(140g程度)」が30.3%と最も多く、次いで「小鉢1皿程度(70g程度)」が26.6%、「小鉢3皿程度(210g程度)」が19.9%となっています。

年齢別にみると、10・20歳代では「付け合わせ程度(30g)」が他の年代に比べて多く、30歳代では「小鉢1皿程度(70g程度)」が4割近くとなっています。

令和2年度と比較すると、「付け合わせ程度(30g)」、「小鉢1皿程度(70g程度)」の割合が増加しています。

全体

問15 1日の野菜摂取量について

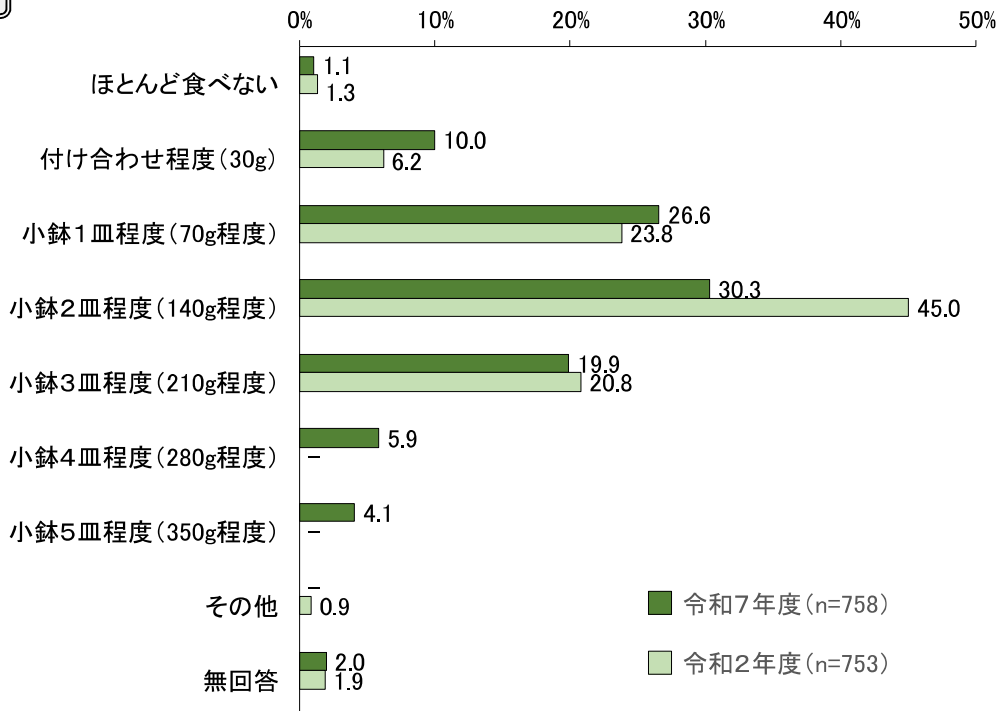


年齢別

問15 1日の野菜摂取量について

上段:度数 下段:%	全体	ほとんど食べない	付け合わせ程度(30g)	小鉢1皿程度(70g程度)	小鉢2皿程度(140g程度)	小鉢3皿程度(210g程度)	小鉢4皿程度(280g程度)	小鉢5皿程度(350g程度)	無回答
全体	758 100.0	8 1.1	76 10.0	202 26.6	230 30.3	151 19.9	45 5.9	31 4.1	15 2.0
年齢	10・20歳代	64 100.0	- -	14 21.9	21 32.8	16 25.0	7 10.9	2 3.1	2 3.1
	30歳代	97 100.0	3 3.1	12 12.4	38 39.2	26 26.8	14 14.4	3 3.1	1 1.0
	40歳代	126 100.0	1 0.8	15 11.9	41 32.5	37 29.4	17 13.5	12 9.5	3 2.4
	50歳代	116 100.0	- -	8 6.9	35 30.2	37 31.9	24 20.7	6 5.2	6 5.2
	60歳代	142 100.0	3 2.1	11 7.7	28 19.7	51 35.9	31 21.8	10 7.0	7 4.9
	70歳以上	206 100.0	1 0.5	16 7.8	38 18.4	63 30.6	56 27.2	12 5.8	12 5.8

経年比較



※令和2年度では、「小鉢4皿程度」、「小鉢5皿程度」という選択肢は設けておりませんでした。

問 16-1 あなたが小金井市内で採れた野菜を買うことはありますか。(〇は1つ)

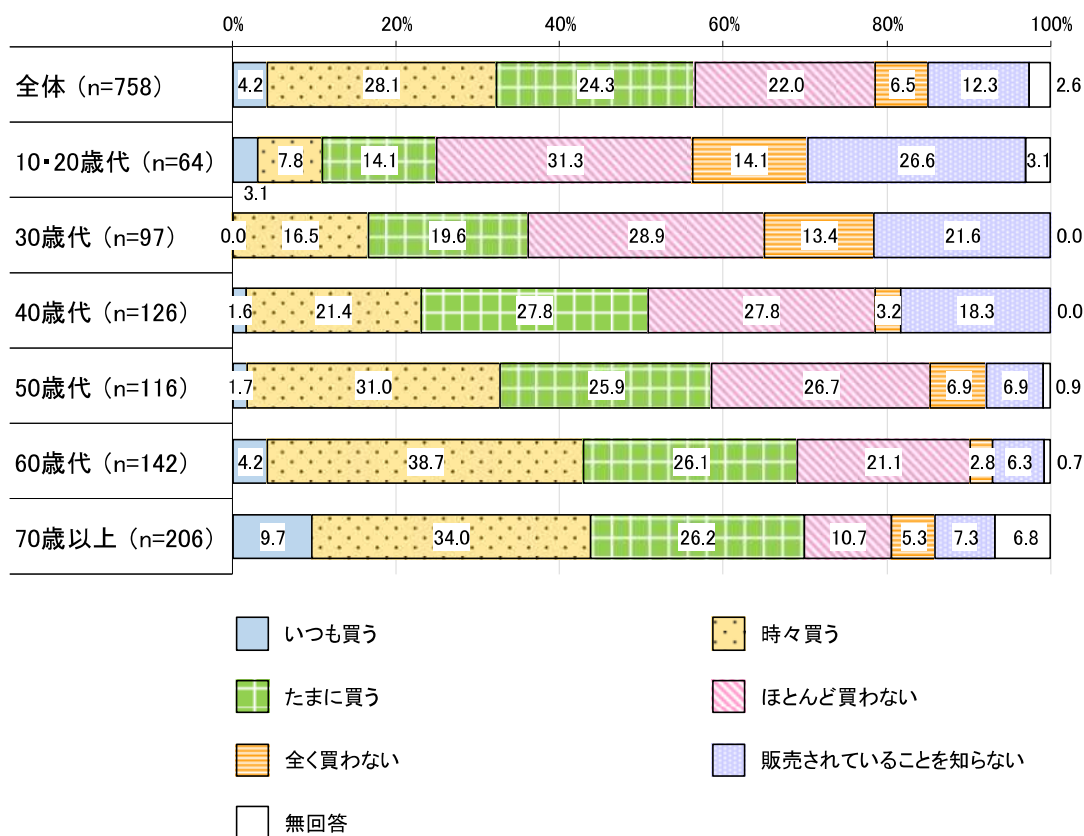
全体では、「時々買う」が28.1%と最も多く、次いで「たまに買う」が24.3%、「ほとんど買わない」が22.0%となっています。

年齢別にみると、「販売されていることを知らない」が10・20歳代で26.6%、30歳代で21.6%、40歳代でも18.3%となっています。一方で、「いつも買う」と「時々買う」を合わせた『よく買う』が60歳代で42.9%、70歳以上で43.7%と、他の年代と比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「時々買う」、「販売されていることを知らない」の割合が増加しています。

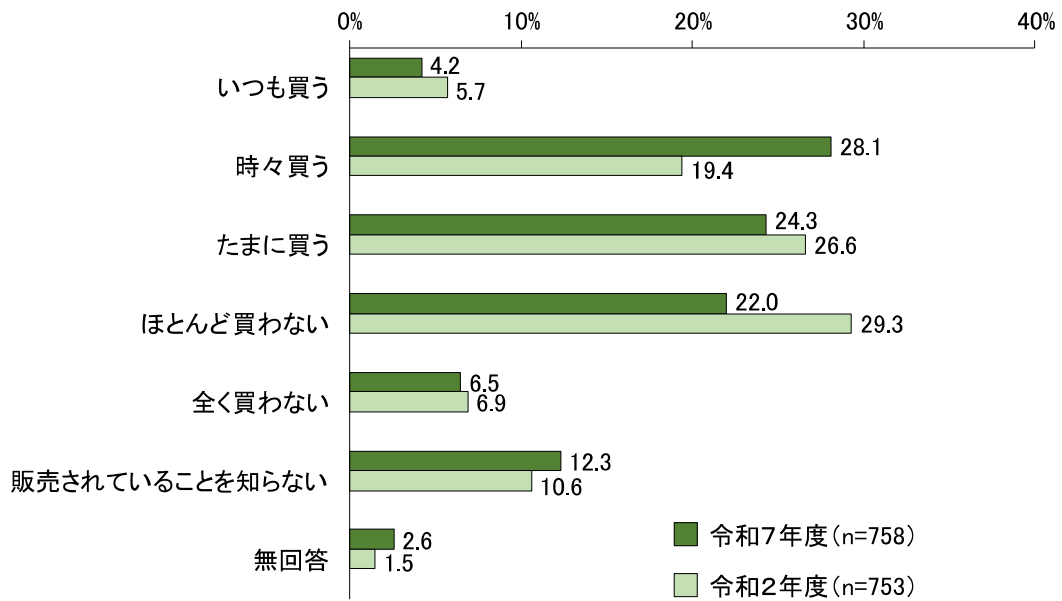
年齢別

問16-1 小金井市内で採れた野菜を買う頻度



経年比較

問16-1 小金井市内で採れた野菜を買う頻度



問16-2 あなたがふだん野菜を買う時に配慮していることはありますか。
(〇はいくつでも)

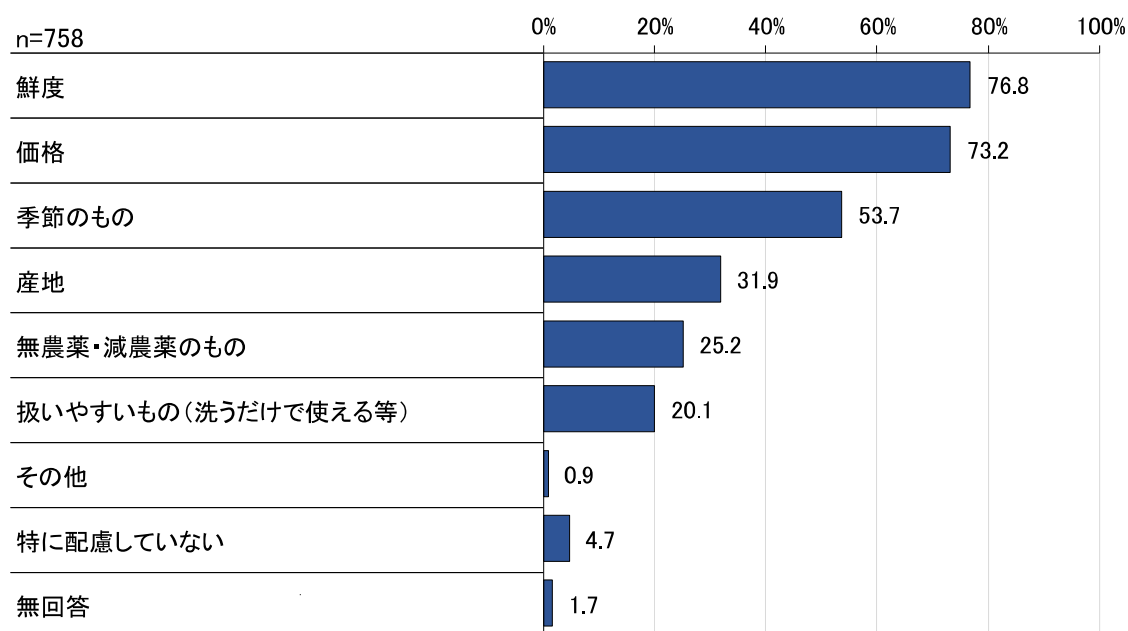
全体では、「鮮度」が76.8%と最も多く、次いで「価格」が73.2%、「季節のもの」が53.7%となっています。

年齢別にみると、どの年代も「鮮度」で5割、「価格」で6割を超えています。特に「鮮度」では、50歳代、60歳代、70歳以上でそれぞれ8割以上と、他の年代と比べて多くなっています。また、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では、「季節のもの」がそれぞれ5割を超えています。

令和2年度と比較すると、「価格」、「無農薬・減農薬のもの」、「扱いやすいもの（洗うだけで使える等）」の割合が増加しています。

全体

問16-2 ふだん野菜を買う時に配慮していること



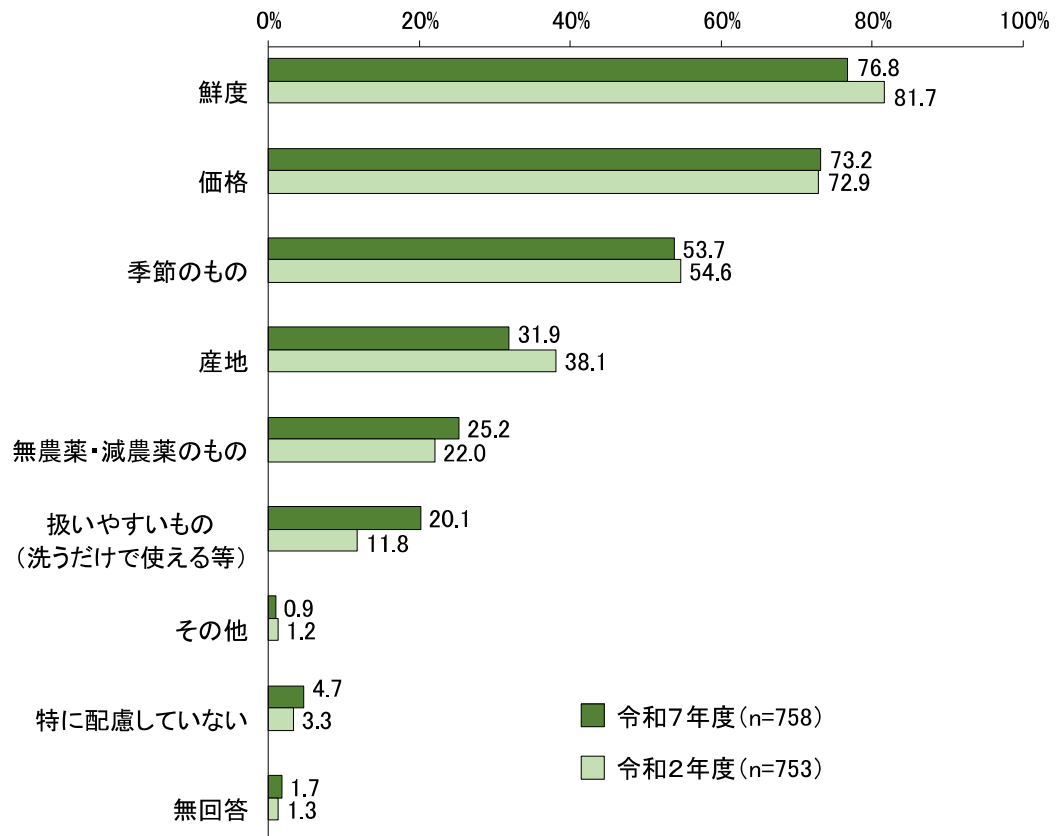
年齢別

問16-2 ふだん野菜を買う時に配慮していること

上段:度数 下段:%		全体	鮮度	価格	季節のもの	産地
全体		758 100.0	582 76.8	555 73.2	407 53.7	242 31.9
年齢	10・20歳代	64 100.0	37 57.8	49 76.6	26 40.6	16 25.0
	30歳代	97 100.0	57 58.8	78 80.4	50 51.5	26 26.8
	40歳代	126 100.0	88 69.8	97 77.0	70 55.6	42 33.3
	50歳代	116 100.0	99 85.3	88 75.9	63 54.3	42 36.2
	60歳代	142 100.0	124 87.3	107 75.4	79 55.6	52 36.6
	70歳以上	206 100.0	173 84.0	134 65.0	115 55.8	61 29.6
	上段:度数 下段:%		無農薬・減農薬のもの	(扱いやすいもの 洗うだけで使える等)	その他	特に配慮していない
全体		191 25.2	152 20.1	7 0.9	36 4.7	13 1.7
年齢	10・20歳代	12 18.8	21 32.8	1 1.6	7 10.9	2 3.1
	30歳代	11 11.3	33 34.0	2 2.1	5 5.2	0 0.0
	40歳代	27 21.4	34 27.0	0 0.0	6 4.8	0 0.0
	50歳代	26 22.4	18 15.5	1 0.9	3 2.6	0 0.0
	60歳代	43 30.3	15 10.6	1 0.7	5 3.5	1 0.7
	70歳以上	68 33.0	30 14.6	2 1.0	10 4.9	8 3.9

経年比較

問16-2 ふだん野菜を買う時に配慮していること



問 16-3 あなたは野菜を栽培したことはありますか。(〇は1つ)

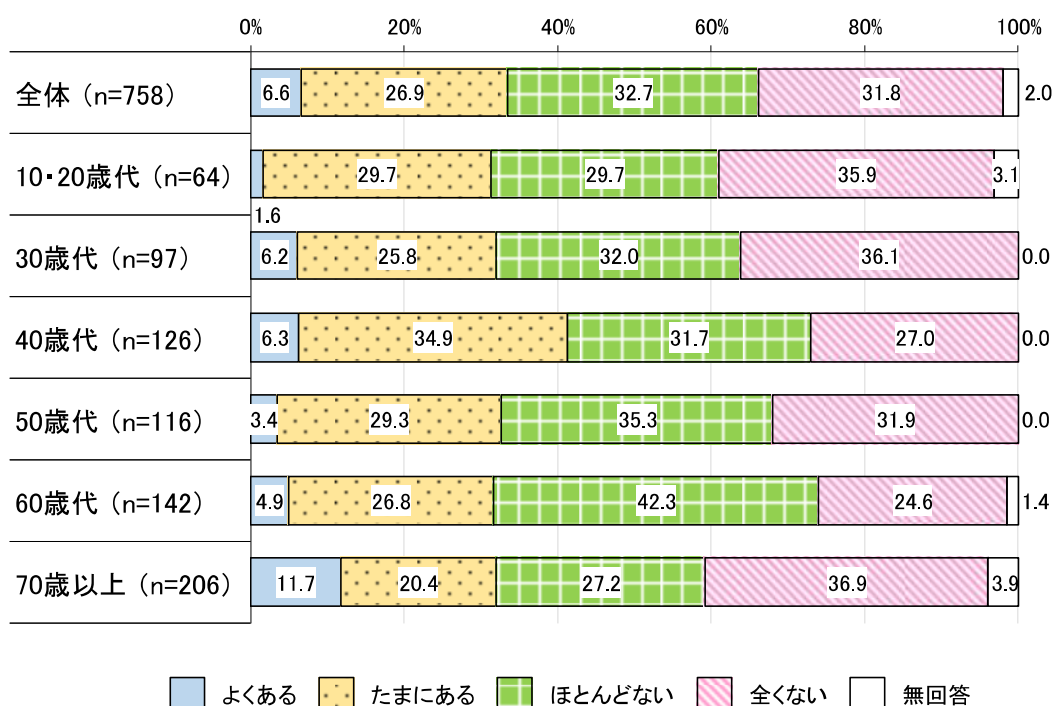
全体では、「ほとんどない」が32.7%と最も多く、次いで「全くない」が31.8%、「たまにある」が26.9%となっています。

年齢別にみると、40歳代では「よくある」と「たまにある」を合わせた『ある』が41.2%と他の年代よりも多くなっています。また、40歳代を除いたすべての年代で、「ほとんどない」と「全くない」を合わせた『ない』がそれぞれ6割以上を占めています。

令和2年度と比較すると、「たまにある」の割合が増加しています。

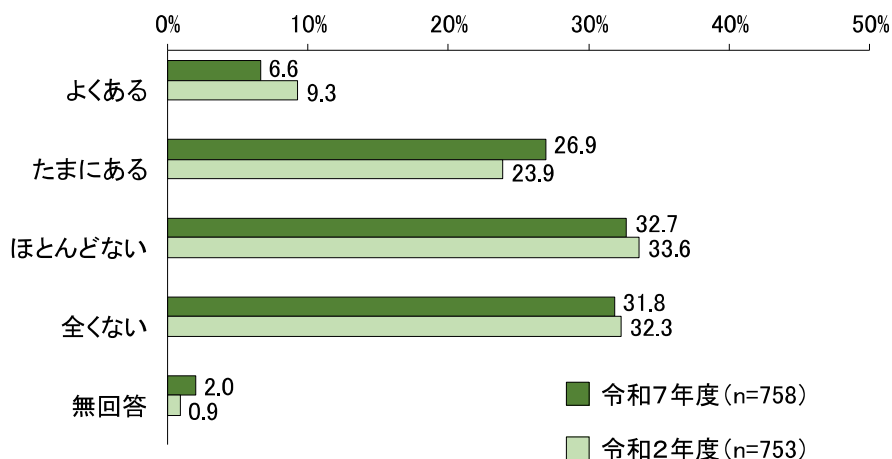
年齢別

問16-3 野菜栽培の経験頻度について



経年比較

問16-3 野菜栽培の経験頻度について



問 16-4 あなたは野菜や果物の生産地に出向いて収穫したことがありますか。
(〇は1つ)

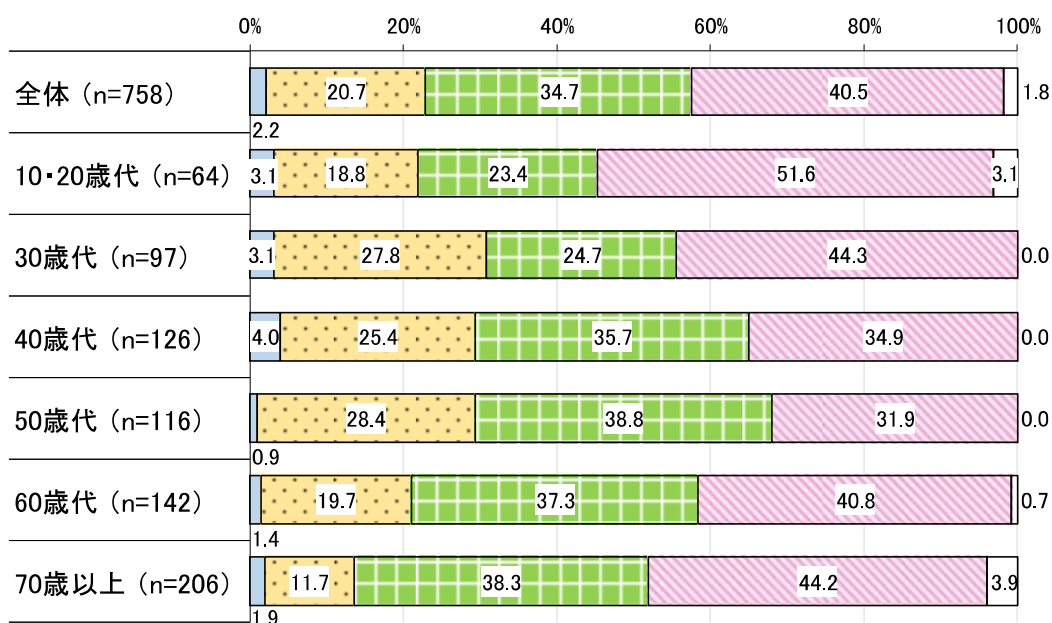
全体では、「全くない」が40.5%と最も多く、次いで「ほとんどない」34.7%、「たまにある」が20.7%となっています。

年齢別にみると、「全くない」が10・20歳代では51.6%と半数以上を占める一方、「たまにある」が30歳代、40歳代、50歳代ではそれぞれ2割台半ば以上、60歳代では約2割の回答を得ています。

令和2年度と比較すると、「たまにある」の割合が増加しています。

年齢別

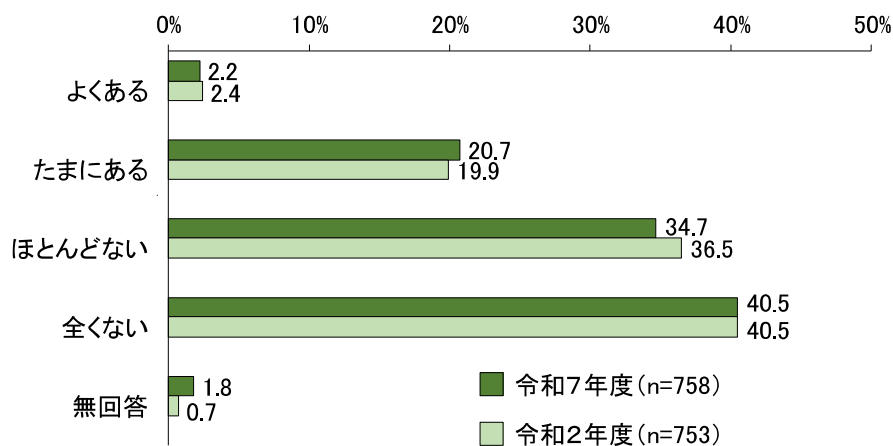
問16-4 野菜や果物の生産地に出向いて収穫したことの有無



よくある たまにある ほとんどない 全くない 無回答

経年比較

問16-4 野菜や果物の生産地に出向いて収穫したことの有無



(5) 食品に関する意識について

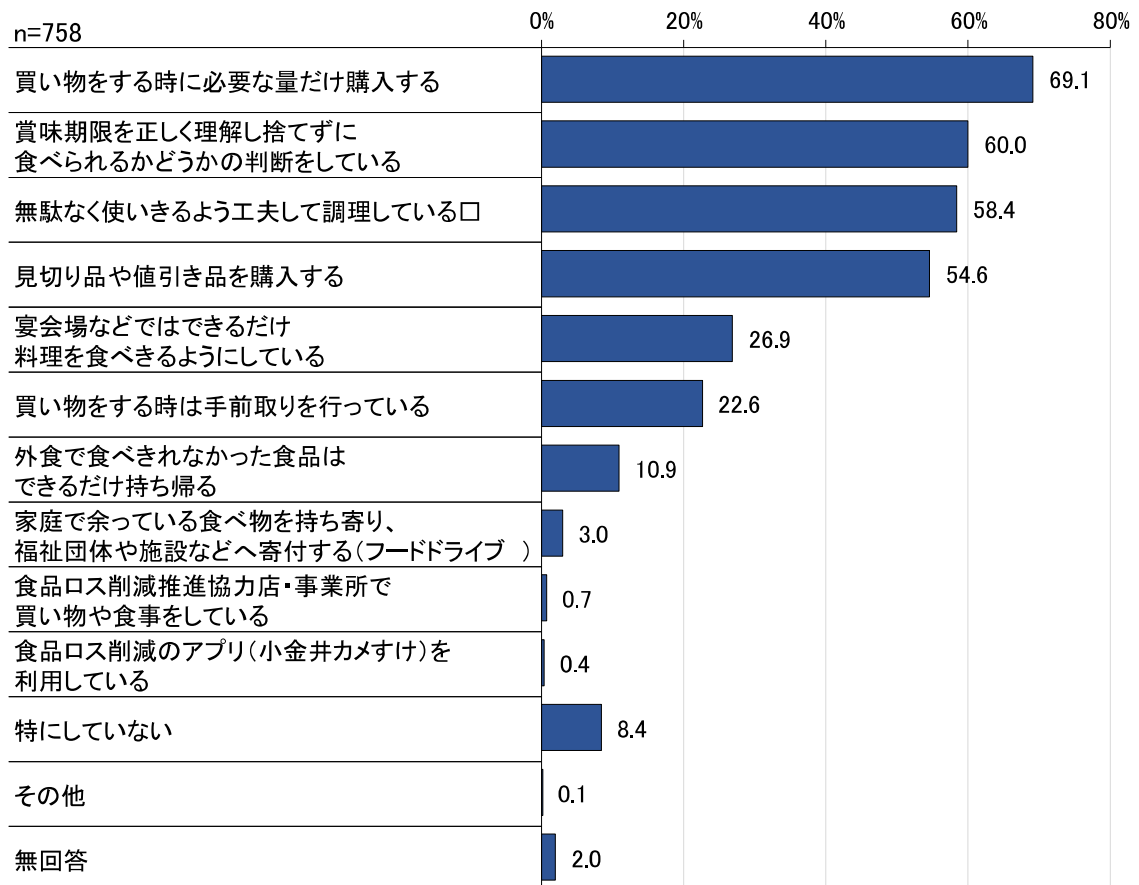
問17 あなたは、食品ロス削減につながる行動をしていますか。(〇はいくつでも)

全体では、「買い物をする時に必要な量だけ購入する」が69.1%と最も多く、次いで「賞味期限を正しく理解し捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」が60.0%、「無駄なく使いきるよう工夫して調理している」が58.4%となっています。

年齢別にみると、「見切り品や値引き品を購入する」では30歳代が69.1%と他の年代に比べて多くなっています。また、「賞味期限を正しく理解し捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」は50歳代、60歳代、70歳以上でそれぞれ6割台半ば、30歳代、40歳代でともに5割以上となっています。

全体

問17 食品ロス削減に関する取組状況



年齢別

問17 食品ロス削減に関する取組状況

上段:度数 下段:%		全体	必要な物を購入する時だけ購入する	賞味期限を正しく理解し、捨てずに食べられるかどうかの判断をしている	無駄なく使いきるよう工夫して調理している	見切り品や値引き品を購入する	宴会場などではできるだけ料理を食べるようにしている	買い物をする時は手前取りを行っている
全体		758 100.0	524 69.1	455 60.0	443 58.4	414 54.6	204 26.9	171 22.6
年齢	10・20歳代	64 100.0	43 67.2	22 34.4	24 37.5	36 56.3	22 34.4	11 17.2
	30歳代	97 100.0	63 64.9	55 56.7	48 49.5	67 69.1	34 35.1	29 29.9
	40歳代	126 100.0	89 70.6	66 52.4	65 51.6	72 57.1	35 27.8	43 34.1
	50歳代	116 100.0	80 69.0	79 68.1	75 64.7	70 60.3	39 33.6	34 29.3
	60歳代	142 100.0	101 71.1	94 66.2	97 68.3	78 54.9	33 23.2	28 19.7
	70歳以上	206 100.0	144 69.9	135 65.5	131 63.6	89 43.2	40 19.4	26 12.6
	上段:度数 下段:%		食外食は食べきれないだけ持ち帰る （フードドライブ）	家で余っている食べ物を持ち寄り、福祉団体や施設などに寄付する	食品ロス削減推進協力店・事業所で買物や食事をしている	食品ロス削減マッチングサービス（小金井カメすけ）を利用している	特にしていない	その他
全体		83 10.9	23 3.0	5 0.7	3 0.4	64 8.4	1 0.1	15 2.0
年齢	10・20歳代	8 12.5	1 1.6	1 1.6	1 1.6	7 10.9	-	2 3.1
	30歳代	13 13.4	1 1.0	-	-	3 3.1	1 1.0	-
	40歳代	13 10.3	3 2.4	1 0.8	1 0.8	10 7.9	-	-
	50歳代	14 12.1	2 1.7	1 0.9	1 0.9	3 2.6	-	-
	60歳代	14 9.9	9 6.3	1 0.7	1 0.7	8 5.6	-	1 0.7
	70歳以上	21 10.2	7 3.4	1 0.5	1 0.5	32 15.5	-	10 4.9

問 18 あなたは、過去1年の間に、フードドライブ（※）等による食品の無料配布を受け取ったことがありますか。（〇は1つ）

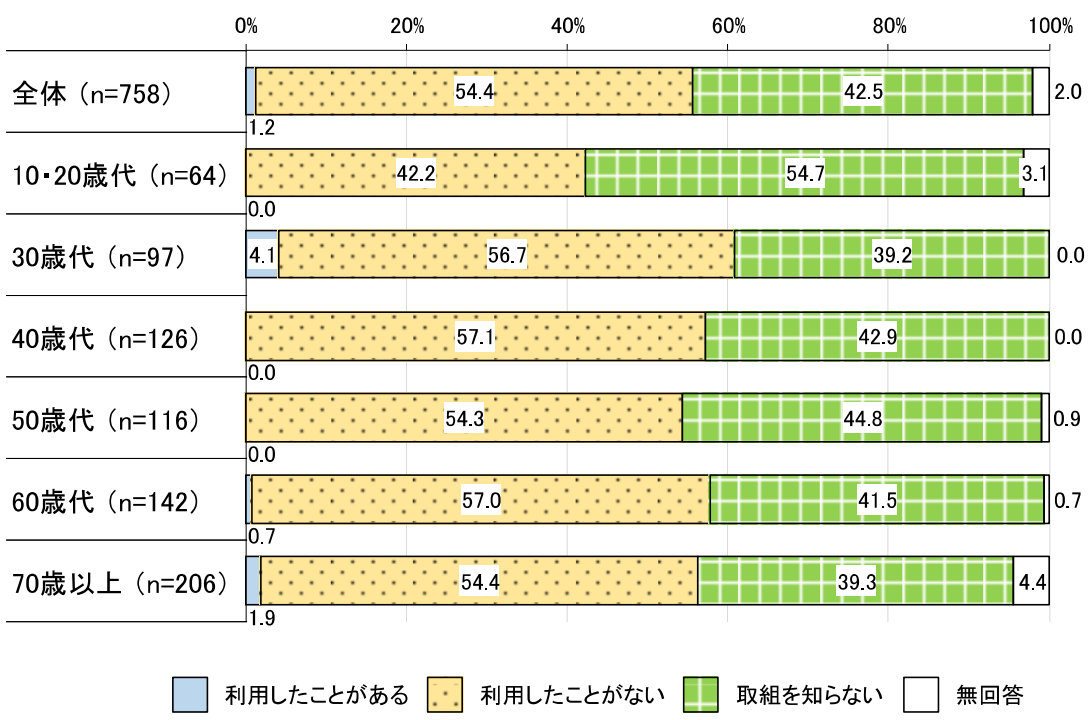
※「フードドライブ」とは、ご家庭で余っている食品を回収し、市内外の食に困っている方及び援助団体などにお届けする取組をいいます。

全体では、「利用したことがない」が54.4%と最も多く、次いで「取組を知らない」が42.5%、「利用したことがある」が1.2%となっています。

年齢別にみても、おおむね同様の傾向がみられますが、10・20歳代では「取組を知らない」が54.7%、30歳代では「利用したことがある」が4.1%と、それぞれ他の年代に比べて多い割合となっています。

年齢別

問18 フードドライブ等による食料配布を受け取った経験について



(6) 家族との食事について

問 19 あなたは、どのくらい家族と一緒に食事をしていますか。

(①~②それぞれに○は1つ)

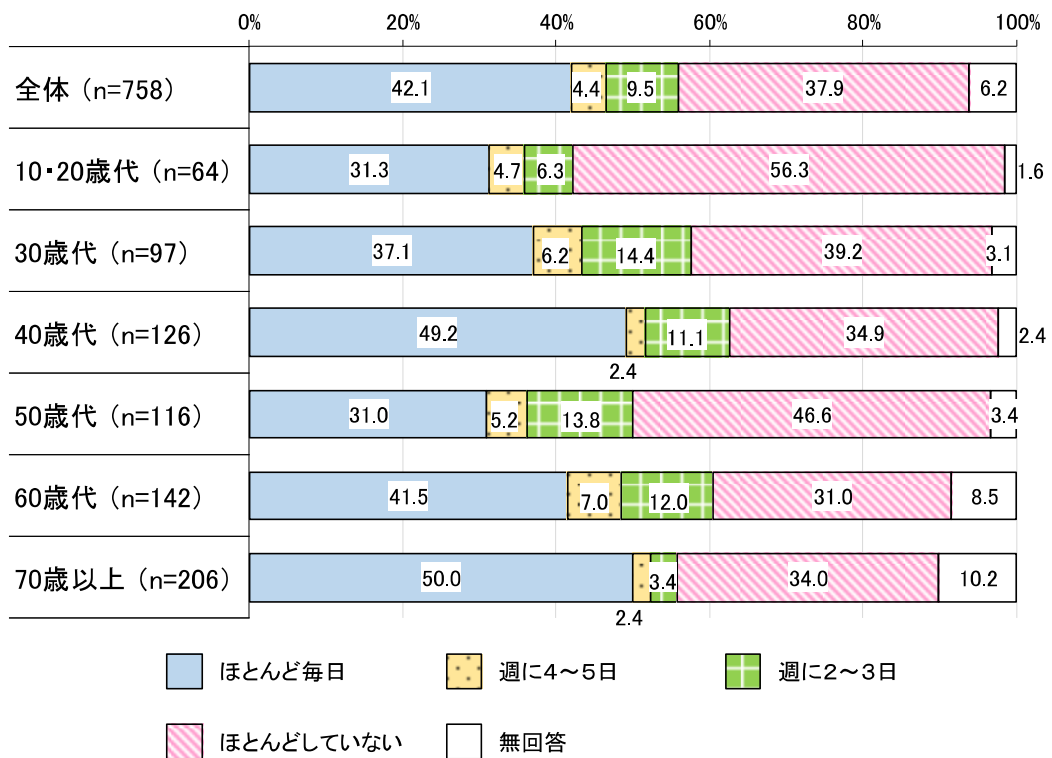
①朝食

全体では、「ほとんど毎日」が42.1%で最も多く、次いで「ほとんどしていない」が37.9%、「週に2~3日」が9.5%となっています。

年齢別にみると、「ほとんど毎日」では70歳以上が50.0%、「ほとんどしていない」では10・20歳代が56.3%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

年齢別

問19 ①ふだん、朝食を家族と食べているか



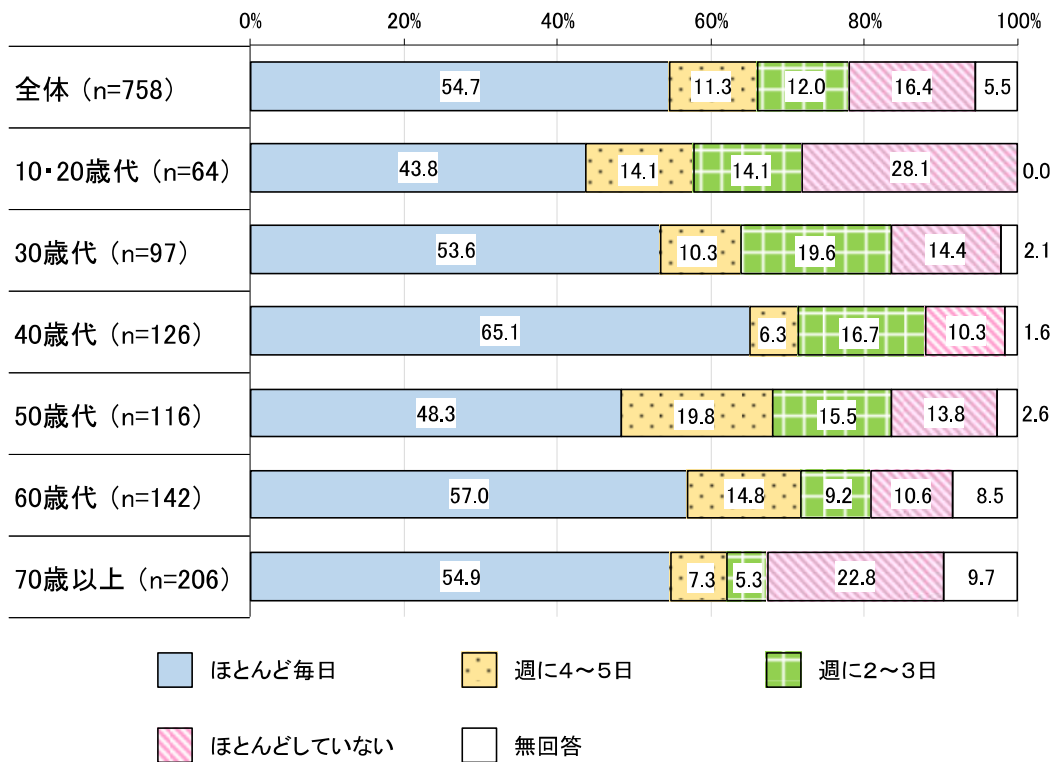
②夕食

全体では、「ほとんど毎日」が54.7%で最も多く、次いで「ほとんどしていない」が16.4%、「週に2～3日」が12.0%となっています。

年齢別にみると、「ほとんど毎日」では40歳代が65.1%、「ほとんどしていない」では10・20歳代が28.1%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

年齢別

問19 ②ふだん、夕食を家族と食べているか



(7) 外食について

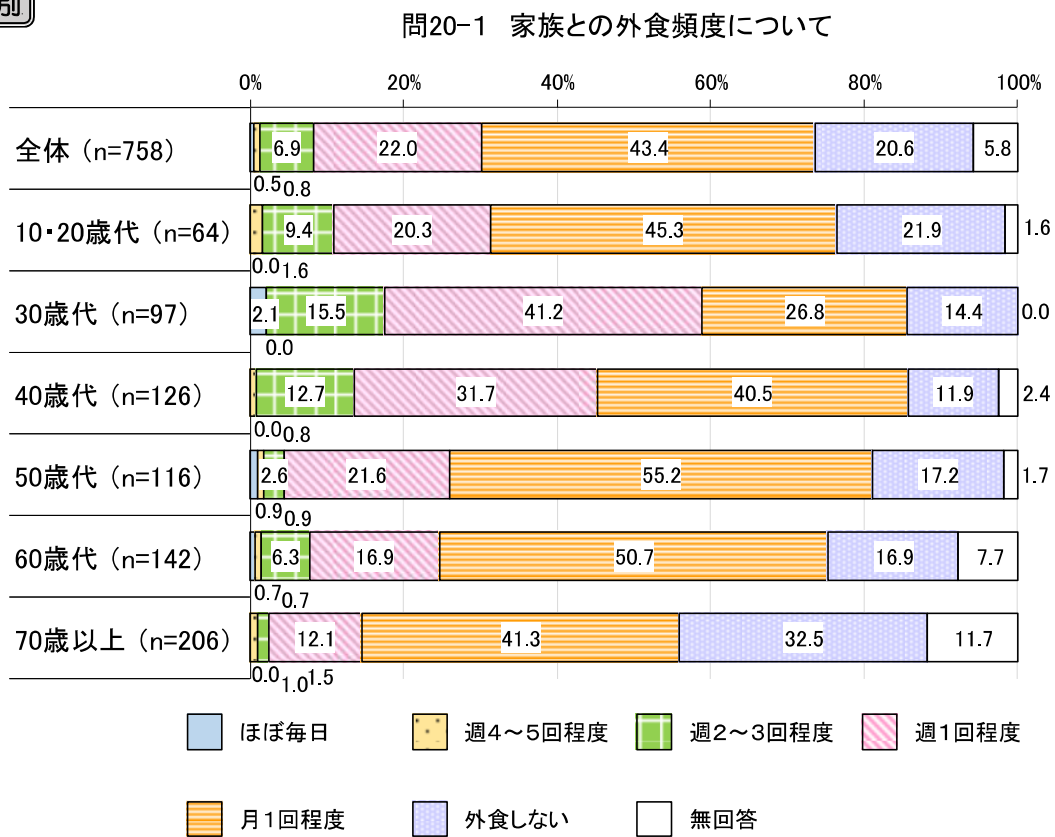
問 20-1 あなたは、家族で外食することがありますか。(〇は1つ)

全体では、「月1回程度」が43.4%と最も多く、次いで「週1回程度」が22.0%、「外食しない」が20.6%となっています。

年齢別にみると、70歳以上では「外食しない」が32.5%、50歳代では「月1回程度」が55.2%、30歳代では「週1回程度」が41.2%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

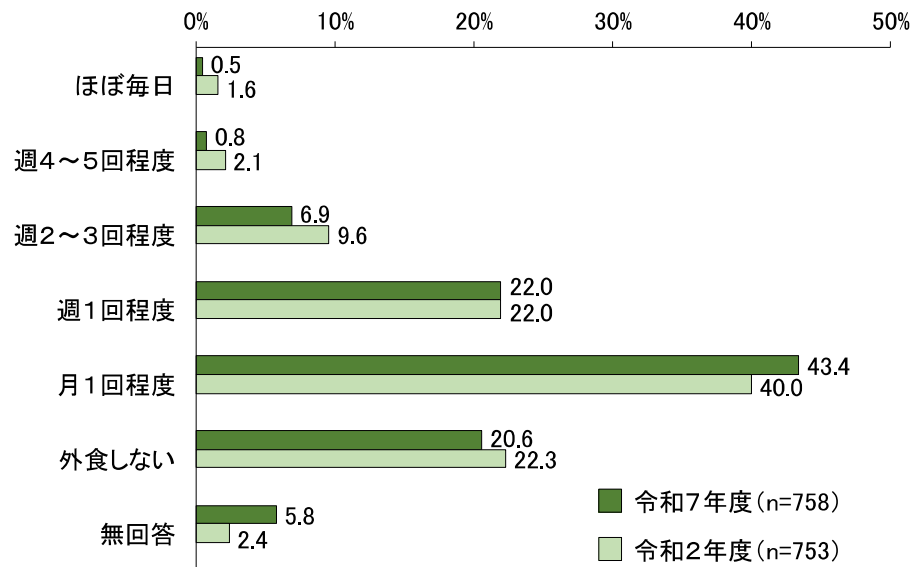
令和2年度と比較すると、「月1回程度」の割合が増加しています。

年齢別



経年比較

問20-1 家族との外食頻度について



問 20-2 (問 20-1 で「1」～「5」と答えた方に伺います)

あなたが外食をする時、何に重点をおいて選んでいますか。(〇は3つまで)

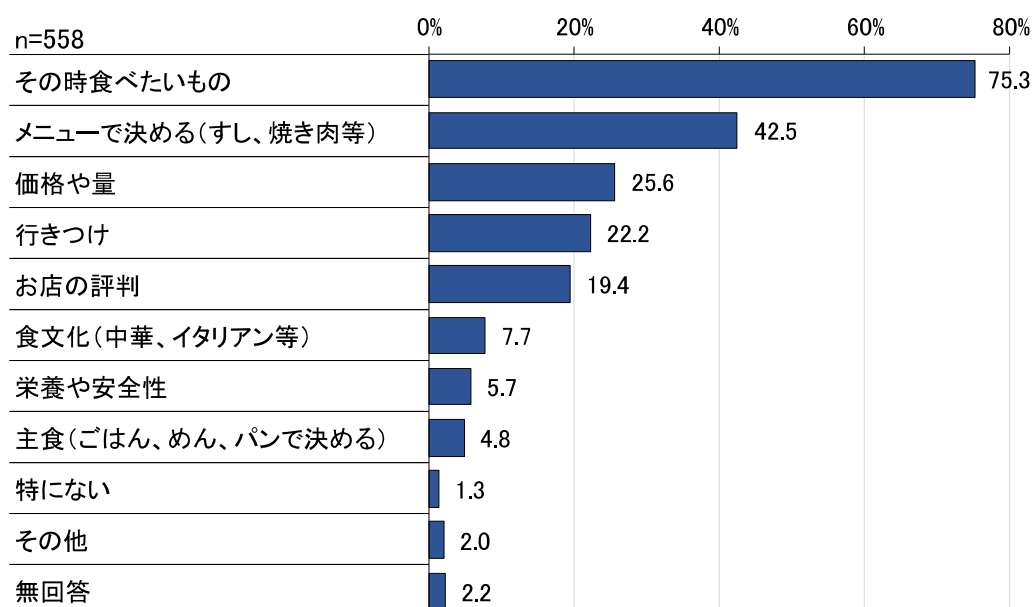
全体では、「その時食べたいもの」が 75.3%と最も多く、次いで「メニューで決める(すし、焼き肉等)」が 42.5%、「価格や量」が 25.6%となっています。

年齢別にみると、10・20 歳代、30 歳代、60 歳代では「その時食べたいもの」が8割を超え、40 歳代では7割台半ば、50 歳代、70 歳以上でも6割以上となっています。また、60 歳代では「メニューで決める(すし、焼き肉等)」が 46.7%、70 歳以上では「行きつけ」が 32.2%で、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「メニューで決める(すし、焼き肉等)」、「価格や量」、「行きつけ」、「お店の評判」、「主食(ごはん、めん、パンで決める)」の割合が増加しています。

全体

問20-2 外食時に重点をおくこと



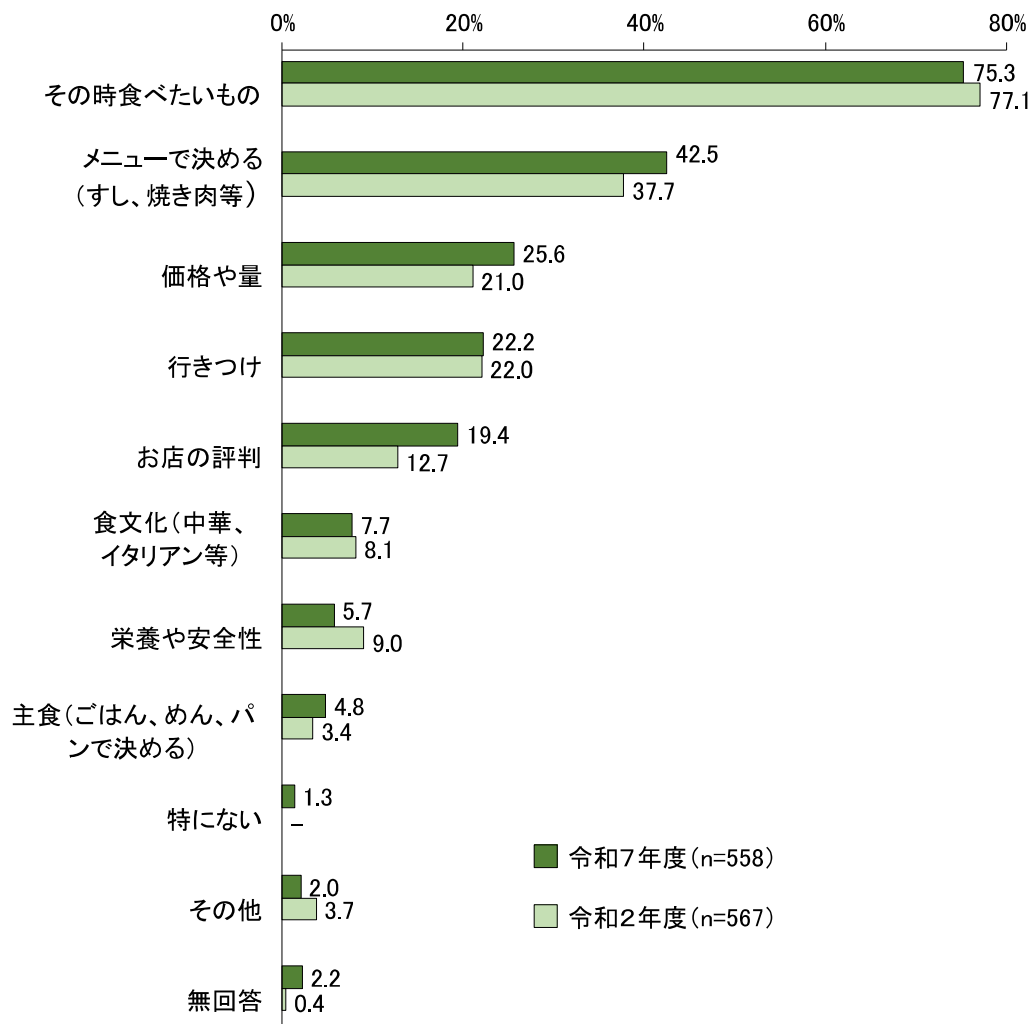
年齢別

問20-2 外食時に重点をおくこと

上段:度数 下段:%		全体	その時 食べた いもの	メ ニ ュ ー で 決 め る (す し 、 焼 き 肉 等)	価 格 や 量	行 き つ け	お 店 の 評 判
全体		558 100.0	420 75.3	237 42.5	143 25.6	124 22.2	108 19.4
年 齢	10・20歳代	49 100.0	41 83.7	20 40.8	15 30.6	7 14.3	10 20.4
	30歳代	83 100.0	70 84.3	32 38.6	28 33.7	6 7.2	13 15.7
	40歳代	108 100.0	85 78.7	44 40.7	36 33.3	22 20.4	18 16.7
	50歳代	94 100.0	65 69.1	43 45.7	22 23.4	20 21.3	19 20.2
	60歳代	107 100.0	86 80.4	50 46.7	26 24.3	32 29.9	28 26.2
	70歳以上	115 100.0	72 62.6	47 40.9	16 13.9	37 32.2	20 17.4
	上段:度数 下段:%		(食 文 化 、 イ タ リ ア ン 等)	栄 養 や 安 全 性	パ ン 食 (ご は ん 、 め ん 、)	特 に な い	そ の 他
全体		43 7.7	32 5.7	27 4.8	7 1.3	11 2.0	12 2.2
年 齢	10・20歳代	1 2.0	1 2.0	4 8.2	-	-	-
	30歳代	4 4.8	1 1.2	4 4.8	1 1.2	7 8.4	1 1.2
	40歳代	3 2.8	9 8.3	5 4.6	-	4 3.7	-
	50歳代	8 8.5	4 4.3	2 2.1	-	-	2 2.1
	60歳代	12 11.2	3 2.8	4 3.7	1 0.9	-	1 0.9
	70歳以上	14 12.2	14 12.2	8 7.0	5 4.3	-	7 6.1

経年比較

問20-2 外食時に重点をおくこと



(8) 家族以外との共食とこども食堂の利用状況について

問 21 あなたは、家族以外の誰か（友人や職場の同僚等）と一緒に食事をする機会について、どのように思っていますか。
 また、家族以外の人と一緒に食事する頻度についてもお答えください。
 (①～②それぞれに○は1つ)

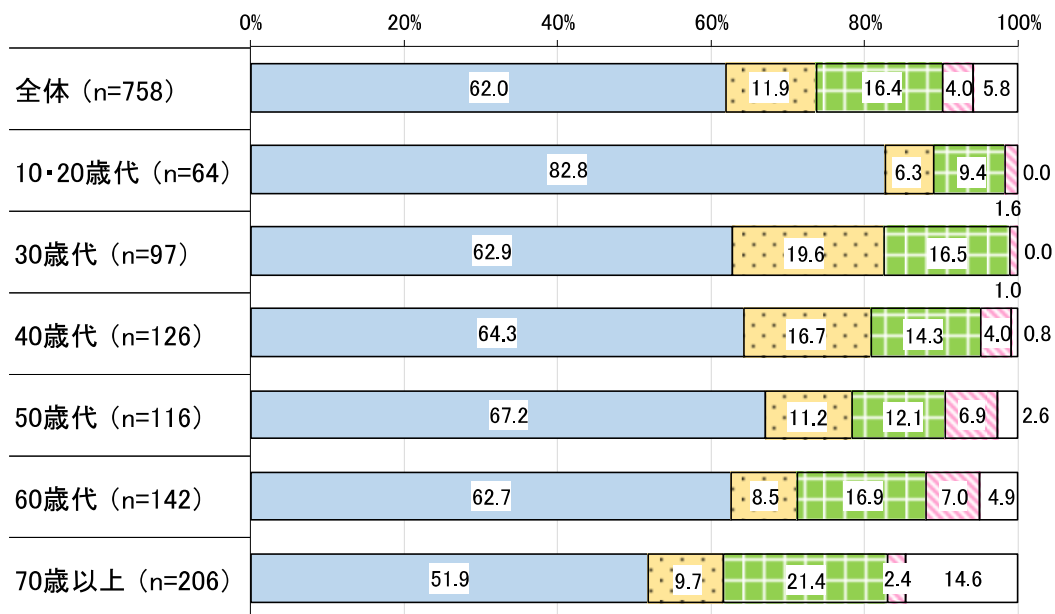
①参加意向

全体では、「一緒に食事をしたいと思っていて、参加もしている」が62.0%と最も多く、次いで「一緒に食事をする機会は必要ない」が16.4%、「一緒に食事したいと思っていないが、参加していない」が11.9%となっています。

年齢別にみると、10・20歳代では「一緒に食事したいと思っていて、参加もしている」が82.8%、70歳以上では「一緒に食事をする機会は必要ない」が21.4%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

年齢別

問21 ①家族以外との食事に対する参加意向



- 一緒に食事したいと思っていて、参加もしている
- 一緒に食事したいと思っていないが、参加していない
- 一緒に食事をする機会は必要ない
- その他
- 無回答

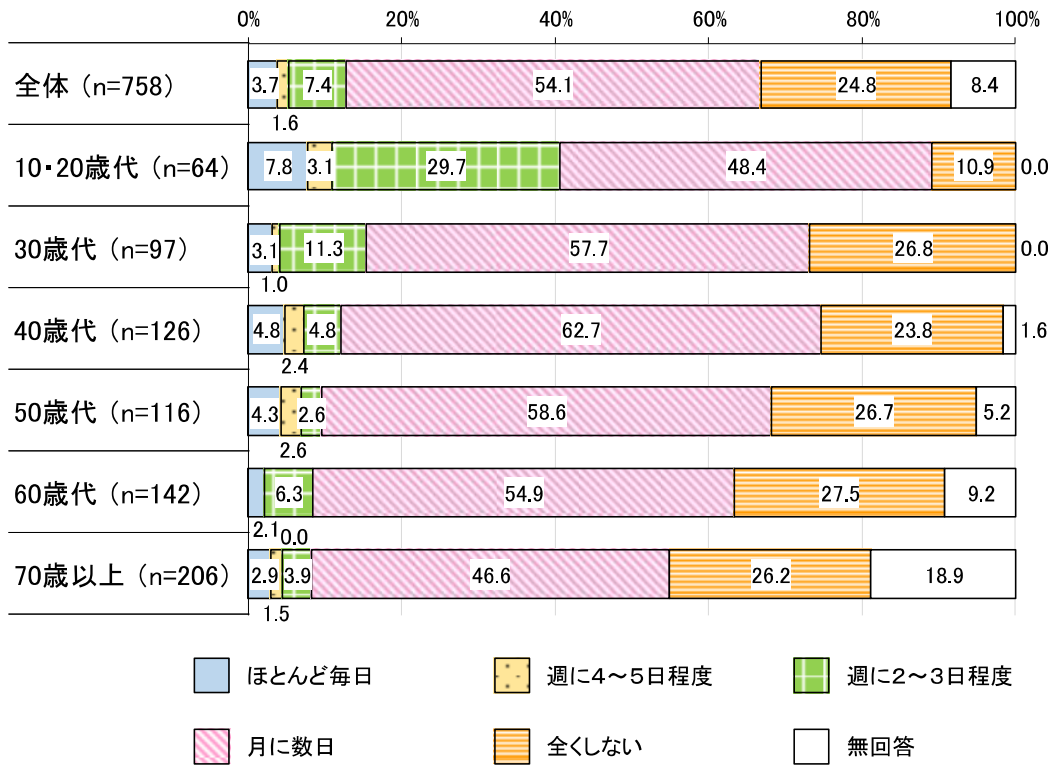
②食事頻度

全体では、「月に数日」が54.1%と最も多く、次いで「全くしない」が24.8%、「週に2～3日程度」が7.4%となっています。

年齢別にみると、どの年齢層でも「月に数日」の割合が最も多くなっています。10・20歳代では「週に2～3日程度」が29.7%と他の年代と比べて多い割合となっています。また、30歳代以上の年代で「全くしない」が2割を超えています。

年齢別

問21 ②家族以外との食事頻度



問 22 あなたの世帯では、過去 1 年の間に、子ども食堂（※）を利用したことがありますか。（〇は 1 つ）

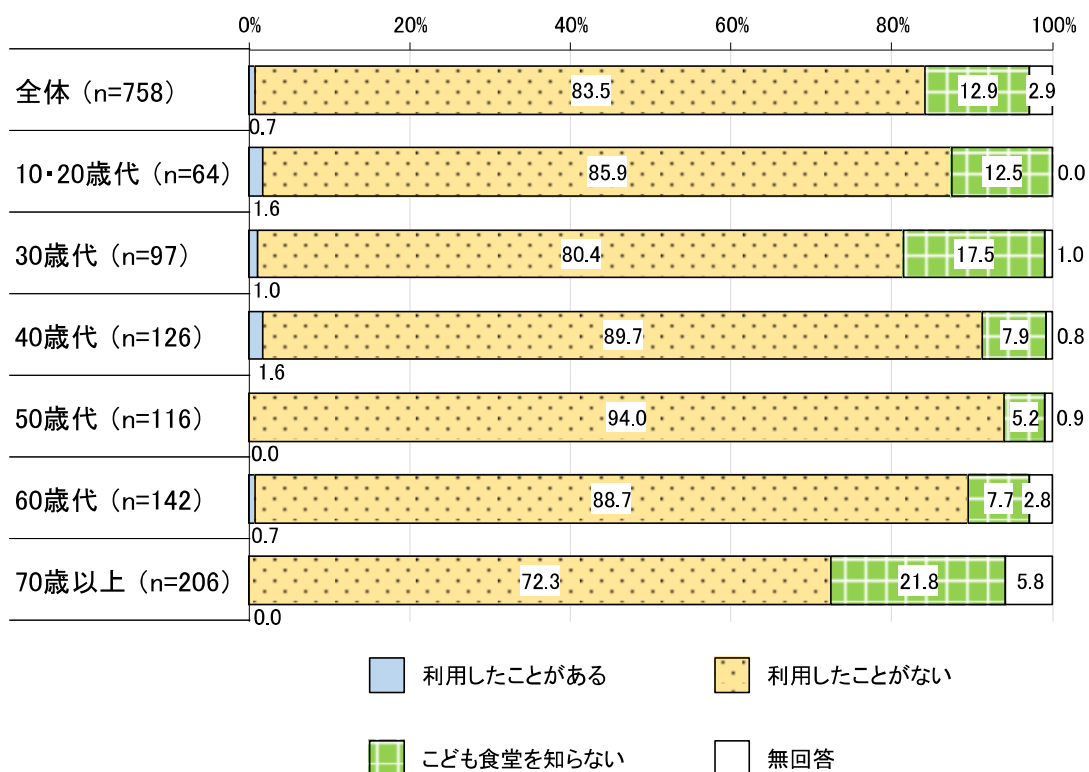
※「子ども食堂」とは、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する場をいいます。

全体では、「利用したことがない」が 83.5%と最も多く、次いで「子ども食堂を知らない」が 12.9%、「利用したことがある」が 0.7%となっています。

年齢別にみても、ほぼ同様の傾向がみられますが、70 歳以上で「子ども食堂を知らない」が 21.8%と、他の年代と比べて多い割合となっています。

年齢別

問22 子ども食堂の利用について



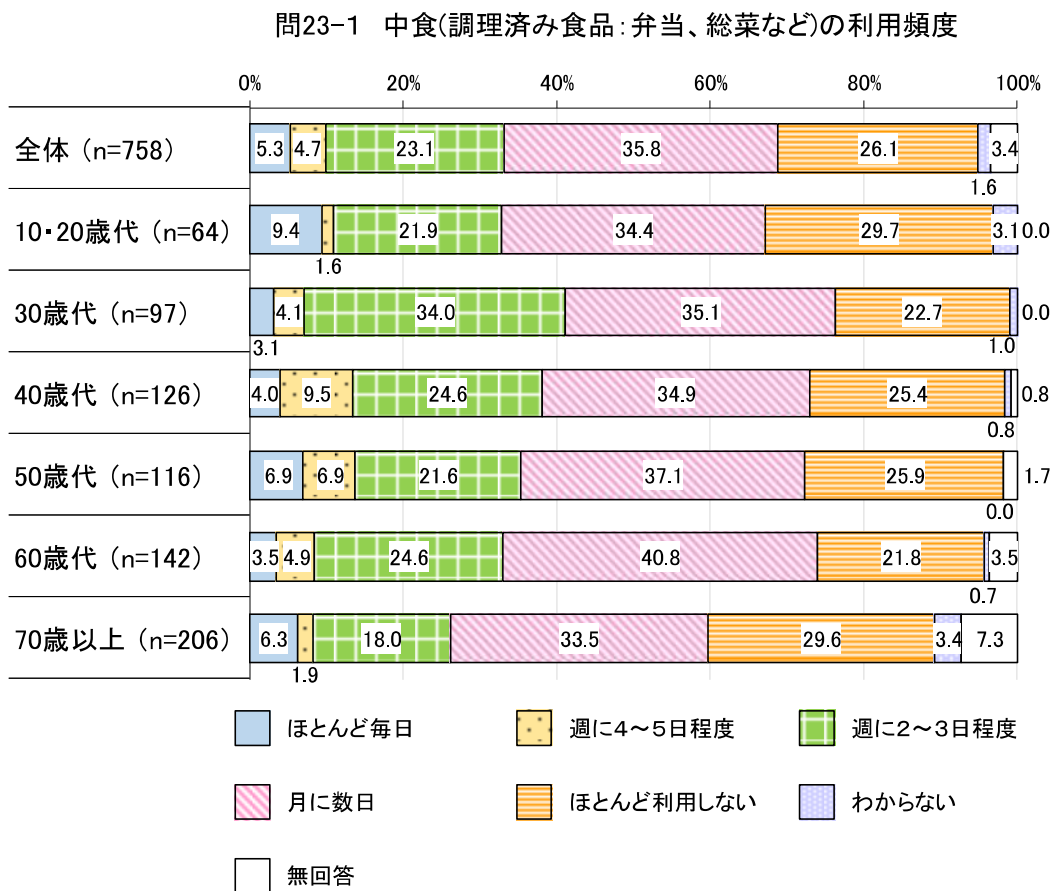
(9) 中食や間食、非常食について

問 23-1 あなたは、夕食に中食（調理済み食品：弁当、総菜など）をどのくらいの頻度で利用しますか。（〇は1つ）

全体では、「月に数日」が35.8%と最も多く、次いで「ほとんど利用しない」が26.1%、「週に2～3日程度」が23.1%となっています。

年齢別にみても、ほぼ同様の傾向がみられますが、「月に数日」では60歳代が40.8%、「週に2～3日程度」では30歳代が34.0%、「ほとんど利用しない」では10・20歳代で29.7%、70歳以上で29.6%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

年齢別



問 23-2 (問 23-1で「1」～「4」と答えた方に伺います)
 中食(調理済み食品:弁当、総菜など)を利用する理由を教えてください。
 (〇はいくつでも)

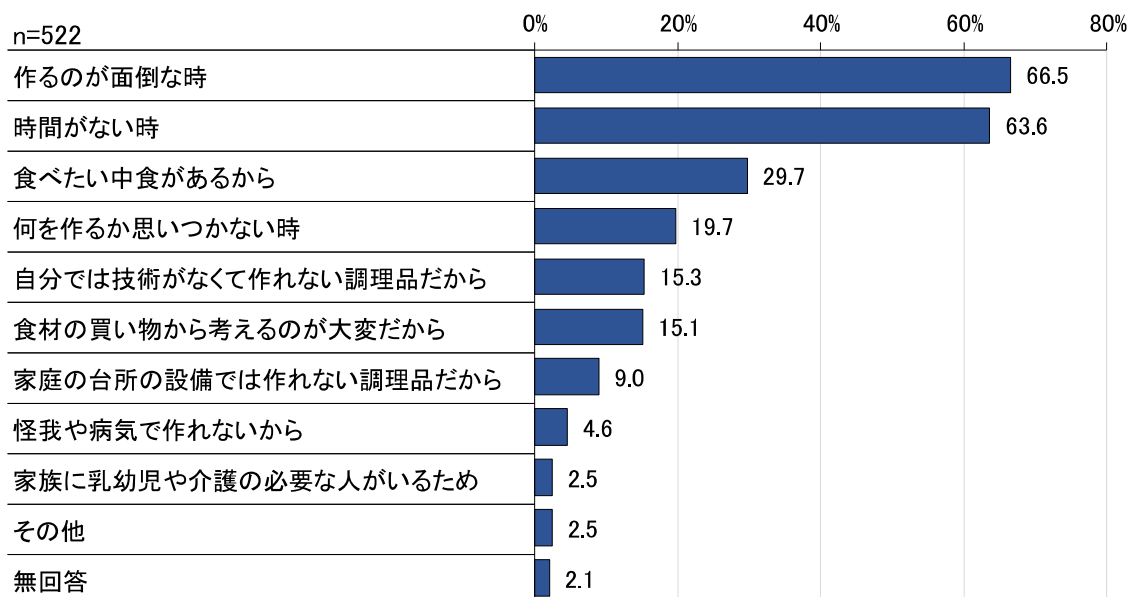
全体では、「作るのが面倒な時」が66.5%と最も多く、次いで「時間がない時」が63.6%、「食べたい中食があるから」が29.7%となっています。

年齢別にみると、「作るのが面倒な時」では30歳代が83.8%、「時間がない時」では40歳代が82.6%、「食べたい中食があるから」では60歳代が39.0%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「食べたい中食があるから」の割合が減少しています。

全体

問23-2 中食を利用する理由



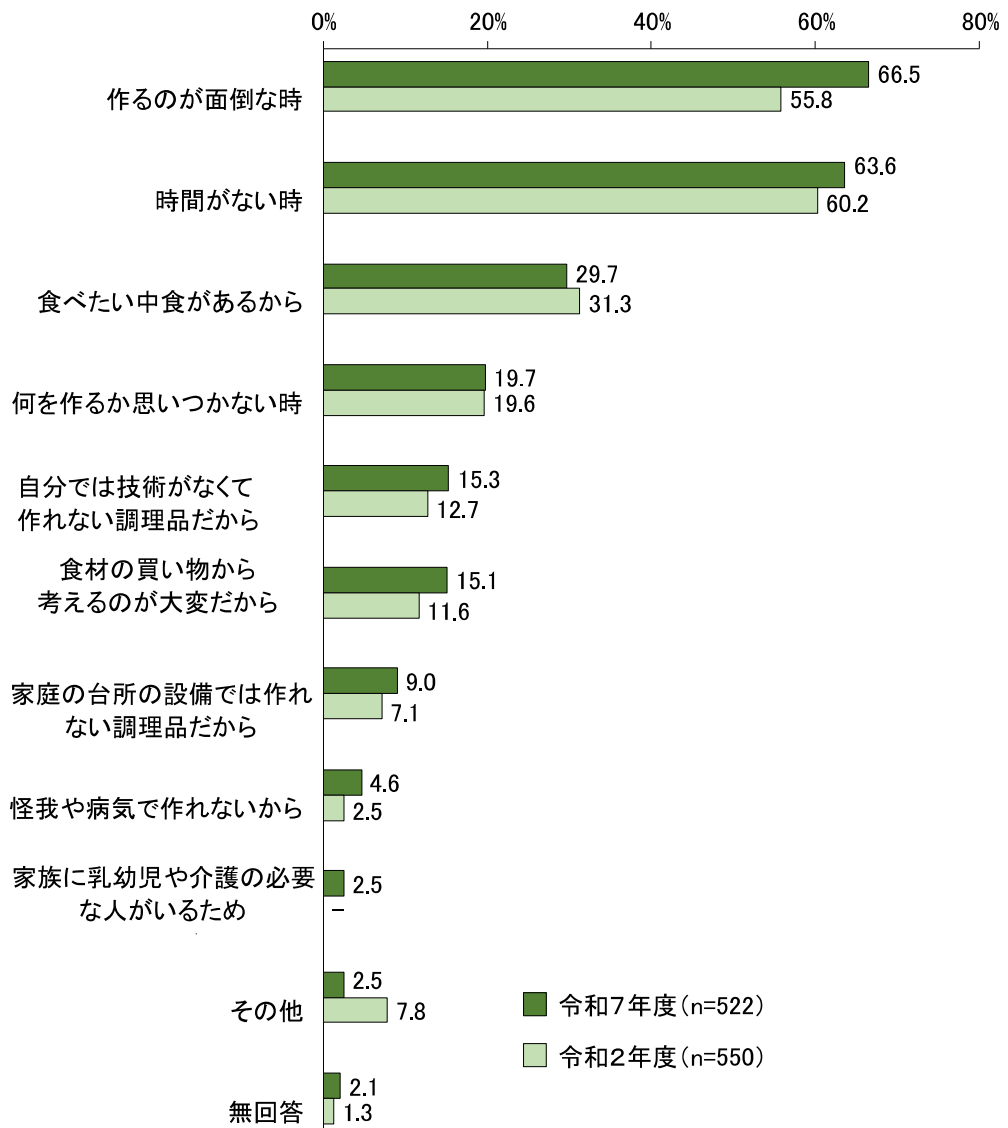
年齢別

問23-2 中食を利用する理由

上段:度数 下段:%		全体	作るのが面倒な時	時間がない時	食べたい中食があるから	何を作るか思いつかない時	自分では技術がなくて調理品だから
全体		522 100.0	347 66.5	332 63.6	155 29.7	103 19.7	80 15.3
年齢	10・20歳代	43 100.0	30 69.8	26 60.5	10 23.3	2 4.7	9 20.9
	30歳代	74 100.0	62 83.8	55 74.3	17 23.0	17 23.0	10 13.5
	40歳代	92 100.0	66 71.7	76 82.6	13 14.1	15 16.3	16 17.4
	50歳代	84 100.0	57 67.9	59 70.2	28 33.3	21 25.0	12 14.3
	60歳代	105 100.0	65 61.9	63 60.0	41 39.0	20 19.0	16 15.2
	70歳以上	123 100.0	66 53.7	52 42.3	45 36.6	28 22.8	17 13.8
	上段:度数 下段:%		大食 変材 だの か買 い物 から 考 え る の が	家 庭 の 台 所 の 設 備 で は 不 足 な い か ら	怪 我 や 病 気 で 作 れ な い か ら	必 要 な 人 が い る た め に 介 護 の 手 を 要 す	そ の 他
全体		79 15.1	47 9.0	24 4.6	13 2.5	13 2.5	11 2.1
年齢	10・20歳代	8 18.6	2 4.7	1 2.3	2 4.7	1 2.3	1 2.3
	30歳代	16 21.6	6 8.1	1 1.4	8 10.8	1 1.4	-
	40歳代	15 16.3	11 12.0	9 9.8	-	1 1.1	-
	50歳代	9 10.7	5 6.0	3 3.6	1 1.2	5 6.0	-
	60歳代	9 8.6	11 10.5	-	2 1.9	2 1.9	3 2.9
	70歳以上	22 17.9	11 8.9	10 8.1	-	3 2.4	7 5.7

経年比較

問23-2 中食を利用する理由



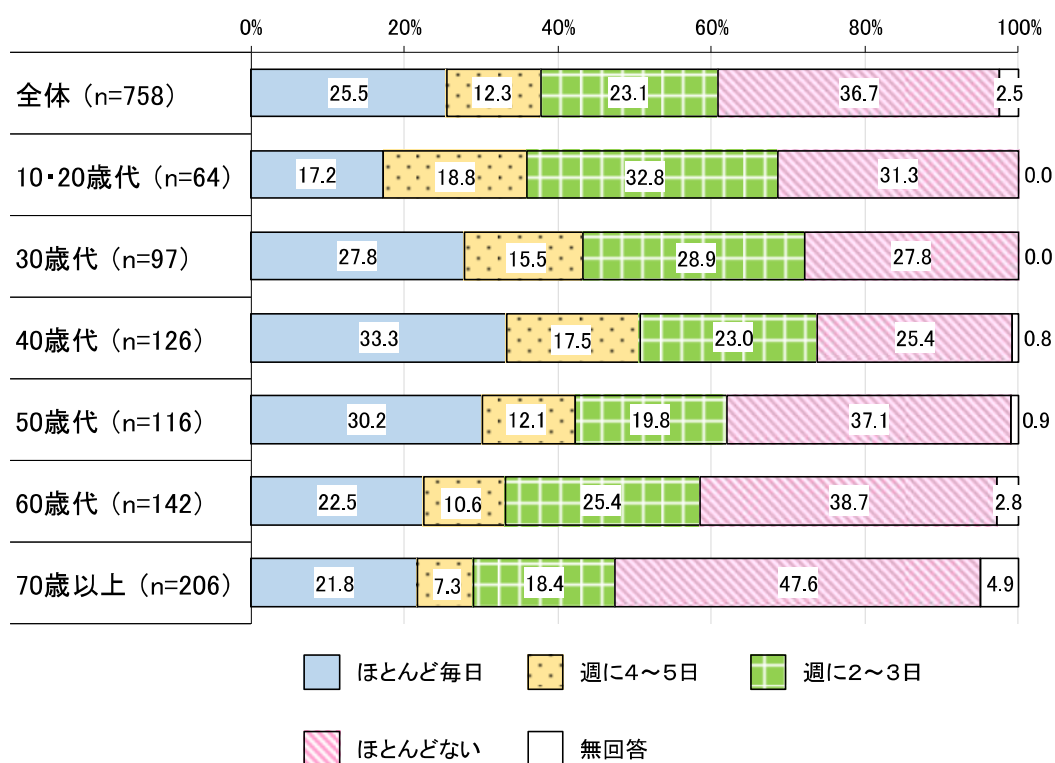
問24 あなたは間食（夜食を含む）をすることはありますか。（○は1つ）

全体では、「ほとんどない」が36.7%と最も多く、次いで「ほとんど毎日」が25.5%、「週に2～3日」が23.1%となっています。

年齢別にみると、「ほとんど毎日」は40歳代・50歳代でそれぞれ3割を超えており、「ほとんどない」では70歳以上が47.6%と他の年代に比べて多い割合となっています。

年齢別

問24 間食の有無



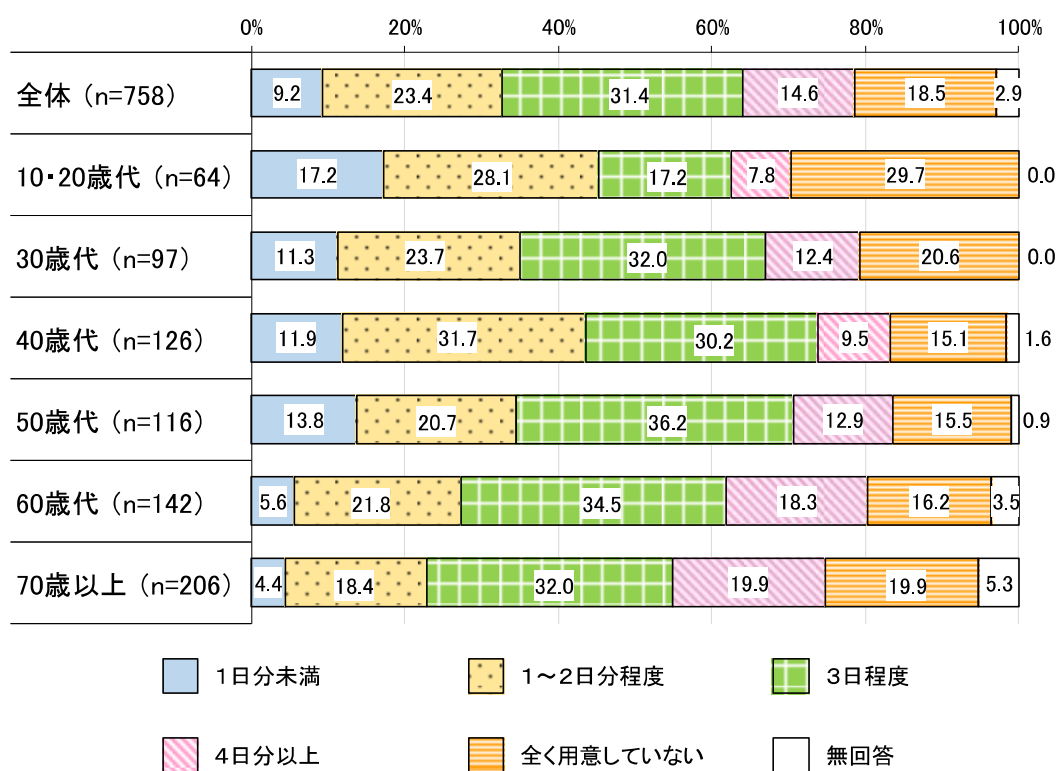
問 25 あなたの世帯では、非常食の食料は、世帯人数分として何日分を想定して用意していますか。(〇は1つ)

全体では、「3日程度」が31.4%と最も多く、次いで「1～2日分程度」が23.4%、「全く用意していない」が18.5%となっています。

年齢別にみても、ほぼ同様の傾向がみられますが、30歳以上の年代では「3日程度」がそれぞれ3割以上を占めています。一方で、10・20歳代では「全く用意していない」が29.7%と、他の年代と比べて多い割合となっています。

年齢別

問25 非常食の用意について



(10) 行事食について

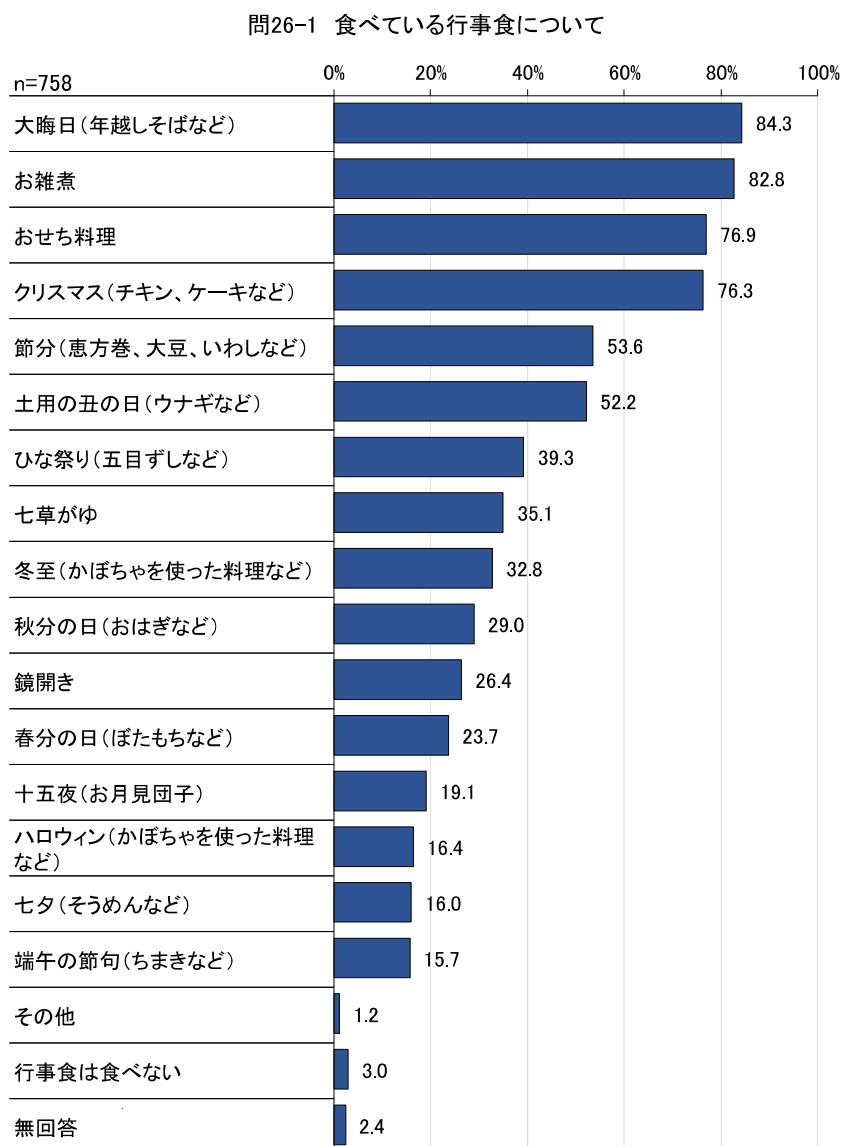
問 26-1 あなたは、以下の行事食を食べますか。食べるものを全て選んでください。
(〇はいくつでも)

全体では、「大晦日（年越しそばなど）」が 84.3%と最も多く、次いで「お雑煮」が 82.8%、「おせち料理」が 76.9%となっています。

年齢別にみると、「大晦日（年越しそばなど）」では、どの年代でもそれぞれ7割以上、「クリスマス（チキン、ケーキなど）」でも、70 歳以上を除いたすべての年代で7割以上の回答を得ています。「行事食は食べない」は、40 歳代で 0.0%、その他の年代でそれぞれ一桁台の割合となっています。

令和2年度と比較すると、「大晦日（年越しそばなど）」、「お雑煮」、「節分（恵方巻、大豆、いわしなど）」、「土用の丑の日（ウナギなど）」、「春分の日（ぼたもちなど）」、「十五夜（お月見団子）」、「七夕（そうめんなど）」の割合が増加しています。

全体



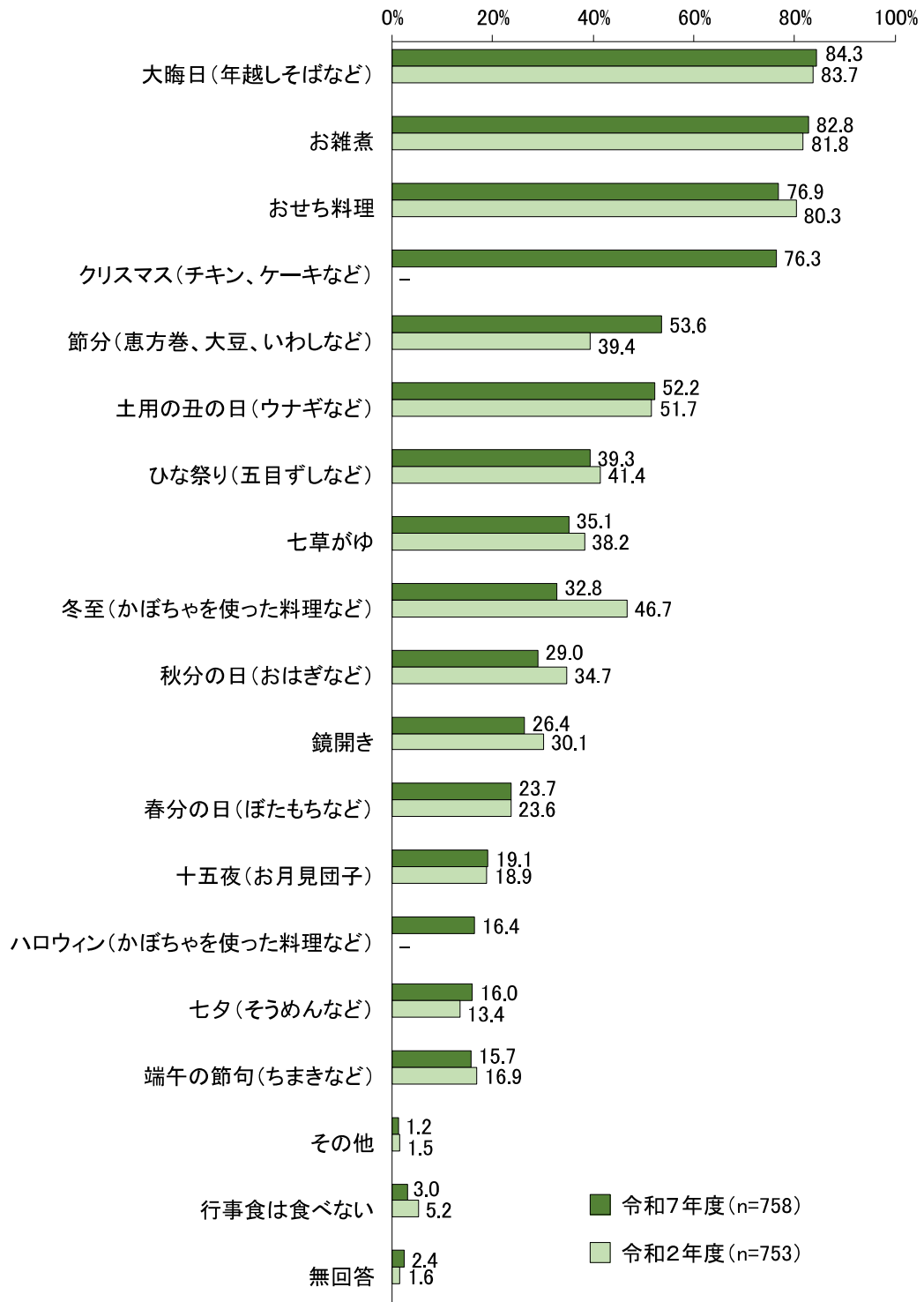
年齢別

問26-1 食べている行事食について

上段:度数 下段:%		全体	大晦日（年越しそばなど）	お雑煮	おせち料理	クリスマス （チキン、ケーキなど）	節分（恵方巻、大豆、 いわしなど）	土用の丑の日（ウナギなど）	ひな祭り（五目ずしなど）	七草がゆ	冬至（かぼちゃを 使った料理など）
全体		758 100.0	639 84.3	628 82.8	583 76.9	578 76.3	406 53.6	396 52.2	298 39.3	266 35.1	249 32.8
年齢	10・20歳代	64 100.0	55 85.9	47 73.4	47 73.4	56 87.5	36 56.3	29 45.3	22 34.4	19 29.7	16 25.0
	30歳代	97 100.0	77 79.4	66 68.0	64 66.0	85 87.6	55 56.7	37 38.1	31 32.0	18 18.6	17 17.5
	40歳代	126 100.0	116 92.1	108 85.7	91 72.2	114 90.5	77 61.1	61 48.4	57 45.2	43 34.1	34 27.0
	50歳代	116 100.0	101 87.1	103 88.8	90 77.6	91 78.4	68 58.6	63 54.3	44 37.9	37 31.9	36 31.0
	60歳代	142 100.0	127 89.4	127 89.4	121 85.2	114 80.3	71 50.0	85 59.9	62 43.7	59 41.5	63 44.4
	70歳以上	206 100.0	157 76.2	172 83.5	165 80.1	114 55.3	96 46.6	117 56.8	79 38.3	86 41.7	79 38.3
	上段:度数 下段:%		秋分の日（おはぎなど）	鏡開き	春分の日（ぼたもちなど）	十五夜（お月見団子）	使った料理など（かぼちゃを ハロウィン（かぼちゃを 使った料理など）	七夕（そうめんなど）	端午の節句（ちまきなど）	その他	行事食は食べない
全体		220 29.0	200 26.4	180 23.7	145 19.1	124 16.4	121 16.0	119 15.7	9 1.2	23 3.0	18 2.4
年齢	10・20歳代	8 12.5	13 20.3	5 7.8	12 18.8	19 29.7	12 18.8	8 12.5	-	2 3.1	-
	30歳代	13 13.4	17 17.5	9 9.3	20 20.6	25 25.8	18 18.6	10 10.3	-	3 3.1	2 2.1
	40歳代	22 17.5	34 27.0	15 11.9	36 28.6	27 21.4	26 20.6	25 19.8	2 1.6	-	1 0.8
	50歳代	32 27.6	28 24.1	20 17.2	18 15.5	14 12.1	11 9.5	16 13.8	1 0.9	3 2.6	1 0.9
	60歳代	56 39.4	49 34.5	51 35.9	24 16.9	19 13.4	23 16.2	23 16.2	3 2.1	4 2.8	2 1.4
	70歳以上	88 42.7	55 26.7	77 37.4	34 16.5	20 9.7	28 13.6	37 18.0	3 1.5	11 5.3	11 5.3

経年比較

問26-1 食べている行事食について



※令和2年度では、「ハロウィン(かぼちゃを使った料理など)」、「クリスマス(チキン、ケーキなど)」という選択肢は設けておりませんでした。

問 26-2 あなたは、以下の行事食を手作りしますか。
※買ってきて食べるのではなく、家庭で作るもののみご回答ください。
 (〇はいくつでも)

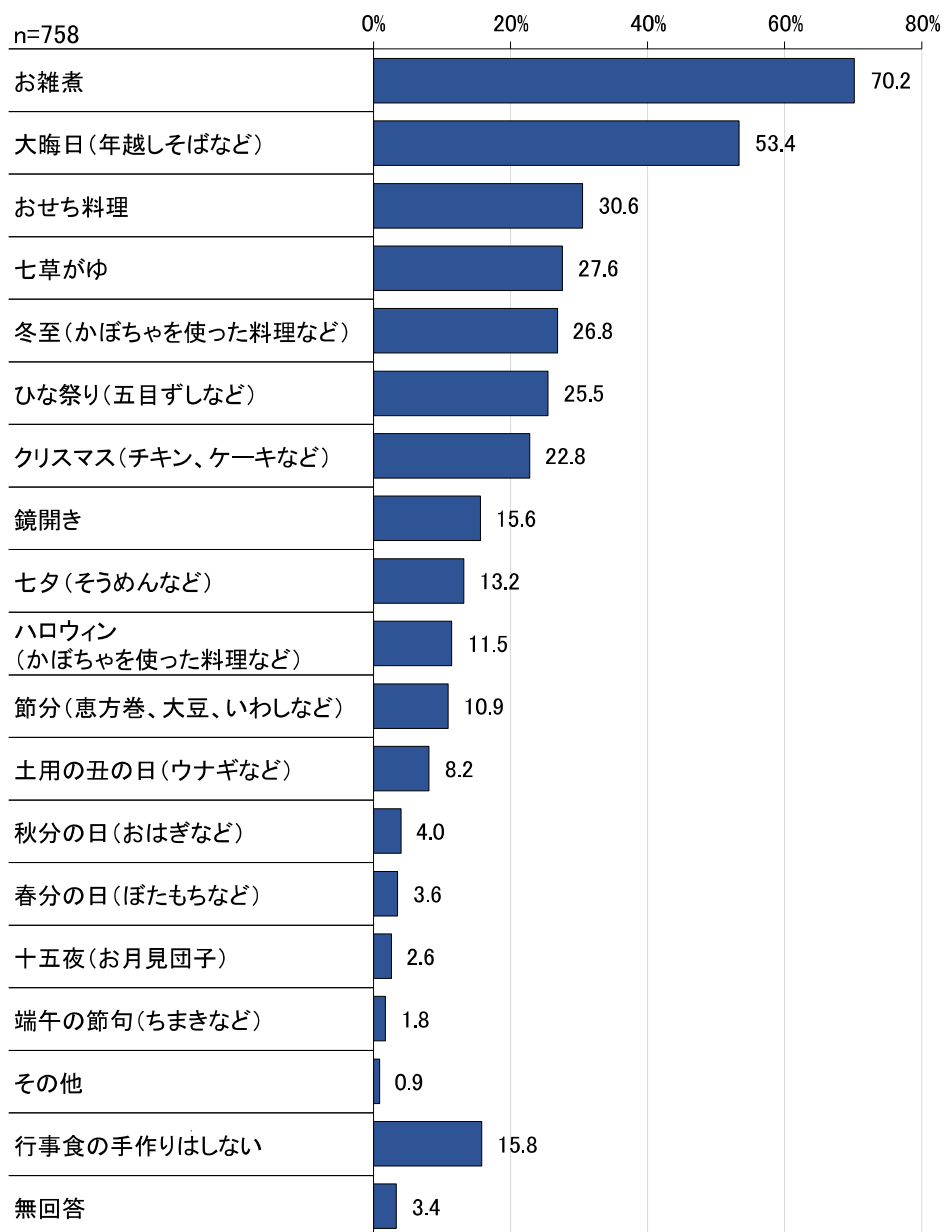
全体では、「お雑煮」が 70.2%と最も多く、次いで「大晦日（年越しそばなど）」が 53.4%、「おせち料理」が 30.6%となっています。

年齢別にみると、「お雑煮」はすべての年代で4割以上となり、特に 50 歳代、60 歳代、70 歳以上では7割を超えています。10・20 歳代では「行事食の手作りはしない」が 31.3%で他の年代に比べて多くなっています。

令和2年度と比較すると、「七夕（そうめんなど）」、「行事食の手作りはしない」の割合が増加しています。

全体

問26-2 手作りしている行事食について



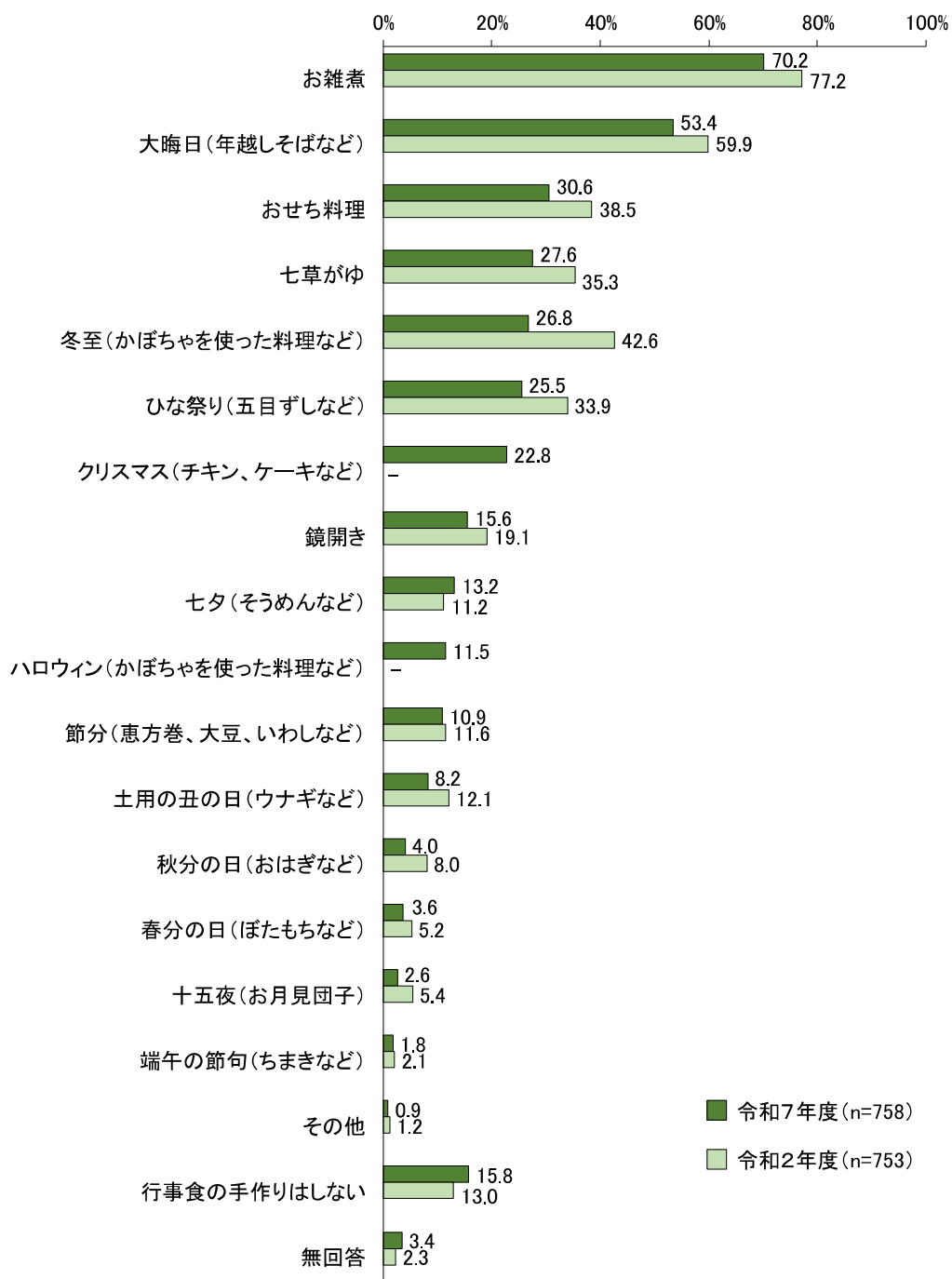
年齢別

問26-2 手作りしている行事食について

上段:度数 下段:%	全体	お雑煮	大晦日（年越しそばなど）	おせち料理	七草がゆ	冬至（かぼちゃを 使った料理など）	ひな祭り（五目ずしなど）	クリスマス （チキン、ケーキなど）	鏡開き	七夕（そうめんなど）	
		全体	758 100.0	532 70.2	405 53.4	232 30.6	209 27.6	203 26.8	193 25.5	173 22.8	118 15.6
年齢	10・20歳代	64 100.0	36 56.3	23 35.9	13 20.3	11 17.2	9 14.1	6 9.4	15 23.4	1 1.6	8 12.5
	30歳代	97 100.0	46 47.4	41 42.3	14 14.4	15 15.5	15 15.5	20 20.6	31 32.0	3 3.1	14 14.4
	40歳代	126 100.0	85 67.5	70 55.6	27 21.4	34 27.0	27 21.4	38 30.2	37 29.4	17 13.5	16 12.7
	50歳代	116 100.0	90 77.6	63 54.3	35 30.2	29 25.0	29 25.0	35 30.2	29 25.0	22 19.0	13 11.2
	60歳代	142 100.0	117 82.4	86 60.6	48 33.8	48 33.8	49 34.5	39 27.5	31 21.8	34 23.9	15 10.6
	70歳以上	206 100.0	153 74.3	116 56.3	93 45.1	68 33.0	72 35.0	53 25.7	30 14.6	38 18.4	31 15.0
	上段:度数 下段:%		使ハ った ウイ ン（ かぼ ちや を）	節 分（ 恵方 巻、 大豆 、 い わし など）	土 用の 丑の 日（ ウナ ギな ど）	秋 分の 日（ おは ぎな ど）	春 分の 日（ ぼた もち など）	十 五夜 （お 月見 団子 ）	端 午の 節句 （ち まき など）	そ 他	行 事食 の手 作り はし ない
全体	87 11.5	83 10.9	62 8.2	30 4.0	27 3.6	20 2.6	14 1.8	7 0.9	120 15.8	26 3.4	
年齢	10・20歳代	8 12.5	8 12.5	5 7.8	1 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	20 31.3	0 0.0
	30歳代	14 14.4	7 7.2	6 6.2	2 2.1	2 2.1	5 5.2	2 2.1	0 0.0	23 23.7	3 3.1
	40歳代	21 16.7	12 9.5	10 7.9	1 0.8	2 1.6	5 4.0	2 1.6	1 0.8	22 17.5	1 0.8
	50歳代	13 11.2	15 12.9	13 11.2	3 2.6	3 2.6	3 2.6	2 1.7	1 0.9	14 12.1	2 1.7
	60歳代	14 9.9	17 12.0	13 9.2	6 4.2	4 2.8	3 2.1	4 2.8	1 0.7	12 8.5	5 3.5
	70歳以上	16 7.8	22 10.7	14 6.8	16 7.8	14 6.8	4 1.9	4 1.9	4 1.9	29 14.1	14 6.8

経年比較

問26-2 手作りしている行事食について



※令和2年度では、「ハロウィン(かぼちゃを使った料理など)」、「クリスマス(チキン、ケーキなど)」という選択肢は設けておりませんでした。

(11) 食生活の選択基準と情報源について

問 27 あなたが食事について、重要視することは何ですか。(〇は3つまで)

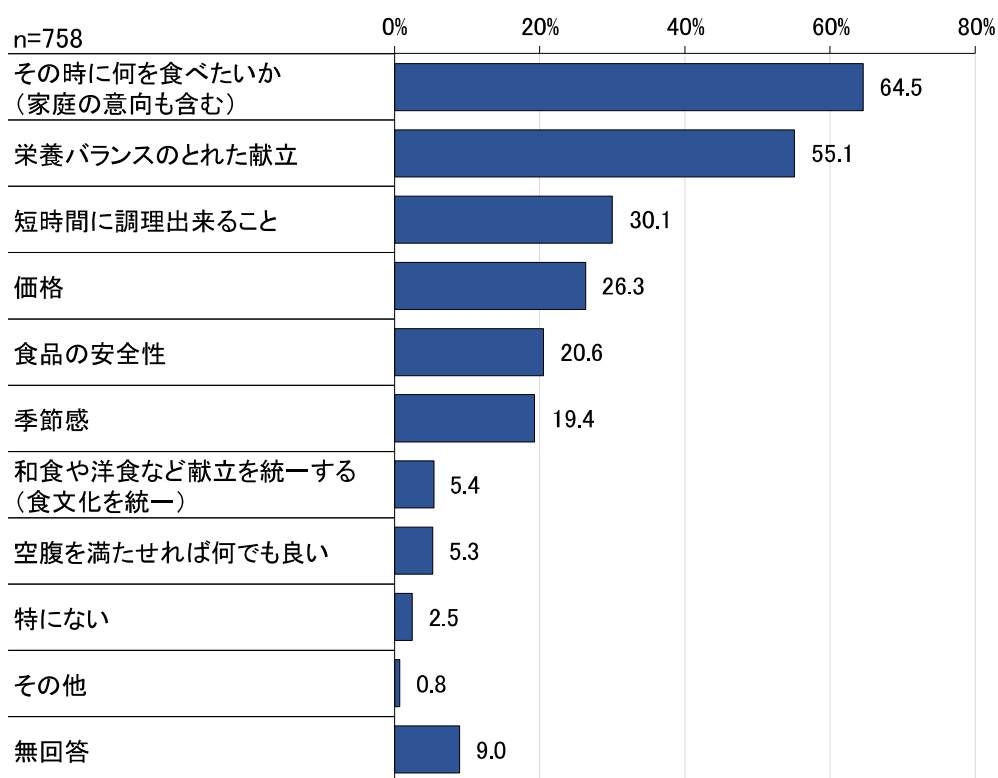
全体では、「その時に何を食べたいか(家庭の意向も含む)」が64.5%と最も多く、次いで「栄養バランスのとれた献立」が55.1%、「短時間に調理出来ること」が30.1%となっています。

年齢別にみると、「その時に何を食べたいか(家庭の意向も含む)」では10・20歳代の76.6%が、「短時間に調理出来ること」では30歳代の43.3%が、それぞれ他の年代に比べて多くなっています。70歳以上では「栄養バランスのとれた献立」が重要視されていることがうかがえます。

令和2年度と比較すると、全ての項目が増加している中、特に「その時に何を食べたいか(家庭の意向も含む)」の割合が最も増加しています。

全体

問27 ふだんの食事で重要視していること



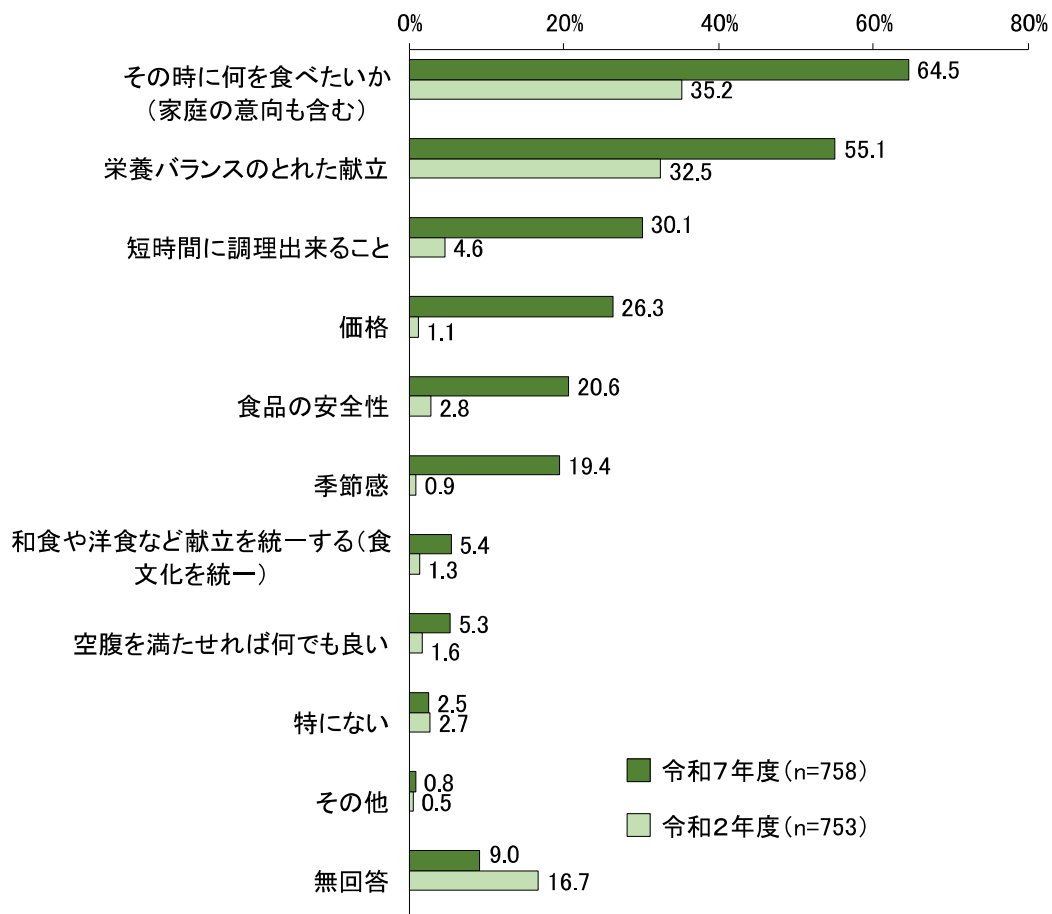
年齢別

問27 ふだんの食事で重要視していること

上段:度数 下段:%		全体	その時に何を食べたいか (家庭の意向も含む)	栄養バランスのとれた献立	短時間に調理出来ること	価格	食品の安全性
全体		758 100.0	489 64.5	418 55.1	228 30.1	199 26.3	156 20.6
年齢	10・20歳代	64 100.0	49 76.6	22 34.4	19 29.7	27 42.2	4 6.3
	30歳代	97 100.0	69 71.1	49 50.5	42 43.3	34 35.1	10 10.3
	40歳代	126 100.0	92 73.0	78 61.9	48 38.1	33 26.2	27 21.4
	50歳代	116 100.0	86 74.1	71 61.2	47 40.5	28 24.1	20 17.2
	60歳代	142 100.0	93 65.5	82 57.7	32 22.5	29 20.4	35 24.6
	70歳以上	206 100.0	99 48.1	114 55.3	39 18.9	48 23.3	58 28.2
	上段:度数 下段:%		季節感	統一する(食文化を統一)	空腹を満たせば何でも良い	特にない	その他
全体		147 19.4	41 5.4	40 5.3	19 2.5	6 0.8	68 9.0
年齢	10・20歳代	3 4.7	3 4.7	11 17.2	4 6.3	1 1.6	2 3.1
	30歳代	11 11.3	4 4.1	7 7.2	1 1.0	2 2.1	5 5.2
	40歳代	24 19.0	8 6.3	5 4.0	1 0.8	2 1.6	4 3.2
	50歳代	24 20.7	6 5.2	4 3.4	-	1 0.9	7 6.0
	60歳代	34 23.9	5 3.5	5 3.5	5 3.5	-	15 10.6
	70歳以上	50 24.3	14 6.8	8 3.9	6 2.9	-	33 16.0

経年比較

問27 ふだんの食事で重要視していること



問 28 あなたが食品を購入する時、商品を選択するポイントは何ですか。

(〇はいくつでも) ※食品→生鮮食品、中食(調理済み食品)、加工食品を含む。

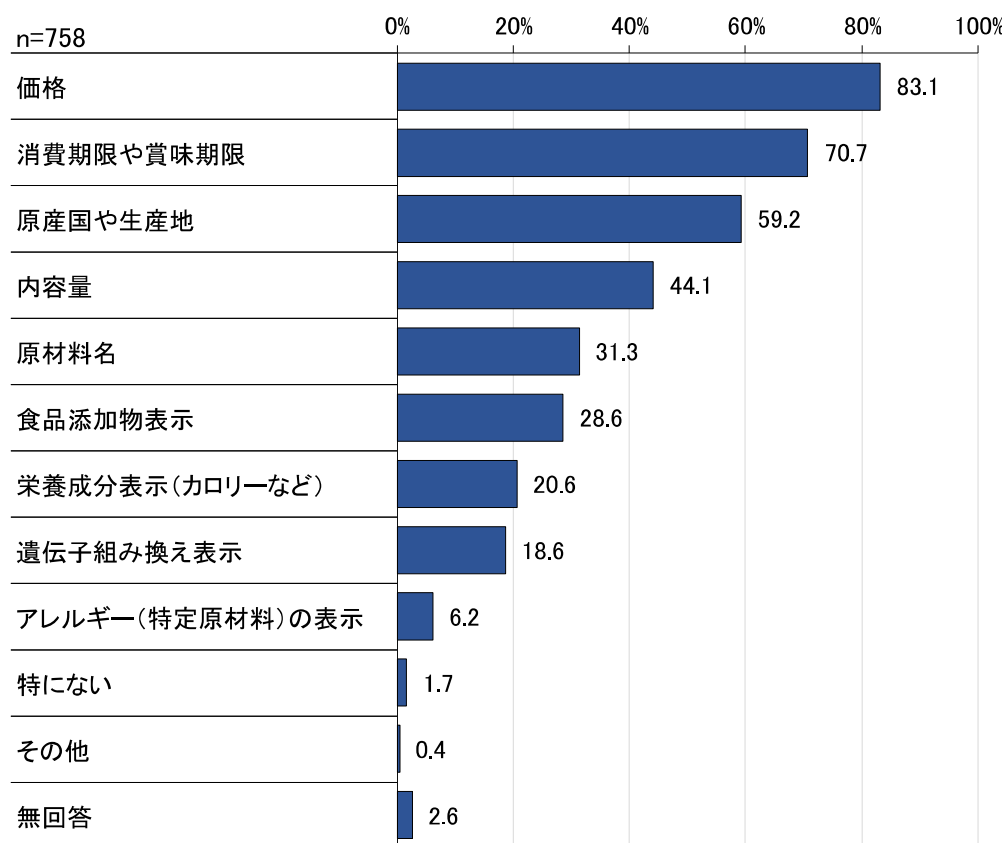
全体では、「価格」が83.1%と最も多く、次いで「消費期限や賞味期限」が70.7%、「原産国や生産地」が59.2%となっています。

年齢別にみると、「価格」はどの年代でも7割を超え、中でも10・20歳代、30歳代は9割近くを占めています。50歳代、60歳代、70歳以上では「消費期限や賞味期限」がそれぞれ7割以上、「原産国や生産地」がそれぞれ6割以上と、関心の高さがうかがえます。

令和2年度と比較すると、「原産国や生産地」、「原材料名」、「食品添加物表示」、「遺伝子組み換え表示」の割合が減少しています。

全体

問28 食品を購入する時、商品を選択するポイント



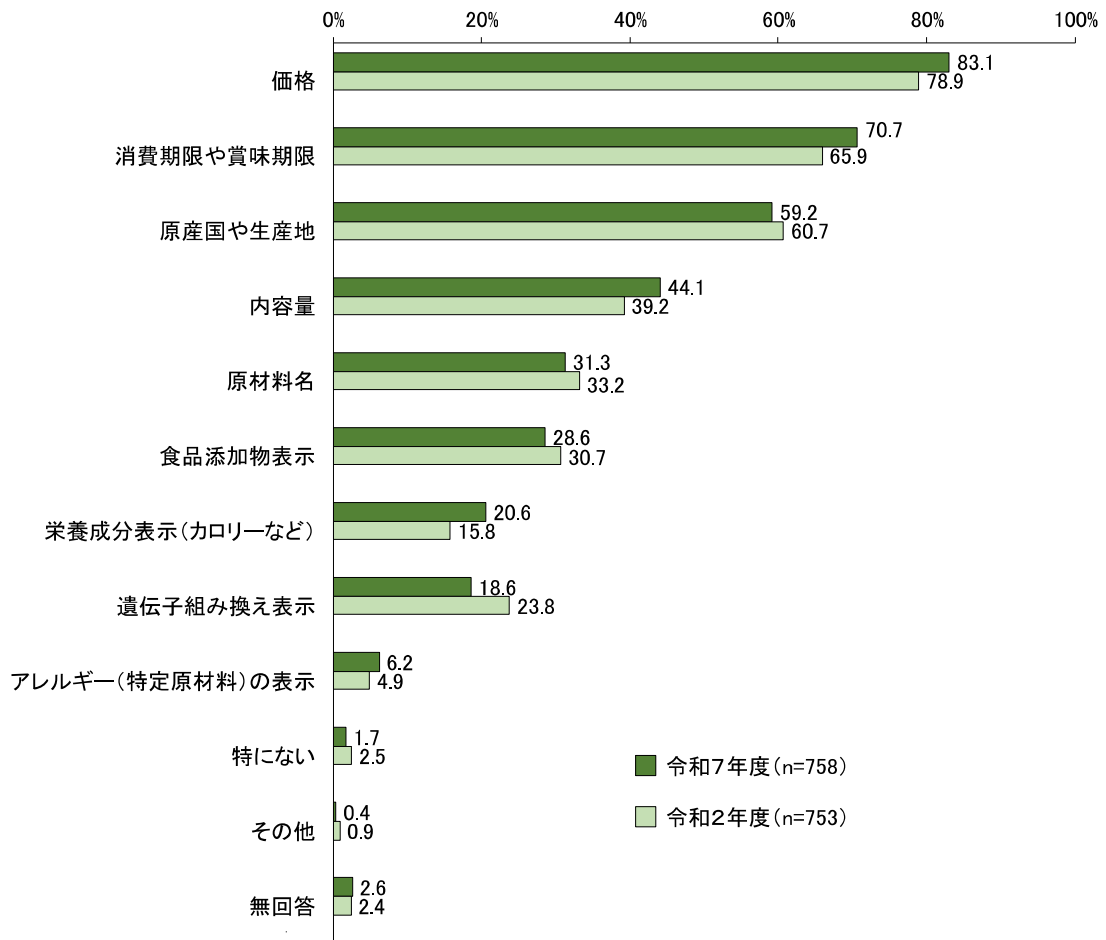
年齢別

問28 食品を購入する時、商品を選択するポイント

上段:度数 下段:%		全体	価格	消費期限や賞味期限	原産国や生産地	内容量	原材料名	
全体		758 100.0	630 83.1	536 70.7	449 59.2	334 44.1	237 31.3	
年齢	10・20歳代	64 100.0	57 89.1	37 57.8	23 35.9	34 53.1	11 17.2	
	30歳代	97 100.0	87 89.7	63 64.9	51 52.6	50 51.5	14 14.4	
	40歳代	126 100.0	111 88.1	82 65.1	75 59.5	64 50.8	38 30.2	
	50歳代	116 100.0	99 85.3	82 70.7	72 62.1	58 50.0	40 34.5	
	60歳代	142 100.0	121 85.2	112 78.9	95 66.9	56 39.4	55 38.7	
	70歳以上	206 100.0	151 73.3	156 75.7	128 62.1	70 34.0	76 36.9	
	上段:度数 下段:%		食品添加物表示	栄養成分表示 (カロリーなど)	遺伝子組み換え表示	アレルギー(特定原材料)の表示	特にない	その他
全体		217 28.6	156 20.6	141 18.6	47 6.2	13 1.7	3 0.4	20 2.6
年齢	10・20歳代	7 10.9	16 25.0	3 4.7	4 6.3	4 6.3	1 1.6	- -
	30歳代	21 21.6	23 23.7	8 8.2	2 2.1	- -	- -	2 2.1
	40歳代	34 27.0	21 16.7	19 15.1	11 8.7	1 0.8	1 0.8	1 0.8
	50歳代	35 30.2	21 18.1	26 22.4	8 6.9	2 1.7	- -	2 1.7
	60歳代	46 32.4	30 21.1	40 28.2	7 4.9	1 0.7	- -	2 1.4
	70歳以上	70 34.0	43 20.9	42 20.4	15 7.3	4 1.9	1 0.5	12 5.8

経年比較

問28 食品を購入する時、商品を選択するポイント



問 29 あなたは食事をつくるとき（レシピなどの情報を）、何から得ていますか。
 （〇はいくつでも）

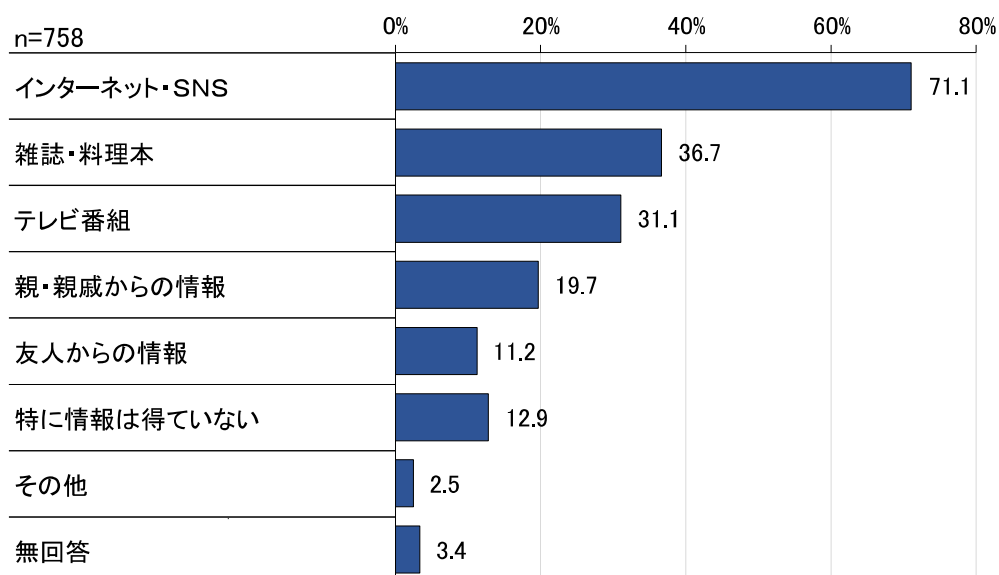
全体では、「インターネット・SNS」が71.1%と最も多く、次いで「雑誌・料理本」が36.7%、「テレビ番組」が31.1%となっています。

年齢別にみると、「インターネット・SNS」では10・20歳代と30歳代で9割を超える一方、70歳以上では34.5%にとどまっています。また、「雑誌・料理本」では、60歳代・70歳以上がそれぞれ4割以上、「親・親戚からの情報」では10・20歳代が約4割と、他の年代と比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「インターネット・SNS」、「友人からの情報」の割合が増加しています。

全体

問29 食事をつくるときレシピなどの情報を何から得ているかについて



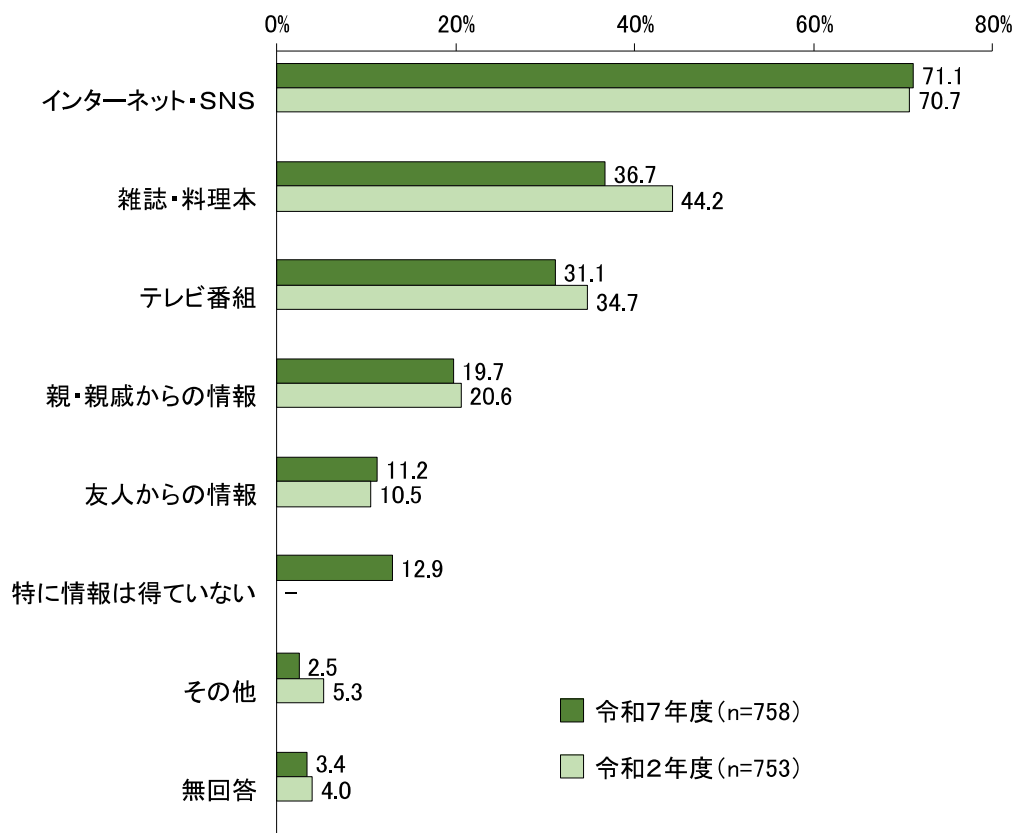
年齢別

問29 食事をつくるときレシピなどの情報を何から得ているかについて

上段:度数 下段:%		全体	インターネット・SNS	雑誌・料理本	テレビ番組	親・親戚からの情報	友人からの情報	特に情報は得ていない	その他	無回答
全体		758 100.0	539 71.1	278 36.7	236 31.1	149 19.7	85 11.2	98 12.9	19 2.5	26 3.4
年齢	10・20歳代	64 100.0	59 92.2	10 15.6	14 21.9	25 39.1	4 6.3	4 6.3	-	-
	30歳代	97 100.0	90 92.8	31 32.0	15 15.5	21 21.6	6 6.2	3 3.1	6 6.2	1 1.0
	40歳代	126 100.0	111 88.1	40 31.7	18 14.3	27 21.4	7 5.6	14 11.1	2 1.6	1 0.8
	50歳代	116 100.0	102 87.9	37 31.9	28 24.1	17 14.7	12 10.3	11 9.5	4 3.4	2 1.7
	60歳代	142 100.0	104 73.2	59 41.5	62 43.7	21 14.8	18 12.7	18 12.7	-	4 2.8
	70歳以上	206 100.0	71 34.5	99 48.1	95 46.1	37 18.0	37 18.0	47 22.8	7 3.4	16 7.8

経年比較

問29 食事をつくるときレシピなどの情報を何から得ているかについて



問 30 あなたは食と健康に関する知識を何から得ていますか。(〇はいくつでも)

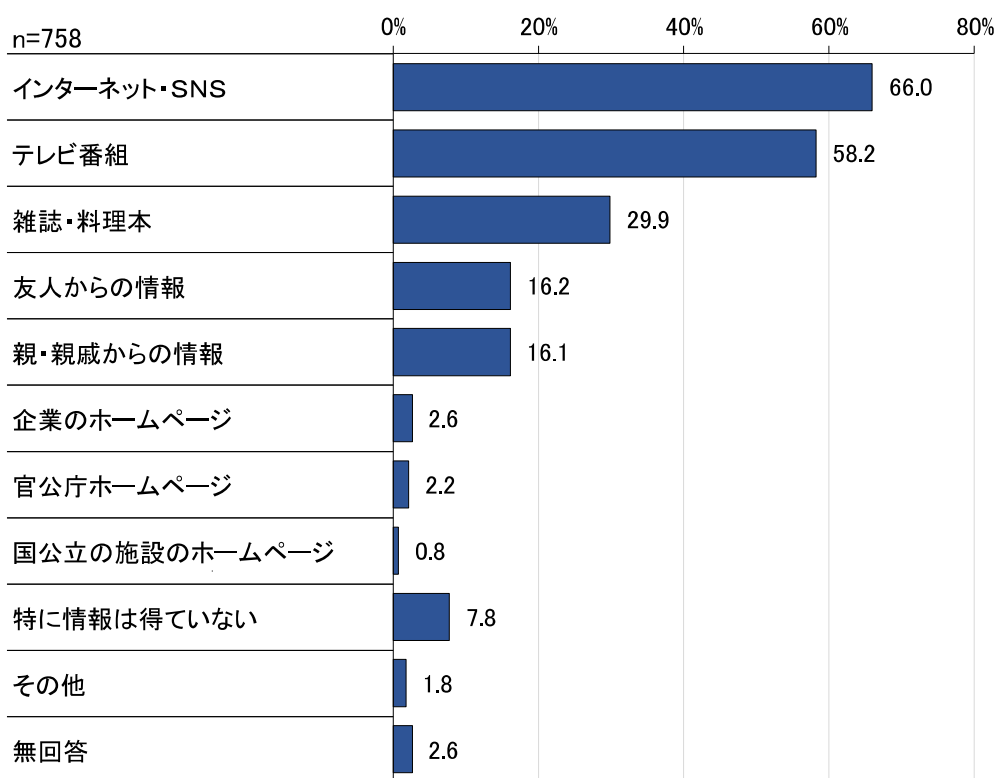
全体では、「インターネット・SNS」が66.0%と最も多く、次いで「テレビ番組」が58.2%、「雑誌・料理本」が29.9%となっています。

年齢別にみると、10・20歳代、30歳代、40歳代、50歳代では「インターネット・SNS」がそれぞれ7割以上、60歳代、70歳以上では「テレビ番組」がそれぞれ7割以上と、それぞれ他の年代に比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「インターネット・SNS」、「官公庁ホームページ」、「国公立の施設のホームページ」の割合が増加しています。

全体

問30 食と健康に関する知識を何から得ているかについて



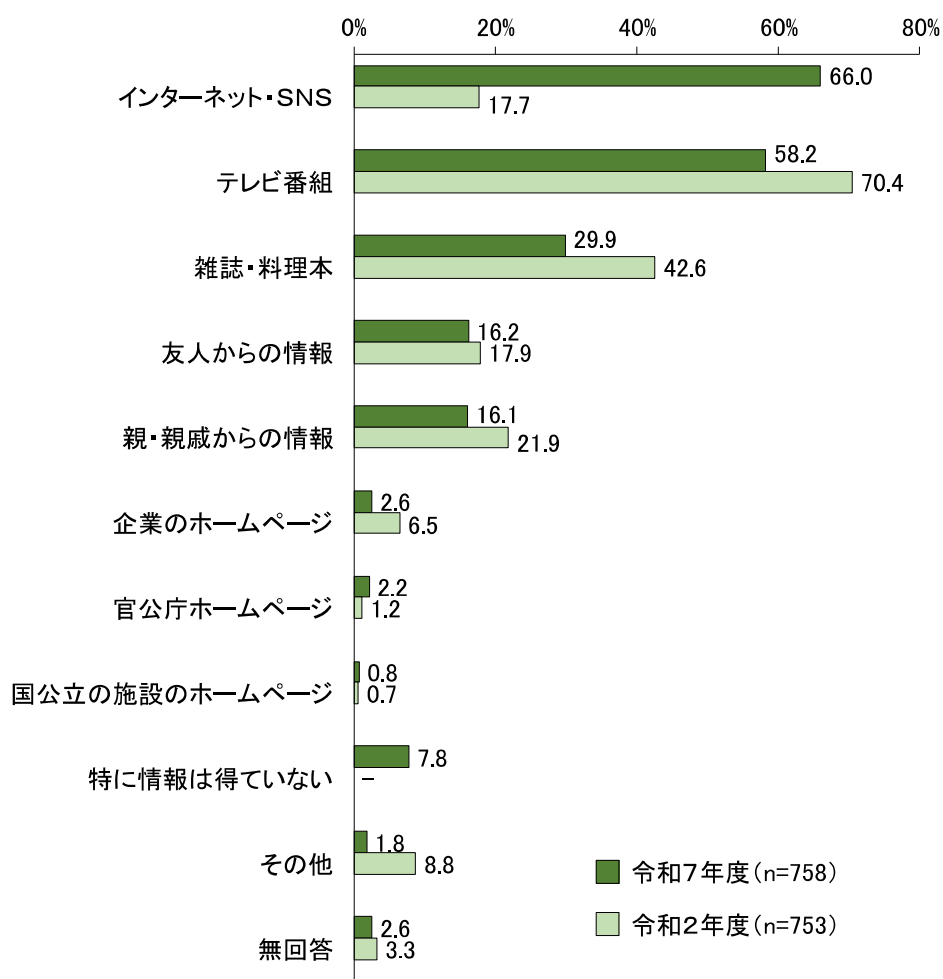
年齢別

問30 食と健康に関する知識を何から得ているかについて

上段:度数 下段:%		全体	インターネット・SNS	テレビ番組	雑誌・料理本	友人からの情報	親・親戚からの情報
全体		758 100.0	500 66.0	441 58.2	227 29.9	123 16.2	122 16.1
年齢	10・20歳代	64 100.0	48 75.0	24 37.5	8 12.5	6 9.4	24 37.5
	30歳代	97 100.0	84 86.6	41 42.3	21 21.6	11 11.3	22 22.7
	40歳代	126 100.0	99 78.6	50 39.7	25 19.8	7 5.6	17 13.5
	50歳代	116 100.0	95 81.9	65 56.0	31 26.7	22 19.0	21 18.1
	60歳代	142 100.0	99 69.7	103 72.5	49 34.5	28 19.7	13 9.2
	70歳以上	206 100.0	73 35.4	153 74.3	90 43.7	46 22.3	24 11.7
	上段:度数 下段:%		企業 のホ ーム ペー ジ	官 公 庁 ホ ーム ペー ジ	国 公 立 の 施 設 の ホ ーム ペー ジ	特 に 情 報 は 得 て い な い	そ の 他
全体		20 2.6	17 2.2	6 0.8	59 7.8	14 1.8	20 2.6
年齢	10・20歳代	1 1.6	2 3.1	- -	7 10.9	2 3.1	- -
	30歳代	6 6.2	4 4.1	4 4.1	4 4.1	1 1.0	1 1.0
	40歳代	3 2.4	2 1.6	1 0.8	11 8.7	3 2.4	1 0.8
	50歳代	3 2.6	3 2.6	- -	7 6.0	4 3.4	2 1.7
	60歳代	2 1.4	2 1.4	- -	9 6.3	2 1.4	2 1.4
	70歳以上	4 1.9	4 1.9	1 0.5	21 10.2	2 1.0	13 6.3

経年比較

問30 食と健康に関する知識を何から得ているかについて



※令和2年度では、「特に情報は得ていない」という選択肢は設けておりませんでした。

問 31 このアンケートについてのご意見・ご感想や各設問で回答欄に無いもの、市役所の食育に関する事業で実施してほしいものがありましたらご自由にお書きください

〈分類別件数〉

No.	分類	件数
1	アンケートについて	33
2	イベント・講座等について	16
3	周知・情報提供について	15
4	学ぶ機会・知る機会について	10
5	料理教室について	11
6	給食について	11
7	その他について	83

〈主な意見〉

1. アンケートについて

- アンケートをきっかけに、Koganei-Style のホームページを拝見いたしました。小金井市で採れる野菜がいろいろあることを知りました。イベントの様子等、事後をブログか何かで見るとはできるのでしょうか
- 自らが調理をする立場として答える若しくは世帯として回答する、のどちらが適切か迷う設問がありました。また、外食に関する問で、頻度の選択の際、選択肢の間に該当する場合や外食相手が複数ジャンルを含むことにより回答がひとつに集約できないものがあり迷いました。「食育」という言葉の語感から、子どもや学生など年の若い人々へ施される教育の一種という理解がありましたが、自分自身を育てるという意で捉えても問題ないものであれば問 10 の解答も変わるように思います、不勉強で申し訳ありません
- 小金井市食育推進計画というのを知らなかったので、知る機会になりました。なぜ、市が行っているのかが分からなかったです
- 食育という言葉は知っていたが、中身は知らなかった。今回のアンケートを見て、幅広い意味で使っているのだろうと理解すると同時に、何でもありの言葉だと分かった

2. イベント・講座等について

- 栄養士の方による生活習慣病予防や健康な身体づくりにつながる料理や食材に関する講演会やイベント
- 子供に食育の大切さを教えてあげられるようなイベントを開催してほしい。すでであればもっと宣伝してほしい
- 市の講座などに参加させて頂く際、勉強になるのですが、時折、「いつからこの内容は変わっていないんだろう…」とってしまうことがあり、新しい情報や知識を知ることができると、有り難いです

- 小金井市には、料理教室がないので、子供から大人まで食を通して、行ってもらえる料理や食に関する勉強会や ABC クッキングなどの教室を開催・主催をおこなってほしい

3. 周知・情報提供について

- せっかく事業をしてくれているなら、市役所との接点が少ない人でも認知できるような広報やアピールをしてもらいたい
- 食育に関する情報を視覚障害者向け（高齢者向け）に CD 版を出してほしい
- 子ども、大人、高齢者、男性、女性、全ての人が、死ぬまで料理を楽しんでできるように、啓発をお願いします。食事を作ることは簡単で楽しくて、脳トレ、気分転換、趣味、生きがいになることが、もっと広まればいいなと思います
- 年齢別にたべたらいいもの(特にあれば)教えてほしい。又、季節にあった食物の提示

4. 学ぶ機会・知る機会について

- 学校や保育園で食育授業を充実してほしい
- 取り組みをしている事を知る機会が、関心の高い人にもみ届いている様な気がします。関心の薄い人をいかに巻き込むかで効果は上向きになると思います
- 子供がいないので小学校～高校のトレンド（食育）がピンとこないことがあります。昔の常識とちがってることとかも知る機会があればなと思います
- 食育という言葉も知りませんでした。食育に関する取り組みも世の中にはたくさんあって、勉強になりました。フードドライブとか食品ロス削減推進協力店・事業所を web で調べてみたいと思いました

5. 料理教室について

- 3-5 才児向けの親子クッキングは、下の子用に保育もあると参加しやすいです
- 日頃、料理をする事が全くない男性（高齢者）が体験できるお料理教室を実施してほしいです
- 薬膳料理など体の不調が改善されるような料理教室を開催して欲しい

6. 給食について

- 学校給食なんですが、無償化が始まりましたが、もう少し量を増やしてほしいです。未来ある子どもには、お腹いっぱい食べてもらいたい。税金はもっと子どもに分配されるべきだと感じます
- 学校給食のメニューはそれぞれの学校の栄養士さんに任されているが、正直なところ個人差が激しい。低予算の中で工夫され、楽しくおいしい給食を提供くださる先生もいらしたが、とにかく栄養を満たすだけといったメニューの先生もいた。先生同士での情報交換などで向上されると嬉しい
- 学校給食で小金井市産の野菜を使った献立があるのは、大変嬉しいです

7. その他について

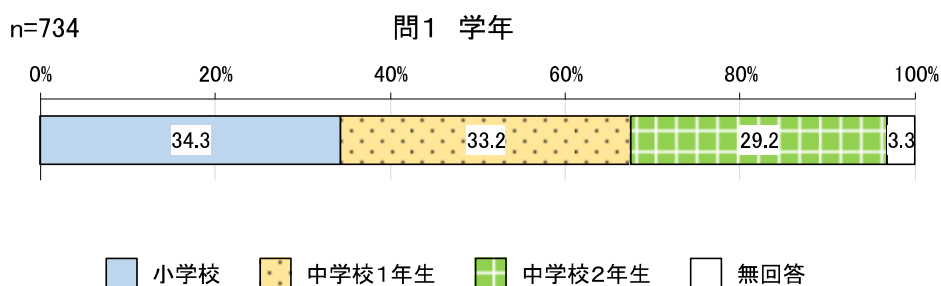
- 小金井市も、もっと市民や、市内の店舗と一緒に食育に取り組みをした方が多くの市民に伝わるのではないかと思います
- 目の不自由な方々に（生活に困らないレベルまで）食品の選択が自分で出来るよう市で工夫して欲しい
- 日本に伝わる素晴らしい食文化が、後世にも継承されていくことと、その取り組みが成就することを祈っております
- 高齢の1人住まいに、月に1回地元で取れる野菜の配布があれば嬉しい
- 食育に関する事業をもっと広めるために SNS 等を使用して広く多くの市民に広報活動をしていただきたい。ライン登録することで、市の行事が伝わるといいですね
- 小金井市フードドライブ事業について、回収日が毎月第2水曜日、PM2:00～3:30 となっております。この事については市のプリントなどで知っているのですがもう少し日にちを増やすとか曜日の選択肢を増やすなど、行きやすいようにして頂きたいです。正直、今の設定で誰が行けるのだろうか?と思います
- 市内での子ども食堂等の情報が少ないと思うので、気軽に参加できる機会を増やして欲しいです
- 公共施設にレシピ（料理）を置いて頂けるとうれしいです
- 食育の大切さを市報等で特集して欲しい

2. 小中学生調査

(1) 回答者の状況

問1 学校を選んでください。(〇は1つ)

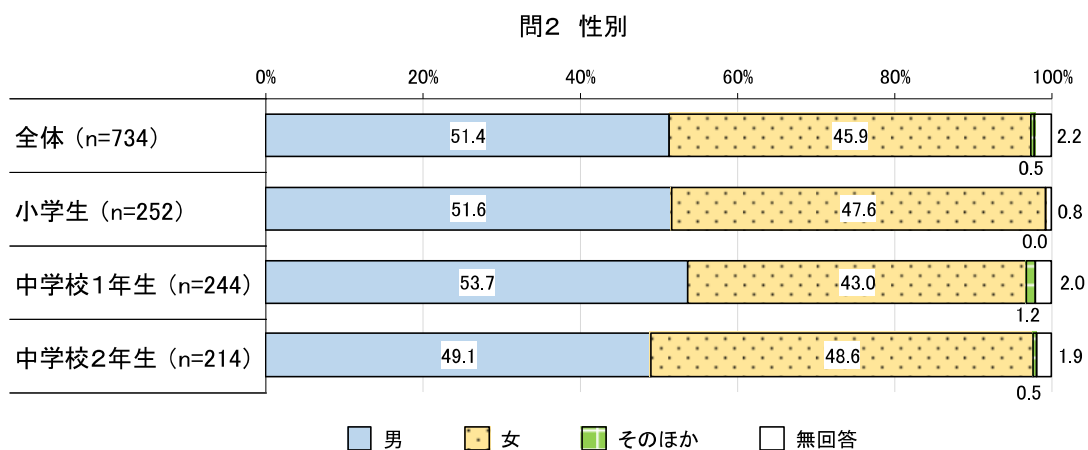
「小学校」が34.3%、「中学校1年生」が33.2%、「中学校2年生」が29.2%となっています。



問2 あなたの性別を選んでください。(〇は1つ)

全体では「男」が51.4%、「女」が45.9%となっています。

小中学生別にみても、おおむね同様の傾向にあります。



(2) 朝ごはんについて

問3(1) ふだん、朝ごはんを食べていますか。(〇は1つ)

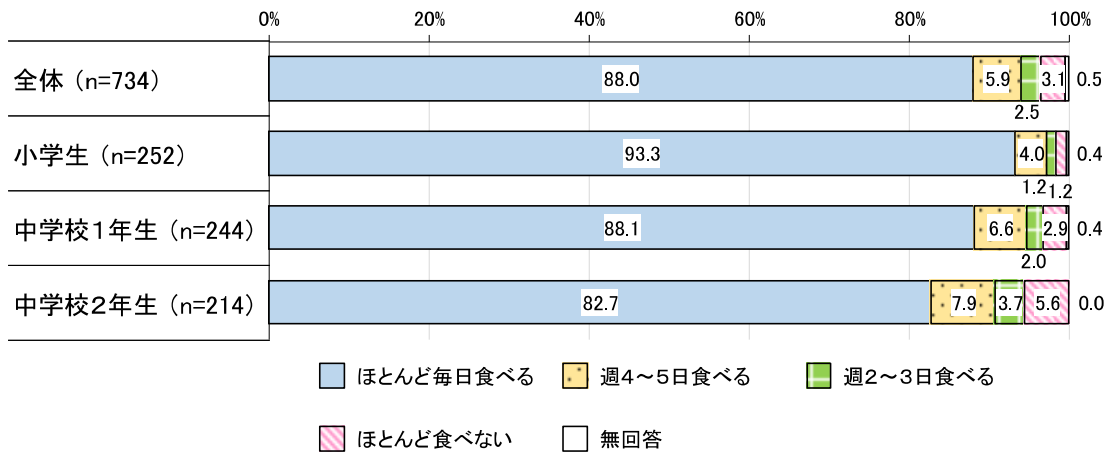
全体では、「ほとんど毎日食べる」が88.0%と最も多く、次いで「週4～5日食べる」が5.9%、「ほとんど食べない」が3.1%となっています。

小中学生別にみると、共通して「ほとんど毎日食べる」が多くの割合を占めていますが、学年が上がるごとに「週4～5日食べる」、「週2～3日食べる」、「ほとんど食べない」の割合が増加しています。

令和2年度と比較すると、「ほとんど毎日食べる」の割合が減少しています。

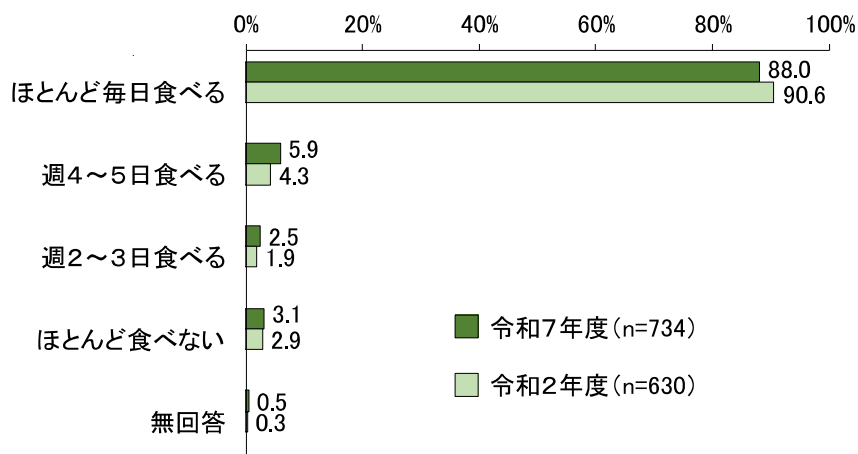
小中学生別

問3(1) ふだん朝ごはんを食べる頻度



経年比較

問3(1) ふだん朝ごはんを食べる頻度



問3(2) (問3(1)で②~④と答えた方に伺います)
 食べない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

全体では、「時間がない」が52.4%と最も多く、次いで「朝食を食べるより寝ていたい」が44.0%、「食欲がわかない」が41.7%となっています。

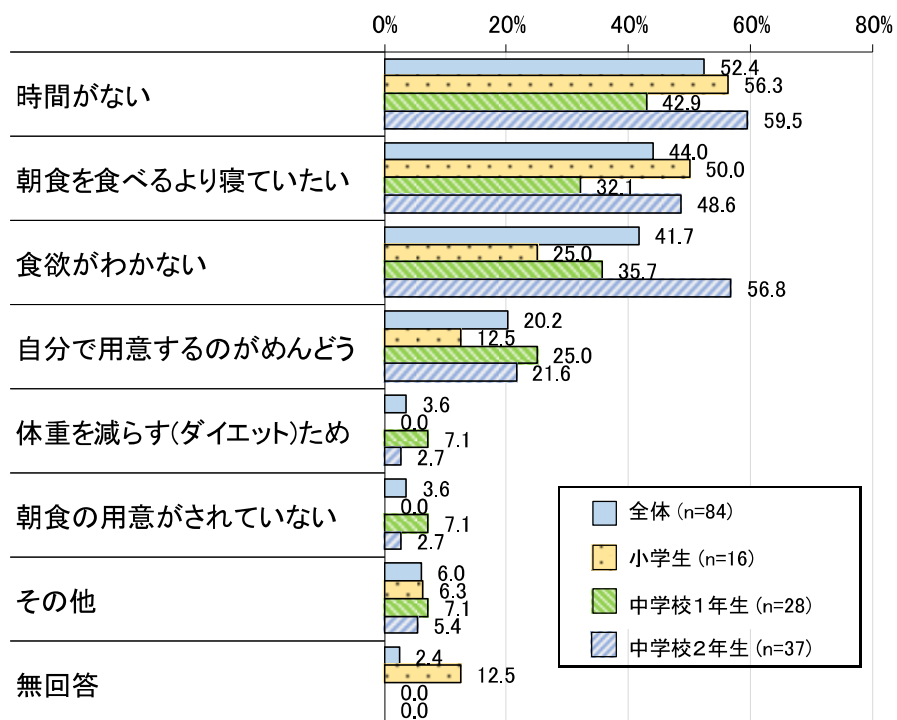
小中学生別にみると、各学年においても「時間がない」の割合が最も多くなっています。

また、学年が上がるごとに「食欲がわかない」の割合が多くなり、中学校2年生では56.8%と他の学年に比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「食欲がわかない」の割合が大幅に減少しています。

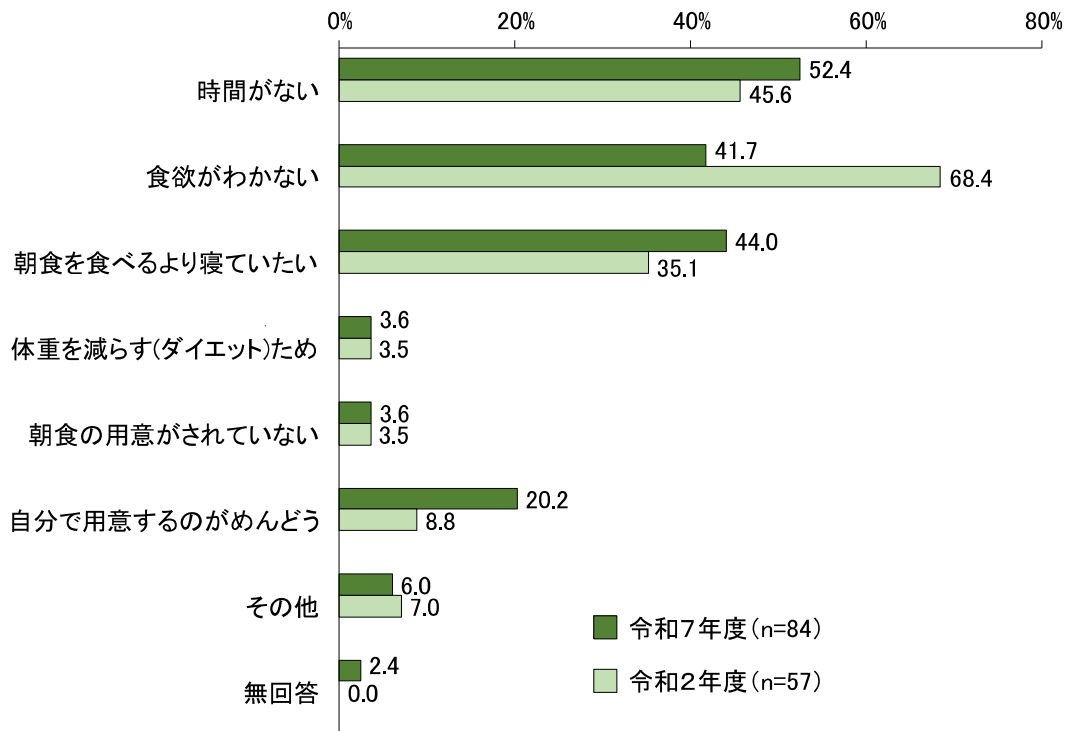
小中学生別

問3(2) 朝ごはんを食べない理由



経年比較

問3(2) 朝ごはんを食べない理由



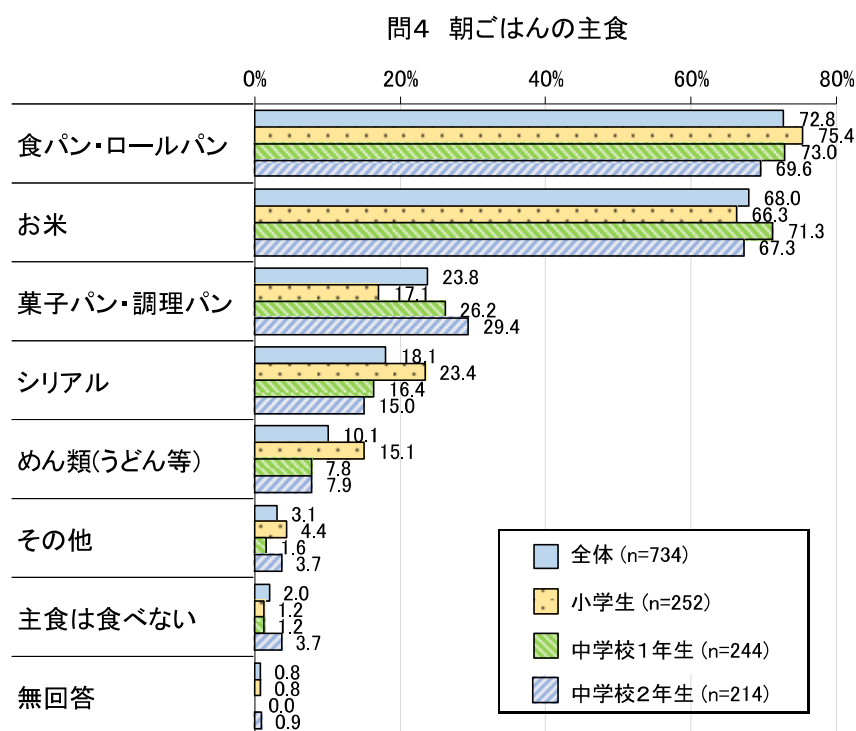
問4 朝ごはんの主食に何をよく食べますか。(〇は3つまで)

全体では、「食パン・ロールパン」が72.8%と最も多く、次いで「お米」が68.0%、「菓子パン・調理パン」が23.8%となっています。

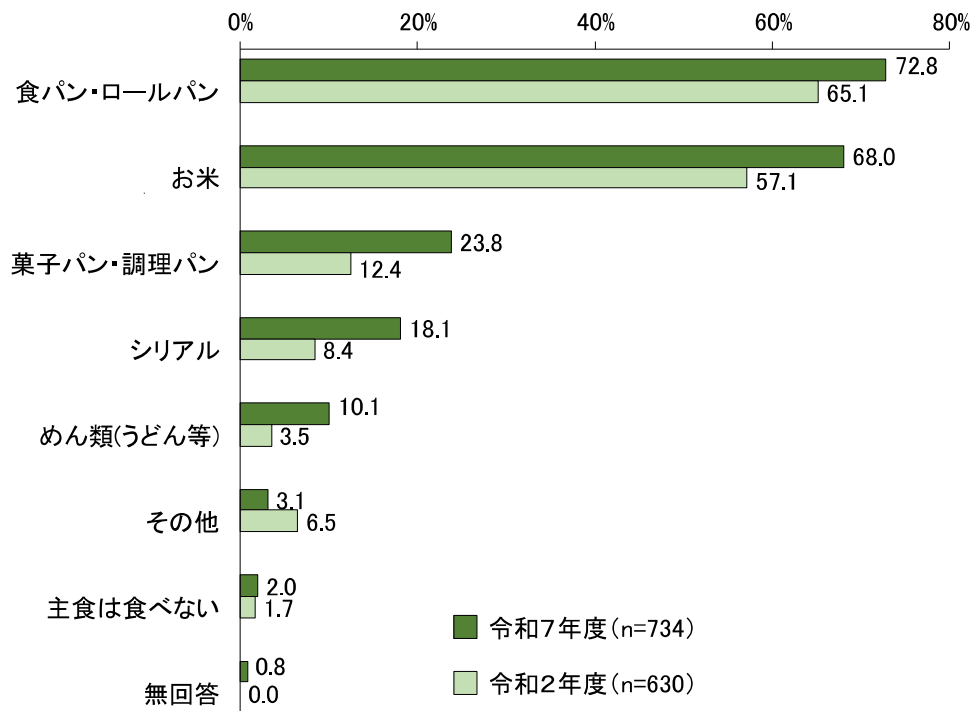
小中学生別にみると、各学年においても「食パン・ロールパン」の割合が最も多くなっています。

令和2年度と比較すると、「その他」を除く全ての項目で割合が増加しています。

小中学生別



問4 朝ごはんの主食



問5 朝ごはんでは主食以外に何をよく食べますか。(〇はいくつでも)

全体では「卵（オムレツ、卵焼き等）」が50.7%と最も多く、次いで「牛乳・乳製品（ヨーグルト、チーズ等）」が49.0%、「くだもの」が44.0%となっています。

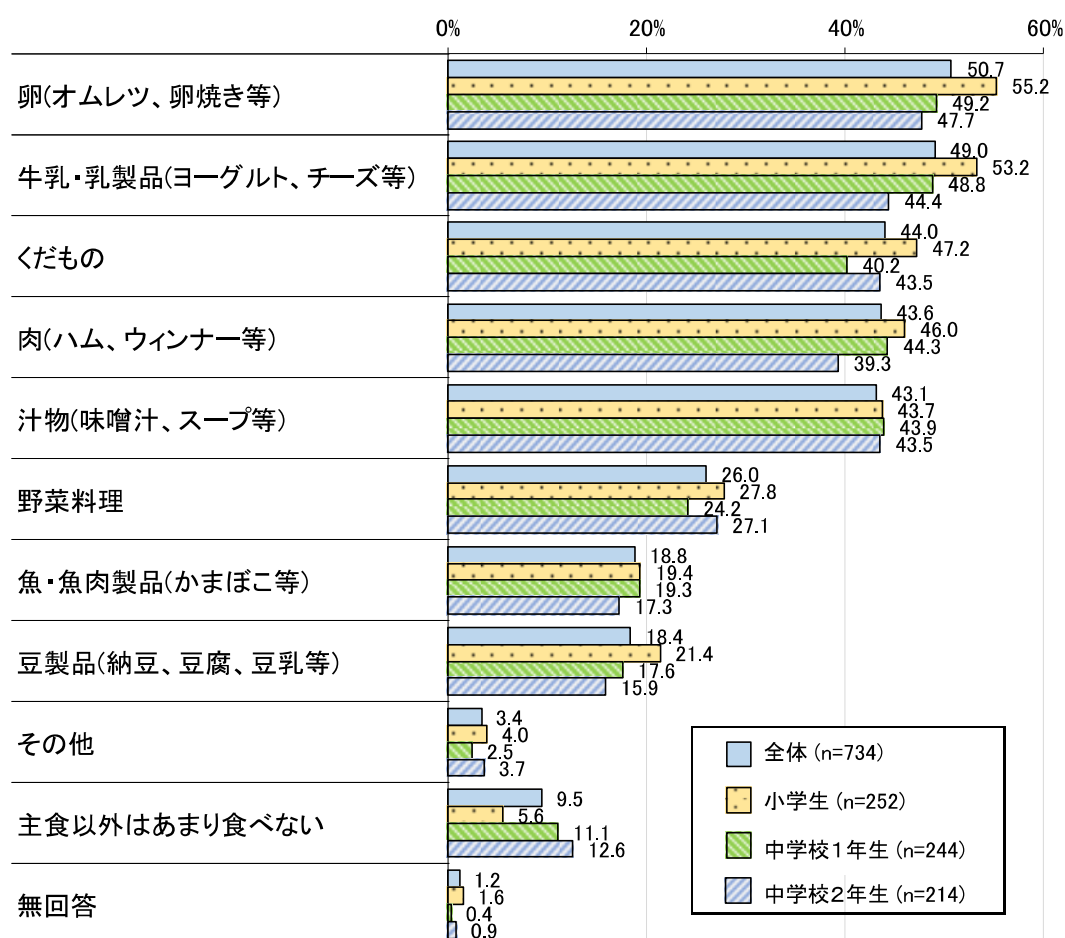
小中学生別にみると、各学年においても「卵（オムレツ、卵焼き等）」の割合が最も多くなっています。

また、学年が上がるごとに「主食以外はあまり食べない」の割合が増加しています。

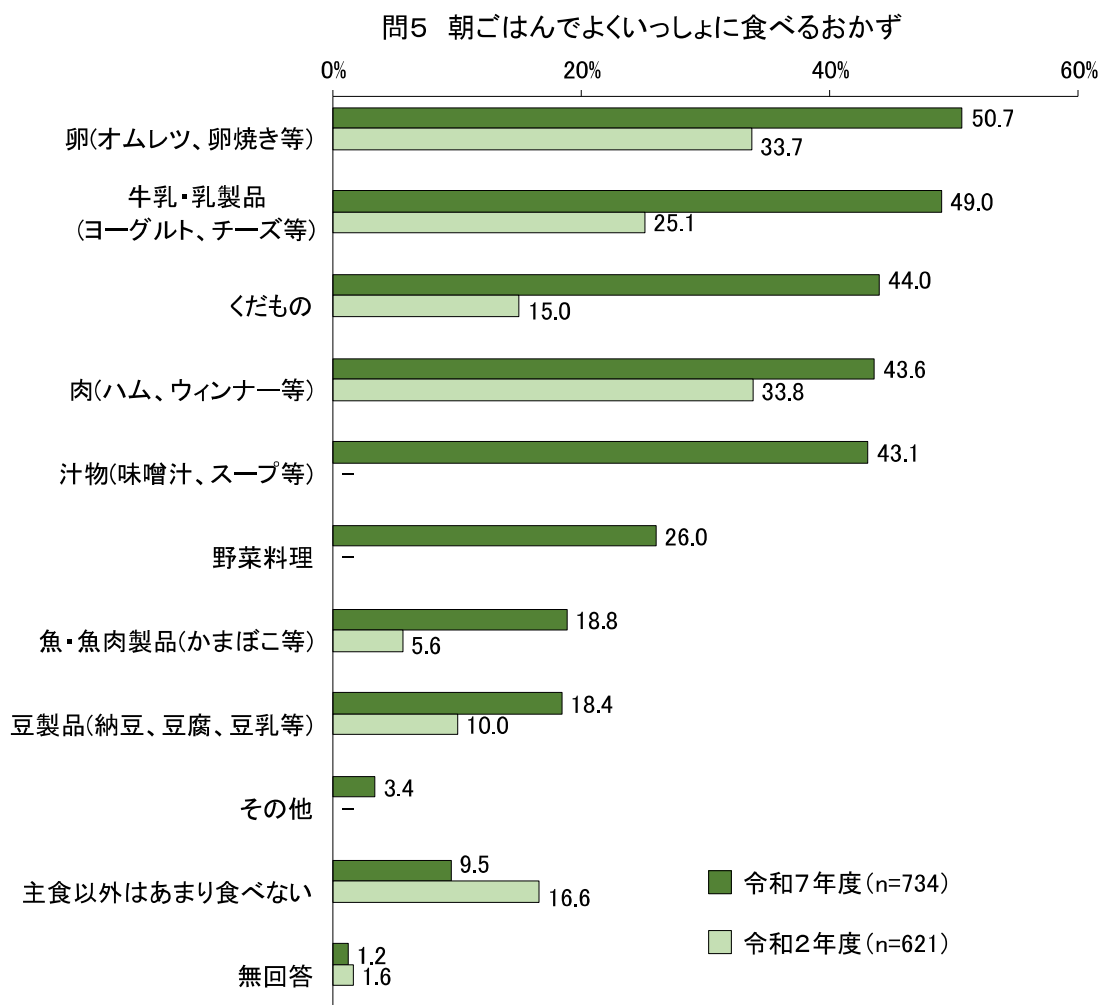
令和2年度と比較すると、「主食以外はあまり食べない」が減少しています。

小中学生別

問5 朝ごはんをよくいっしょに食べるおかず



経年比較



※令和2年度では、「汁物(味噌汁、スープ等)」、「その他」という選択肢は設けておりませんでした。また、「野菜料理」については、令和2年度では「野菜のみのおかず(サラダ、お浸し等)」、「火を通した野菜の多いおかず(野菜の煮物、具だくさんの汁物等)」と分かれている選択肢として集計されていたため、本調査の結果のみを記載しています。

問6 ふだん、家では家族といっしょに朝ごはんを食べていますか。(〇は1つ)

全体では、「家族といっしょに食べることが多い」が44.7%と最も多く、次いで「一人で食べることが多い」が33.8%、「たまに一人で食べる」が19.9%となっています。

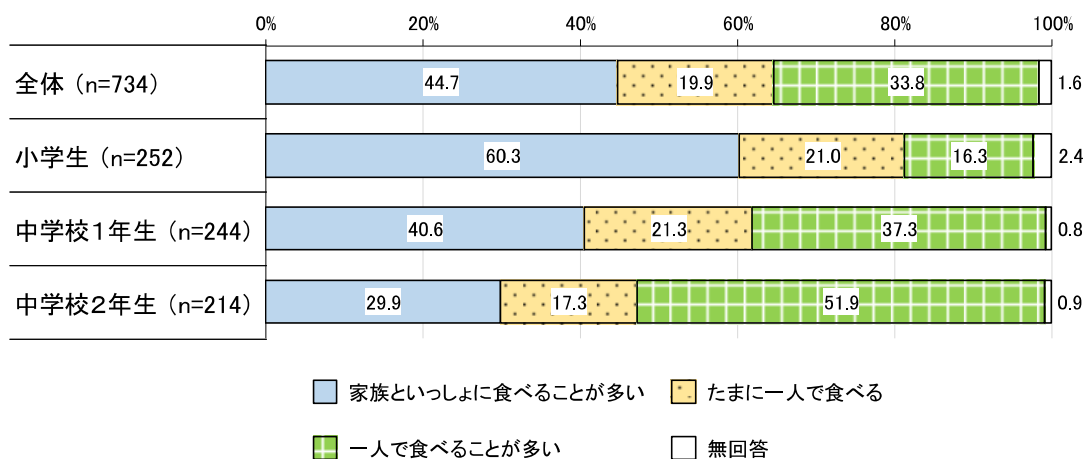
小中学生別にみると、学年が上がるごとに「家族といっしょに食べるが多い」の割合が減少しています。

また、中学校2年生では「たまに一人で食べる」と「一人で食べるが多い」を合わせた『一人で食べる』が69.2%と、他の学年に比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「たまに一人で食べる」の割合が増加しています。

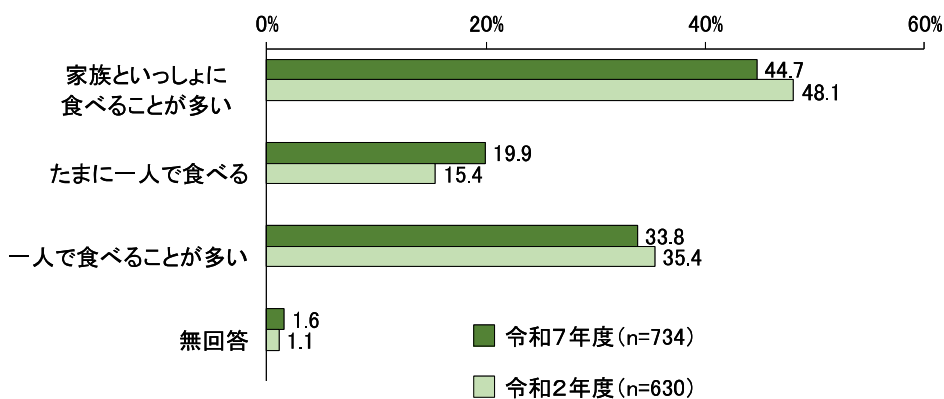
小中学生別

問6 ふだん家族といっしょに朝ごはんを食べる頻度



経年比較

問6 ふだん家族といっしょに朝ごはんを食べる頻度



(3) タごはんについて

問7 ふだん、家では家族といっしょにタごはんを食べていますか。(〇は1つ)

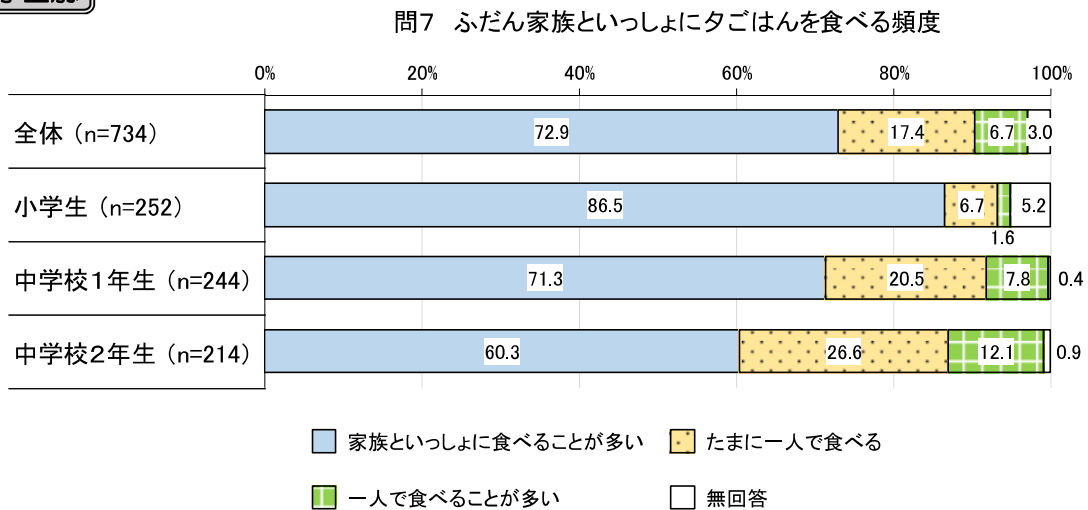
全体では、「家族といっしょに食べることが多い」が72.9%と最も多く、次いで「たまに一人で食べる」が17.4%、「一人で食べるが多い」が6.7%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「家族といっしょに食べるが多い」の割合が減少しています。

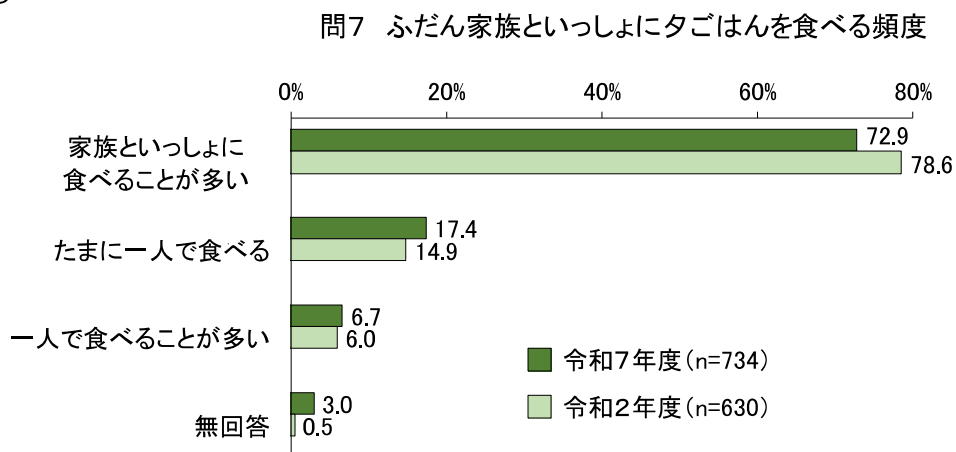
また、中学校2年生では「たまに一人で食べる」と「一人で食べるが多い」を合わせた『一人で食べる』が38.7%と、他の学年に比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、「家族といっしょに食べるが多い」の割合が減少しています。

小中学生別



経年比較



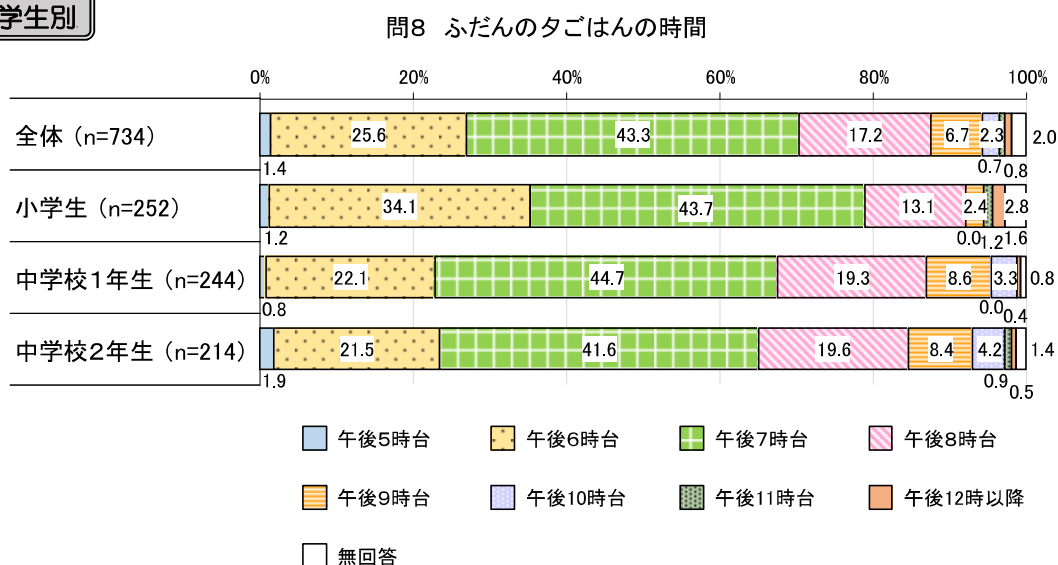
問8 ふだん夕ごはんは何時ですか。(〇は1つ)

全体では、「午後7時台」が43.3%と最も多く、次いで「午後6時台」が25.6%、「午後8時台」が17.2%となっています。

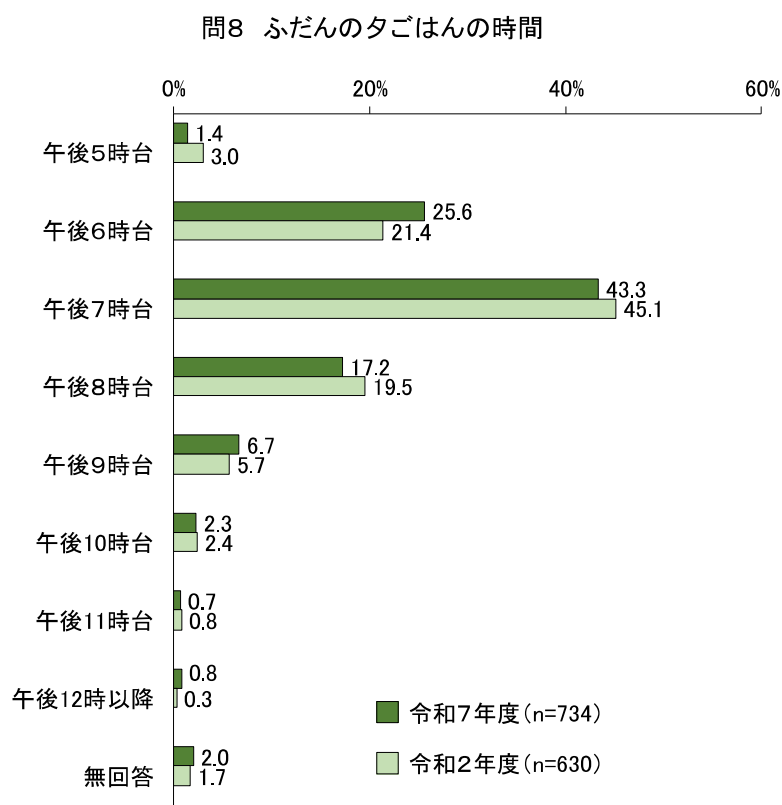
小中学生別にみると、各学年においても「午後7時台」の割合が最も多くなっています。

令和2年度と比較すると、「午後6時台」、「午後9時台」、「午後12時以降」の割合が増加しています。

小中学生別



経年比較



(4) 食事全般について

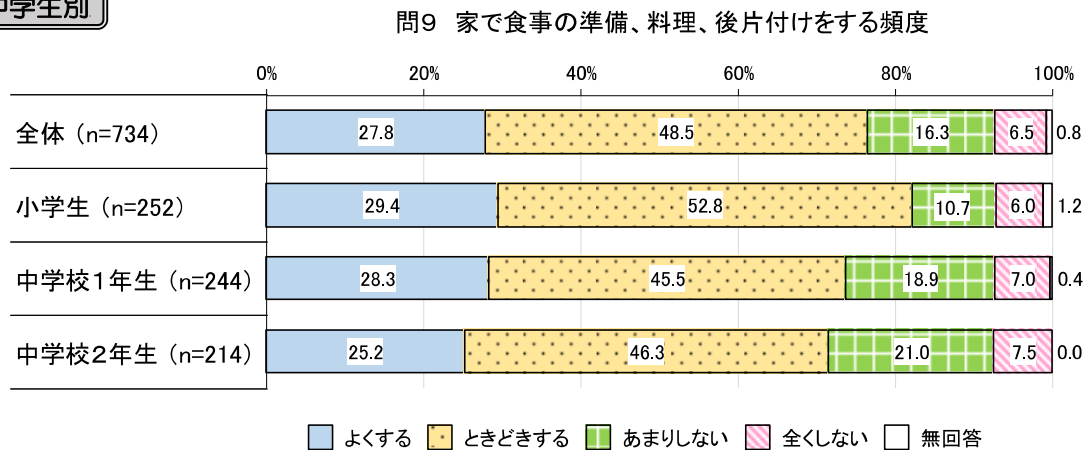
問9 家で食事の準備、料理、後片付けを手伝いますか。(〇は1つ)

全体では、「ときどきする」が48.5%と最も多く、次いで「よくする」が27.8%、「あまりしない」が16.3%となっています。

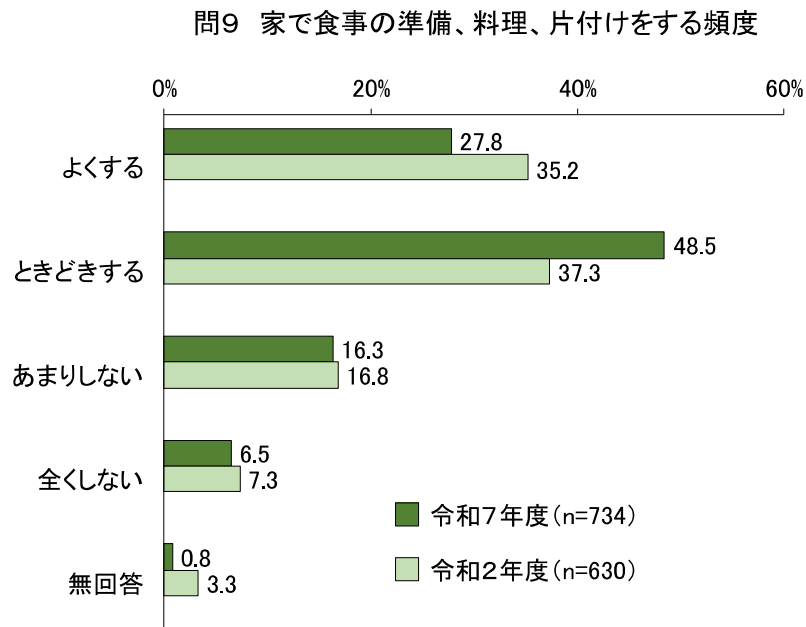
小中学生別にみると、学年が上がるごとに「よくする」の割合が減少しています。

令和2年度と比較すると、「ときどきする」の割合が増加しています。

小中学生別



経年比較

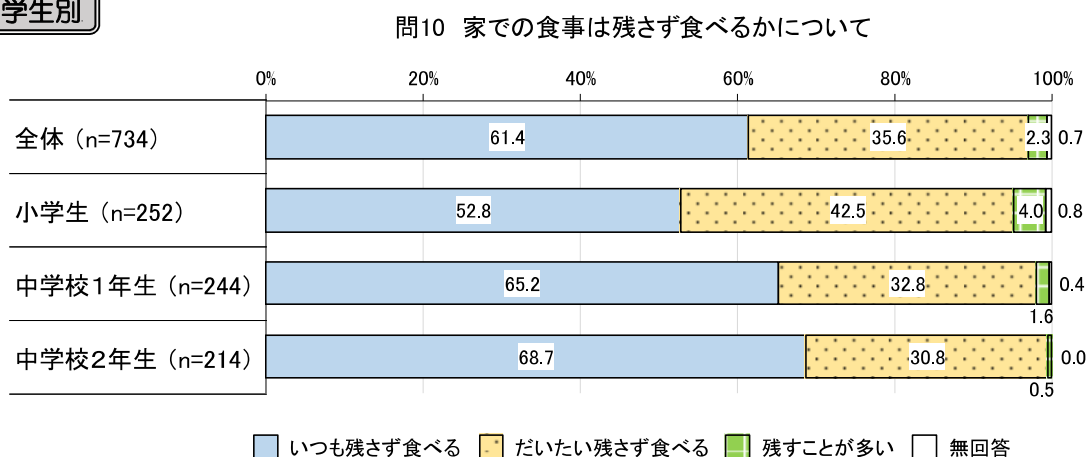


問10 家での食事は残さず食べますか。(〇は1つ)

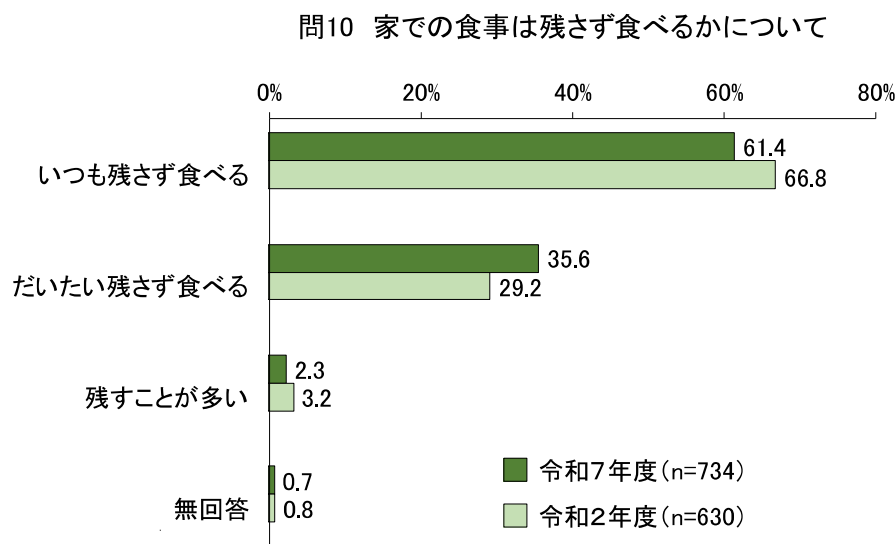
全体では、「いつも残さず食べる」が61.4%と最も多く、次いで「だいたい残さず食べる」が35.6%、「残すことが多い」が2.3%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「いつも残さず食べる」の割合が増加しています。また、小学生では「残すことが多い」が4.0%と、他の学年に比べて多い割合となっています。令和2年度と比較すると、「だいたい残さず食べる」の割合が増加しています。

小中学生別



経年比較



問11(1) 平日に、1日で主食と主菜と副菜のそろった食事を何回していますか。
(○は1つ)

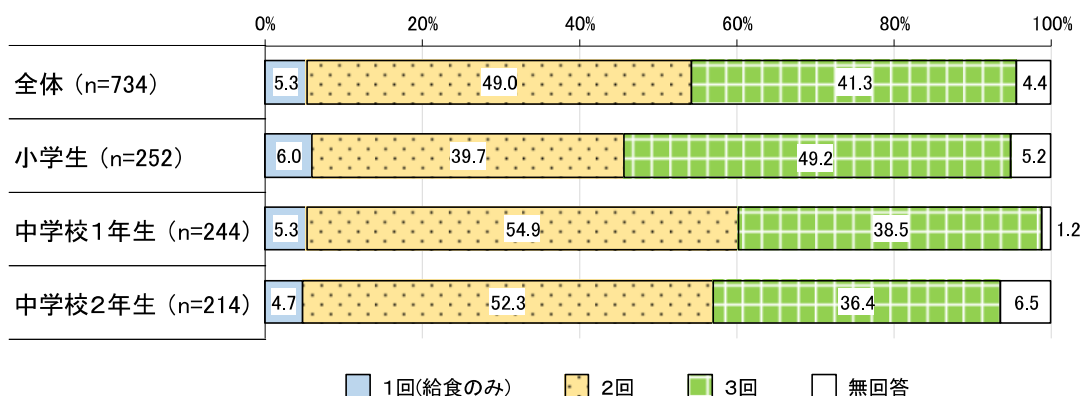
全体では、「2回」が49.0%と最も多く、次いで「3回」が41.3%、「1回(給食のみ)」が5.3%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「3回」の割合が減少しています。

令和2年度と比較すると、「3回」の割合が増加しています。

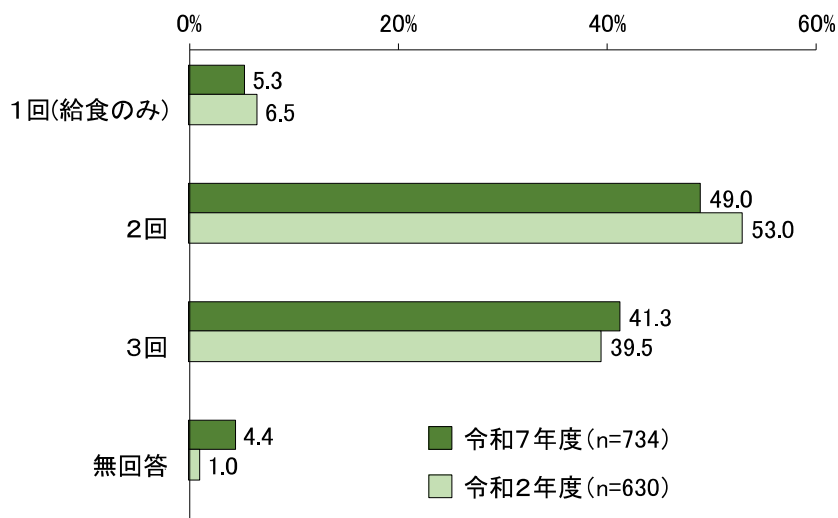
小中学生別

問11(1) 1日で主食、主菜、副菜のそろった食事を何回しているか



経年比較

問11(1) 1日で主食、主菜、副菜のそろった食事を何回しているのか



問 11 (2) 給食のない日には、1日で主食と主菜と副菜のそろった食事を何回していますか。(〇は1つ)

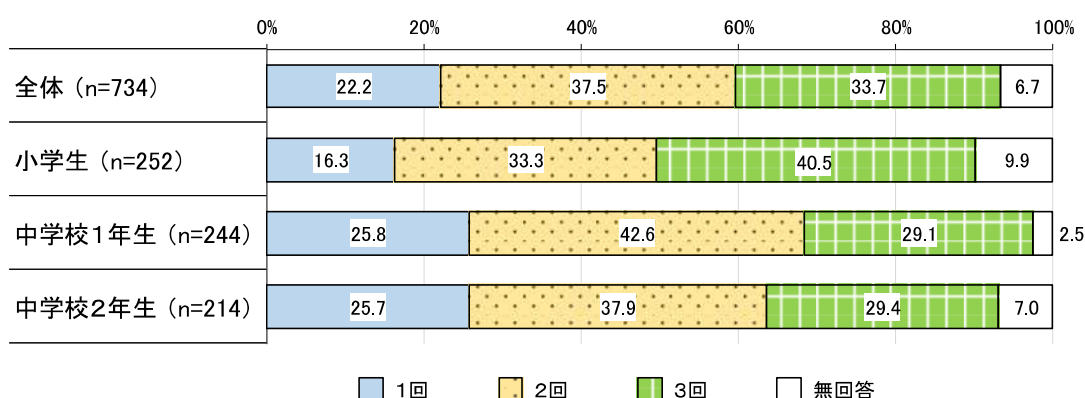
全体では、「2回」が37.5%と最も多く、次いで「3回」が33.7%、「1回」が22.2%となっています。

小中学生別にみると、小学生では「3回」が40.5%と、中学校1年生、2年生よりも多くなっています。

令和2年度と比較すると、「1回」の割合が増加しています。

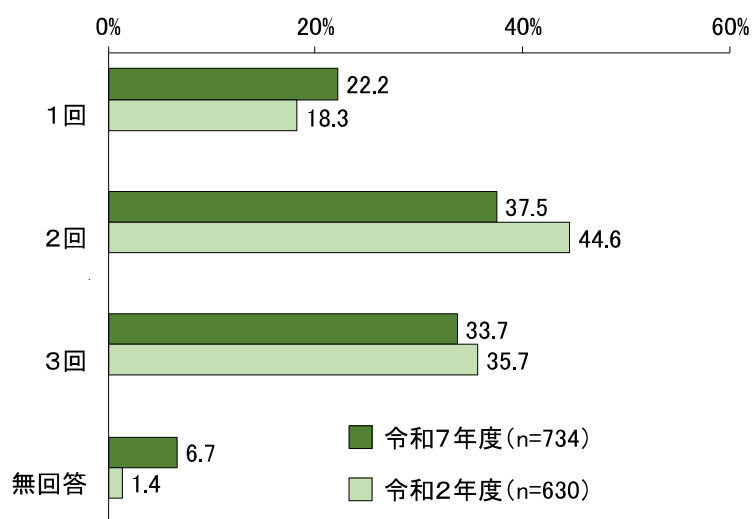
小中学生別

問11(2) 給食のない日には主食、主菜、副菜のそろった食事を何回しているか



経年比較

問11(2) 給食のない日には主食、主菜、副菜のそろった食事を何回しているか



問12 給食のない日には、牛乳を1日コップ一杯以上飲みますか。(〇は1つ)

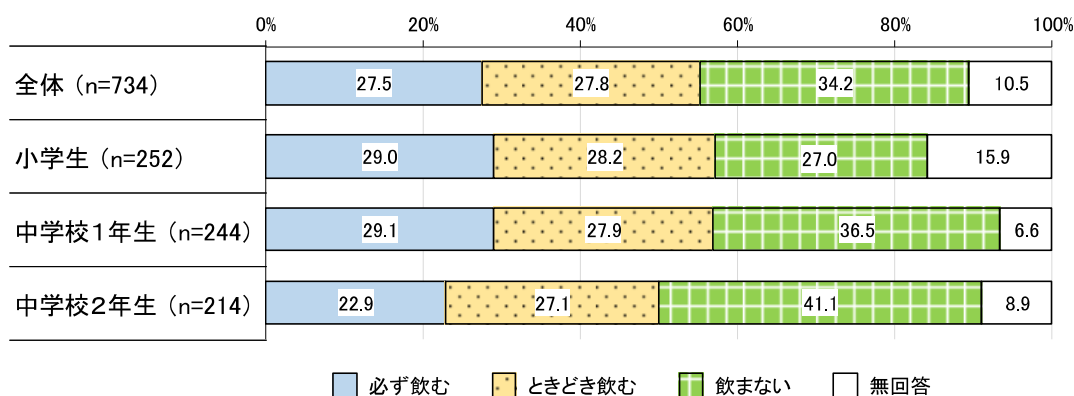
全体では、「飲まない」が34.2%と最も多く、次いで「ときどき飲む」が27.8%、「必ず飲む」が27.5%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「飲まない」の割合が増加しています。

令和2年度と比較すると、全ての項目で割合が減少しています。

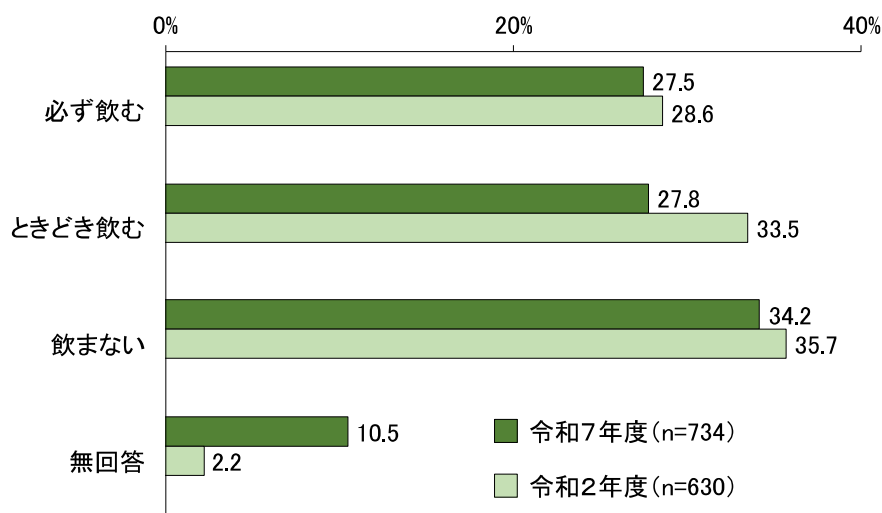
小中学生別

問12 給食のない日に牛乳を1日コップ一杯以上飲む頻度



経年比較

問12 給食のない日に牛乳を1日コップ一杯以上飲む頻度



問13 あなたがふだんよく食べる間食(おやつ)はどんなものですか。(〇はいくつでも)

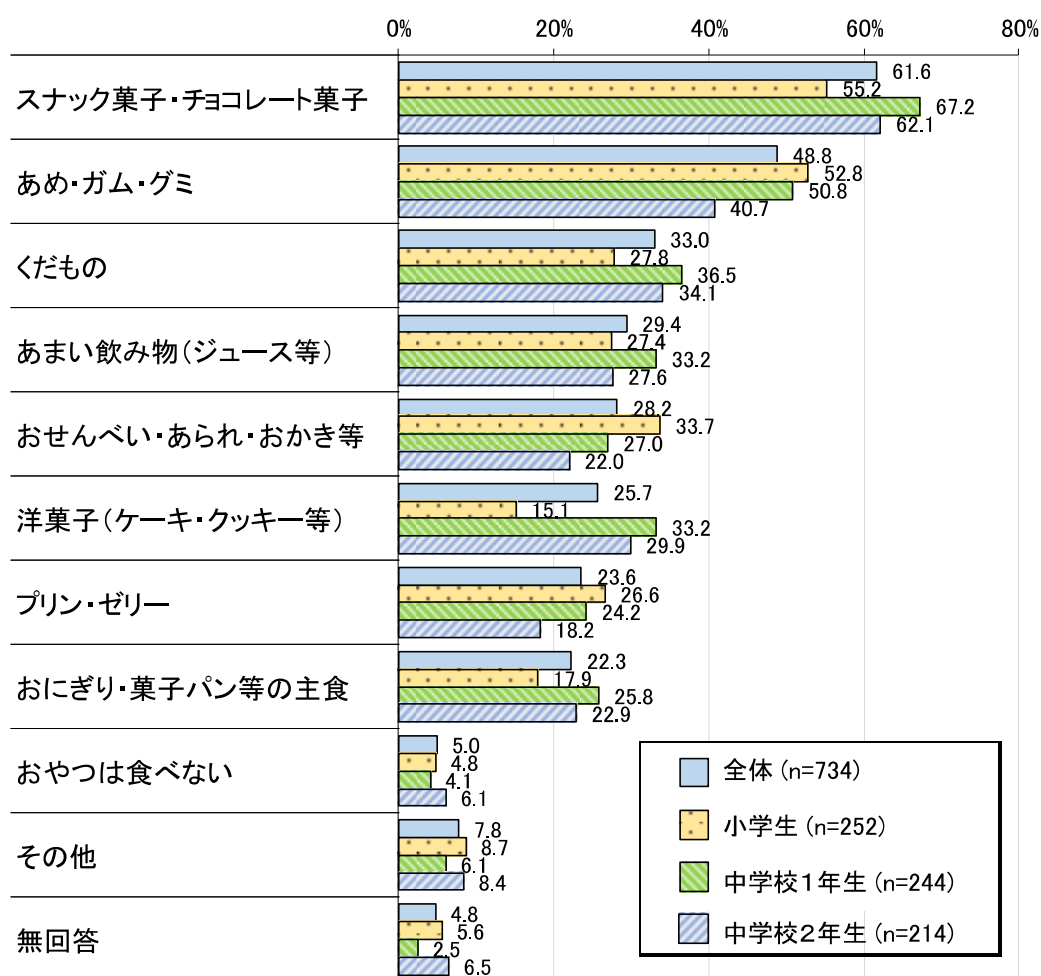
全体では、「スナック菓子・チョコレート菓子」が61.6%と最も多く、次いで「あめ・ガム・グミ」が48.8%、「くだもの」が33.0%となっています。

小中学生別にみると、各学年においても「スナック菓子・チョコレート菓子」の割合が最も多くなっています。

また、中学校2年生では「おやつは食べない」が6.1%と、小学生、中学校1年生よりも多くなっています。

小中学生別

問13 ふだんよく食べる間食(おやつ)



(5) 自分の体について

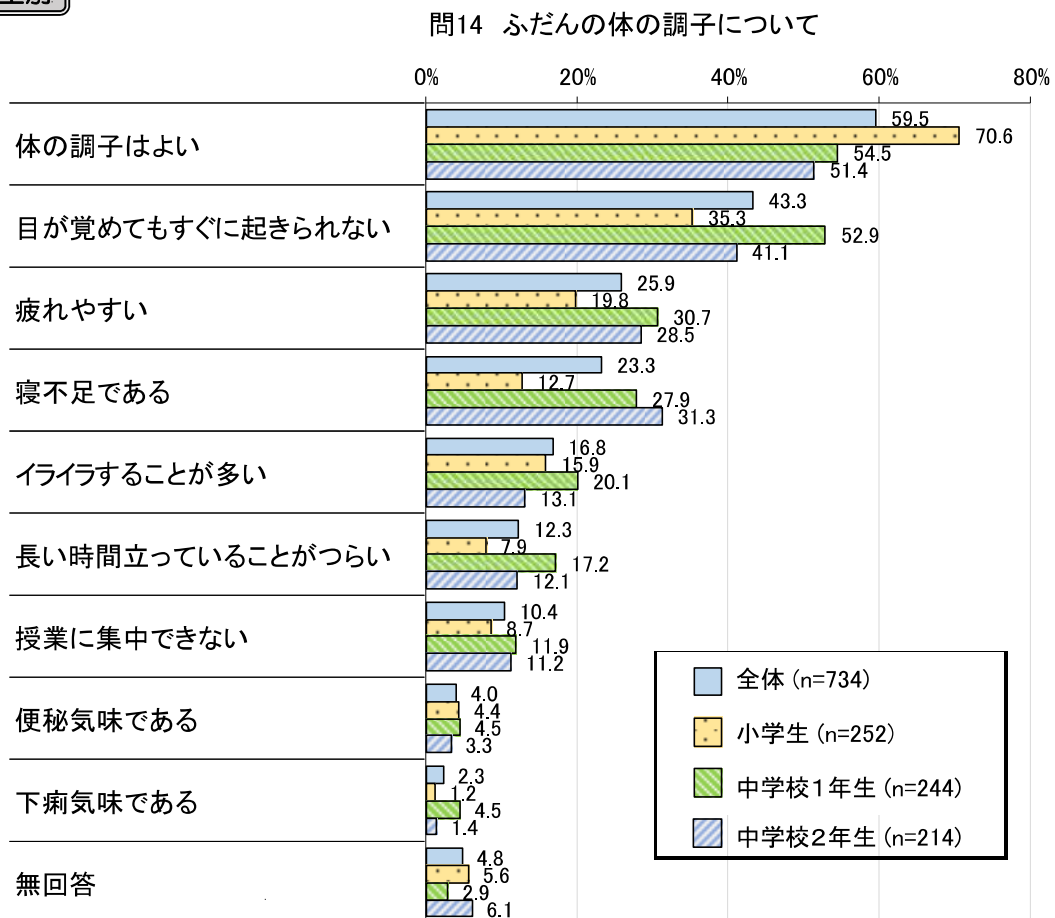
問14 ふだんの体の調子についてあてはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

全体では、「体の調子はよい」が59.5%と最も多く、次いで「目が覚めてもすぐに起きられない」が43.3%、「疲れやすい」が25.9%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「体の調子はよい」の割合が減少している一方、「寝不足である」の割合は増加しています。

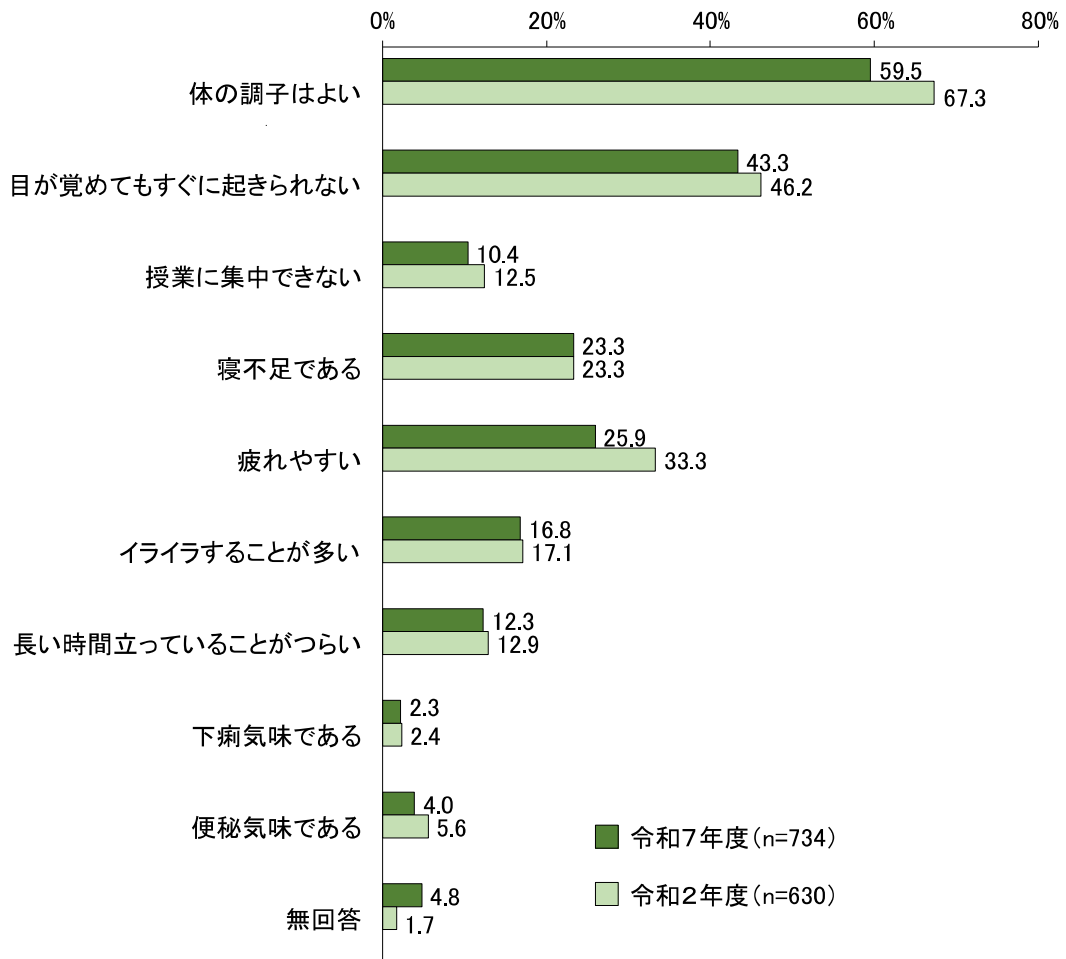
令和2年度と比較すると、「寝不足である」を除く全ての項目で割合が減少しています。

小中学生別



経年比較

問14 ふだんの体の調子について



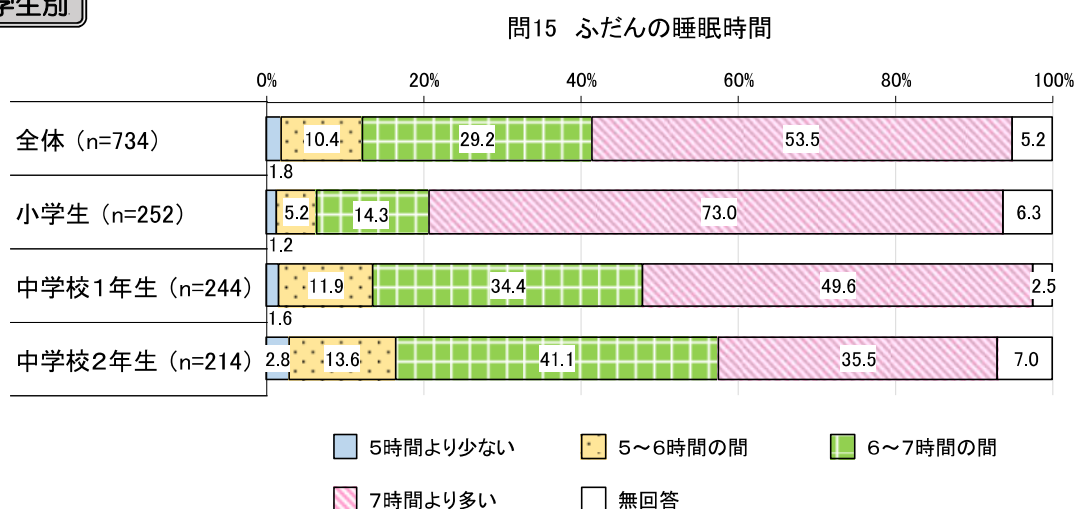
問 15 ふだんの睡眠時間はどのくらいですか。(〇は1つ)

全体では、「7時間より多い」が53.5%と最も多く、次いで「6～7時間の間」が29.2%、「5～6時間の間」が10.4%となっています。

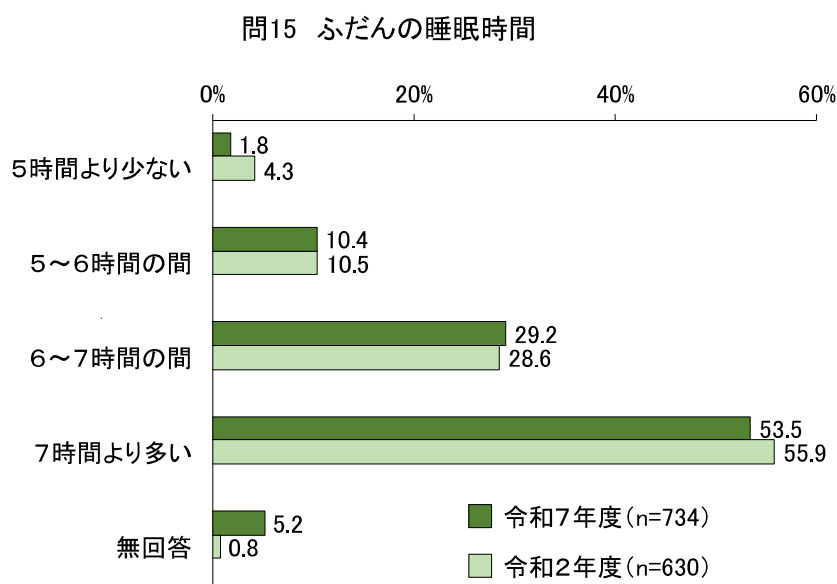
小中学生別にみると、学年が上がるごとに「7時間より多い」の割合が減少しています。特に中学校2年生では35.5%と、小学生と比べて37.5ポイント減少しています。

令和2年度と比較すると、「6～7時間の間」の割合が増加しています。

小中学生別



経年比較



(6) 給食について

問 16 次の給食に関係している事柄から知っているものを選んでください。

(○はいくつでも)

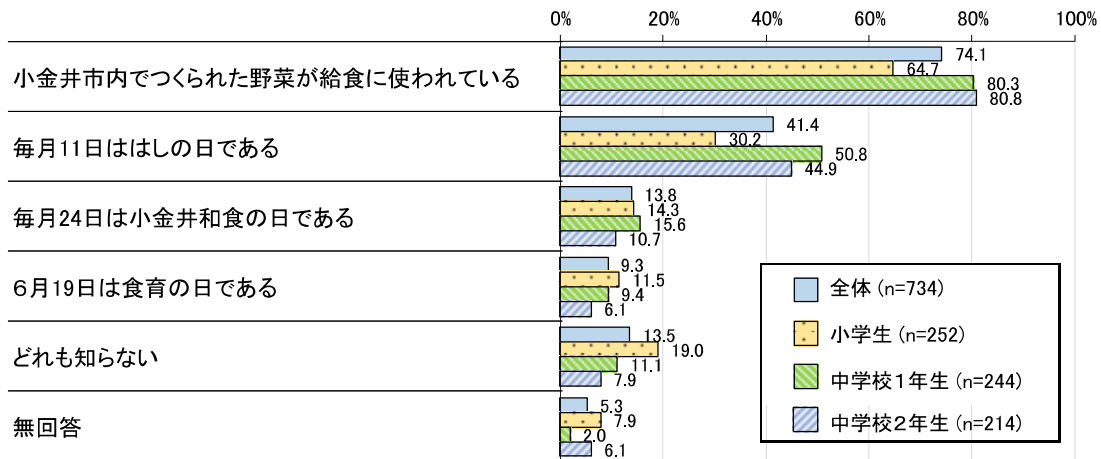
全体では、「小金井市内でつくられた野菜が給食に使われている」が74.1%と最も多く、次いで「毎月11日ははしの日である」が41.4%、「毎月24日は小金井和食の日である」が13.8%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「どれも知らない」の割合が減少しており、小学生では19.0%と、ほかの学年に比べて多い割合となっています。

令和2年度と比較すると、全ての項目で割合が減少しています。

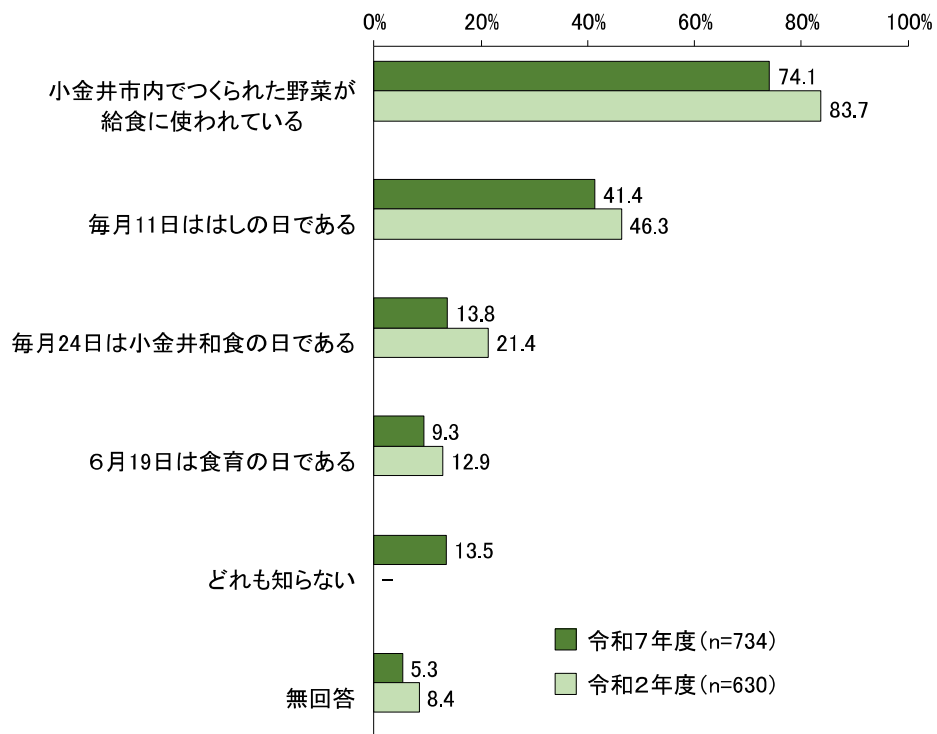
小中学生別

問16 給食に関係している事柄について知っているもの



経年比較

問16 給食に関係している事柄について知っているもの



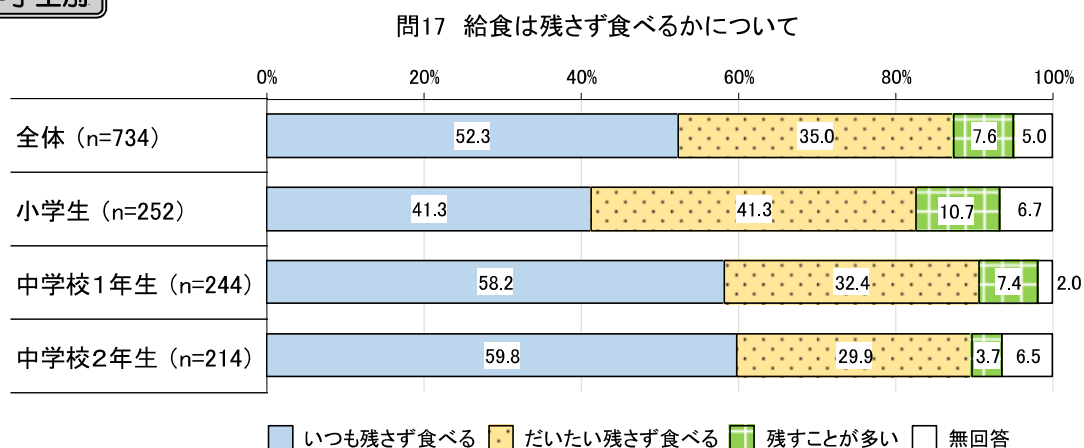
※令和2年度では、「どれも知らない」という選択肢は設けておりませんでした。

問17 給食は残さず食べますか。(〇は1つ)

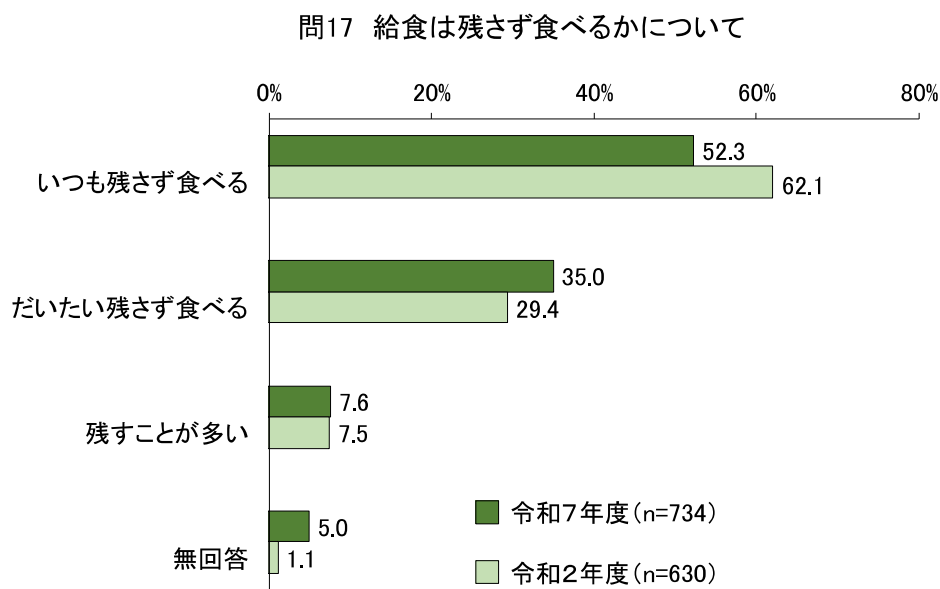
全体では、「いつも残さず食べる」が52.3%と最も多く、次いで「だいたい残さず食べる」が35.0%、「残すことが多い」が7.6%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「いつも残さず食べる」の割合が増加しています。令和2年度と比較すると、「いつも残さず食べる」の割合が減少しています。

小中学生別



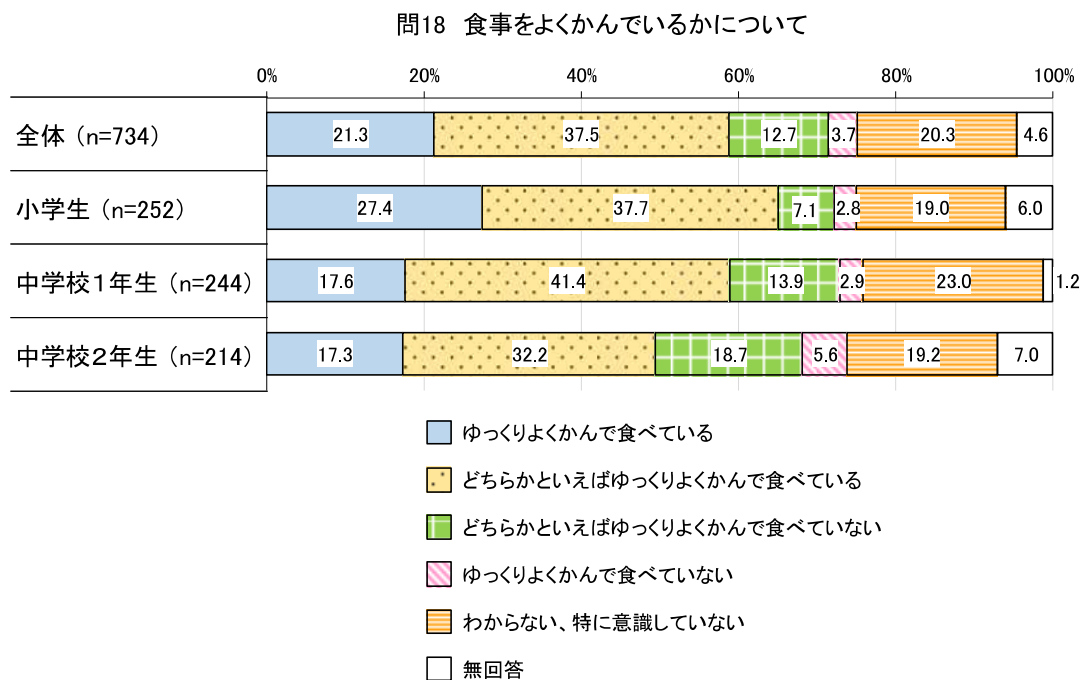
経年比較



問18 あなたはふだんからゆっくりよくかんで食べていますか。(〇は1つ)

全体では、「どちらかといえばゆっくりよくかんで食べている」が37.5%と最も多く、次いで「ゆっくりよくかんで食べている」が21.3%、「わからない、特に意識していない」が20.3%となっています。

小中学生別にみると、学年が上がるごとに「ゆっくりよくかんで食べている」の割合が減少しています。



Ⅲ 調査票

(1) 一般市民調査票

小金井市民の食育に関するアンケート調査 ご協力をお願い

小金井市は平成20年6月に小金井市食育推進計画を策定し、「野菜」「肉らん」「ぶれあい」「環境」をキーワードとする「小金井らしい食生活」のあるひとづくり・まちづくりを“Koganei-Style”として、展開してきました。

本計画では、「食育とは、食に関する健全で豊かなライフスタイルを自ら選び、実践する力を育てること」と定義し、市民ひとりひとりが、健康的で心豊かな食生活の実現ができるよう、市民・生産者・事業者・各種団体等が、連携し、協働することによって推進していきます。

現在の計画は令和8年度が最終年度となるため、令和9年3月までに「第5次小金井市食育推進計画」の策定を目指しています。

この度、平成28年度、令和2年度に続き、小金井市民の食への意識を明らかにし、食育のあり方を検討するための調査を実施することになりました。この調査で皆さまの栄養や食育に関する意識や考え方、食習慣についての実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、食育事業の推進や計画改定に反映していきたいと考えております。

つきましては、お忙しいところ恐縮ですが、本調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、この調査は、令和7年10月1日を基準日として、市内にお住まいの満18歳以上の方2,000人を無作為抽出して、調査票をお送りしています。

ご記入いただいた内容について、個人の情報が公表されることはありませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

令和7年11月

小金井市

〈ご回答にあたって〉

○封筒に記載されている宛名の方がご回答ください。

○回答方法は「①アンケート用紙で回答」と「②Webで回答」があります。どちらか一方の方法で回答してください。

○返期間は31問程度あります。回答にかかる時間は、約10分です。

○回答いただいた調査内容は、市の食育に関する施策の検討のみ利用させていただくものであり、回答者個人が特定されたり、個々の内容が他に漏れたり、他の目的に利用したりすることは一切ございません。

○回答したくない質問には、回答いただく必要はございません。

○**令和7年11月21日(金)**までにアンケート用紙のご返送もしくはWebでのご回答をお願いいたします。


①アンケート用紙で回答

1. 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
2. 回答は、選択肢に○をつけてお答えいただく場合と、文章等を記入いただく場合があります。
3. 選択肢の場合、お選びいただく数が設問によって異なりますので、注意書きに従ってください。また「その他」をお選びいただいた場合は、その後にある()内に具体的な内容を記入してください。
4. 調査票の記入が済みましたら、同封の茶色の返信用封筒にいれて、郵便ポストに投函してください。(切手は不要です)

②Webで回答

Webでご回答する方は、パソコン、タブレット、スマートフォンなどで下記のURLか、二次元コードから回答画面にアクセスし、IDを入力の上画面の指示に従って回答してください。

URL https://www15.webcas.net/form/pub/enquete/k_syokuiku

ID 

※重複回答確認のための番号であり、個人を特定するためのものではありません。

《この調査に関するお問い合わせ先》
 小金井市 福祉保健部 健康課
 042-321-1240

あなたのことについておたずねします。

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

1. 男性 2. 女性 3. そのほか

問2 アンケートに答えてくださるあなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

1. 18～19歳 2. 20歳代 3. 30歳代
4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代
7. 70歳以上

問3 あなたの現在の世帯構成はどのようになっていますか。(○は1つ)

1. 一人暮らし 2. 配偶者のみ
3. 親と子 (2世帯) 4. 祖父母と親と子 (3世帯)
5. その他 ()

問4 あなたの職業は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

1. 自営業
2. 正規雇用 (正社員など)
3. 非正規雇用 (契約社員、嘱託社員、パート、アルバイトなど)
4. 家事専業
5. 学生
6. 無職
7. その他 ()

問5 あなたは毎年健康診断を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けている 2. 受けていない

問6 あなたは定期的に歯科検診を受けていますか。(○は1つ)

1. 受けている 2. 受けていない

問7 新型コロナウイルス感染症の流行前と現在を比較して、食生活に変化はありましたか。

(①～⑩それぞれに○は1つ)

	増えた	変わらない	減った
①一人で食事をとる	1	2	3
②家族と一緒に食事をとる	1	2	3
③自炊をする	1	2	3
④自宅で食事をとる (レトルト・総菜・テイクアウト)	1	2	3
⑤飲食店で食事をとる	1	2	3
⑥宅配を利用する	1	2	3
⑦近くの店で買い物をする	1	2	3
⑧買い物物の購入量を増やして備蓄する	1	2	3
⑨規則正しい時間に食事をとる	1	2	3
⑩間食をする	1	2	3
⑪飲酒をする	1	2	3

問8-1 あなたが食生活で不安に思っていることはありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ → 【問9-1へ】

【問8-1で「1」と答えた方に伺います】

問8-2 食生活で不安に思っていることをこちらの自由記述欄にご記入ください。

.....

.....

.....

.....

.....

【全真に伺います】

問9-1 あなたは食物アレルギーがありますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ → 【問10-1へ】

【問9-1で「1」と答えた方に伺います】

問9-2 該当するアレルギーを教えてください。(○はいくつでも)

(1～13に当てはまらない場合は、「14. その他」に食品名をご記入ください。)

1. えび 2. かに
 3. ナッツ類 (くるみ、アーモンド、カシューナッツ) 4. 小麦・小麦粉製品
 5. そば 6. 卵
 7. 乳 8. 落花生
 9. ごま 10. くだもの
 11. 魚介・魚卵 12. 大豆・大豆製品
 13. 肉類 14. その他 ()

【問9-1で「1」と答えた方に伺います】

問9-3 食物アレルギーがあることでお困りのことは、ありますか。(○は1つ)

1. ある 2. ない

【問9-3で「1」と答えた方に伺います】

問9-4 食物アレルギーでお困りのことをこちらの自由記述欄にご記入ください。

【「食育」への関心についておたずねします。】

問10-1 あなたは、「食育」(※)という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つ)

※「食育」とは、生きる上で、生きる基本であり、知育・徳育及び体育の基礎となるもので、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができ、人間を育てることをいいます。

1. 言葉も聞いたことがあり、意味も知っている
 2. 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない
 3. 言葉も聞いたことがないし、意味も知らない → 【問10-4へ】

【問10-1で「1」～「2」と答えた方に伺います】

問10-2 日ごろから「食育」に関する活動や行動をしていますか。(○は1つ)

1. 積極的にしている 2. するようにしている
 3. あまりしていない 4. したいと思っているが実際にはしていない
 5. したいとは思わないし、していない

【問10-2で「1」～「2」と答えた方に伺います】

問10-3 「食育」に関する活動や行動内容をこちらの自由記述欄にご記入ください。

【全員に伺います】

問 10-4 平成 17 年に定められた食育基本法では毎月 19 日は食育の日、毎年 6 月は食育月間と定められていることを知っていますか。(○は 1 つ)

1. どちらも知っている 2. 食育の日だけ知っている
3. 食育月間だけ知っている 4. 両方とも知らない

問 11-1 あなたが参加したことのある小金井市の食育のイベントや、あなたが行ったこととがある食育に関する取組みは何ですか。(○はいくつでも)

1. 小金井市食育ホームページの閲覧
2. 食育ミニバンフレット等の食育に関するチラシの取得
3. 保健センターで実施された食育に関する教室、実習、相談
4. 保健センター以外の市内公共施設（公民館等）で実施された食育に関する教室、実習、相談
5. 保育所・幼稚園・小学校・中学校で実施された食育に関する教室、実習、相談
6. 市内農業体験等の参加
7. 産業祭等市内の食に関するイベントの参加
8. 食品廃棄物のリサイクル等の取組
9. 参加したことはない
10. 行っていることを知らない
11. その他 ()

問 11-2 あなたはどのような食育活動に参加してみたいと思いますか。(○は 3 つまで)

1. 生活習慣病予防などのための料理教室
2. 食生活の知識普及に関する活動
3. 郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動
4. 食品の安全や表示に関する活動
5. 食品ロスや食品リサイクルに関する活動
6. 農林漁業などに関する体験活動
7. 食育に関する国際交流活動
8. その他 ()
9. 特にない

現在の食生活・生活習慣についておたずねします。

問 12-1 あなたは普段朝食を食べますか。(○は 1 つ)

1. 食べる 2. 食べない → 【問 13-1へ】

【問 12-1 で「1」と答えた方に向きます】

問 12-2 あなたは、朝食で主食に何をよく食べますか。(○は 3 つまで)

1. ごはん 2. 食パン・ロールパン
3. 菓子パン・調理パン 4. めん類
5. シリアル 6. その他 ()
7. 主食は食べない

【問 12-1 で「1」と答えた方に向きます】

問 12-3 あなたは、朝食で主食以外に主に何をよく食べますか。(○はいくつでも)

1. 魚・魚肉製品 2. 肉（ハム、ウィンナー等）
3. 卵（オムレツ、卵焼き等） 4. 牛乳・乳製品（ヨーグルト、チーズ等）
5. 豆製品（納豆、豆腐、豆乳等） 6. 野菜料理
7. 汁物（味噌汁、スープ等） 8. 果物
9. その他 ()
10. 主食以外あまり食べない

【問 12-1 で「2」と答えた方に向きます】

問 13-1 あなたが朝食を食べない最も大きな理由は何ですか。(○は 1 つ)

1. 時間がないから 2. 食欲がわかないから
3. 朝食を食べるより寝ていたいから 4. 減量（ダイエット）をしているから
5. 朝食が用意されていないから 6. 以前から食べる習慣がないから
7. 食べたり準備するのが面倒だから 8. 食べなくても体調が悪くないから
9. 食べなくても何も困っていないから
10. その他 ()

【問 12-1 で「2」と答えた方に向きます】

問 13-2 あなたはいつ頃から朝食を食べなくなりましたか。(○は 1 つ)

1. 幼年期（0-4 歳） 2. 少年期（5-14 歳） 3. 青年期（15-24 歳）
4. 壮年期（25-44 歳） 5. 中年期（45-64 歳） 6. 高齢期（65 歳以上）
7. 覚えていない

【食事に伺います】

問 14 あなたは次の各々の項目について、できていますか、できていない場合、改善したいと思えますか。
 (①～⑩それぞれに○は1つ)

	できている	改善したい	改善するつもりはない
①栄養バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜)をする	1	2	3
②1食につき副菜(野菜類)を1～2皿(70g～140g)食べる	1	2	3
③塩分を摂りすぎないようにする(減塩)	1	2	3
④適正体重を維持する	1	2	3
⑤牛乳・乳製品を毎日200g程度摂る(※牛乳1杯=約200g)	1	2	3
⑥果物を毎日200g程度食べる(※100gの目安:キウイ1個、バナナ1本、みかん1個、りんご・なし1/2個)	1	2	3
⑦食事時間を規則正しくする	1	2	3
⑧水分補給は、水かお茶(無糖)にする	1	2	3
⑨自炊をする(食事はできるだけ手作りする)	1	2	3
⑩食事はよく噛んでゆっくり食べる	1	2	3
⑪食事を「噛む」、「飲み込む」が問題なくできる	1	2	3
⑫食品ロスを少なくするような食事作りをする	1	2	3
⑬小金井市産の野菜を用いて作る	1	2	3
⑭食後には、歯をみがく	1	2	3
⑮適度な運動を心がけている	1	2	3
⑯魚や大豆製品を積極的に食べる	1	2	3
⑰間食(甘いお菓子やスナック菓子など)を控える	1	2	3
⑱お酒を減らす	1	2	3
⑲食事のマナーに気を付けている	1	2	3

問 15 あなたは、普段の食事において1日で野菜をどれくらい食べますか。
 (例を参考に○は1つ)

- 1. ほとんど食べない
- 2. 付け合わせ程度(30g)
- 3. 小鉢1皿程度(70g程度)
- 4. 小鉢2皿程度(140g程度)
- 5. 小鉢3皿程度(210g程度)
- 6. 小鉢4皿程度(280g程度)
- 7. 小鉢5皿程度(350g程度)

(例)

付け合わせ程度(30g)		小鉢1皿程度(70g程度)	
小鉢2皿程度(140g程度)		小鉢3皿程度(210g程度)	
小鉢4皿程度(280g程度)		小鉢5皿程度(350g程度)	

問 16-1 あなたが小金井市内で採れた野菜を買うことはありますか。(○は1つ)

- 1. いつも買う
- 2. 時々買う
- 3. たまに買う
- 4. ほとんど買わない
- 5. 全く買わない
- 6. 販売されていることを知らない

問 16-2 あなたがふだん野菜を買う時に配慮していることはありますか。
 (○はいくつでも)

- 1. 鮮度
- 2. 無農薬・減農薬のもの
- 3. 価格
- 4. 季節のもの
- 5. 産地
- 6. 扱いやすいもの(洗うだけで使える等)
- 7. その他()
- 8. 特に配慮していない

問 16-3 あなたは野菜を栽培したことはありませんか。(○は1つ)

1. よくある 2. たまにある 3. ほとんどない 4. 全くない

問 16-4 あなたは野菜や果物の生産地に向いて収穫したことがありますか。(○は1つ)

1. よくある 2. たまにある 3. ほとんどない 4. 全くない

問 17 あなたは、食品ロス削減につながる行動をしていますか。(○はいくつでも)

1. 買い物をする時に必要な量だけ購入する
2. 見切り品や値引き品を購入する
3. 買い物をする時は手前取りを行っている
4. 賞味期限を正しく理解し捨てずに食べられるかどうかの判断をしている
5. 無駄なく使いきるよう工夫して調理している
6. 宴会などでではできるだけ料理を食べきるようにしている
7. 外食で食べきれなかった食品はできるだけ持ち帰る
8. 家庭で余っている食べ物を持ち寄り、福祉団体や施設などへ寄付する(フードドライブ)
9. 食品ロス削減推進協力店・事業所で買い物や食事をしている
10. 食品ロス削減マッチングサービスのアプリ(小金井カメサケ)を利用している
11. 特にしていない
12. その他 ()

問 18 あなたは、過去1年の間に、フードドライブ(※)等による食品の無料配布を受け取ったことがありますか。(○は1つ)

※「フードドライブ」とは、ご家庭で余っている食品を回収し、市内外の食に困っている方及び福祉団体などにお届けする取組をいいます。

1. 利用したことがある 2. 利用したことがない 3. 取組を知らない

問 19 あなたは、どのくらい家族と一緒に食事をしていますか。(○は1つ)
(①～②それぞれに○は1つ)

	ほとんど毎日	週に4～5日	週に2～3日	ほとんどしていません
①朝食	1	2	3	4
②夕食	1	2	3	4

問 20-1 あなたは、家族で外食することがありますか。(○は1つ)

1. ほぼ毎日 2. 週4～5回程度 3. 週2～3回程度
4. 週1回程度 5. 月1回程度 6. 外食しない

【問 20-1 で「1」～「5」と答えた方に伺います】

問 20-2 あなたが外食をする時、何に重点をおいて選んでいますか。(○は3つまで)

1. その時食べたいもの
2. 主食(ごはん、めん、パン)で決める
3. メニューで決める(すし、焼き肉等)
4. お店の評判
5. 価格や量
6. 行きつけ
7. 栄養や安全性
8. 食文化(中華、イタリアン等)
9. 特にない
10. その他 ()

【全員に伺います】

問 21 あなたは、家族以外の誰か(友人や職場の同僚等)と一緒に食事をする機会について、どのように思っていますか。

また、家族以外の誰かと一緒に食事する頻度についてもお答えください。

(①～②それぞれに○は1つ)

①参加意向	1. 一緒に食事をしたいと思っていて、参加もしている 2. 一緒に食事をしたいと思っているが、参加していない 3. 一緒に食事をする機会は必要ない 4. その他 ()
②食事頻度	1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日程度 3. 週に2～3日程度 4. 月に数日 5. 全くしない

問 22 あなたの世帯では、過去1年の間に、こども食堂（※）を利用したことがありますか。（○は1つ）

※「こども食堂」とは、無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する場をいいます。

1. 利用したことがある 2. 利用したことがない 3. こども食堂を知らない

問 23-1 あなたは、夕食に中食（調理済み食品：弁当、総菜など）をどのくらいの頻度で利用しますか。（○は1つ）

1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日程度 3. 週に2～3日程度
4. 月に数日 5. ほとんど利用しない 6. わからない

【問 23-1 で、「1」～「4」と答えた方に伺います】

問 23-2 中食（調理済み食品：弁当、総菜など）を利用する理由を教えてください。（○はいくつでも）

1. 時間がない時
2. 作るのが面倒な時
3. 何を作るか思いつかない時
4. 食材の安い物から考えるのが大変だから
5. 怪我や病気で作れないから
6. 食べたい中食があるから
7. 自分では技術がなくて作れない調理品だから
8. 家庭の台所の設備では作れない調理品だから
9. 家族に乳幼児や介護の必要な人がいるため
10. その他（ ）

【全員に伺います】

問 24 あなたは間食（夜食を含む）をすることはありますか。（○は1つ）

1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日
4. ほとんどない

問 25 あなたの世帯では、非常食の食料は、世帯人数分として何日分を想定して用意していますか。（○は1つ）

1. 1日分未満 2. 1～2日分程度 3. 3日程度
4. 4日以上 5. 全く用意していない

問 26-1 あなたは、以下の行事食を食べますか。（○はいくつでも）
食べるものを全て選んでください。（○はいくつでも）

1. おせち料理 2. お雑煮
3. 七草がゆ 4. 鏡開き
5. 節分（恵方巻、大豆、いわしなど） 6. ひな祭り（五目ずしなど）
7. 春分の日（ぼたもちなど） 8. 端午の節句（ちまきなど）
9. 七夕（そうめんなど） 10. 土用の丑の日（ウナギなど）
11. 十五夜（お月見団子） 12. 秋分の日（おはぎなど）
13. ハロウィン（かぼちゃを使った料理など） 14. 冬至（かぼちゃを使った料理など）
15. クリスマス（チキン、ケーキなど） 16. 大晦日（年越しそばなど）
17. その他（ ）
18. 行事食は食べない

問 26-2 あなたは、以下の行事食を手作りしますか。（○はいくつでも）

※買ってきて食べるのではなく、家庭で作るもののみご回答ください。

1. おせち料理 2. お雑煮
3. 七草がゆ 4. 鏡開き
5. 節分（恵方巻、大豆、いわしなど） 6. ひな祭り（五目ずしなど）
7. 春分の日（ぼたもちなど） 8. 端午の節句（ちまきなど）
9. 七夕（そうめんなど） 10. 土用の丑の日（ウナギなど）
11. 十五夜（お月見団子） 12. 秋分の日（おはぎなど）
13. ハロウィン（かぼちゃを使った料理など） 14. 冬至（かぼちゃを使った料理など）
15. クリスマス（チキン、ケーキなど） 16. 大晦日（年越しそばなど）
17. その他（ ）
18. 行事食の手作りはしない

(2) 小中学生調査票

小中学生対象 食育に関するアンケート

質問項目について、あてはまるものに○をつけてください。
 その他を選んだ場合は、() 内に記入してください。

No.	質問項目	選択肢
1	学校を選んでください。(○は1つ)	① 小学校 ② 中学校1年生 ③ 中学校2年生
2	あなたの性別を選んでください。(○は1つ)	① 男 ② 女 ③ そのほか
3	(1) 1) 朝ごはん、朝ごはんを食べていますか。(○は1つ) 2) ほとんど毎日食べる 3) 週4～5日食べる 4) 週2～3日食べる 5) ほとんど食べない 6) ほとんど食べない 7) 時間がない 8) 食欲がわかない 9) 朝食を食べるより寝ていたい 10) 体重を減らす(ダイエット)ため 11) 朝食の用意が立てられない 12) 自分で用意するのがめんどろ 13) その他()	① お米 ② 食パン・ロールパン ③ 菓子パン・調理パン ④ めん類(うどん等) ⑤ シリアル ⑥ その他() ⑦ 主食は食べない ⑧ 魚・魚肉製品(かまぼこ等) ⑨ 肉(ハム、ウィンナー等) ⑩ 卵(オムレツ、卵焼き等) ⑪ 牛乳・乳製品(ヨーグルト、チーズ等) ⑫ 豆製品(納豆、豆腐、豆乳等) ⑬ 野菜料理 ⑭ 汁物(味噌汁、スープ等) ⑮ くだもの ⑯ その他() ⑰ 主食以外はあまり食べない ⑱ 家族といっしょに食べることが多い ⑲ たまに一人で食べる ⑳ 一人で食べる人が多い ㉑ 家族といっしょに食べる人が多い ㉒ たまに一人で食べる ㉓ 一人で食べる人が多い ㉔ 午後5時台 ② 午後6時台 ㉕ 午後7時台 ③ 午後8時台 ㉖ 午後9時台 ④ 午後10時台 ㉗ 午後11時台 ⑤ 午後12時以降 ㉘ よくする ② ときどきする ㉙ あまりしない ④ 全くしない ㉚ いつも残さず食べる ㉛ 残すことが多い
4	朝ごはんは主食以外に何をよく食べますか。(○は3つまで) ※主食…お米、パン、めん類など	
5	朝ごはんは主食以外に何をよく食べますか。(○はいくつでも)	
6	ふだん、家では家族といっしょに朝ごはんを食べていますか。(○は1つ)	
7	ふだん、家では家族といっしょに夕ごはんを食べていますか。(○は1つ)	
8	ふだん夕ごはんは何時ですか。(○は1つ)	
9	家で食事の準備、料理、後片付けを手伝いますか。(○は1つ)	
10	家で食事は残さず食べますか。(○は1つ) ※本日で食事が出る場合は、大体1人分の食事を食べますか。	

No.	質問項目	選択肢
11	(1) 平日に、1日で主食と野菜と副菜のそろった食事を何回していますか。(○は1つ) ※主食…お米、パン、めん類など ※野菜…肉、魚、卵、納豆などのおかず ※副菜…野菜のおかず	① 1回(給食のみ) ② 2回 ③ 3回
12	(2) 給食のない日には、1日で主食と野菜と副菜のそろった食事を何回していますか。(○は1つ)	① 1回 ② 2回 ③ 3回
13	給食のない日には、牛乳を1日コップ一杯以上飲まれますか。(○は1つ) あなたがふだんよく食べる間食(おやつ)はどんなものですか。(○はいくつでも) ※間食…食事以外の時間に、空腹を満たしたり、採食を補給したりするために食べるもの(お菓子、ジュース等)	① 必ず飲む ② ときどき飲む ③ 飲まない ④ あまい飲み物(ジュース等) ⑤ スナック菓子・チョコレート菓子 ⑥ おせんべい・あられ・おかし等 ⑦ 洋菓子(ケーキ・クッキー等) ⑧ あめ・ガム・グミ ⑨ プリン・ゼリー ⑩ おにぎり・菓子パン等の主食 ⑪ くだもの ⑫ おやつは食べない ⑬ その他()
14	ふだんの体の調子についてあてはまるものを選んでください。(○はいくつでも)	① 体の調子はよい ② 目が覚めてもすぐに起きられない ③ 授業に集中できない ④ 寝不足である ⑤ 疲れやすい ⑥ イライラすることが多い ⑦ 長い時間立っていることがつらい ⑧ 下痢気味である ⑨ 便秘気味である ⑩ 5時間より少ない ⑪ 5～6時間の間 ⑫ 6～7時間の間 ⑬ 7時間より多い
15	ふだんの睡眠時間はどのくらいですか。(○は1つ)	① 小金井市内ですぐに野菜が給食に使われている ② 毎月11日はしの日である ③ 毎月24日は小金井和食の日である ④ 6月19日は食育の日である ⑤ どれも知らない
16	ふだんの睡眠時間はどのくらいですか。(○は1つ)	① 5時間より少ない ② 5～6時間の間 ③ 6～7時間の間 ④ 7時間より多い
17	給食は残さず食べますか。(○は1つ)	① 残さず食べる ② 残すことが多い ③ 残すことが多い
18	あなたがふだんからゆつくりよくかんで食べていますか。(○は1つ)	① ゆつくりよくかんで食べている ② どちらかといえばゆつくりよくかんで食べている ③ どちらかといえばゆつくりよくかんで食べていない ④ ゆつくりよくかんで食べていない ⑤ わからない、特に意識していない

ご協力ありがとうございます

小金井市健康課

**第5回食育市民アンケート調査
報告書**

令和8年3月

発行

小金井市福祉保健部健康課

小金井市貫井北町五丁目18番18号小金井市保健センター

電話 042-321-1240



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

第5次
小金井市食育推進計画（案）
（令和9年度～令和13年度）

小金井らしい食生活のある ひとづくり まちづくり
～ Koganei-Style の地域展開 ～

小金井市

市長あいさつ文

内容が確定次第、目次を更新いたします。

1 食育推進計画の策定にあたって

(1) 食育とは

平成17年、「食育基本法」(平成17年法律第63号)が制定されました。この法律が制定された目的は、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるようにするため、「食育」を総合的、計画的に推進することにあります。

「食育基本法」の中では、「食育」を「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの」、「様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること」と位置付けています。

国民の食生活をめぐる環境が大きく変化し、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、食の海外への依存、伝統的な食文化の危機、食の安全等の問題が生じ、その解決のためには国民自ら取り組み、国民が主体となった、国民的広がりを持った食育が進められることが期待されています。

《食育基本法の概要》

1. 目的

国民が健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進し、施策を総合的かつ計画的に推進すること等を目的とする。

2. 関係者の責務等

- (1) 食育の推進について、国、地方公共団体、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者、国民等の責務を定める。
- (2) 政府は、毎年、食育の推進に関して講じた施策に関し、国会に報告書を提出する。

3. 食育推進基本計画等

- (1) 食育推進会議は、以下の事項について食育推進基本計画を作成する。
 - ①食育の推進に関する施策についての基本的な方針
 - ②食育の推進の目標に関する事項
 - ③国民等の行う自発的な食育推進活動等の総合的な促進に関する事項
 - ④施策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項
- (2) 都道府県は都道府県食育推進計画、市町村は市町村食育推進計画を作成するよう努める。

4. 基本的施策

- ①家庭における食育の推進
- ②学校、保育所等における食育の推進
- ③地域における食生活の改善のための取組の推進
- ④食育推進運動の展開
- ⑤生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等
- ⑥食文化の継承のための活動への支援等
- ⑦食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

5. 食育推進会議等

- (1) 農林水産省に食育推進会議を置き、会長(農林水産大臣)及び委員(関係大臣、有識者)25名以内で組織する。
- (2) 都道府県に都道府県食育推進会議、市町村に市町村食育推進会議を置くことができる。

(2) 計画策定の背景

平成17年6月に制定された食育基本法に基づき、国は平成18年3月に食育推進基本計画を策定しました。令和8年3月には第5次食育推進基本計画を策定し、「学校等での食や農に関する学びの充実」「健全な食生活の実現に向けた「大人の食育」の推進」「国民の食卓と生産現場の距離を縮める取組の拡大」の3つの重点事項を柱に据え、取組を推進していくこととしています。

東京都は平成18年9月に東京都食育推進計画を策定（以降5年毎に改定）し、令和8年3月には「第5次東京都食育推進計画」を策定しました。本計画では、健康長寿を阻む食の問題、食育活動への関心と参加をめぐる問題、食に関わる社会的問題への対応という3つの課題の解決を目指しています。基本理念に「都民の心身の健康増進と豊かな人間形成」を掲げ、「生涯を通じた心身の健康を実現する食育の推進」、「食卓と生産現場の距離を縮める食育の推進」、「持続可能な食を支える食育の推進」を重点的に展開していくこととしています。

小金井市においても、同法18条第1項の規定に基づく市町村食育推進計画として平成20年6月に平成22年度までを計画期間とする小金井市食育推進計画を策定しました。その後、第3次小金井市食育推進計画より計画期間を5年間とし、食育を総合的かつ計画的に推進するための施策に取り組んできました。令和8年度末で計画が終了することに伴い、これまでの施策の成果や小金井市の食育に関する現状等に基づき、さらに食育を進めるために本計画を策定しました。

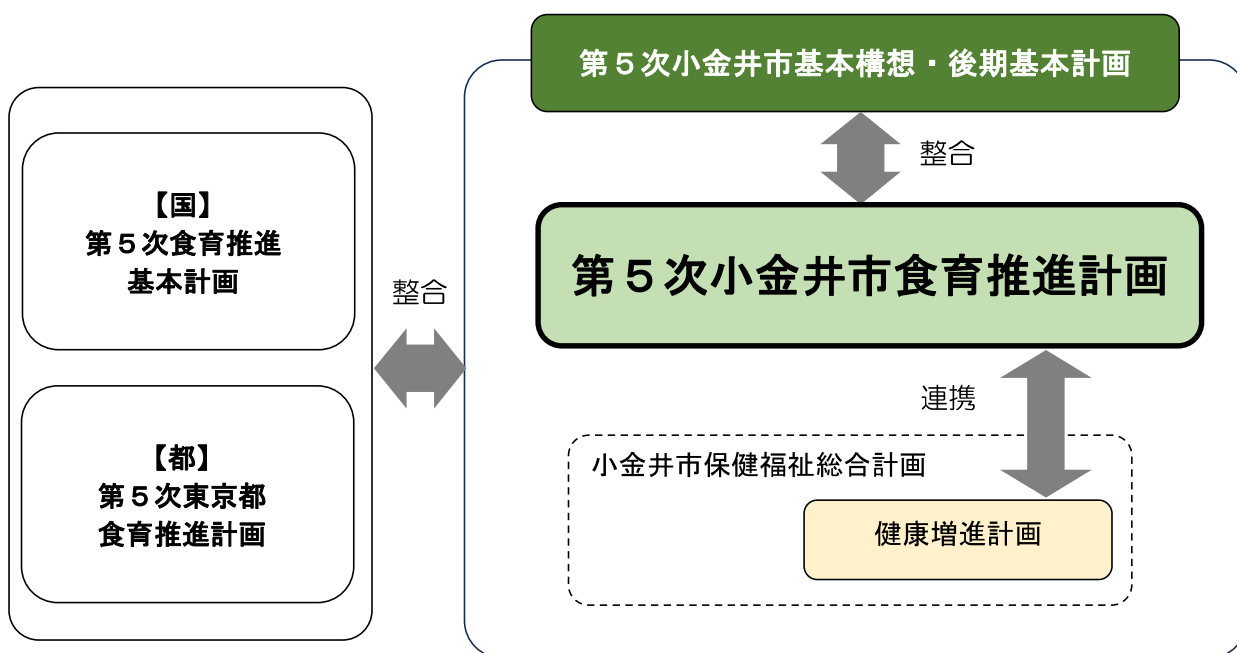
(3) 計画の位置づけ

本計画は、市の最上位計画である「第5次小金井市基本構想」やその実現するための「後期基本計画」に基づき策定するものです。

また、「小金井市保健福祉総合計画」内に位置づけられた「健康増進計画」とは、健康づくりという共通目的のもと、相互に密接な連携を図っています。

これら本市における各分野の計画と整合性を保つことで、本市の食育施策を総合的かつ体系的に推進する役割を担っています。

小金井市食育推進計画と関連計画



(4) 計画の期間

本計画は令和9年度から令和13年度までの5年間を計画年度とします。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	
小金井市	小金井市食育推進基本条例 (平成25年3月交付)														
	第3次小金井市食育推進計画 (平成29～令和3年度)			第4次小金井市食育推進計画 (令和4～令和8年度)					第5次小金井市食育推進計画 (令和9～令和13年度)						
国	食育基本法(平成17年6月策定)														
	第3次食育推進基本計画 (平成28～令和2年度)		第4次食育推進基本計画 (令和3～7年度)					第5次食育推進基本計画 (令和8～12年度)							
都	東京都食育推進計画 (平成28～令和2年度)		東京都食育推進計画 (令和3～7年度)					東京都食育推進計画 (令和8～13年度)							

2 小金井市の食をめぐる現状と課題

(1) 小金井市の概況

小金井市は、東京都のほぼ中央に位置し、市域は東西4.1km、南北4.0km、面積11.33km²です。昭和33年10月に市制を施行し、現在は約12万人（令和8年4月1日現在）が小金井市で暮らしています。

野川、玉川上水や国分寺崖線（はげ）、武蔵野公園、野川公園、小金井公園など、豊かなみどりと水に恵まれています。また、生産緑地や都市農地の保全に取り組み、江戸東京野菜など地場産農産物の流通促進に努めています。

(2) 小金井市の取組

「野菜」「団らん」「ふれあい」「環境」をキーワードとし、小金井らしい食生活のあるひとづくり・まちづくりを、“Koganei-Style”として地域に展開しています。

(参考) 小金井らしい食生活とは？

～「野菜」「団らん」「ふれあい」「環境」をキーワードに小金井らしさを～

地場を中心とした新鮮な野菜を楽しみ、低農薬等、良質な野菜にこだわる。

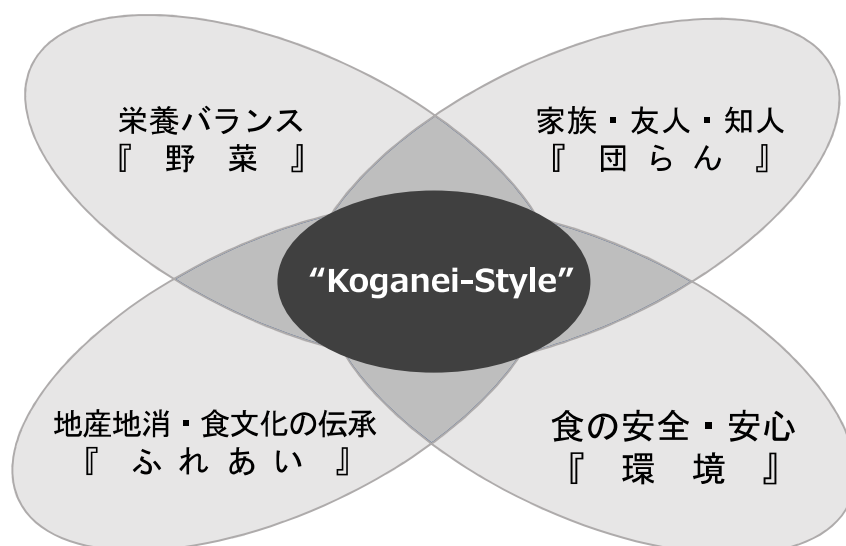
- 庭先直売所等で新鮮な朝採れ野菜を買い、旬の味わいを楽しむ。
- コンビニエンスストアやファミリーレストラン等を利用する時にも、全体の食のバランスを忘れない。

家の人や友人・知人との団らんを大切にした食事をする。

- 朝夕のせめてどちらかは、家で食卓を囲む。
- 家の人や親しい友人・知人と、食事を共にし、ながら食事をやめて楽しく語らう時間を大切にする。

地域のふれあいを大切に、環境に優しい食生活を実践する。

- ボランティアやサークル活動等、食を通じて地域の人と人がふれあう。
- 地産地消や環境に配慮した料理等、個々人ができる範囲で工夫する。



(3) 市民の食に関する意識（食育市民アンケート調査結果）の現状と課題

小金井市では、平成20年6月に策定された本計画（平成20～22年度）において設定している取組の指標が達成されているか、「小金井らしい食生活」が達成されているかを把握し、現在の市民の食生活の実態を明らかにすることを目的として、平成20年11月に「第1回食育市民アンケート」、平成22年12月に「第2回食育市民アンケート」、平成28年8月に「第3回食育市民アンケート」、令和2年10月に「第4回食育市民アンケート」を実施しました。今回、令和8年度までを計画期間とする小金井市食育推進計画の見直しにあたり、市民の食に関する意識や行動の変化を把握し、今後の小金井市の食育のあり方を検討するための基礎調査として「第5回食育市民アンケート」を実施しました。

以下に、本計画の取組の指標と関連の深いアンケート項目について、第5回食育市民アンケートの結果を紹介します。

調査概要

区分	調査対象・調査方法	調査期間	配布数*	回収数	回収率
一般市民調査	令和7年10月1日を基準日として、市内在住の満18歳以上の市民について無作為抽出したデータをもとに、アンケートを郵送及びWEB回答	令和7年 11月1日（土） ～11月21日（金）	1,990	758	38.1%

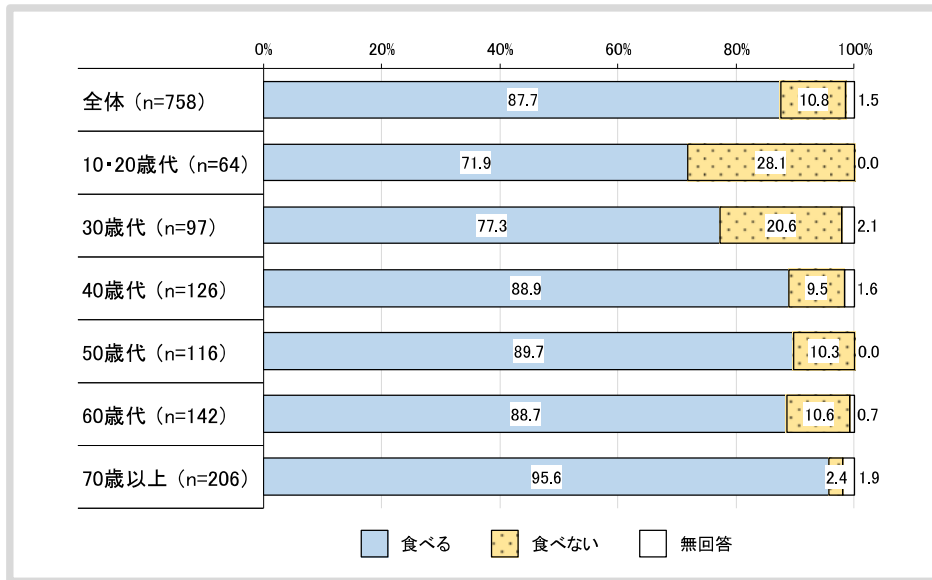
※2,000通の送付を行い、宛先不明等で戻ってきた10通を除いています。

区分	調査対象・調査方法	調査期間	配布数	回収数	回収率
小・中学生調査	市内小・中学校各2校の小学4年生、中学1年生・2年生の全生徒にアンケートを配布	令和7年 11月3日（月） ～11月21日（金）	821	734	89.4%

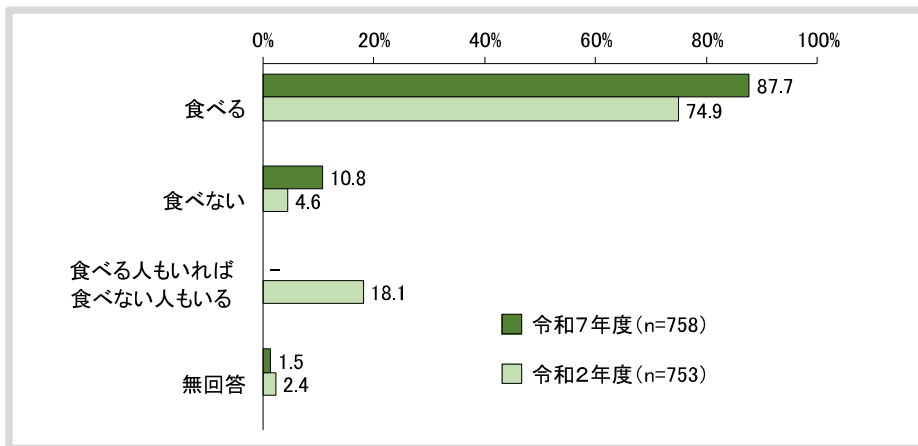
① 朝食の摂取状況や朝食欠食がはじまる時期について

朝食を食べているかについて、年齢別にみると、「食べる」はどの年代でも7割を超える一方、「食べない」は10・20歳代、30歳代で2割以上となっています。〈図1-1〉令和2年度と比較すると、「食べる」の割合が最も増加しています。〈図1-2〉

〈図1-1〉朝食を食べているか(一般市民調査)



〈図1-2〉朝食を食べているか(一般市民調査 経年比較)

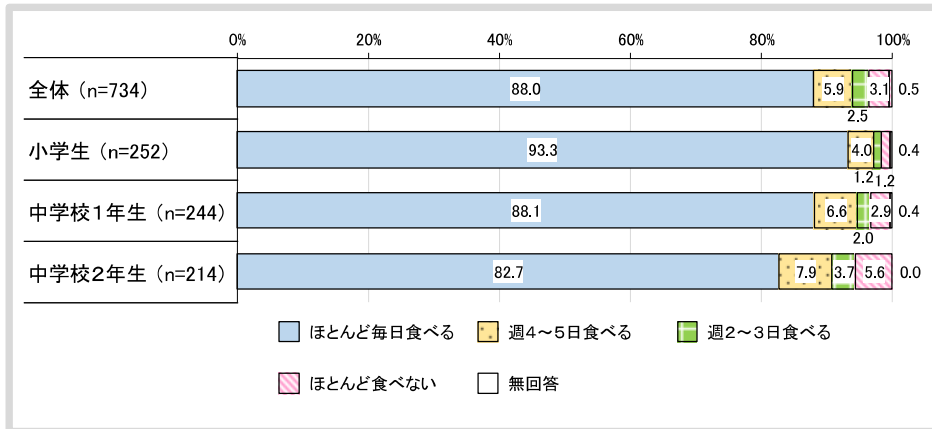


※令和7年度では、「食べる人もいれば食べない人もいる」という選択肢は設けておりません。

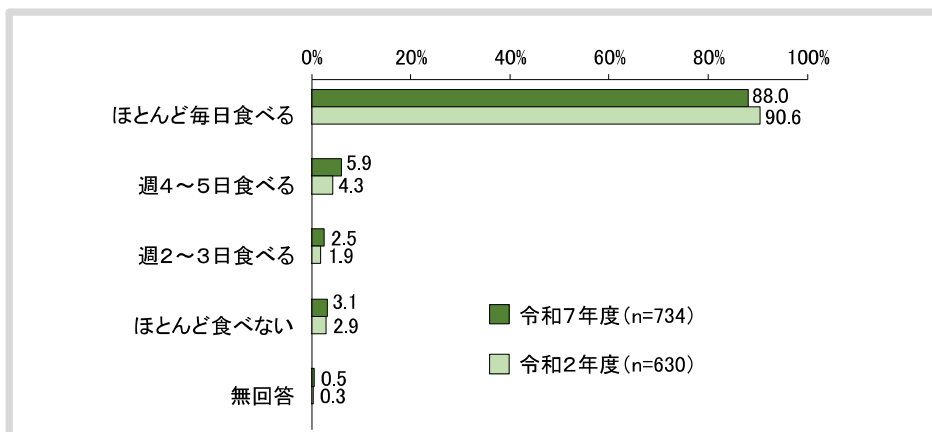
ふだん朝ごはんを食べる頻度について、小中学生別にみると、共通して「ほとんど毎日食べる」が多く割合を占めていますが、学年が上がるごとに「ほとんど毎日食べる」の割合が減り、「週4～5日食べる」、「週2～3日食べる」、「ほとんど食べない」の割合が増加しています。〈図1-3〉

令和2年度と比較すると、「ほとんど毎日食べる」の割合が減少しています。〈図1-4〉

〈図1-3〉ふだん朝ごはんを食べる頻度(小・中学生調査)



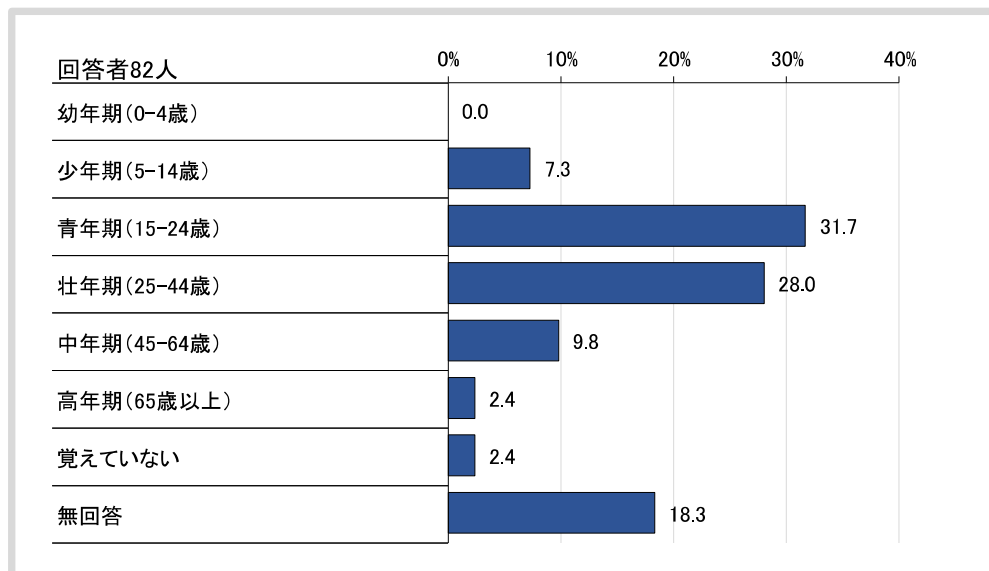
〈図1-4〉ふだん朝ごはんを食べる頻度(小・中学生調査 経年比較)



朝食を食べなくなった時期について、「青年期（15-24歳）」が31.7%と最も多く、次いで「壮年期（25-44歳）」が28.0%、「中年期（45-64歳）」が9.8%となっています。

<図1-5>

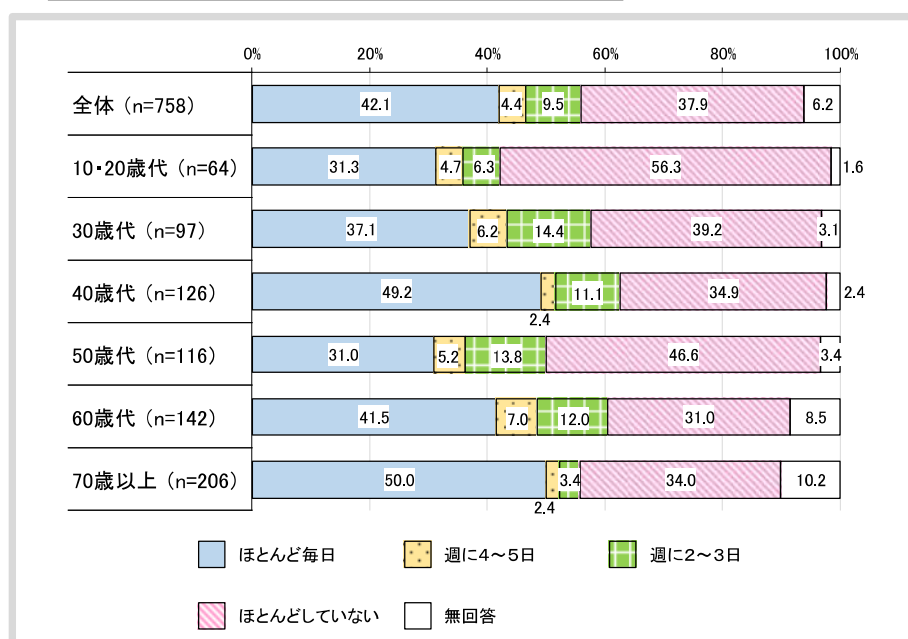
<図1-5>朝食を食べなくなった時期(一般市民調査)



② 共食について

家族と一緒に朝食を食べる頻度について、年齢別にみると、「ほとんど毎日」では70歳以上が50.0%、「ほとんどしていない」では10・20歳代が56.3%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。<図2-1>

<図2-1>家族と一緒に朝食を食べる頻度(一般市民調査)

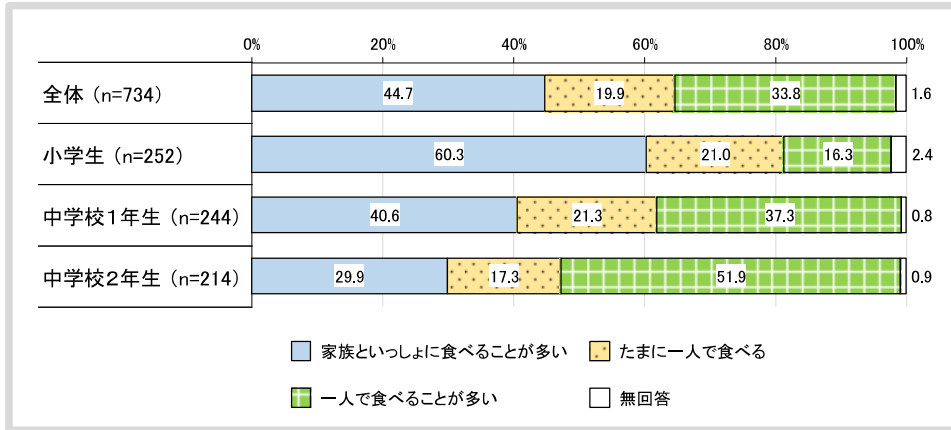


小中学生別にみると、学年が上がるごとに「家族といっしょに食べることが多い」の割合が減少しています。

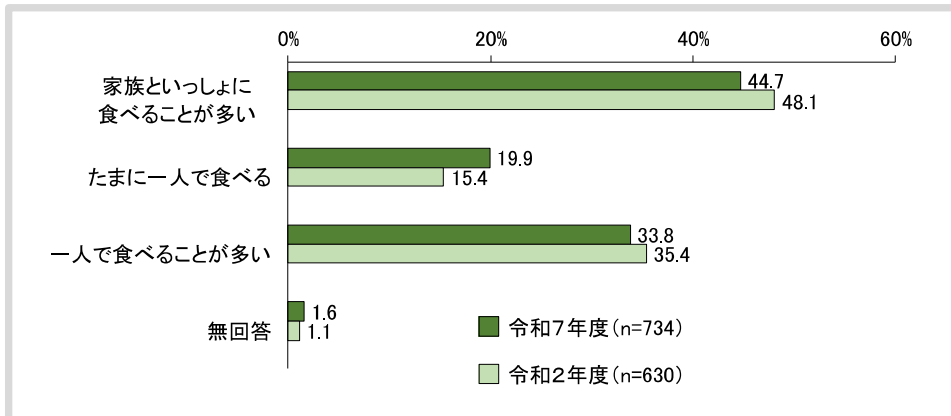
また、中学校2年生では「たまに一人で食べる」と「一人で食べるが多い」を合わせた『一人で食べる』が69.2%と、他の学年に比べて多い割合となっています。〈図2-2〉

令和2年度と比較すると、「たまに一人で食べる」の割合が増加しています。〈図2-3〉

〈図2-2〉家族と一緒に朝食を食べているか(小・中学生調査)

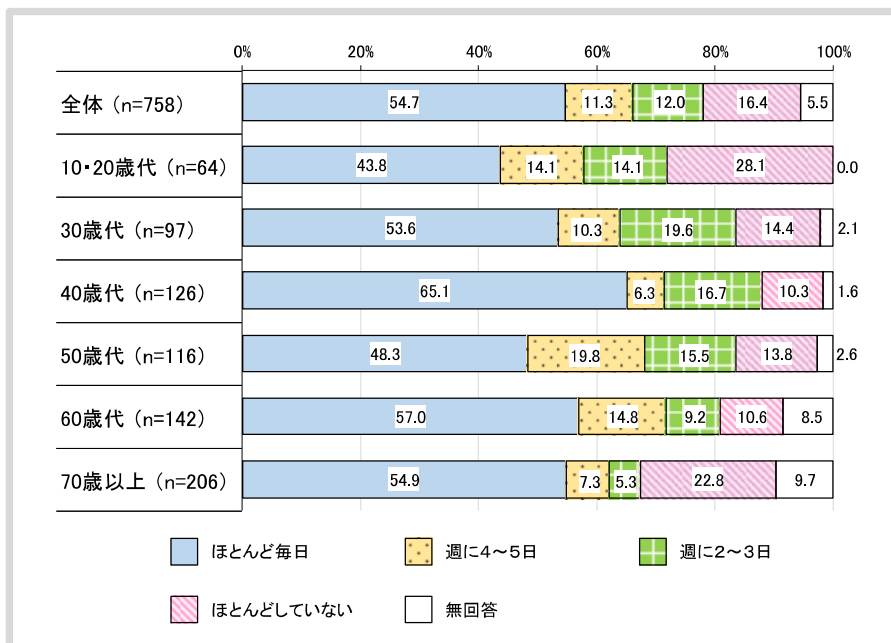


〈図2-3〉家族と一緒に朝食を食べているか(小・中学生調査 経年比較)



家族と一緒に夕食を食べる頻度について、年齢別にみると、「ほとんど毎日」では40歳代が65.1%、「ほとんどしていない」では10・20歳代が28.1%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。〈図2-4〉

〈図2-4〉家族と一緒に夕食を食べる頻度(一般市民調査)

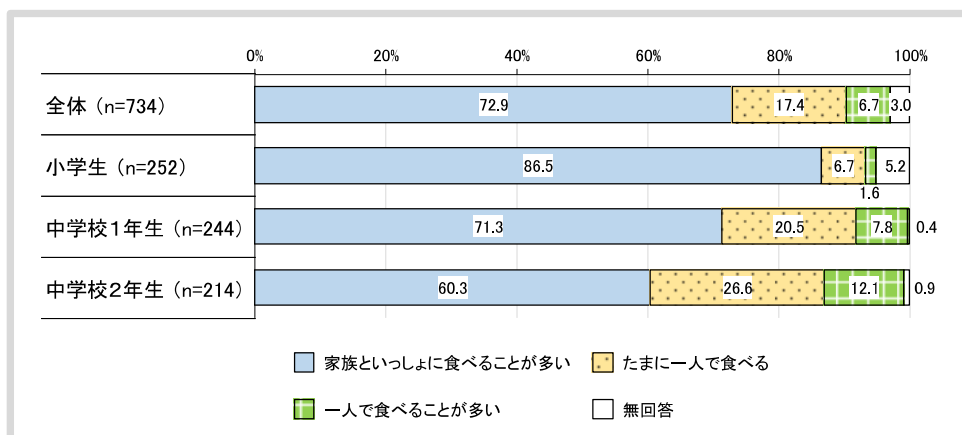


小中学生別にみると、学年が上がるごとに「家族といっしょに食べることが多い」の割合が減少しています。また、中学校2年生では「たまに一人で食べる」と「一人で食べるが多い」を合わせた『一人で食べる』が38.7%と、他の学年に比べて多い割合となっています。〈図2-5〉

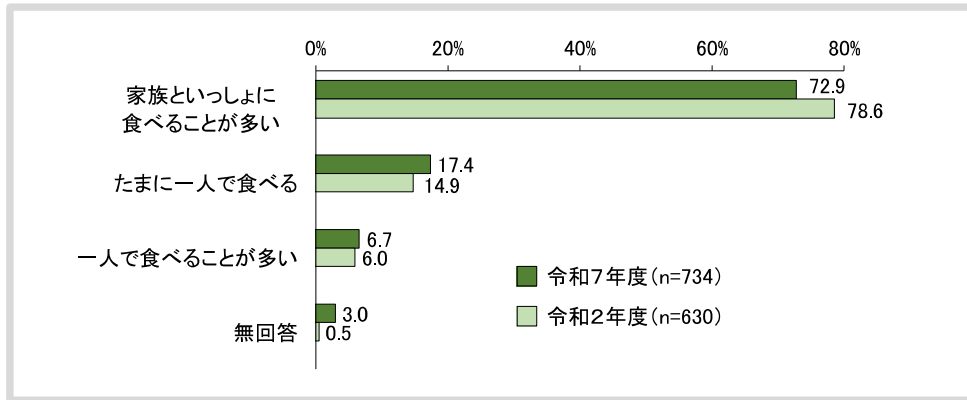
令和2年度と比較すると、「家族といっしょに食べるが多い」の割合が減少しています。

〈図2-6〉

〈図2-5〉家族と一緒に夕食を食べているか(小・中学生調査)

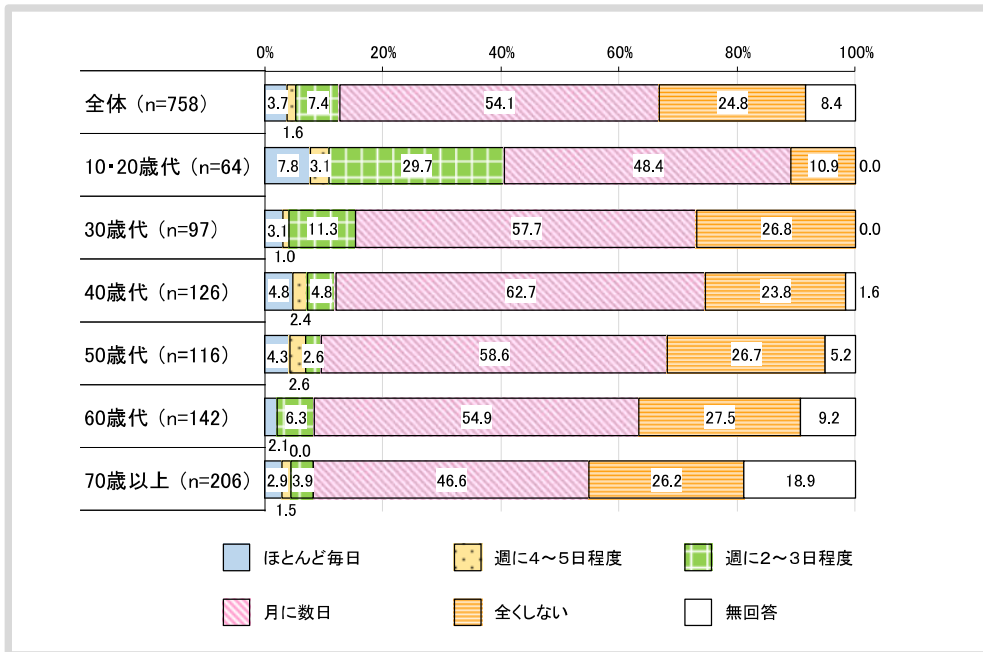


<図2-6> 家族と一緒に夕食を食べているか(小・中学生調査 経年比較)



家族以外との食事の頻度について、年齢別にみると、どの年齢層でも「月に数日」の割合が最も多くなっています。10・20歳代では「週に2～3日程度」が29.7%と他の年代と比べて多い割合となっています。また、30歳代以上の年代で「全くしない」が2割を超えています。<図2-7>

<図2-7> 家族以外との食事の頻度(一般市民調査)

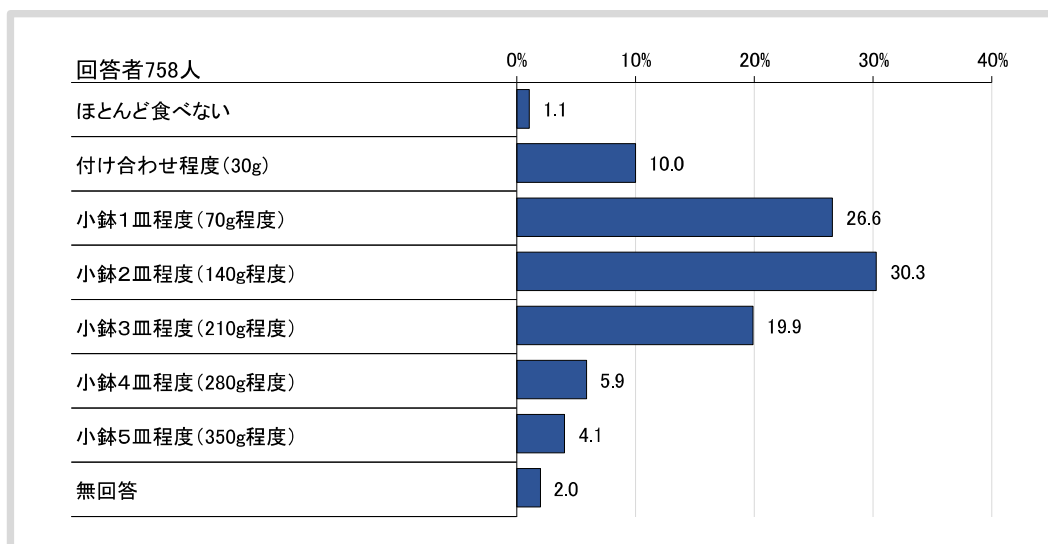


③ 野菜の摂取状況について

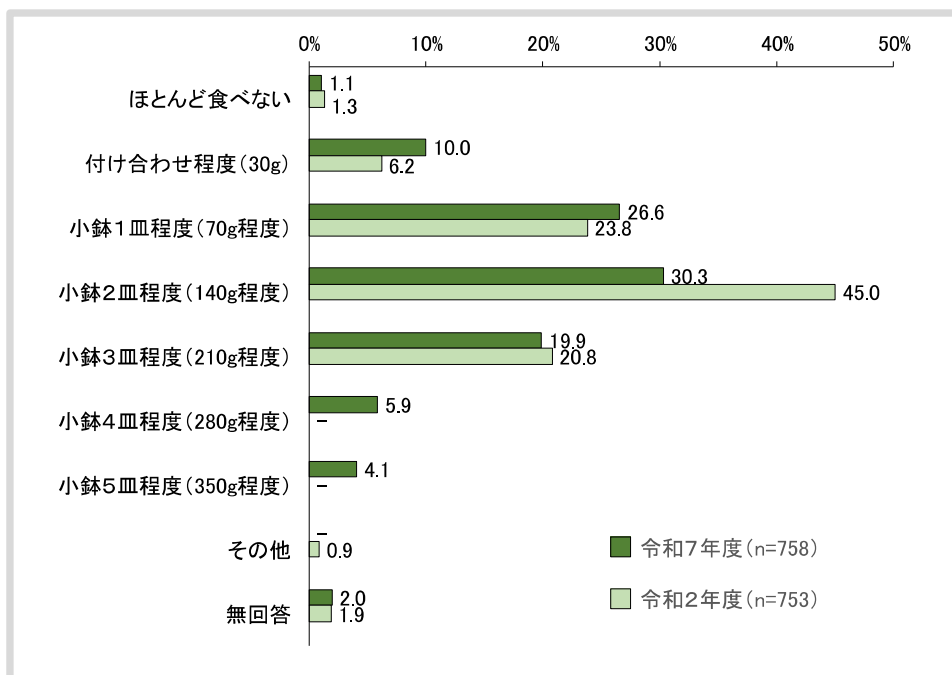
野菜の摂取状況について、「小鉢2皿程度(140g程度)」が30.3%と最も多く、次いで「小鉢1皿程度(70g程度)」が26.6%、「小鉢3皿程度(210g程度)」が19.9%となっています。〈図3-1〉

令和2年度と比較すると、「付け合わせ程度(30g)」、「小鉢1皿程度(70g程度)」の割合が増加しています。〈図3-2〉

〈図3-1〉野菜の摂取状況(一般市民調査)



〈図3-2〉野菜の摂取状況(一般市民調査 経年比較)

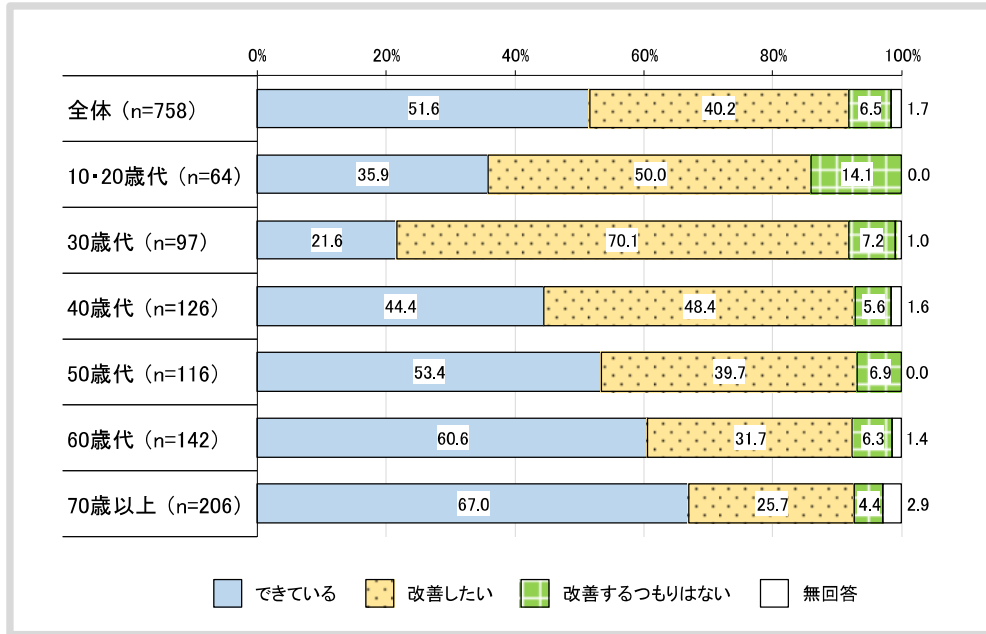


※令和2年度では、「小鉢4皿程度」、「小鉢5皿程度」という選択肢は設けておりませんでした。

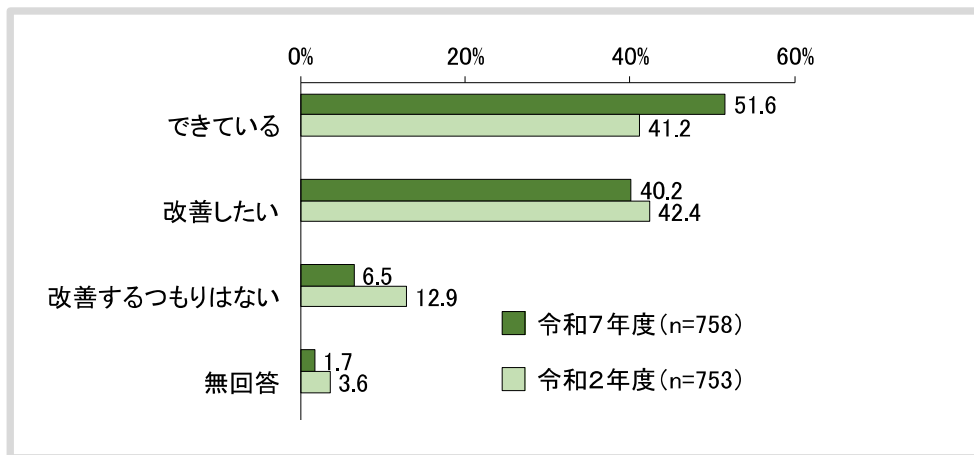
1食につき副菜(野菜類)を1~2皿(70g~140g)食べることに、年齢別にみると、30歳代では「改善したい」が70.1%、70歳以上では「できている」が67.0%、10・20歳代では「改善するつもりはない」が14.1%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。〈図3-3〉

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。〈図3-4〉

〈図3-3〉1食につき副菜(野菜類)を1~2皿(70g~140g)食べること(一般市民調査)



〈図3-4〉1食につき副菜(野菜類)を1~2皿(70g~140g)食べること(一般市民調査 経年比較)

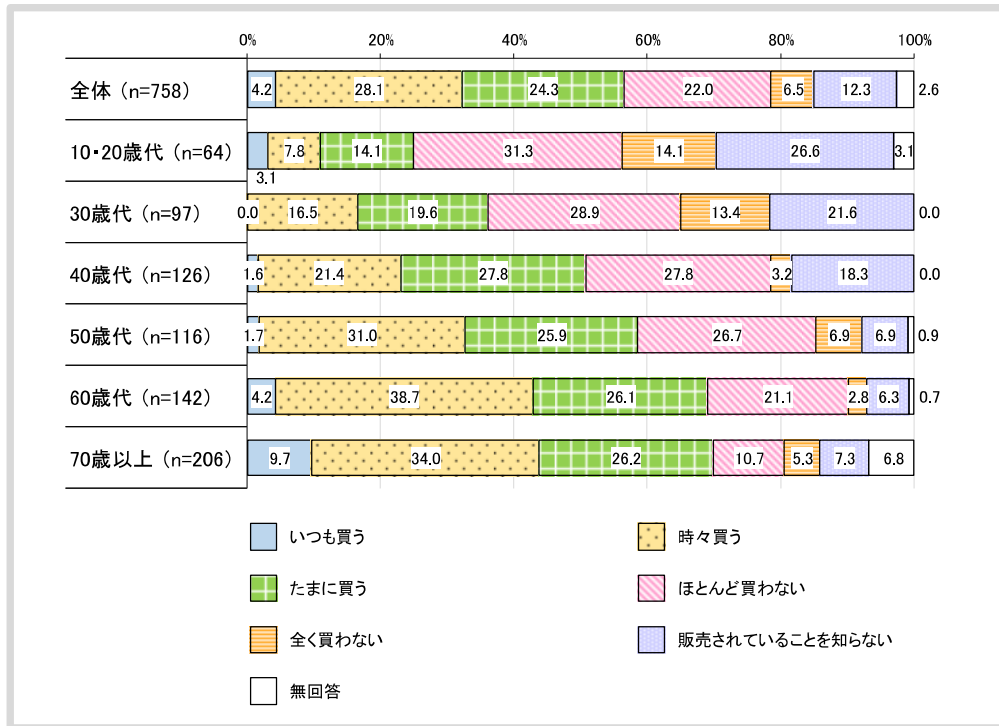


④ 地産地消について

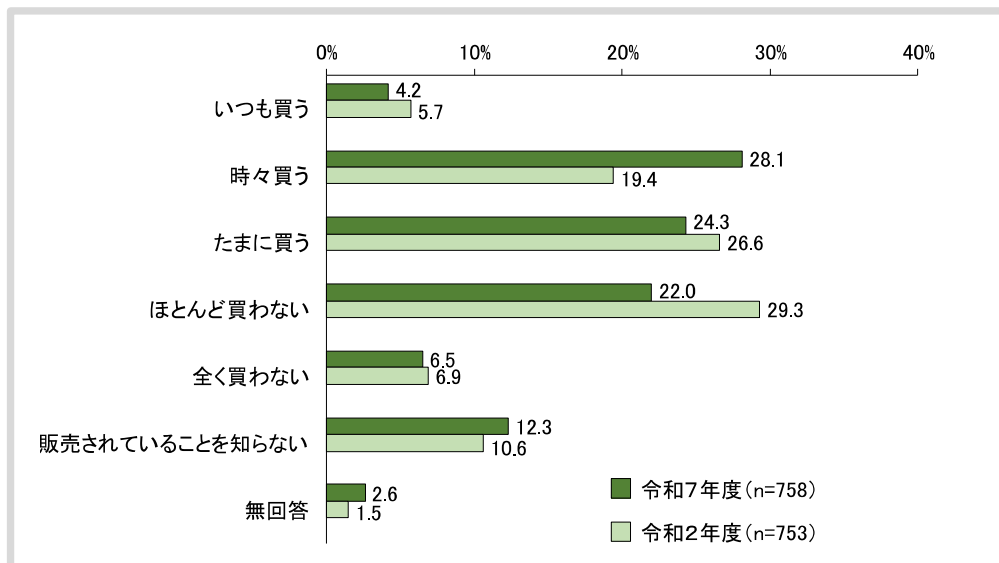
小金井市内で採れた野菜を買う頻度について、年齢別にみると、「販売されていることを知らない」が10・20歳代で26.6%、30歳代で21.6%、40歳代でも18.3%となっています。一方で、70歳以上では「いつも買う」と「時々買う」を合わせた『よく買う』が43.7%と、他の年代と比べて多くなっています。〈図4-1〉

令和2年度と比較すると、「時々買う」「販売されていることを知らない」の割合が増加しています。〈図4-2〉

〈図4-1〉小金井市内で採れた野菜を買う頻度（一般市民調査）



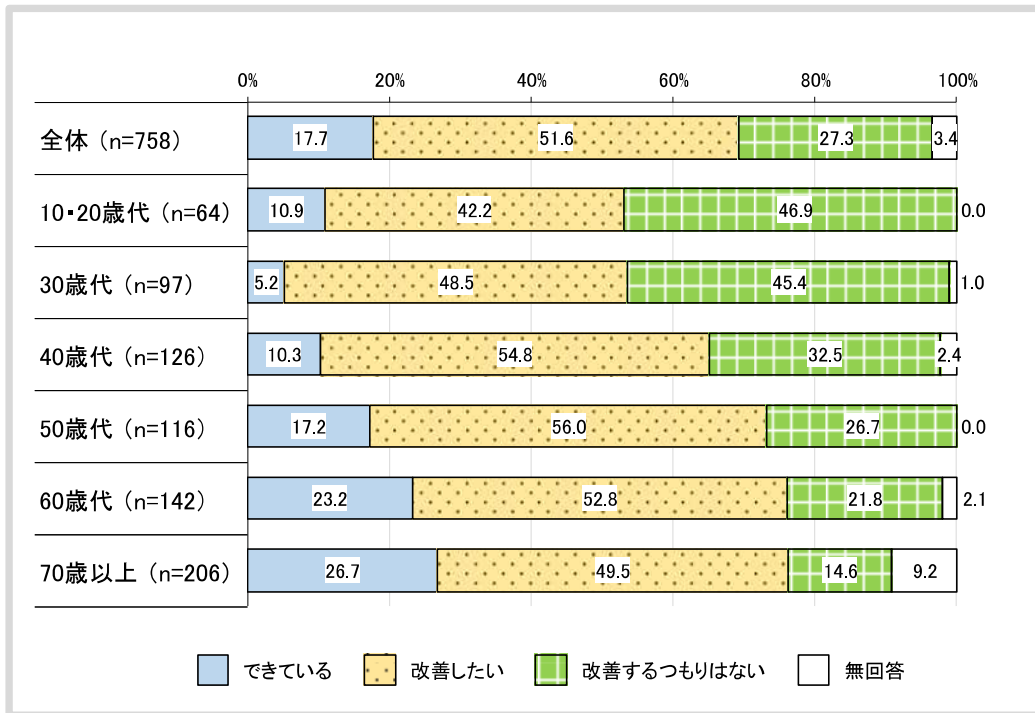
〈図4-2〉小金井市内で採れた野菜を買う頻度（一般市民調査 経年比較）



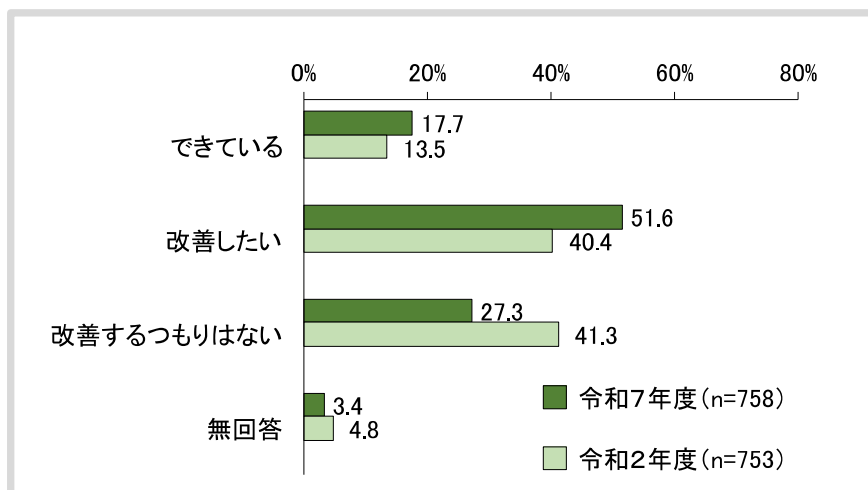
小金井市産の野菜を用いて作るについて、年齢別にみても、おおむね同様の傾向がみられますが、10・20歳代、30歳代、40歳代で「できている」の割合が少なく、特に30歳代では5.2%と他の年代に比べて少なくなっています。〈図4-3〉

令和2年度と比較すると、「改善するつもりはない」の割合が減少しています。〈図4-4〉

〈図4-3〉小金井市産の野菜を用いて作る(一般市民調査)



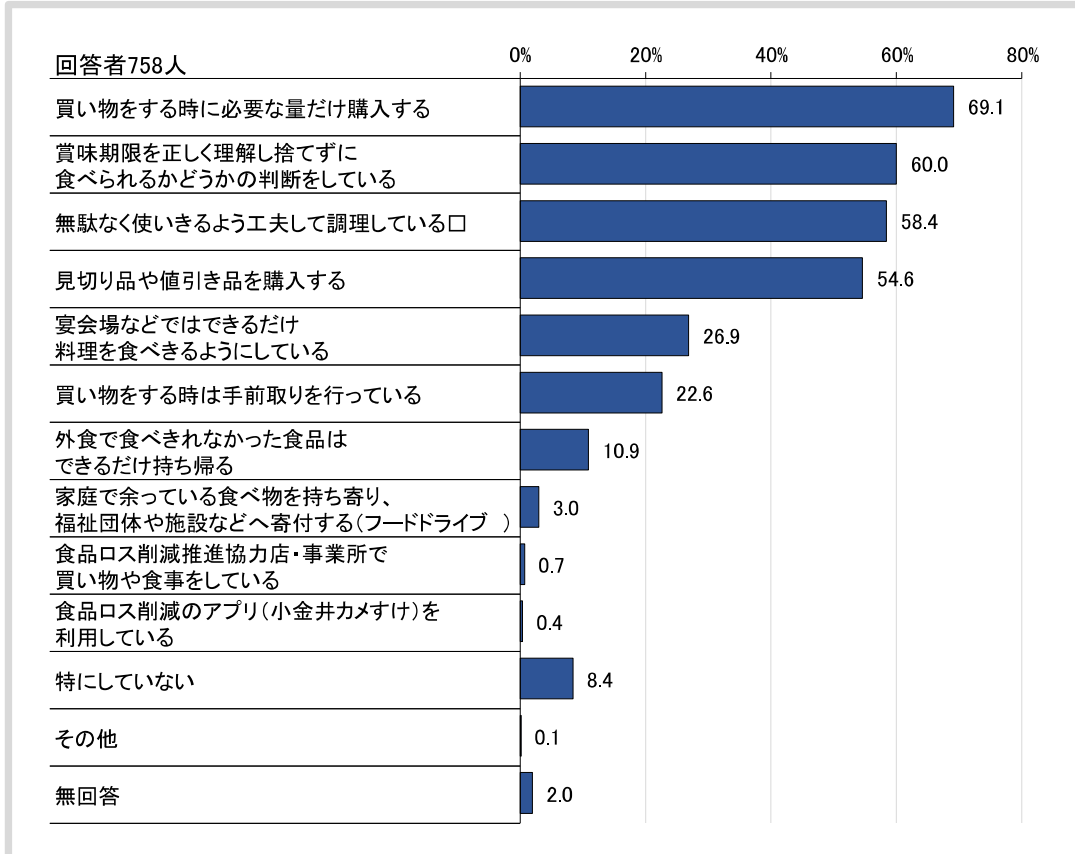
〈図4-4〉小金井市産の野菜を用いて作る(一般市民調査 経年比較)



⑤ 食品ロスについて

食品ロス削減に関する取組状況について、「買い物をする時に必要な量だけ購入する」が69.1%と最も多く、次いで「賞味期限を正しく理解し捨てずに食べられるかどうかの判断をしている」が60.0%、「無駄なく使いきるよう工夫して調理している」が58.4%となっています。〈図5-1〉

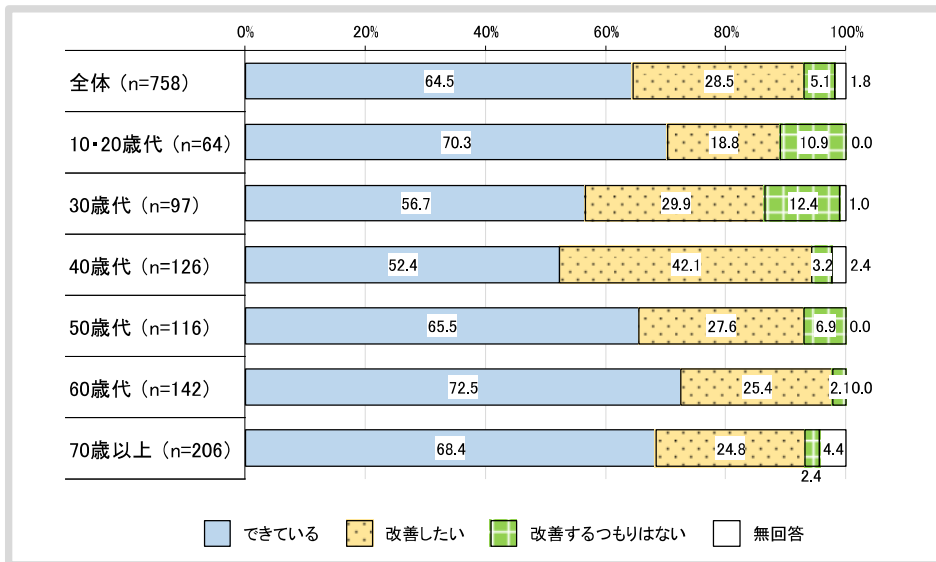
〈図5-1〉食品ロス削減に関する取組状況〔〇はいくつでも〕(一般市民調査)



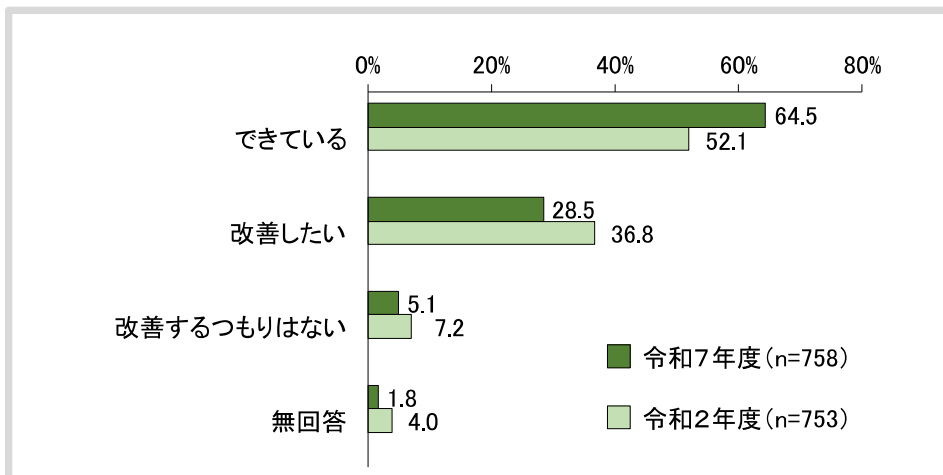
食品ロスを削減するような食事作りをしているかについて、年齢別にみると、「できている」では60歳代が72.5%、10・20歳代が70.3%と他の年代と比べて多くなっており、取り組みへの意欲がうかがえます。また、「改善したい」では40歳代が42.1%と、突出して多い割合となっています。〈図5-2〉

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。〈図5-3〉

〈図5-2〉食品ロスを削減するような食事作りをしているか(一般市民調査)



〈図5-3〉食品ロスを削減するような食事作りをしているか(一般市民調査 経年比較)



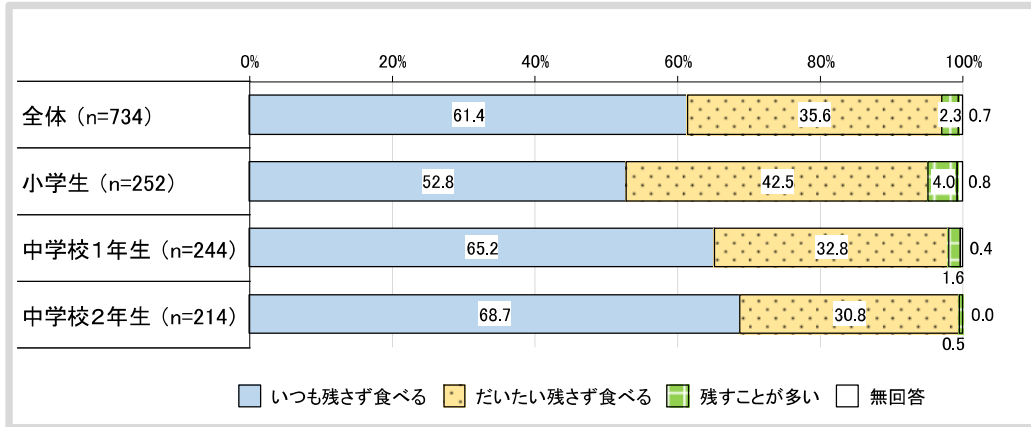
家での食事は残さず食べるかについて、小中学生別にみると、学年が上がるごとに「いつも残さず食べる」の割合が増加しています。

また、小学生では「残すことが多い」が4.0%と、他の学年に比べて多い割合となっています。

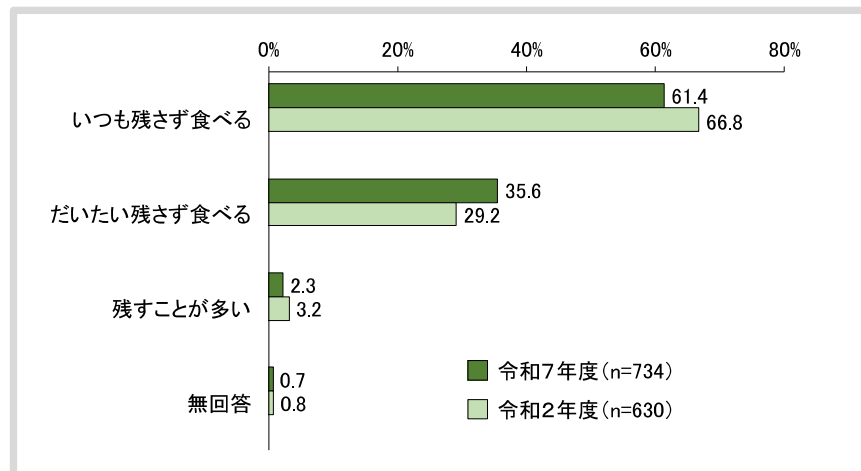
<図5-4>

令和2年度と比較すると、「だいたい残さず食べる」の割合が増加しています。<図5-5>

<図5-4> 家での食事は残さず食べるかについて(小・中学生調査)



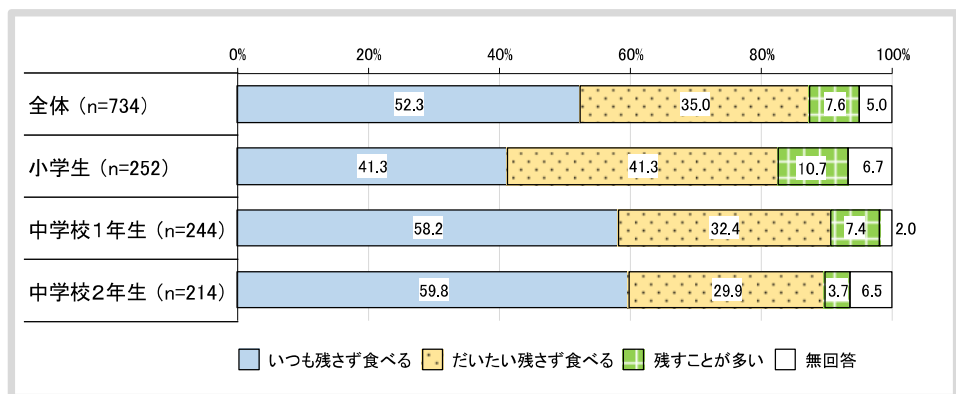
<図5-5> 家での食事は残さず食べるかについて(小・中学生調査 経年比較)



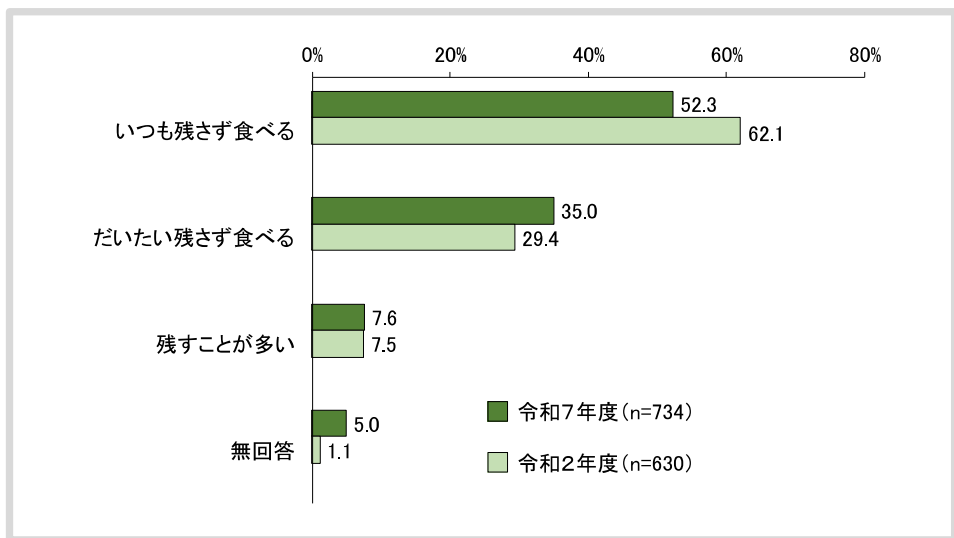
給食は残さず食べるかについて、小中学生別にみると、学年が上がるごとに「いつも残さず食べる」の割合が増加しています。〈図5-6〉

令和2年度と比較すると、「いつも残さず食べる」の割合が減少しています。〈図5-7〉

〈図5-6〉給食は残さず食べるかについて(小・中学生調査)



〈図5-7〉給食は残さず食べるかについて(小・中学生調査 経年比較)

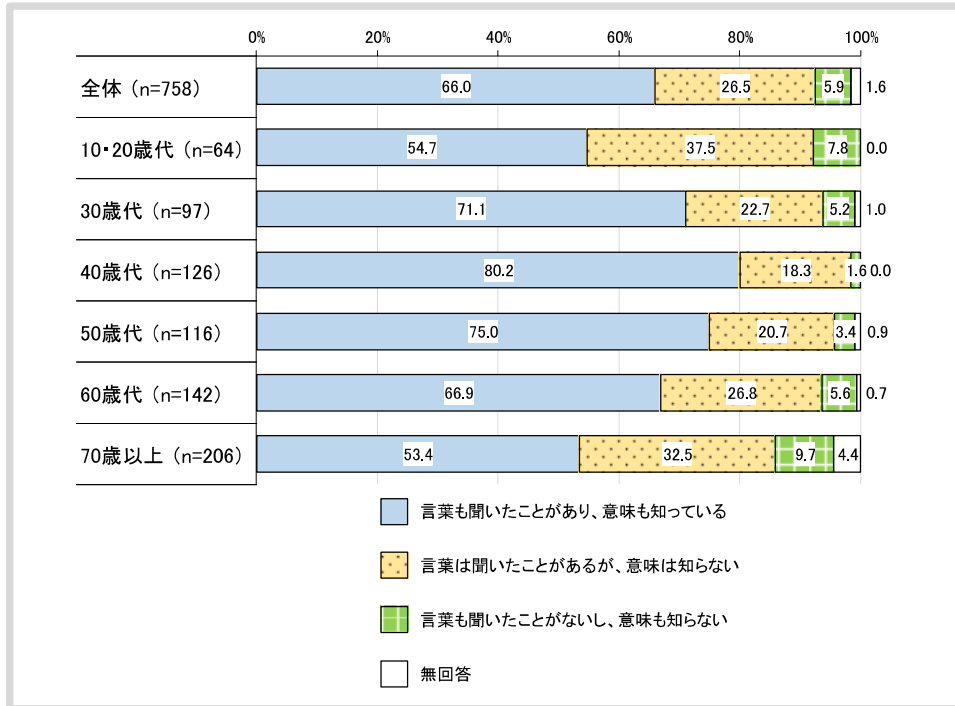


⑥ 食育の認知について

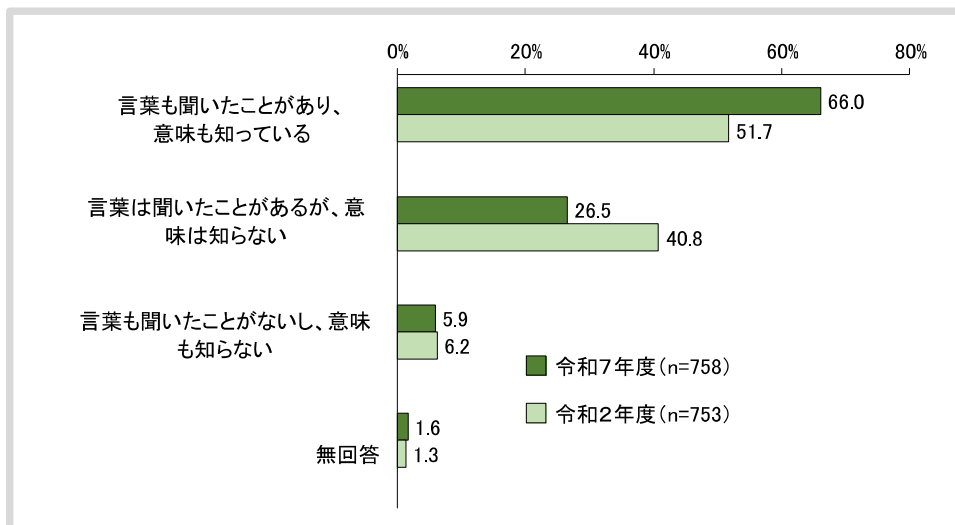
食育の認知度について、年齢別にみると、40歳代では「言葉も聞いたことがあり、意味も知っている」が80.2%と他の年代に比べて多く、「言葉も聞いたことがないし、意味も知らない」は1.6%にとどまっています。一方で70歳以上では「言葉も聞いたことがないし、意味も知らない」が9.7%と、他の年代と比べて多くなっています。〈図6-1〉

令和2年度と比較すると、「言葉も聞いたことがあり、意味も知っている」の割合が増加しています。〈図6-2〉

〈図6-1〉食育の認知度(一般市民調査)



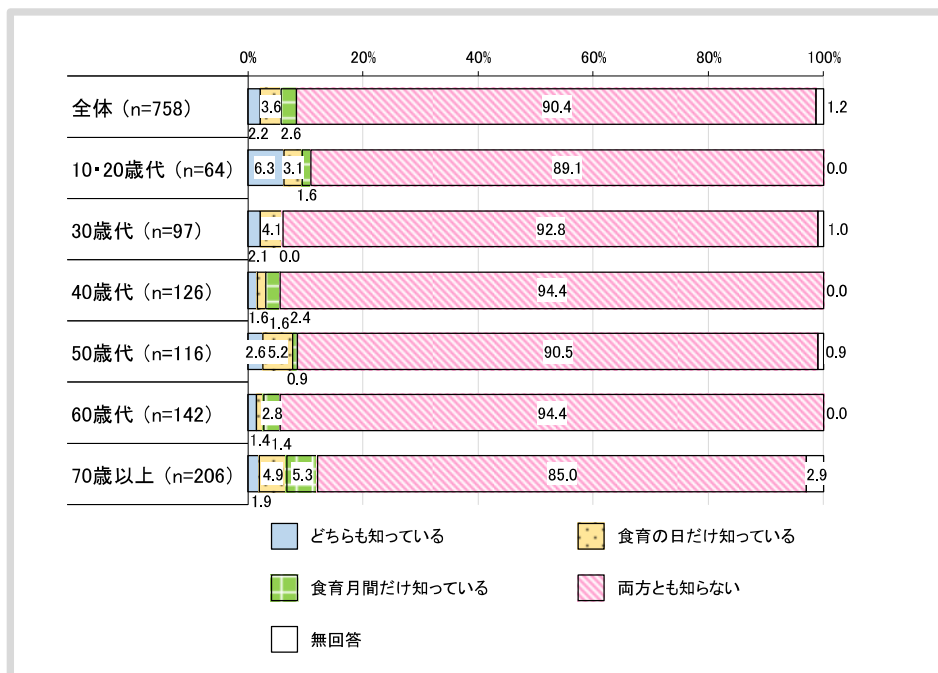
〈図6-2〉食育の認知度(一般市民調査 経年比較)



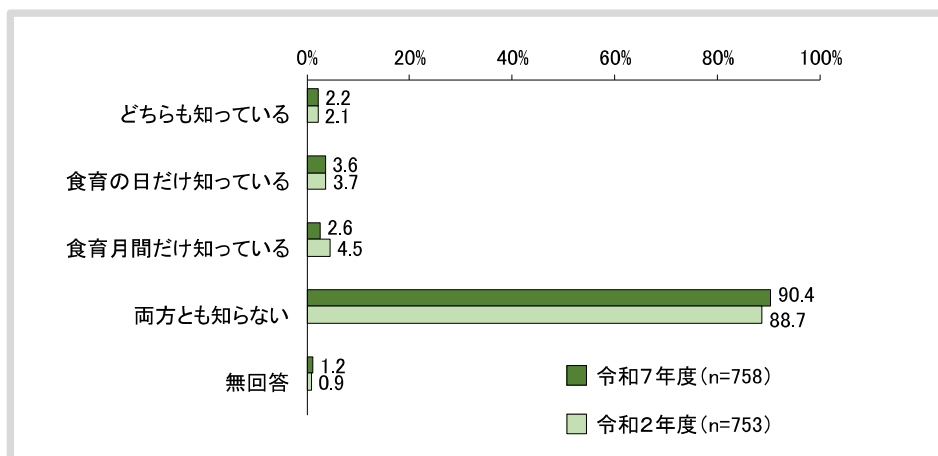
食育の日、食育月間の認知度について、年齢別にみると、おおむね同様の傾向にありますが、「両方とも知らない」は30歳代～60歳代の広い年齢層でそれぞれ9割を超えています。一方、10・20歳代では「どちらも知っている」が6.3%と他の年代に比べて多くなっています。〈図6-3〉

令和2年度と比較すると、おおむね同様の傾向となっています。〈図6-4〉

〈図6-3〉食育の日、食育月間の認知度(一般市民調査)



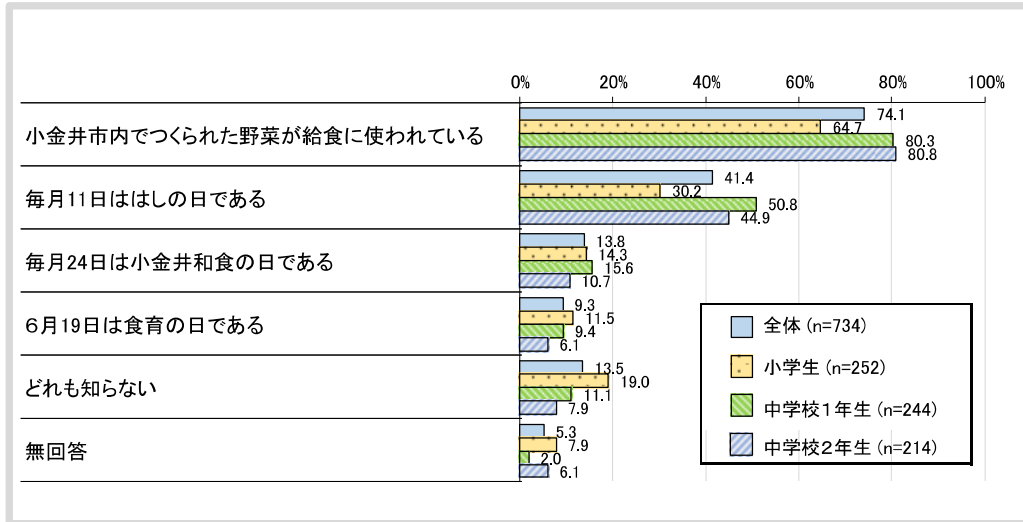
〈図6-4〉食育の日、食育月間の認知度(一般市民調査 経年比較)



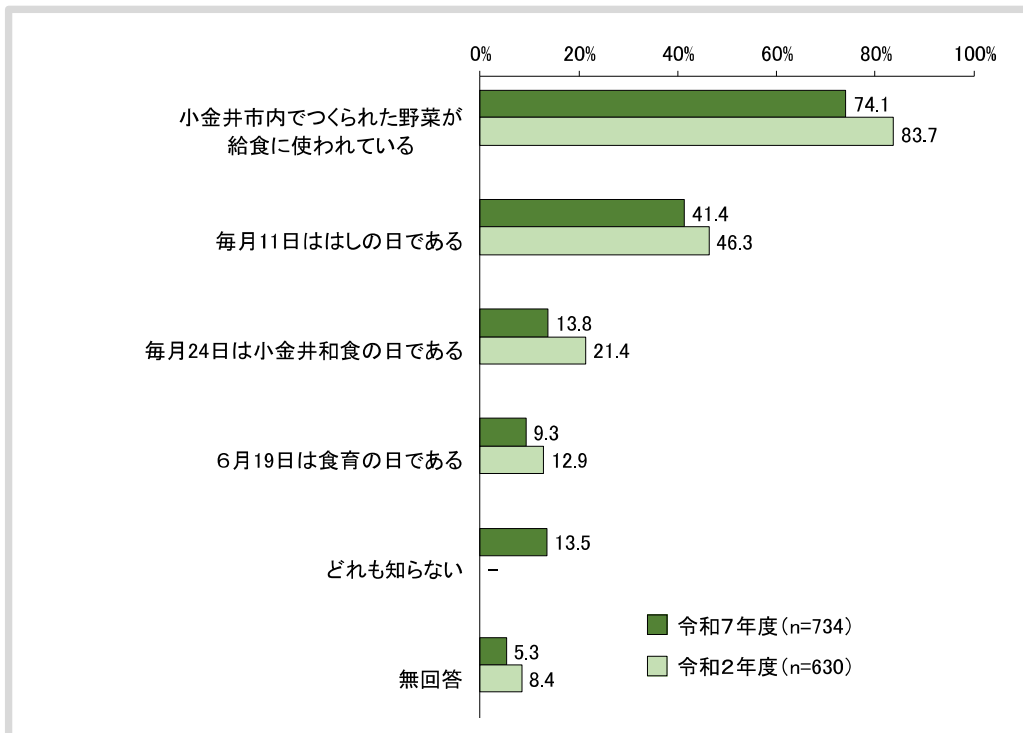
給食に関係している事柄の認知度について、小中学生別にみると、学年が上がるごとに「どれも知らない」の割合が減少しており、小学生では19.0%と、ほかの学年に比べて多い割合となっています。〈図6-5〉

令和2年度と比較すると、全ての項目で割合が減少しています。〈図6-6〉

〈図6-5〉給食に関係している事柄(小・中学生調査)



〈図6-6〉給食に関係している事柄(小・中学生調査 経年比較)



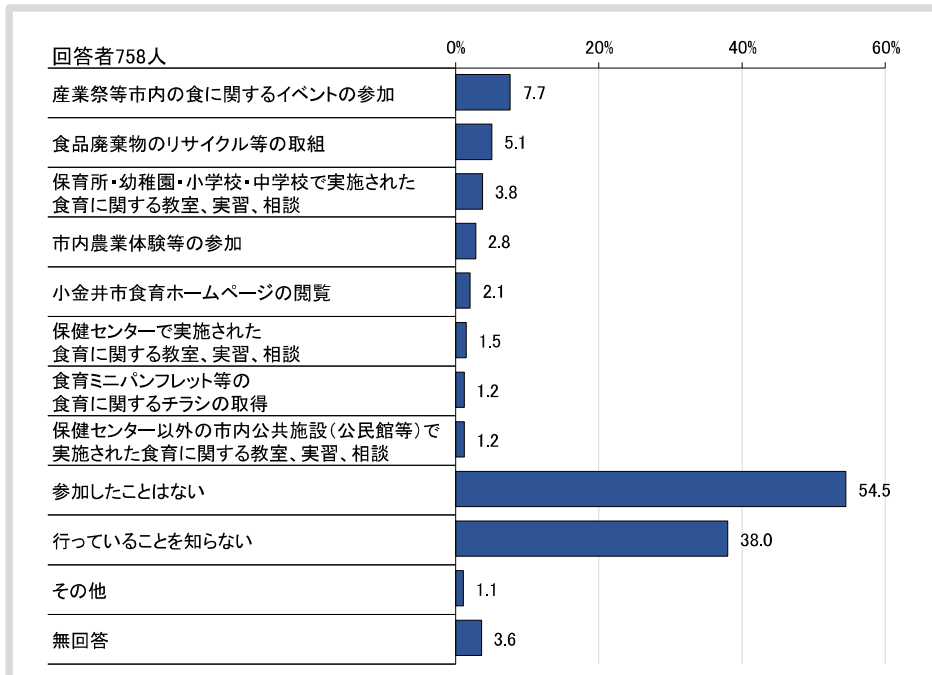
※令和2年度は、「どれも知らない」という選択肢は設けておりませんでした。

⑦ 食育活動への関心について

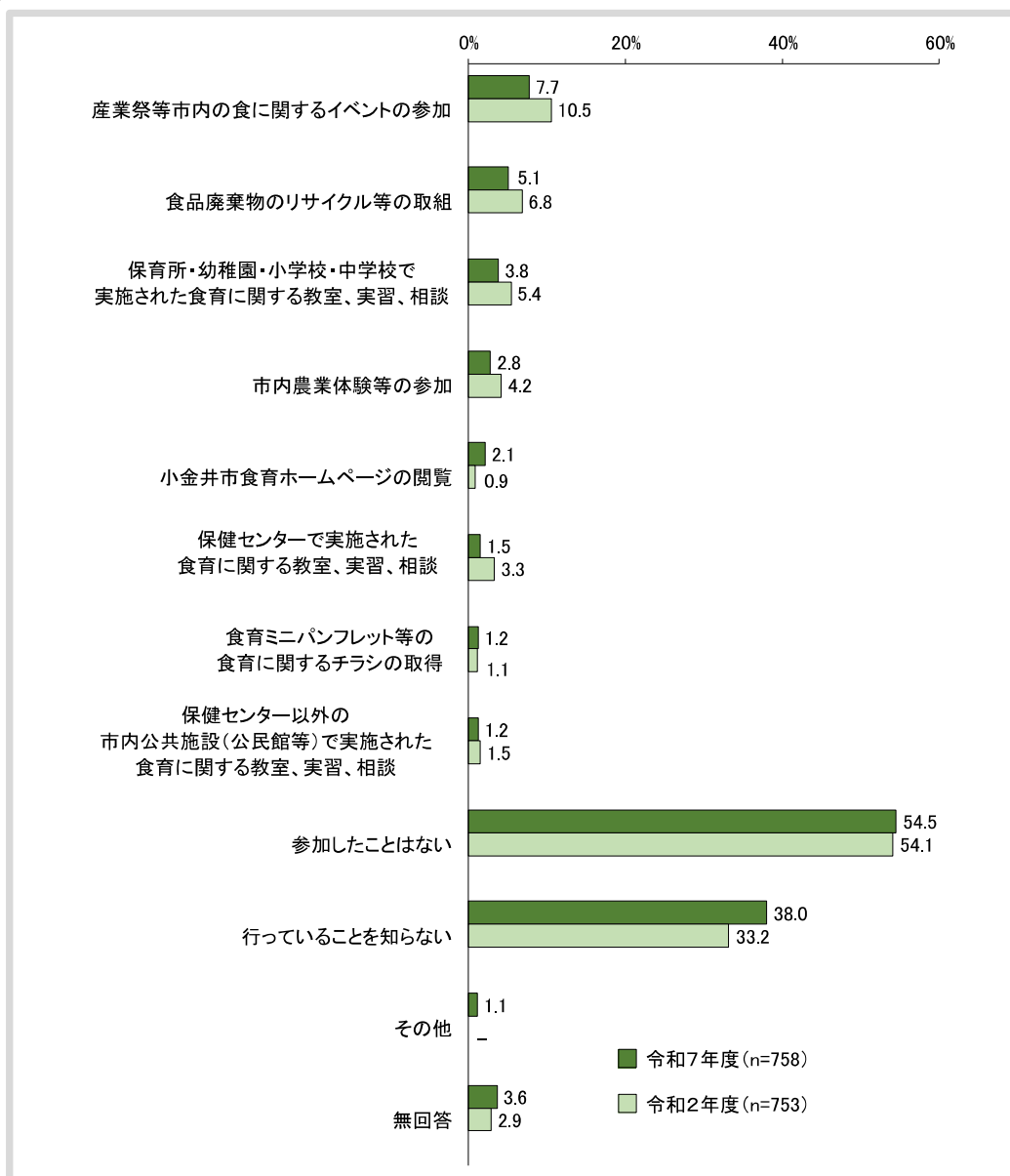
小金井市の食育イベントへの参加について、「参加したことはない」が54.5%で最も多く、次いで「行っていることを知らない」が38.0%、「農業祭等市内の食に関するイベントの参加」が7.7%となっています。〈図7-1〉

令和2年度と比較すると、「小金井市食育ホームページの閲覧」、「食育ミニパンフレット等の食育に関するチラシの取得」、「参加したことはない」、「行っていることを知らない」の割合が増加しています。〈図7-2〉

〈図7-1〉参加したことがある小金井市の食育のイベント[〇はいくつでも](一般市民調査)



＜図7-2＞参加したことのある小金井市の食育のイベント[〇はいくつでも]（一般市民調査 経年比較）

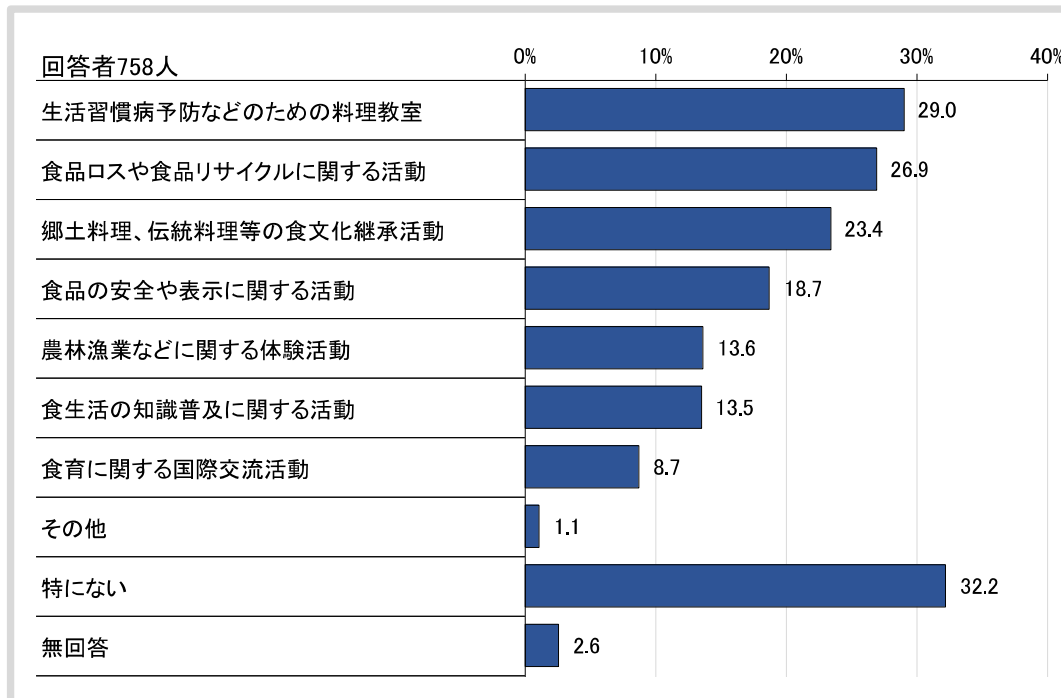


※令和2年度では、「その他」という選択肢は設けておりませんでした。

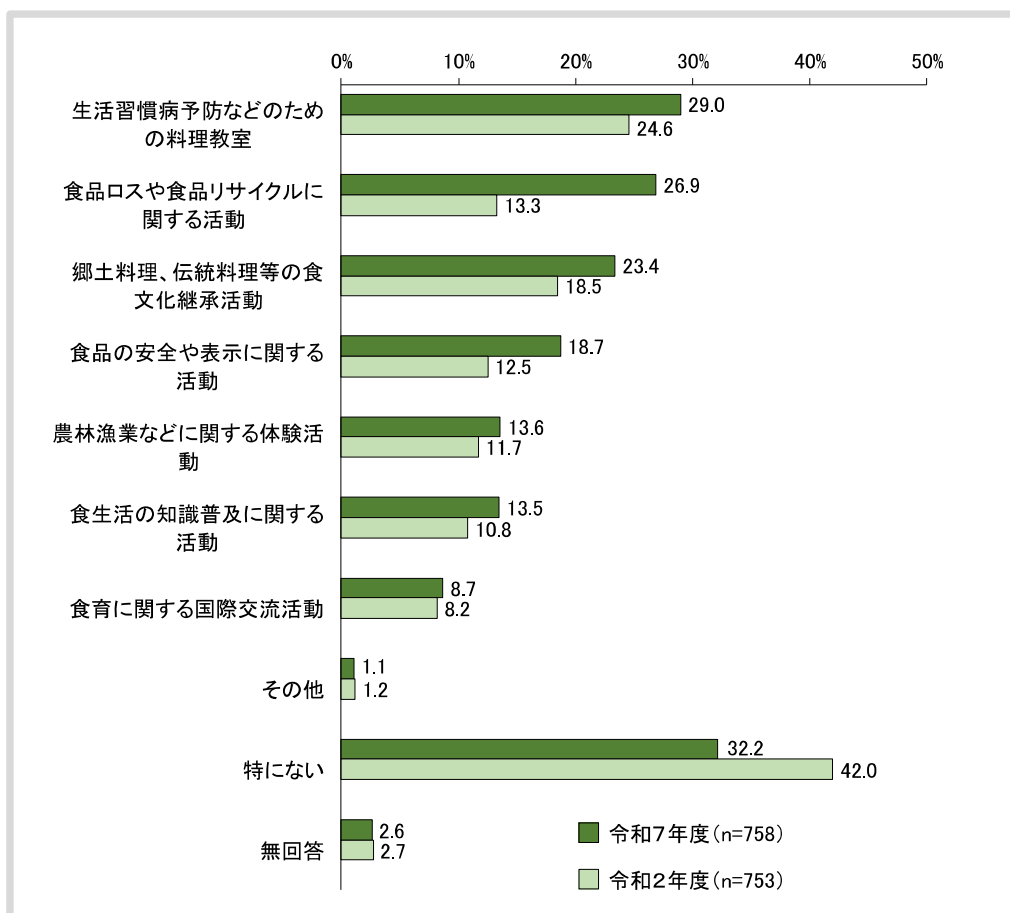
参加してみたい食育活動について、「生活習慣病予防などのための料理教室」が29.0%と最も多く、次いで「食品ロスや食品リサイクルに関する活動」が26.9%、「郷土料理、伝統料理等の食文化継承活動」が23.4%となっています。〈図7-3〉

令和2年度と比較すると、全ての項目で増加している中、特に「食品ロスや食品リサイクルに関する活動」の割合が最も増加しています。〈図7-4〉

〈図7-3〉参加してみたい食育活動[〇は3つまで](一般市民調査)



＜図7-4＞参加してみたい食育活動[〇は3つまで](一般市民調査 経年比較)

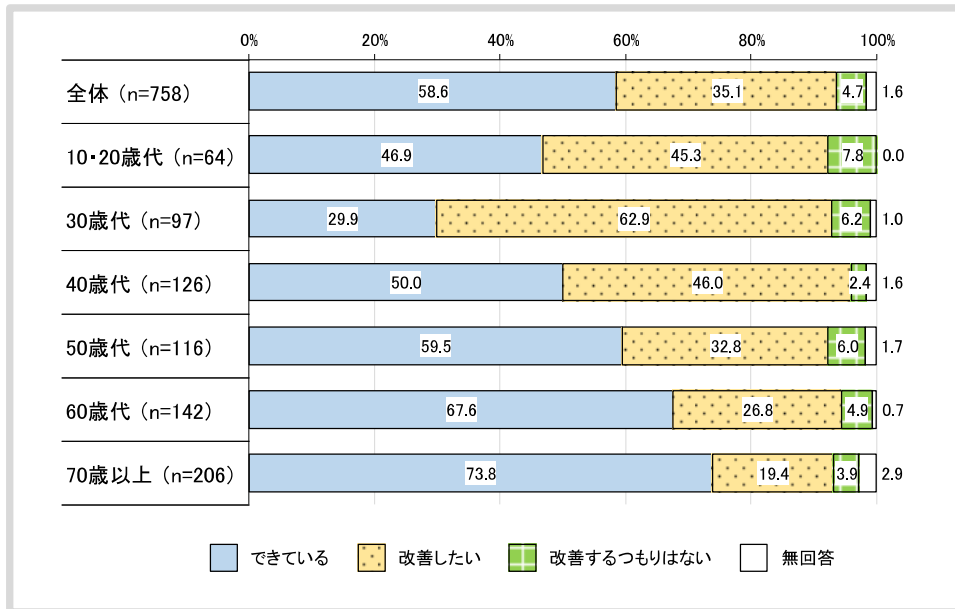


⑧ 食事の栄養バランス及び改善意欲について

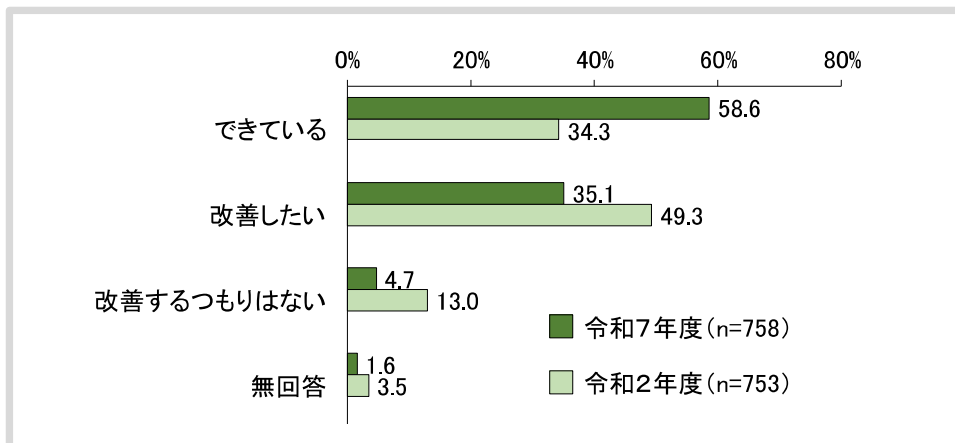
食事の栄養バランス及び改善意欲について、年齢別にみると、30歳代では「改善したい」が62.9%、70歳以上では「できている」が73.8%と、それぞれ他の年代と比べて多い割合となっています。〈図8-1〉

令和2年度と比較すると、「できている」の割合が増加しています。〈図8-2〉

〈図8-1〉栄養バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜)をする(一般市民調査)



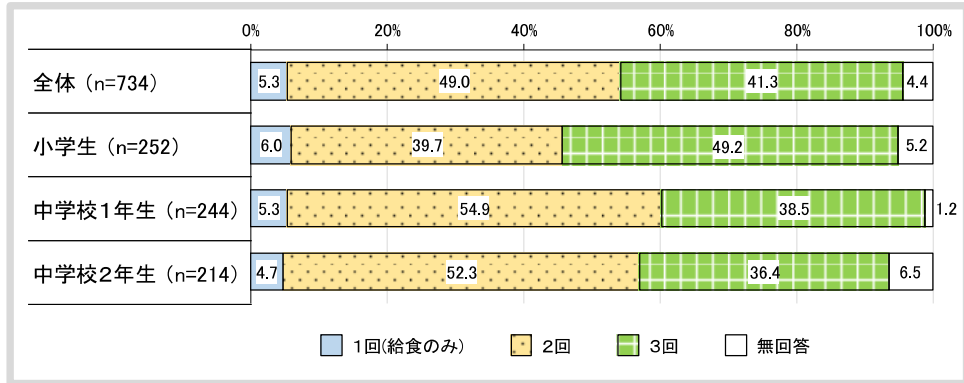
〈図8-2〉栄養バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜)をする(一般市民調査 経年比較)



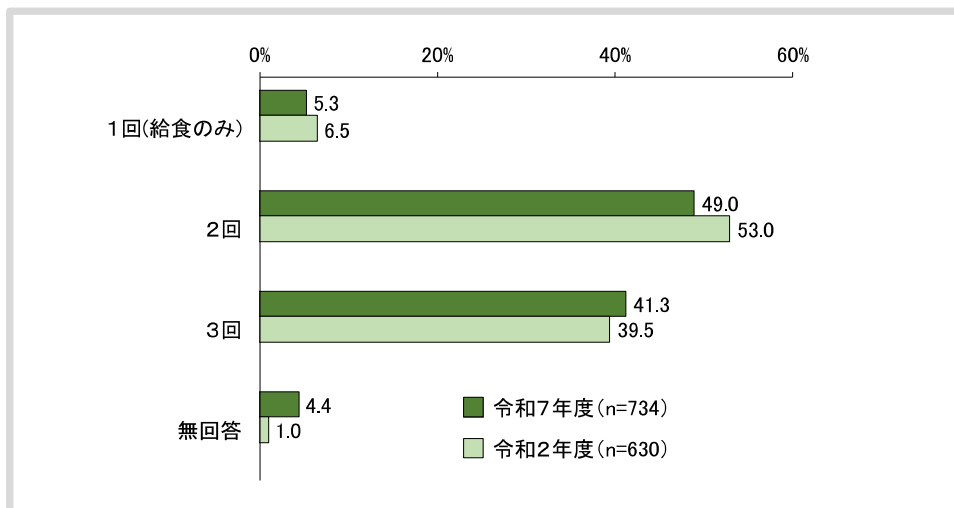
平日に1日で主食・主菜・副菜のそろった食事の回数について、小中学生別にみると、学年が上がるごとに「3回」の割合が減少しています。〈図8-3〉

令和2年度と比較すると、「3回」の割合が増加しています。〈図8-4〉

〈図8-3〉栄養バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜)をする(小・中学生調査)



〈図8-4〉栄養バランスのとれた食事(主食・主菜・副菜)をする(小・中学生調査 経年比較)

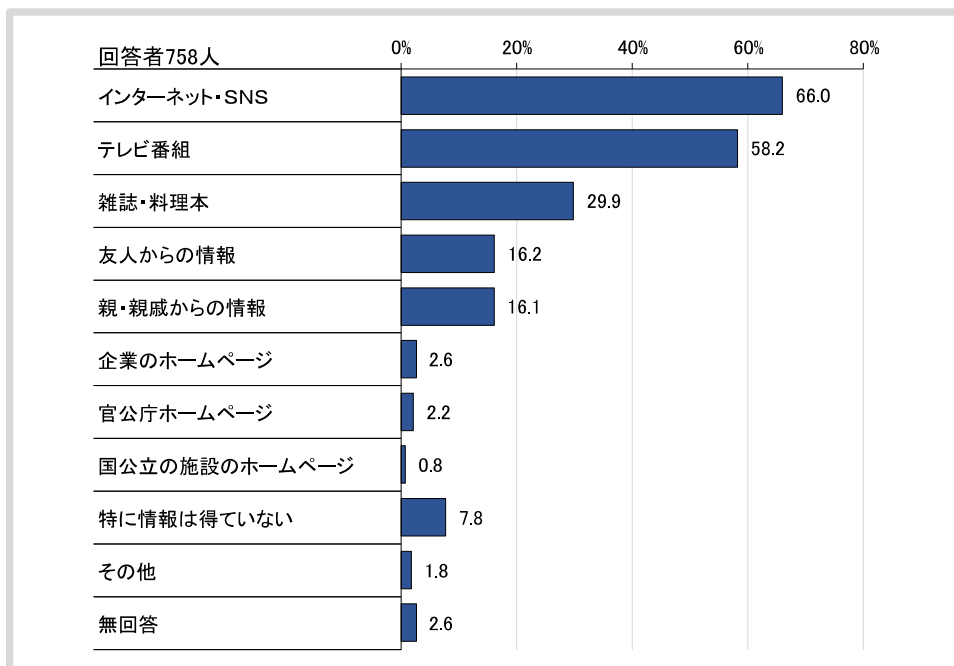


⑨ 食と健康に関する情報の入手方法について

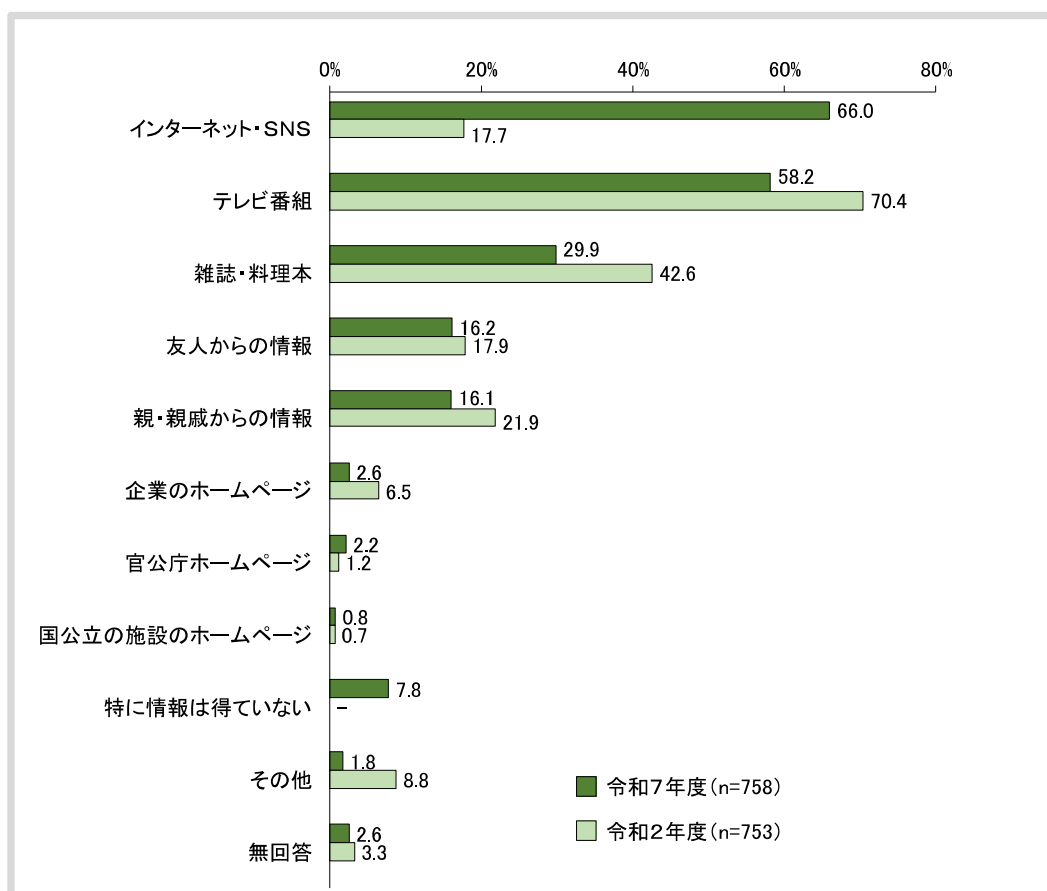
食と健康に関する情報の入手方法について、「インターネット・SNS」が66.0%と最も多く、次いで「テレビ番組」が58.2%、「雑誌・料理本」が29.9%となっています。〈図9-1〉

令和2年度と比較すると、「インターネット・SNS」、「官公庁ホームページ」、「国公立の施設のホームページ」の割合が増加しています。〈図9-2〉

〈図9-1〉 栄養と健康に関する情報の入手方法【〇はいくつでも】(一般市民調査)



＜図9-2＞ 栄養と健康に関する情報の入手方法[〇はいくつでも]（一般市民調査 経年比較）



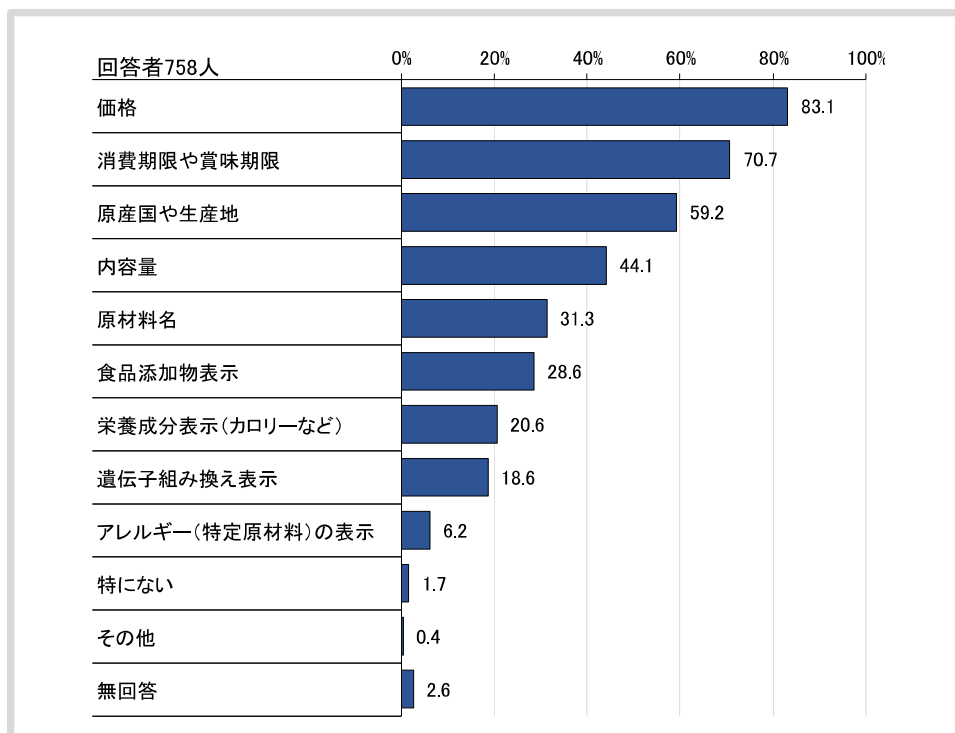
※令和2年度では、「特に情報は得ていない」という選択肢は設けておりませんでした。

⑩ 食品購入時のポイントについて

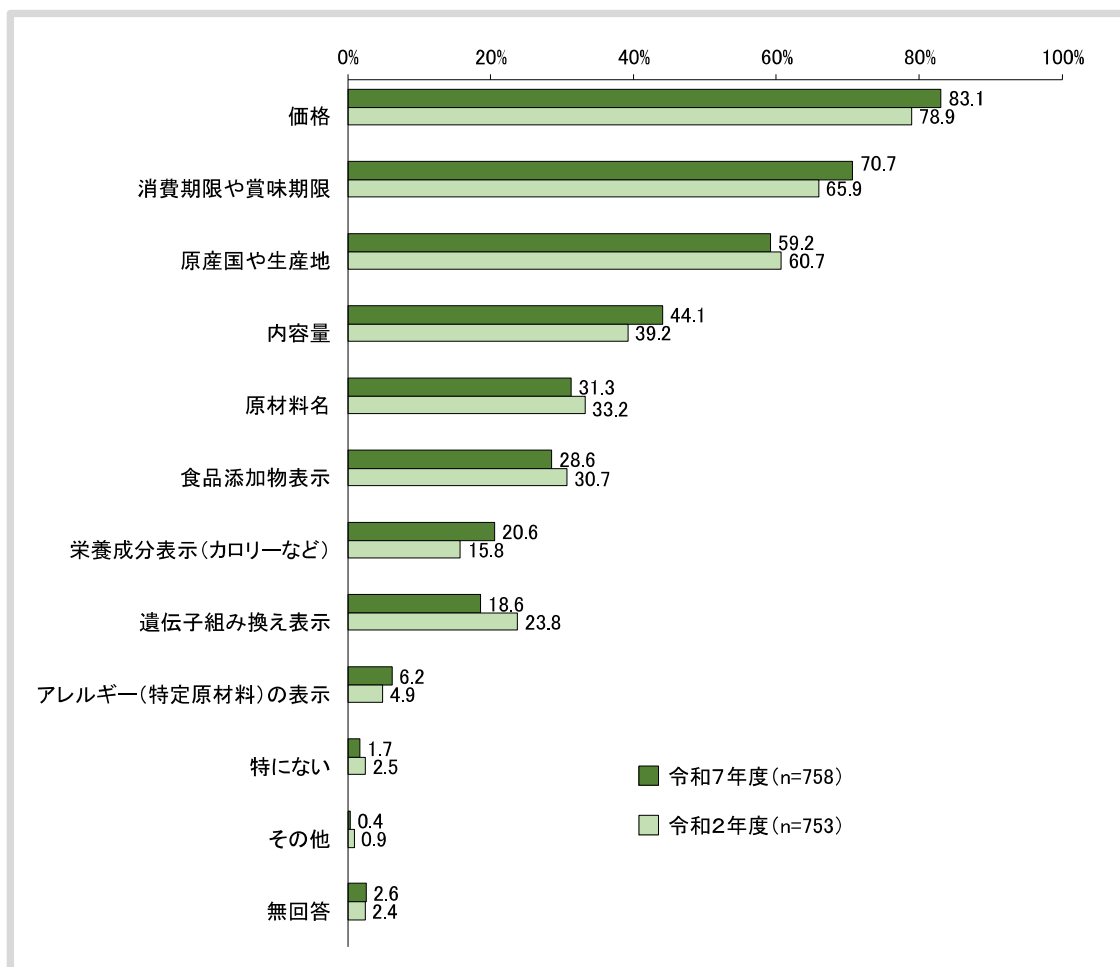
食品購入時のポイントについて、「価格」が83.1%と最も多く、次いで「消費期限や賞味期限」が70.7%、「原産国や生産地」が59.2%となっています。〈図10-1〉

令和2年度と比較すると、「原産国や生産地」、「原材料名」、「食品添加物表示」、「遺伝子組み換え表示」の割合が減少しています。〈図10-2〉

〈図10-1〉食品購入時のポイント[〇はいくつでも](一般市民調査)



<図10-2> 食品購入時のポイント[〇はいくつでも](一般市民調査 経年比較)



《現状の分析と課題》

① 朝食の摂取状況や朝食欠食がはじまる時期について

一般市民の朝食を「食べる」は令和7年度87.7%、令和2年度74.9%で、朝食摂取は全体として高い水準を示す一方、10～30歳代の若年層では2割以上が欠食しており、特に進学や就職を機に食習慣が乱れる傾向がみられます。また、児童生徒においても学年が上がるにつれて欠食が目立つようになるため、生活リズムの変化を捉えた重点的な啓発が不可欠です。したがって、食事への関心が薄れやすい若者世代に対し、心身の健康維持における朝食の重要性を再認識させる取り組みが求められます。このように、ライフステージの転換期に合わせた支援を行うことで、健全な食習慣の定着を図ることが重要となります。

② 共食について

若年層を中心に孤食化が進んでおり、特に10・20歳代の家族との朝食共食は低い水準にあります。小中学生の朝食の共食について、令和7年度で44.7%と、令和2年度の48.1%から低下しており、夕食の共食についても、全体で72.9%と、令和2年度の78.6%から低下しています。また、30歳代以上の全年代でも家族以外と食事をしない層が一定数おり、単独世帯の増加やライフスタイルの多様化が顕著です。こうした中で、孤食が招く栄養の偏りや食欲低下を防ぐためには、適切な対策を講じることが不可欠です。そこで、食事を通じたコミュニケーションやマナーの習得、食生活の充実につながる「共食」の場を積極的に推進することが重要です。こうした取組を通じて、孤食の課題を解消し、誰もが豊かに食べられる環境づくりを進めていくことが求められています。

③ 野菜の摂取状況について

野菜の摂取状況は「小鉢2皿程度（約140g）」が最多となっており、国が目標とする「1日350g（小鉢5皿程度）」に届かない層が一定数存在します。令和2年度と令和7年度を比較すると、「小鉢2皿程度」と回答した人の割合は減少している一方、「小鉢1皿程度」やそれ未満の少ない量にとどまる人の割合は依然として一定数みられ、目標量に満たない状況が続いています。また、1食につき副菜（野菜類）を1～2皿食べることに對して、30歳代の70.1%が「改善したい」と回答しています。この結果から、改善意欲は高いものの、日々の生活のなかで実践に移すことが難しい点が課題となっています。したがって、生活習慣病の予防・改善に一助となる野菜摂取の有効性を、若年層を含む幅広い世代に普及することが必要となります。あわせて、不足しがちな栄養素を補い、適切なエネルギー量を維持するための具体的な「プラス一皿」の実践を促す啓発も重要です。

④ 地産地消について

小金井市内産野菜の販売について、10～40歳代の約2割が「販売されていることを知らない」と回答しており、現役世代への情報浸透に加え、知っている層を実際の消費行動へ結びつけることも課題となっています。地産地消のさらなる推進に向け、小金井市内産野菜の魅力や購入場所に関する周知を徹底するとともに、日常的に小金井市内産野菜を選択しやすい販売環境の整備や、消費行動につながる仕組みづくりを進める必要があります。こうした多角的な働きかけを通じて、生産者と消費者の交流を促進する施策を展開し、食の生産現場への関心を高めることで、地産地消を支える意識の醸成を図ることが求められます。

⑤ 食品ロスについて

食品ロス削減につながる複数の行動が高い水準で見られ、市民の約7割が「必要な量だけ購入する」など、食品ロスに関する意識は一定程度定着しています。食品ロスを少なくするような食事作りについて、令和2年度と比較すると、52.1%から64.5%へ増加しており、食品ロス削減に向けた意識と改善意欲が全体として高まっている様子がうかがえます。また、児童生徒においては学年が上がるとともに、家での食事を「残さず食べる」意識が向上する傾向となっていますが、給食に関しては、令和2年度より「いつも残さず食べる」割合が低下しており、意識を行動へとつなげるための、さらなる工夫が必要です。今後は高い削減意識を実際の行動として定着させ、さらに「買すぎない」「作りすぎない」「食べきる」工夫を市民一人一人が日常的に実践できるような啓発が重要です。また、事業者とも連携した積極的な普及活動を通じ、環境に配慮した食の選択を推進する必要があります。

⑥ 食育の認知について

食育の言葉と意味の両方を理解している割合について、令和2年度では51.7%、令和7年度では66.0%と前回の調査結果から大きく上昇しており、認知の定着が進んでいます。一方、年齢別にみると、40歳代で8割を超えているのに対し、70歳以上では約1割が言葉すら「知らない」と回答し、世代間での認知度に差が見られます。特に「食育の日」や「食育月間」の認知度は極めて低く、広い年齢層で8割以上が「両方とも知らない」状況となっています。引き続き、食育という言葉の意味を全世代に広く浸透させるとともに、国が定める「食育の日・月間」の周知を強化し、市民の食育に対する関心を高めることが大きな課題となります。

⑦ 食育活動への関心について

食育活動の参加経験は「ない」が5割を超え、不参加の理由として「行っていることを知らない」が3割以上と、生活習慣病予防などのための食育の認知度と参加率の乖離が見られます。一方で、参加してみたい食育活動については、料理教室や食品ロス削減活動などの回答が高く、令和2年度との比較においても、その関心は依然として増加傾向となっています。小金井市では、様々な食育に関連する事業を行っていることから、引き続き、各世代の興味に合わせた有効なプログラムを提供し、参加を促すための情報発信のあり方を再検討する必要があります。

⑧ 食事の栄養バランス及び改善意欲について

栄養バランスのとれた食事については、「改善したい」が全体で35.1%、年齢別にみると30歳代で「改善したい」が6割以上を占めています。令和2年度と比較すると、「改善したい」と回答した人の割合は49.3%から35.1%へと低下しており、一方で「改善するつもりはない」と回答した人の割合は13.0%から4.7%へと減少していることから、栄養バランスに対する無関心層が縮小しつつある様子がうかがえます。また、栄養バランスのとれた食事を3回とっている児童生徒について、令和7年度では41.3%、令和2年度では39.5%とわずかに改善傾向にあるものの、学年が上がるにつれて割合が減少する傾向があります。生涯にわたって健全な心身を培うとともに、生活習慣病の予防に取り組む上で、栄養バランスを考えた食生活を実践することは重要であり、引き続き、バランスの良い食事等についての啓発が必要です。

⑨ 食と健康に関する情報の入手方法について

情報の入手先は「インターネット・SNS」（66.0%）が「テレビ番組」（58.2%）を上回り、情報収集の主軸がデジタル媒体に移行していることがうかがえます。また、令和2年度はテレビ番組の割合が高く、令和7年度ではインターネット・SNSの比重が一段と高まっています。このような現状を踏まえ、SNSをはじめとする多様なメディアを効果的に活用し、市民に対して正確な食育情報をいかに届けるかが、今後の普及啓発における重要な課題となります。

⑩ 食品購入時のポイントについて

市民の食品購入時における優先事項は「価格」が極めて高く、次いで「消費期限・賞味期限」、「原産国や生産地」となっています。また、令和7年度では「価格」が83.1%と、令和2年度の78.9%から上昇しており、価格重視の傾向は一層強まっています。昨今の物価高騰に伴う家計への影響から、消費者の「価格重視」の傾向は依然として根強く、健康への配慮や地産地消といった付加価値に対する関心が相対的に低下しやすい状況です。家計の経済性を考慮しつつも、食の安全性の確認や栄養バランスの維持、地域経済への貢献といった多面的な視点から、市民が自律的に食品を選択できる環境づくりが求められています。

⑪ まとめ

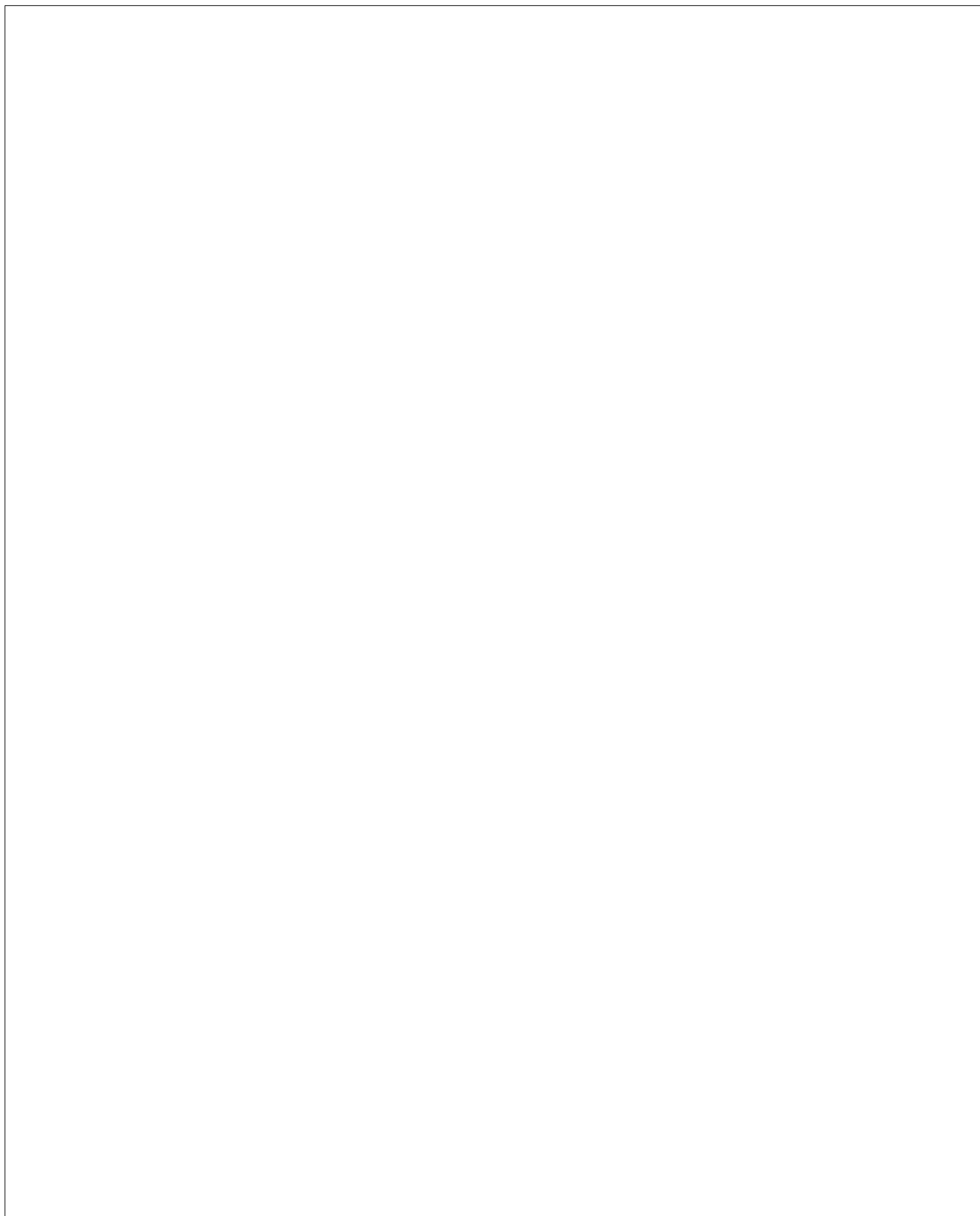
本市の食育は、食品ロス削減に対する高い意識や、食生活を改善したいという意欲に支えられている一方で、世代間の差や、意識と実践の間に一定の乖離が見られます。

特に、10～30歳代の若年・現役世代では、進学や就職などのライフステージの変化に伴い、朝食の欠食、野菜摂取の不足、孤食化といった課題が目立っています。

また、地産地消や本市が実施する食育関連事業、食育の日・食育月間などの認知は十分に浸透しておらず、必要な情報が対象となる世代に十分届いていない状況がうかがえます。加えて、食品購入時には価格を重視する傾向が強く、経済的な事情を踏まえつつも、栄養バランスや食品の安全性に配慮した選択を促す取組が必要です。

今後は、対象世代の特性に応じた情報発信を一層強化するとともに、SNS等のデジタル媒体の活用、食に関する体験機会の提供、地域の食資源を生かした取組を推進することにより、市民が正しい知識を実践につなげ、主体的に健全な食生活を選択できる環境の整備を図る必要があります。

(4) 市及び市内団体による食育関連事業の実施状況と課題



(5) 第4次計画の点検

令和4年度から令和8年度を計画期間とする第4次計画では、国の食育推進基本計画及び東京都食育推進計画の取組の指標を基本としつつ、本市の実態を踏まえて指標を設定しました。これらを点検して今後の方向性を示します。

	項目	指標	第4次計画策定時 (令和2年度)	現状値 (令和7年度)	評価
1	食育という言葉や意味を知っている	70% (市民)	51.7%	66.0% (一般市民調査 問10-1)	B
2	毎日きちんと朝食を食べる	100% (市民)	74.9%	87.7% (一般市民調査 問12-1)	B
3	家族と一緒に食事をする	小4・中1、中2 共に100% (朝・夕いずれかでも。兄弟可)	朝：小学生 94.9%	朝：小学生 60.3% (小中学生調査 問6) 夕：小学生 86.5% (小中学生調査 問7)	C
			夕：中学生 78.6%	朝：中学1年生 40.6% 中学2年生 29.9% (小中学生調査 問6) 夕：中学1年生 71.3% 中学2年生 60.3% (小中学生調査 問7)	
4	バランスのとれた食事をする	小4・中1、中2 共に60%以上	小学生 43.6%	小学生 49.2% (小中学生調査 問11(1))	B
			中学生 37.7%	中学1年生 38.5% 中学2年生 36.4% (小中学生調査 問11(1))	
		改善意欲のある市民 60%以上	49.3%	35.1% (一般市民調査 問14①)	C
5	野菜は一日350g摂取を目標とする	野菜を一日350g食べる市民50%以上	—	4.1% (一般市民調査 問15)	C
6	食生活に地産地消を取り入れる	地場野菜を食材に利用する市民80%以上	51.7%	56.6% (一般市民調査 問16-1)	B
7	食品ロスの軽減	食品ロス軽減のために活動している市民80%以上	52.1%	64.5% (一般市民調査 問14②)	B

A：達成 B：達成していないが改善傾向 C：達成していない

注) 現状値の詳細については、第5回食育市民アンケート調査報告書に掲載しています。

全体の指標の達成状況を見ると、いずれの項目も目標の達成には至りませんでした。一部の項目においては改善の傾向が見られました。

項目1「食育という言葉や意味を知っている」、項目2「毎日きちんと朝食を食べる」については、令和2年度と比較して改善が見られ、食育に関する認知の浸透や朝食摂取の習慣化が一定程度進展していると考えられます。

項目4「バランスのとれた食事をする」については、小学校4年生及び中学校1・2年生では改善の傾向が見られる一方で、市民全体では目標の達成に至っておらず、引き続き課題が見られます。

また、項目6「食生活に地産地消を取り入れる」、項目7「食品ロスの軽減」については、現状値は令和2年度を上回っており、取組の一定の成果がうかがえます。

一方で、項目3「家族と一緒に食事をする」については、特に中学生において数値が低く、生活様式の変化等により、共食の機会が十分に確保されていない状況が見受けられます。

さらに、項目5「野菜は一日350g摂取を目標とする」については、現状値が低い水準にとどまっており、引き続き重点的な取組が必要です。

今後は、食育に関する認知の向上を図るとともに、共食の機会の確保、野菜摂取の実践促進、地産地消の更なる普及啓発及び食品ロス削減に向けた具体的な行動変容を促す取組を継続的に推進することが求められます。

小金井市食育推進計画進捗状況報告（令和7年度実施分）

※1 自己評価（対前年進捗度）について
 A=充実・強化（事業を新たに実施した。または充実した。）
 B=前年度同様（前年度と同様の内容で実施した。）
 C=縮小
 D=未着手（該当事業に取り組みなかった。）

※2 効果が期待される食育の視点（該当するものに「○」複数回答可。主管課として一番期待するものに「◎」を付けてください。）
 ①食育という言葉や意味を知っている
 ②毎日きちんと朝食を食べる食生活の啓発
 ③家族・友人等と一緒に食事をする意識の育成・啓発
 ④バランスのとれた食事をする等栄養バランスを意識した食生活の啓発
 ⑤野菜は一日350g摂取を目標とする
 ⑥地場野菜の普及等、地産地消の食生活の啓発・食文化の伝承
 ⑦食品ロスの軽減等環境に配慮した食生活の啓発

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況				令和7年度進捗状況				効果があったと思われる食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績（具体的な数値等）	令和6年度に実施した取組み及び令和7年度以降の課題、対策等	自己評価（対前年進捗度）※1	事業終了について（該当する場合のみご回答ください）	令和7年度事業実績（具体的な数値等）	令和7年度に実施した取組み及び令和8年度以降の課題、対策等	自己評価（対前年進捗度）※1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
4 具体的な施策の展開																				
“Koganei-Style”の地域展開																				
①啓発活動の充実																				
34			食育月間・食育の日の取組	<p>●食育行事として、小金井歯科医師会主催の「歯と口の健康」イベントにおいて、第4次食育推進計画のちらしを466枚配布した。</p> <p>●食育行事として、栄養室前にペットボトル飲料に含まれる砂糖量モデルを掲示</p>	<p>歯と口の健康では、展示会場と口腔がん検診会場の2か所での配布だったので多くの方に配布することができた。</p> <p>食育月間の保健センター内での展示は今後も続けていきたい。</p>	B		<p>●歯と口の健康では、展示会場と口腔がん検診会場の2か所での配布だったので多くの方に配布することができた。</p> <p>●食育月間の保健センター内での展示は今後も続けていきたい。</p>	B	◎							健康課			
			食育月間（6月）及び食育の日（毎月19日）に因み、食育に関するイベント等を行い、市報・市日刊・市立保育園、小中学校等で食育の啓発活動を行う。	<p>●食育の日の取組として毎月19日に乳幼児へ食育に関する記事を配信した。配信者数：1403名</p> <p>小金井市立小中学校全校での食育の日の取組</p> <p>① 毎月11日は「お箸の日」箸を使ったメニューを提供し、マナーや持ち方等学ぶ機会を作っている。</p> <p>② 毎月24日は「小金井和食の日」和食献立を提供し、和食を広めるとともに和食について学ぶ機会を作っている。</p> <p>③ 小金井市の農家で作られている「ルバーブ」が旬を迎えるためルバーブを使用した献立を取り入れた。ルバーブチキン・ルバーブマドレーヌ・ルバーブクラシブル・手作りルバーブジャム・かりつ揚げる魚のルバーブしょうゆかけ・ルバーブチーズケーキ・鶏肉のルバーブソース ストロベリーとルバーブのジャム・鶏の唐揚げルバーブソース、ルバーブとクリームチーズのバリバリ揚げ・ルバーブとブルーベリーのマフィン</p> <p>小金井市立小中学校各校での食育月間の取組</p> <p>① 地場野菜を使ったメニューの提供 ルバーブ・小松菜・きゅうり・玉ねぎ・トマト 天根・なす・人参・にんにく・じゃがいも・キャベツ・いんげん・とうもろこし・ピーマン おかわかめ・甘長唐辛子・パジル・はちみつ</p> <p>② 季節・行事にちなんだ料理の提供・読書週間・歯と口の健康週間・図書コラボ給食・世界の料理・SDGs・セレクト給食</p>	<p>令和6年度より管轄がこども家庭センター母子保健係になった。今後も限られたスペースで多くの情報の提供ができるよう工夫していきたい。</p> <p>今後も継続していく。</p>	B		<p>今後も限られたスペースで多くの情報を提供できるよう工夫していきたい。</p> <p>今後も継続していく。</p>	B	○	○	○	◎	○	○		こども家庭センター母子保健係			
						A				A	○	○	○	○	○		学務課			

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について(該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥	
	34	1	食育月間・食育の日の取組	食育月間（6月）及び食育の日（毎月19日）に因み、食育に関するイベント等を行い、市販・市販・学校等で食育の啓発活動を行う。	<p>わかたけ保育園</p> <ul style="list-style-type: none"> ○季節の食材を使った給食の提供 ○子どもたちの前で料理の最後の仕上げをする。（ハンバーガーのソースを運んでもらいその場でぬるなど） ○5歳児に向けて包丁・ピーラー指導 ○5歳児クッキング（豚汁、お泊りでカレーライス、さつま汁） ○4歳児クッキング（クッキー、だまシュー、マーメイドマヨネーズカレードーナツ） ○行事食の提供（お泊り：すいかまるごとフルーツボンヂ、七夕：星の子スープ、十五夜：芋ようかん、1月7日：七草がゆ、節分：大豆とツナのごはん・めざしのから揚げなど、ひなまつり：春を意識した献立） ○子どもたちの喜ぶ振りをしたカレーライス（星形、クマ型など） ○魚の解体教室をし命を頂くことに触れる ○野菜を育てる、収穫した野菜を給食で食べる（トマト、ほうれん草、じゃがいも） ○野菜を育て、大きさを観察したり、干して状態が変わっていく様子を観察したり、触れてみる体験をする（ヘチマ → たわし など） ○毎月、旬の食材を子どもに紹介・クイズを行い知る機会をつくる、保護者にもホワイトボードにて紹介 	今後も継続していく。	B	わかたけ保育園	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の食材を使った給食の提供 ○子どもたちの前で料理の最後の仕上げをする。（サラダのドレッシングを和えるなど） ○5歳児に向けて包丁・ピーラー指導 ○5歳児クッキング（ポトフ、クッキー） ○4歳児クッキング（クッキー、さつま汁、包み揚げ） ○5歳児クッキング（豚汁、お泊りでカレーライス、さつま汁） ○3・4・5歳：皮むき（グリーンピース、トウモロコシ、そら豆）、近隣の畑にてさつまいも掘りを体験した ○行事食の提供（お泊り：すいかまるごとフルーツボンヂ、七夕：星の子スープ、お星さまトースト、十五夜：スイートポテト、1月7日：七草がゆ、節分：イワシのかば焼き、ひなまつり：春を意識した献立、こどもの日：かぶとおにぎり など） ○熱の解体教室をし命を頂くことに触れる ○野菜を育てる、収穫した野菜を給食で食べる（トマト、きゅうり、オクラ、バターナッツがぼちや、かぶ、ほうれん草、） ○毎月、旬の食材を子どもに紹介を行い知る機会をつくる、保護者にもホワイトボードにて紹介 									

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課	
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答 ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦
					小金井保育園 ・近隣の畑にてじゃが芋堀り体験をした (3、4、5歳児) ・幼児クラスの子どもたちで豚汁づくりを して、食べた(年齢に応じて、食材ちぎり・ ピーラーを用いて皮むき・包丁を用いて食 材切り)	今後も継続していく。			小金井保育園 ・近隣の畑にてじゃが芋堀り体験をした(3、4、5歳 児) ・幼児クラスの子どもたちで豚汁づくりをして、食べ た(年齢に応じて、食材ちぎり・ピーラーを用いて皮 むき・包丁を用いて食材切り)										
2	34	2	小金井らしい食生 活の推進	乳幼児から高齢者までを対象 にした講座の開催等を通じ て、野菜を中心とした栄養バ ランスの良い食生活を推進す る。	栄養講習会(62人)、フォローアップ教室 (98人)等でバランスのよい食生活の啓蒙 を行った。講義・質疑応答・試食・内容に よってはデモンストレーションや調理実習 を行った。	令和6年度の栄養講習会は、講義・デモン ストレーション・質疑応答・試食や内容に よっては調理実習を行った。 アンケートをもとにテーマについての見直 しを行いたい。	B		栄養講習会(52人)、フォローアップ教室(98人)等 でバランスのよい食生活の啓蒙を行った。講義、質疑 応答、試食、内容によってはデモンストレーションや 調理実習を行った。	令和7年度の栄養講習会は、講義・デモン ストレーション・質疑応答・試食や内容に よっては調理実習を行った。 テーマ等見直しつつ今後も継続して実施し ていく。	B	○	○	○	◎	○	○	○	健康課
					離乳食教室(248名)等でバランスのよい食 生活の啓蒙を行った。すべての形態で講 義・質疑応答を行い、2・3回食ではデ モンストレーション・試食も行った。	令和6年度予定された事業は全て実施。令 和6年度より管轄がこども家庭センター母 子保健係になり、1回食は乳児健診の集回教 育で実施した。 2・3・完了食については随時とは独立し た形で教室を実施しているため、広帯を工 夫し集客を図ってきたい。	B		離乳食教室・こどもクッキング等で対象の月齢・年齢 にあわせてバランスのよい食生活の啓蒙を行った。	令和7年度予定された事業は全て実施。 今後も継続して実施していく。	B	○	○	○	◎	○	○	○	こども家庭 センター母 子保健係

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課			
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦		
3	34	3	農業祭等での啓発活動	農業祭等で食育に関するブースを作る等、啓発活動を行う。	<p>■農・商工・観光が一体となったイベント「こがねい産業祭り」を開催した。</p> <p>■農業祭 開催日：令和6年11月8日、9日 会場：小金井 宮地楽器ホール他 出品数：953点（令和5年度936点）</p> <p>■農業絵画コンクール 出品数：224点（前年度222点） 入賞数：31点 表彰式：令和6年11月8日 ■食育カレンダーの作成 作成数：900部 配布先：入賞者、市内公立小学校等</p>	<p>■農業祭 農・商工・観光が一体となったイベント「こがねい産業祭り」を開催することができた。引き続き既存の農業祭の会場に駅前再開室をよりできたスペースを加えたエリアを活用し、商工会や観光まちおこし協会と連携して農・商業・観光一体でイベントを開催していく。</p> <p>■農業絵画コンクール 令和6年度においても、より多くの作品を集めるため、市内公立小学校の図工科の先生に絵画コンクールの取組みを案内した。令和7年度も引き続き案内する。</p> <p>■食育カレンダー 絵画コンクールの入賞作品と食育HPに掲載されているレシピを掲載し、食育カレンダーを作成してきた。令和7年度は9回目（絵画コンクールは11回目）となる。引き続き、食育HP編集委員会の協力をいただき、地場産野菜の旬のレシピを掲載できるよう取組んでいく。</p>	B		<p>農・商工・観光が一体となったイベント「こがねい産業祭り」を開催した。</p> <p>■農業祭 開催日：令和7年11月8日、9日 会場：小金井 宮地楽器ホール他 出品数：961点（令和6年度953点）</p> <p>■農業絵画コンクール 出品数：319点（前年度224点） 入賞数：31点 表彰式：令和7年12月5日 ■食育カレンダーの作成 作成数：900部 配布先：入賞者、市内公立小学校等</p> <p>■農業祭 農・商工・観光が一体となったイベント「こがねい産業祭り」を開催することができた。引き続き既存の農業祭の会場に駅前再開室によりできたスペースを加えたエリアを活用し、商工会や観光まちおこし協会と連携して農・商業・観光一体でイベントを開催していく。</p> <p>■農業絵画コンクール 令和7年度においても、より多くの作品を集めるため、市内公立小学校の図工科の先生に絵画コンクールの取組みを案内した。令和8年度も引き続き案内する。</p> <p>■食育カレンダー 絵画コンクールの入賞作品と食育HPに掲載されているレシピを掲載し、食育カレンダーを作成してきた。令和8年度は10回目（絵画コンクールは12回目）となる。引き続き、食育HP編集委員会の協力をいただき、地場産野菜の旬のレシピを掲載できるよう取組んでいく。</p>	B											経済課
									令和6年度廃止。	健康課主導の他事業で確実に配布できるようになったため廃止。	D										
4		4	資源循環(エコベジタブル)教室の推進	土作り、種まき、野菜の収穫、野菜くずを出さない環境に配慮した料理までの一連の流れを実際に体験し、循環型社会について学ぶ。	<p>1回目 9/12 参加者7名 夏野菜の収穫体験・土作り</p> <p>2回目 9/19 参加者6名 種まき</p> <p>3回目 11/26 参加者7名 収穫(小松菜・大根・サントウ・いちご)</p>	<p>全3回を通し、夏野菜の収穫体験と土づくりから野菜の収穫までを行った。収穫した野菜一つ一つについて、簡単に無駄のない調理法を説明し、食資源についての学習機会を設けた。体験場所である管営公園遊場の使用できる範囲が縮小したことから、収穫体験の継続が困難となった。よって、令和7年度からは本事業は取りやめとする。</p>	B	令和7年度終了	令和7年度より事業取りやめとなった。											ごみ対策課	
5		5	夏休み生ごみ投入リサイクル事業	夏休み期間中、家庭から出た生ごみを小中学校に設置されたごみ処理機に投入することができる。希望者にはリサイクル堆肥を配布する。	実施校 7校 (一小、西小、前原小、南小、一中、二中、南中)	<p>小・中学校の給食生ごみの処理方法の変更に伴い、生ごみ乾燥処理機が撤去されるため、令和7年度から本事業は取りやめとする。</p>	B	令和7年度終了	小中学校の生ごみ処理機撤去に伴い、生ごみ資源化方法が変更となったことから、事業取りやめとなった。											ごみ対策課	
6		6	食品リサイクル堆肥	市立小中学校・保育園、障がい者センター、集合住宅に設置した大型生ごみ処理機及び各家庭で使用している生ごみ処理機から生成される生ごみ乾燥物を回収し、食品リサイクル堆肥を製造、市民及び市内農家等へ配布する。	<p>市施設、市民、戸別・拠点、集合住宅の投入量合計（生ごみ換算） 187,620kg</p> <p>市民・農家への堆肥配布（随時）及び資源循環事業での使用（収穫体験1回、資源循環教室：全3回）</p>	<p>食品リサイクル堆肥を市内農家や市民に配布し、それを活用してもらうことで食資源の循環を体験してもらった。また、市民や大型生ごみ処理機の利用者に向けた収穫体験や資源循環教室で食品リサイクル堆肥を活用し、ごみの減量や食資源への理解を深めた。</p> <p>なお、令和7年度から資源循環事業（収穫体験）は、継続が困難なため取りやめとなる。</p>	B		<p>戸別・拠点、集合住宅等の投入量合計（生ごみ換算） 49,100kg</p> <p>市民・農家への堆肥配布量合計 24,236kg</p>	<p>市で回収した生ごみ乾燥物から製造した食品リサイクル堆肥を市内農家や市民に配布し、食資源循環の啓発等を行った。市内小・中学校や保育園の給食生ごみの処理方法の変更に伴い、生ごみ乾燥処理機が撤去されたため、生ごみ投入量が減少した。</p>	C										ごみ対策課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課		
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答く ださい)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	
7	34	7	フードドライブ	家庭で余っている食品を拠点回収し、NPOの団体及び社会福祉協議会を通じ、福祉施設等に届けるとともに、食品ロスを削減する。	実施回：12回 参加人数：延べ151人 食品回収量：678.31kg	回収した食品は生活困窮者世帯や子ども食堂などに届けられるよう社会福祉協議会に引き渡し、市内循環を促している。今後も利用者拡大を目指し周知啓発に努め継続実施していく。	B	【例月開催分】 実施回：12回 参加人数：延べ116人 食品回収量：392.60kg 【ハロウィンフードドライブイベント】 実施回：2回（10月25日・26日） 参加人数：延べ31人 食品回収量：36.83kg	令和7年度は例月のフードドライブに加え、JR中央線コミュニティデザイン・小金井市社会福祉協議会と共催で東小金井駅にてフードドライブを実施し、生活困窮世帯や子ども食堂への食料供給に寄与できた。 一方で、例月の参加人数が年々減少傾向にあるため、利用者拡大を目指した周知啓発に努め継続実施していく。	B								○	ごみ対策課	
8		8	食品ロス削減推進協力店・事業所認定制度	食品ロスと食べ残しの削減に積極的に取り組んでいる飲食店等を食品ロス削減推進協力店(または協力事業所)として認定し、市民に制度について周知することで、食品ロス削減の重要性についての理解と関心を深め、市民・事業者・行政が連携協力をして食品ロスの削減に向けた取組を促進する。	認定店25店舗	昨年度より3店舗増となり、そのうち2店舗が小金井カメすけについても登録を行い、市内の食品ロス削減に貢献いただいた。市内の食品ロス削減に貢献いただいた。市HPのリニューアルや6月の環境月間・10月の食品ロス削減推進月間に際し、市公式SNSを活用した周知啓発を促進した。引き続き小金井カメすけ出品店舗も含め、食品ロス削減推進協力店の増加を促進していきたい。	A	認定店28店舗	昨年度より4店舗増、1店舗減となり、そのうち3店舗が小金井カメすけについても登録を行い、市内の食品ロス削減に貢献いただいた。市内のリニューアルや6月の環境月間・10月の食品ロス削減推進月間に際し、市公式SNSを活用した周知啓発を促進した。 令和7年度末には「小金井市食品ロス削減推進計画」が策定されたことから、小金井カメすけ出品店舗も含めた食品ロス削減推進協力店の増殖を推進し、食品ロスの更なる削減を目指す。	A									○	ごみ対策課
9		9	食品ロス削減月間の取組	食品ロス削減月間(10月)に、日常生活の中で無理なく実践できる食品ロスの削減に向けた取組の一つとして「すぐに食べる物を購入する場合は、手前に置いてあるもの(期限が近い物)から取ったり、ホスターの掲示などを行い、食品ロスを削減すると同時に食品ロスは身近で発生しているということを意識づけ、食資源を大切にすることを啓発する。	市内セブンイレブン全店へのまえどりPOPの掲出 2回 (6月環境月間・10月食品ロス削減推進月間に開催) 小金井カメすけ利用促進ポスター作製・掲出 (10月中に小金井カメすけ導入店舗への出品促進依頼、11月～12月「nonowa武蔵小金井 nonowaセーブ」及び「音地楽器がーが」でのポスター掲出) 小金井カメすけ導入店舗 13店舗(3店舗増加) 小金井カメすけ利用ユーザー数 1,129名(406名増)	令和6年度は別デザインPOPも作製し、6月の環境月間と10月の食品ロス削減月間でそれぞれ活用していただいた。 10月食品ロス削減推進月間に合わせ、小金井カメすけ利用者の拡大及び出品店舗の拡大を目指し、事業者向けには、市内の飲食店を回り、食品ロス削減推進協力店及び小金井カメすけ導入店舗の拡大を推進し、ユーザー向けには「小金井カメすけ利用促進ポスター」を作製及び掲出し、利用者の増加を図った。 継続して利用者の拡大を促進していきたい。	A	市内セブンイレブン全店へのまえどりPOPの掲出 2回 (6月環境月間・10月食品ロス削減推進月間に開催) 小金井カメすけ出品店舗の紹介(随時：ごみ分別アプリ・市公式LINE、市公式) 小金井カメすけ導入店舗 16店舗(3店舗増加) 小金井カメすけ利用ユーザー数 1,508名(379名増)	令和7年度は市公式SNSを積極的に活用し、食品ロス削減推進協力店及び小金井カメすけの取組周知、事業紹介等を推進し、小金井カメすけ利用者の拡大及び出品店舗の拡大を目指し、事業者向けには、市内の飲食店を直接訪問し、事業説明等を行うことで、食品ロス削減推進協力店及び小金井カメすけ導入店舗の拡大に繋げた。今後も継続して、利用者及び協力店舗の拡大に努めていく。	A									○	ごみ対策課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況				効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (前年度 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答 ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (前年度 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
“Koganei-Style” の地域展開					②情報の整備				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
10	35	1	食育市民アンケート調査	市民の食育の実態を把握するため、本計画終了前年度にアンケート調査を実施する。	令和7年度にアンケート作成・実施予定のため、令和6年度第4回食育推進会議にてアンケート項目の見直しに着手した。	B		令和8年度に第5次計画策定のため、令和7年度に市民アンケートを実施した。	令和7年度に第5次計画策定のため、アンケート結果をもとに現計画の点検を行い、計画策定作業を進める。	B	◎	○	○	○	○	○	健康課		
11	35	2	食育ホームページ	市民ボランティアによる編集委員会を開催し、地域の食育及び食生活に関する情報を幅広く提供する。	会議は、月に1回開催し、毎月のレシピや食品クイズをの掲載について議論した。掲載した記事を健康課のX (旧Twitter) に引用し周知を行った。加えて、健康課事業、成人式、歯と口の健康イベント、公民館、経済課窓口、JA、都民農園で食育HPのちらしを配布した。 市内小中学校ホームページと食育HPとの相互リンク誘致：小学校9校 中学校4校	B		会議は、概ね月に1回開催し、毎月のレシピや食品クイズをの掲載について議論した。掲載した記事を健康課のX (旧Twitter) に引用し周知を行った。加えて、健康課事業、成人式、歯と口の健康イベントで食育HPのちらしを配布した。 市内小中学校ホームページと食育HPとの相互リンク誘致：小学校9校 中学校4校	食育ホームページ編集委員会と協力し、市内の食育活動を中心に継続して情報提供を行う。	B	○	○	○	◎	○	○	健康課		
12	35	3	食育ホームページ	関係各課の食育に関する事業を紹介する。	市報に掲載する食育事業や、各児童館の食育イベントを紹介した。	B		市報に掲載する食育事業や、各児童館の食育イベントを紹介した。	今後も市報や市ホームページと同様に事業の掲載を継続したい。	B	○	○	○	◎	○	○	健康課		
13	35	4	地場野菜等の情報提供	地場野菜等の種類・発売時期・発売場所等の情報を食育ホームページ等で提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ■庭先直売所マップ 庭先直売所マップホームページ掲載 市報6月1日号に掲載 食育HPに地図のみ掲載 わたしの便利帳に掲載 	市報等への掲載及び令和3年度に作成した庭先直売所マップのホームページへの掲載により広く市民への周知に努めた。令和7年度以降についても、庭先直売所の情報を収集しながら、市報・HP等への掲載を継続していく。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■庭先直売所マップ 庭先直売所マップホームページ掲載 市報6月1日号に掲載 食育HPに地図のみ掲載 わたしの便利帳に掲載 	市報等への掲載及び令和3年度に作成した庭先直売所マップのホームページへの掲載により広く市民への周知に努めた。令和7年度以降についても、庭先直売所の情報を収集しながら、市報・HP等への掲載を継続していく。	B						○	経済課		
					季節に応じて収穫できる野菜の紹介やその野菜を使用したレシピの記事を追加した。また、経済課の農業カレンダーの編集にも協力した。	関係機関と連携を図りながら、充実した情報提供の場となるよう食育HPでの周知を継続して実施する。	B	季節に応じて収穫できる野菜の紹介やその野菜を使用したレシピの記事を追加した。また、経済課の農業カレンダーの編集にも協力した。	関係機関と連携を図りながら、充実した情報提供の場となるよう食育HPでの周知を継続して実施する。	B					○	◎	○	健康課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課		
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (別冊毎 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答 ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦	
“Koganei-Style”の地域展開					③各種団体等の食育推進に対する促進策					①	②	③	④	⑤	⑥	⑦				
14	35	1	食育ホームページの活用	各種食育活動や食育コーディネート実習の紹介等、情報発信を行う。	小金井市食育ホームページ内で地域の食育活動や野菜のレシピ(食べ方がわかりづらい珍しい野菜も含む)の紹介等、食に関する情報を掲載している。	B	多くの方に、小金井市食育ホームページを認知してもらえる様、チラシも健康課での配布だけではなく、市内数か所に置いてもらい、周知していくとともに、さまざまな視点で「食」について伝えられるよう、引き続き充実を図る。	B	小金井市食育ホームページ内で地域の食育活動や野菜のレシピ(食べ方がわかりづらい珍しい野菜も含む)の紹介等、食に関する情報を掲載している。	多くの方に、小金井市食育ホームページを認知してもらえる様、周知していくとともに、さまざまな視点で「食」について伝えられるよう、引き続き充実を図る。	B	○	○	○	◎	○	○	○	健康課	
15	35	2	食育関連の人材の活用	市内の食育関連の人材を活用して市民協働による食育の推進を行い、関係機関の連携を図る。	農業カレンダーの記事について協力をいただいた。	B	今後も、市民ボランティアの方々と協働して食育推進を図れるよう引き続き努めていく。	B	農業カレンダーの記事について協力をいただいた。	今後も、市民ボランティアの方々と協働して食育推進を図れるよう引き続き努めていく。	B	○	○	○	◎	○	○	○	健康課	
16	35	3	親子農業体験の促進	生産体験の機会促進に向け、農業経営者クラブが実施する「親子農業体験」の周知を図る。	■親子収穫体験 ①地場産野菜の試食会&やさしいじんカードゲームの体験会 対 象：親子 参加数：9組(25人) 参加 場 所：東町の塚 ②冬野菜の収穫体験と野菜・いちごの試食会 対 象：親子 参加数：10組(29人) 参加 場 所：緑町の塚	A	令和6年度は2回の収穫体験を通じて、親子で農業に親しんでいただける機会を提供できた。 令和7年度以降も継続して実施していく。	A	■親子収穫体験 ①いちごのパフェづくり 対 象：親子 参加数：10組(25人) 参加 会 場：わくわく都民農園小金井	令和7年度は、市内で採りたいちごを使ったパフェづくりを実施し、農業に親しんでいただけの機会を提供できた。 令和8年度以降も継続して実施していく。	B					○		経済課		
17	35	4	学童収穫体験の促進	生産体験の機会促進に向け、農業振興連合会が実施する「学童収穫体験」への支援を行う。	■ジャガイモ等の学童収穫体験 対 象：市内公立小学校9校 もくせい教室 期 間：令和6年6月から11月まで 参加数：1,693人	B	ジャガイモの収穫は6月下旬頃が最適な収穫時期となっており、学校行事等の関係もあり、6月中旬頃までは収穫体験を完了させた学校も多くあり、日課調整は今後も課題である。	B	■ジャガイモ等の学童収穫体験 対 象：市内公立小学校9校 もくせい教室 期 間：令和7年6月から11月まで 参加数：1,507人	気候変動の影響により、校外学習を中止せざるを得ない日が増えている。ジャガイモの収穫時期としては従来、6月下旬頃が最適とされていたが、近年は6月の気温上昇により、同時期では生育に影響が生じるケースも見られるようになってきている。 また、学校行事等の都合から、5月下旬から6月中旬までの間に収穫体験を完了させたいと考える学校も多い。そのため、収穫時期を前倒しし、6月上旬頃に調整が必要があるが、その場合は作付け時期も前倒しし、通常の3月から2月に変更しなければならぬ。 しかし、2月に作付けを行うと霜害のリスクが高まり、種イモが腐敗するおそれがあることから、単純に時期を早めることは難しい状況にある。このため、収穫体験の日課調整は今後も重要な課題である。	B					○		経済課		
18	35	5	地場野菜等の販売促進	新鮮で安全な地場野菜等の販売促進を目標として、産先直売所の周知や、生産者、JA、事業者等の連携を推進する。	■産先直売所マップ 市報や食育HP等でPRを実施 ■JAファーマーズ・マーケットの後援 春の国営市や年末年始の地場産農産物の販売に係るイベントを後援した。 ■学校給食 より多くの地場産農産物を導入している仕組みとして、市内地場産農産物を購入した市内公立小・中学校に対して、補助金を支給した。	B	より多くの地場産農産物を導入している仕組みとして、市内地場産農産物を購入した市内公立小・中学校に対して、補助金を支給した。 野菜の規格について、共通の認識がもてるよう、目合わせ会等を開催していく。	B	■産先直売所マップ 市報や食育HP等でPRを実施 ■JAファーマーズ・マーケットの後援 春の国営市や年末年始の地場産農産物の販売に係るイベントを後援した。 ■学校給食 より多くの地場産農産物を導入している仕組みとして、市内地場産農産物を購入した市内公立小・中学校に対して、補助金を支給した。	より多くの地場産農産物を導入している仕組みとして、市内地場産農産物を購入した市内公立小・中学校に対して、補助金を支給した。 野菜の規格について、共通の認識がもてるよう、目合わせ会等を開催していく。	B							○		経済課
					栄養事業等での周知や夏休みの栄養講習会(学務課との合同事業)の講義で地場野菜についてふれた。	B	今後も事業等で地場野菜について触れていきたい。	B	栄養事業等での周知や夏休みの栄養講習会(学務課との合同事業)の講義で地場野菜についてふれた。	今後も事業等で地場野菜について触れていきたい。	B					◎			健康課	
19	36	6	料理講習会	地産地消を推進するため、農業経営者クラブと連携し、地場産野菜を利用した料理教室を実施する。	■一日生活教室 夏野菜を取り入れましょう 対 象：市民 参加者：16名 場 所：小金井ファーマーズ・マーケット調理室 内 容：地場産野菜を使った夏野菜のとろみ炒め、ゴーヤの味噌レモン和え、すいとん、ヨーグルトのルバーブジャム添え 講 師：東京むさし農業協同組合小金井地区女性部	B	令和7年度以降も継続して実施していく。	B	■一日生活教室 夏野菜を取り入れましょう 対 象：市民 参加者：18名 場 所：小金井ファーマーズ・マーケット調理室 内 容：豚の竜田焼き塩野菜あんかけ、ピーマンとなすの味噌和え、野菜の中華スープ、ヨーグルトのルバーブジャム添え 講 師：東京むさし農業協同組合小金井地区女性部	令和8年度以降も継続して実施していく。	B					◎			経済課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課	
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答 ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦
20	36	7	新たな特産物の輩 及促進	JAなどと連携し、ルバーブなど新たに特産化の可能性のある農産物の情報を生産者へ提供 する。	■地場産野菜を使用した料理教室 対 象：市民 講 師：東京むさし農業協同組合小金井 地区女性部 参加者：16人 賦 立：地場産野菜を使った夏野菜のと ろみ炒め、ゴーヤの味噌レモン和え、すい とん、ヨーグルトのルバーブジャム添え ■学校給食 各小・中学校でルバーブチキン・ルバー ブマドレーヌ・ルバーブクランブル・手作 りルバーブジャム・かりっと揚げ魚のル バーブしようゆかけ・ルバーブチーズケ キ・鶏肉のルバーブソース ストロベリー とルバーブのジャム・鶏の唐揚げルバー ブソース・ルバーブとクリームチーズのバ リバリ揚げ・ルバーブとブルーベリーのマ フィンを提供。	B	取組みについては進められているが、気候 変動の影響等によりルバーブを生産する農 家も減ってきている。ルバーブ以外の特産 化の取組みはできていない。	■地場産野菜を使用した料理教室 対 象：市民 講 師：東京むさし農業協同組合小金井地区女性部 参加者：16人 賦 立：豚の竜田焼き塩野菜あんかけ、ビーマンと なすの味噌和え、野菜の中華スープ、ヨーグルトのル バーブジャム添え ■学校給食 各小・中学校でルバーブチキン・ルバーブマドレー ヌ・ルバーブクランブル・ルバーブマフィン・手作り ルバーブジャム・ストロベリーとルバーブのジャム・ 鶏の唐揚げルバーブソース・ルバーブとクリームチ ーズのバリバリ揚げ・ルバーブとブルーベリーのパイ を提供。	取組みについては進められているが、気候 変動の影響等によりルバーブを生産する農 家も減ってきている。ルバーブ以外の特産 化の取組みはできていない。	B	①	②	③	④	⑤	⑥	○	⑦	経済課
21	36	8	生産者との交流機 会	生産者との交流や生産体験の 機会として、農地等の見学会 を行う。	■農家交流会 対 象：市民 参加数：10人参加 開 場：東町の畑	B	市民を対象に募集し、収穫体験実施後、参 加者と農家の意見交換会を実施した。 生産者との交流や生産体験機会を通して身 近な農業の大切さを感じていただける機会 となった。 令和7年度以降も引き続き継続していく。	■農家交流会 対 象：市民 参加数：21人参加 開 場：貫井北町の畑	市民を対象に募集し、ジャガイモの種イモ 植付け体験実施後、参加者と農家の意見交 換会を実施した。 生産者との交流や生産体験機会を通して身 近な農業の大切さを感じていただける機会 となった。 令和8年度以降も引き続き継続していく。	B	①	②	③	④	⑤	○	⑦	経済課	
22	36	9	野菜収穫体験	食品リサイクル堆肥を使っ て育てた野菜の収穫体験を行 う。	市民向け及び公務員宿舎に設置された生ご み処理機利用者、家庭用生ごみ処理機から 出る生ごみ乾燥物の戸別回収を実施してい る世帯及び十歳以上生ごみ投入参加者を対象に 収穫体験を実施 全1回 じゃがいも収穫体験（参加者：7 名）	C	市民向けの収穫体験では、資源循環の説明 を併せて行うことで、ごみの減量及び資源 循環への理解が深まった。 生ごみ処理機を利用されている方は、普段 からごみ減量への意識が高く、資源循環の 大切さに加え、ごみの発生抑制の重要性の 周知も図ることができた。 体験場所である学芸大学園場の借用でき る範囲が縮小したことから、収穫体験の継続 が困難となった。よって、令和7年度から は本事業は取りやめとする。	令和7年度終了 令和7年度より事業取りやめとなった。	D	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	ごみ対策課		
23	36	10	保育園出張講座	公立保育園の園児を対象に資 源循環の紙芝居と食品リサイ クル堆肥を使ったプランター 野菜の収穫体験を行う。		D	令和7年度終了 保育園の生ごみ処理機撤去による生ごみ資源化施策の 変更により、事業取りやめとなった。	D	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	ごみ対策課			

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥	
生涯にわたる食育推進 ①乳幼児と保護者の食育推進 ア保健センター																		
24	37	1	マタニティクッキング	妊婦とそのパートナー等に妊娠期における栄養の摂り方等の講義・実習・試食を行う。												子ども家庭センター母子保健係		
25	37	2	両親学級	妊婦とそのパートナー等に各種講義を行う中で栄養講義を行う。	実施回数：16回（平日、土曜日ともプログラムに栄養が入る。） 参加者数：平日コース4回78人、土曜日コース12回199人	今後も受講者が毎回ほぼ定員数で集客できそうである。令和7年度も参加者アンケート回答より内容の向上を図っていく。	B		実施回数：16回（平日、土曜日ともプログラムに栄養が入る。） 参加者数：平日コース4回96人、土曜日コース12回507人	(前年度比) 参加人数 平日コース 123.0% 土曜日コース 101.6% 昨年度に続き、土曜日コースはほぼ毎回定員に達した。参加者アンケートを継続して実施し、内容の向上を図る。	B		○		◎	○	子ども家庭センター母子保健係	
26	37	3	離乳食教室	生後4～5、6～7、8～11か月児を対象に分け、それぞれの保護者を対象に離乳食の講義、試食を行う。ただし、4～5か月については、集団健診内で行うこともある。	離乳食教室（1回食）一廃止※集団健診内で講義と試食を実施 離乳食教室（2回食） 実施回数：11回 参加者数：104人 離乳食教室（3回食） 実施回数：11回 参加者数：104人 離乳食教室（完了食） 実施回数：8回（同日に2回） 参加者数：40人	令和6年度より管轄が子ども家庭センター母子保健係になり、1回食は乳児健診の集団教育で実施した。これまで行っていた1回食の離乳食教室では、1か月の対象者が20人であったが、令和6年度から行った健診の場合は、参加者のほとんどに話をすることができると参加者数は、ひと月あたり約3倍となった。 2・3・完了食については健診とは独立した形で教室を実施しているため、アンケートを参考に内容の向上に努めた。	B	離乳食教室（1回食）一廃止※集団健診内で講義と試食を実施 離乳食教室（2回食） 実施回数：12回 参加者数：60人 離乳食教室（3回食） 実施回数：12回 参加者数：93人 離乳食教室（完了食） 実施回数：8回（同日に2回） 参加者数：46人	1回食は乳幼児健診実施時に全保護者を対象に5分程度の講義を行い、試食を提供する形で実施し、2・3・完了食教室については健診とは独立した栄養単独事業として実施した。参加者数が減少した理由としては、健診等で対応が完結した方が多かったためと考えられる。令和8年度から1回食教室については、乳幼児健診内の講義時間が分しか確保できず、必要な養育を伝えることができないため、1回食教室を栄養単独事業として実施する。また、全教室について、市民の利便性向上のため、申込方法をインターネット申込に変更し、アンケートを参考に内容の向上に努めながら、実施していく。	B		○	○	◎	○	○	子ども家庭センター母子保健係	
27	37	4	乳幼児食育メール	健康ナビ登録者から希望者に対し、メールにて食育等の情報提供を行う。	配信回数：毎月1回配信 配信者数（配信可能数）：1403人 0～1歳483人、2～3歳491人、4～5歳429人	令和6年度より管轄が子ども家庭センター母子保健係になった。今後も限られたスペースで多くの情報の提供ができるよう工夫していきたい。	B	配信回数：毎月1回配信 配信者数（配信可能数）：1495人 0～1歳553人、2～3歳494人、4～5歳448人	今後も限られたスペースで多くの情報を提供できるよう工夫していきたい。	B	○	○	○	◎	○	○	子ども家庭センター母子保健係	
28	37	5	こどもクッキング	未就学児とその保護者を対象に、調理・試食を含む栄養教室を行う。	実施回数：4回 参加者数：31人（親子15組） 歴の都合や事前キャンセルが多かったことから参加者数が微減。	令和6年度より管轄が子ども家庭センター母子保健係になった。2～3歳と3～5歳という枠で募集している。調理体験を通して年少者の食育することへの関心が引き出せるよう継続していきたい。	B	実施回数：4回 参加者数：40人（親子20組）	2～3歳と3～5歳という枠で募集した。令和8年度からは、市民の利便性向上のため、申込方法をインターネット申込に変更して実施予定。調理体験を通して食育することへの関心を引き出せるよう継続していきたい。	B	○	○	○	◎	○	○	子ども家庭センター母子保健係	
29	37	6	乳幼児保健相談（のびのび広場相談）	乳幼児を対象に、地域センター等で計測を行い、希望者に保健師・管理栄養士等が相談を行う。	実施回数：69回 実施者数：445人 実施場所：貫井南センター、東センター、婦人会館、上水会館、丸山台集会所、保健センター、前原暫定集会所	令和6年度より管轄が子ども家庭センター母子保健係になった。健診以外の場でも案内をしている。	B	実施回数：67回 実施者数：387人 実施場所：貫井南センター、東センター、婦人会館、上水会館、丸山台集会所、保健センター、上芝原会館、	乳幼児保健相談が減少した理由として、他の健診・栄養事業内で対応が完結した方が多くなったためと考えられる。引き続き周知・案内を行っていく。	B	○	○	○	◎			子ども家庭センター母子保健係	
30	37	7	栄養個別相談	管理栄養士によるアレルギー食や子どもの食事相談を行う。	実施回数：8回 実施者数：8人 実施場所：保健センター	個別相談が昨年より減ったのは、のびのび相談等に足を運ぶ方が増えたためだと考えられる。電話対応は、42件あった。電話相談や児童館への相談者に個別相談の案内を行って内容の向上に努めた。	B	実施回数：3回 実施者数：3人 実施場所：保健センター	個別相談が減少した理由として、子ども家庭センターが実施している事業内で対応が完結した方が多くなったためと考えられる。子ども家庭センターと連携しながら個別で対応をする必要のある対象者を案内していく。	B	○	○	○	◎			健康課	
31	37	8	エンジェル教室	5か月児とその保護者を対象とした育児知識等の各種講習の中で、離乳食の講義・試食を行う。	実施回数：12回（2日間コースの内1日） 参加者数（延数）：大人223人子ども191人 子どもの日の発進に見合った離乳食の形状や食べさせ方を知ることにより、負担なく離乳食を進められることを目指した。	すりつぶしの体験を取り入れたことで、栄養士や参加者同士が交流し、離乳食に対する不安の軽減につながった。離乳食を始める方も多いため、すりつぶしの食材を増やししながら、引き続き離乳食づくりの負担軽減につなげる。	B	実施回数：12回（2日間コースの内1日） 参加者数（延数）：大人202人、子ども189人 子どもの日の発進に見合った離乳食の形状や食べさせ方を知ることにより、負担なく離乳食を進められることを目指した。	すりつぶしの体験を取り入れたことで、栄養士や参加者同士が交流し、離乳食に対する不安の軽減につながった。離乳食を始める方も多いため、すりつぶしの食材を増やししながら、引き続き離乳食づくりの負担軽減につなげる。	B			○	◎			子ども家庭センターこども相談係	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課	
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦
生涯にわたる食育推進 ①乳幼児と保護者の食育推進 イ保育所・幼稚園等																			
												①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
32	38	1	年間食育計画をもとにした食育	食育計画や年間行事計画を作成し、子どもの発達に応じた食育事業を実施する。	年間を通して子どもたちと食を共にすることから一食一食を大切にすることはもちろんのこと、年間の計画を作成し、体系的に食育事業を実施した。	今後も継続して取り組んでいく。	B		年間を通して子どもたちと食を共にすることから一食一食を大切にすることはもちろんのこと、年間の計画を作成し、体系的に食育事業を実施した。	今後も継続して取り組んでいく。	B		○	◎	○				保育課
33	38	2	収穫体験	農業体験として園児が収穫したイモを、調理して食べる。	農家の方の協力による芋ほりや園庭で育てた野菜等を子どもが収穫体験し、それらの食材を給食及びクッキング保育で使った。収穫から体験することで、生産者への感謝や食に対する興味の向上が図れた。	今後も継続して取り組んでいく。	B		農家の方の協力による芋ほりや園庭で育てた野菜等を子どもが収穫体験し、それらの食材を給食及びクッキング保育で使った。収穫から体験することで、生産者への感謝や食に対する興味の向上が図れた。	今後も継続して取り組んでいく。	B					◎	○		保育課
34	38	3	給食だより	給食だよりを配布・掲示する。特に、食育月間・食育の取組を行う。	毎月、給食だよりを発行し、保護者の食に対する不安解消や家庭での食育の充実を図れるよう情報提供を行った。	保護者が食に対して興味を持てるよう、今後もさらに内容を充実していく。	B		毎月、給食だよりを発行し、保護者の食に対する不安解消や家庭での食育の充実を図れるよう情報提供を行った。	保護者が食に対して興味を持てるよう、今後もさらに内容を充実していく。	B		○	○	◎				保育課
35	38	4	クッキング保育	園児がクッキング体験をし、食の知識やその大切さを学ぶ。	公立保育園5園で園児の調理保育を実施した。食の知識だけでなく、調理過程や器具の使い方等を伝えることができた。	今後も継続して取り組む。	B		公立保育園5園で園児の調理保育を実施した。食の知識だけでなく、調理過程や器具の使い方等を伝えることができた。	今後も継続して取り組んでいく。	B		○	◎	○				保育課
36	38	5	食物アレルギー等の個別相談	必要に応じて保護者と個別に相談し、給食に反映させる。	食物アレルギーがある子どもの保護者と個別に随時面談を行い、医師による生活管理指導表に基づいた対応で給食に反映させた。	今後も保護者と連携を密にとり、対応していく。	B		食物アレルギーがある子どもの保護者と個別に随時面談を行い、医師による生活管理指導表に基づいた対応で給食に反映させた。	今後も保護者と連携を密にとり、対応していく。	B			◎	○				保育課
37	38	6	栄養士による出前講座	市立保育園の栄養士が児童館に出向き、食育相談を行う。	児童館で職員相談を行った。(1回)	今後も継続して取り組んでいく。	B		児童館で職員相談を1回行った。(くりのみ保育園)	今後も継続して取り組んでいく。	B		◎	○	○				保育課
38	38	7	生産者・食材納品業者等との交流	地域の生産者・食材納品業者等と園児がふれあい、物に野菜や魚の実物が見られるよう配慮する。	農家の方にご協力をいただき芋ほりを行い、給食の食材として利用した。じゃがいも掘り 5園(くりのみは園で栽培・収穫したものを給食の食材として利用) さつまいも掘り 5園	今後も取り組みを工夫し、より充実したものにしていく。	B		農家の方にご協力をいただき芋ほりを行い、給食の食材として利用した。じゃがいも掘り 4園(未実施:わかたけ保育園、くりのみは園で栽培・収穫したものを給食の食材として利用)	今後も取り組みを工夫し、より充実したものにしていく。	B					◎	○		保育課
39	38	8	地域向け食育活動	離乳食、幼児食、アレルギー等について、地域からも参加できる食育相談や講習会、談話会を実施する。	地域の子育て中の人を対象に、園庭開放利用者や見学者の食育相談を行ったり、一時保育利用者の相談を行うなど、地域の人が参加できる食育相談を行った。	今後も継続して取り組む。	B		地域の子育て中の人を対象に、園庭開放利用者や見学者の食育相談を行ったり、一時保育利用者の相談を行うなど、地域の人が参加できる食育相談を行った。	今後も継続して取り組んでいく。	B		○		◎		○	○	保育課
40	38	9	地域連携の推進	私立の保育所・幼稚園等との連携を推進する。	保健センター(健康課)の管理栄養士と公立保育園栄養士との連携を取り、市の方向性を統一できるように努めた。	保健センターの管理栄養士との連携をより深め、保育園での活動など情報を発信する等も検討する。学校栄養士との情報交換を目指す。	B		保健センター(健康課)の管理栄養士と公立保育園栄養士との連携を取り、市の方向性を統一できるように努めた。	保健センターの管理栄養士との連携をより深め、保育園での活動など情報を発信する等も検討する。学校栄養士との情報交換を目指す。	B				◎				保育課
41	38	10	家庭と協働した食育支援	望ましい食習慣の取組ができるよう支援する。	園ごとに保育園給食のおすすめレシピや旬の食材等を紹介。保護者向けに展示やレシピメモを配布し乳幼児食への理解促進に努めた。	今後も更なる内容の充実にも努め、様々な機会を活用し情報発信していく。	B		園ごとに保育園給食のおすすめレシピや旬の食材等を紹介。保護者向けに展示やレシピメモを配布し乳幼児食への理解促進に努めた。	今後も更なる内容の充実にも努め、様々な機会を活用し情報発信していく。	B		◎	○					保育課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があつたと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み、及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み、及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
生涯にわたる食育推進 ①乳幼児と保護者の食育推進											①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
42	38	1	子育て相談会	<p>保護者に対する食事や栄養をテーマにした専門家による講演会及び相談会を行う。</p> <p>【本町児童館】 離乳食講座 2回/24人</p> <p>【東児童館】 離乳食講座等 4回/53人 ・離乳食講座 3回/32人 ・ぽおぽおミニ講座 1回/21人</p> <p>【貫井南児童館】 離乳食（食育）講習会 2回/26人</p> <p>【緑児童館】 離乳食講習会等 3回/31人 ・離乳食講習会 2回/20人 ・1歳児の食事講習会 1回/11人</p>	<p>調理・試食をコロナ禍以前の形式・規模に戻して実施した。</p> <p>次年度についても同内容・規模で引き続き取り組んでいく。</p>	B	<p>【本町児童館】 離乳食講座 2回/28人</p> <p>【東児童館】 離乳食講座等 4回/55人 ・離乳食講座 3回/32人 ・ぽおぽおミニ講座 1回/23人</p> <p>【貫井南児童館】 離乳食（食育）講習会 2回/18人</p> <p>【緑児童館】 離乳食講習会 2回/62人</p>	<p>次年度についても同内容・規模で引き続き取り組んでいく。</p>	B			○	○					児童青少年課
43	38	2	乳幼児食事会	<p>子育てひろばや幼児グループで行う食を通じたの交流会（情報を交換し、食育に対する理解を深める）を行う。</p> <p>【本町児童館】 幼児グループ食事会 4回/44人</p> <p>【東児童館】 幼児グループ食事会等 36回/489人 ・子育てひろば会食 8回/121人 ・子育てひろば茶房 3回/50人 ・幼児グループ食事会 24回/291人 ・子育てセミナー 1回/27人</p> <p>【貫井南児童館】 幼児グループ調理、会食会 9回/115人</p> <p>【緑児童館】 幼児グループ焼き芋、食事会 5回/50人</p>	<p>令和5年度当初は慎重に実施していたが令和6年度は完全に会食・調理をコロナ禍以前の形式・規模に戻して実施した。</p> <p>子育てひろばの「たより」にて会食メニューを掲載紹介した。</p> <p>次年度についても同内容・規模で引き続き取り組んでいく。</p>	A	<p>【本町児童館】 幼児グループ食事会 4回/88人</p> <p>【東児童館】 幼児グループ食事会等 36回/489人 ・子育てひろば会食 7回/112人 ・子育てひろば茶房 1回/4人 ・幼児グループ食事会 9回/180人</p> <p>【貫井南児童館】 幼児グループ調理、会食会 3回/77人</p> <p>【緑児童館】 幼児グループ食事会 4回/88人</p>	<p>各児童館での食事会等の実施に加え、子育てひろばの「たより」にて会食メニューを掲載紹介した。</p> <p>次年度についても同内容・規模で引き続き取り組んでいく。</p>	B			○					児童青少年課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課	
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答く ださい)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦
生涯にわたる食育推進 ②学齢期の食育推進											①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
49	39	1	食育指導 (学童保育所)	食べることを通して、団らんの楽しさ、作ることの楽しさ、食べることの楽しさを仲間と分かち合う。	各学童保育所ごと日常のおやつとは別に月に1回は食育の日を決めて、テーマをもって食育に取り組み、食にまつわること、季節を感じることから食育、マナーまで幅広くを学んでいる。	B	日常のおやつの中では手洗い、マナーはもちろん季節に応じた食を提供すると同時に、食育の日にはテーマをもって食を意識できるように取り組みを令和7年度も継続して実施していく。	B	各学童保育所ごと日常のおやつとは別に月に1回は食育の日を決めて、テーマをもって食育に取り組み、食にまつわること、季節を感じることから食育、マナーまで幅広くを学んでいる。	日常のおやつの中では手洗い、マナーはもちろん季節に応じた食を提供すると同時に、食育の日にはテーマをもって食を意識できるように取り組みを令和8年度も継続して実施していく。								児童青少年課	
50	39	2	料理教室 (児童館)	主に小学生から中・高校生までを対象として手作りを中心とした料理教室を行い、作り方を指導し、食を共にしながら相互に交流を図る。また、地産野菜等を通じた生産者との交流や環境に配慮した料理教室等を実施する。	【本町児童館】 各種料理教室等 33回/582人 ・幼児グループ半ほり (2回/32人) ・低学年グループ (17回/305人) ・高学年グループ (8回/141人) ・本町工作道場 (1回/21人) ・本町アートファクトリー (2回/38人) ・本町キャラバン (3回/45人) 【東児童館】 各種料理教室等 68回/978人 ・1歳児グループ半ほり (1回/39人) ・幼児グループ半ほり、大根ほり (4回/48人) ・低学年グループ (23回/437人) ・高学年グループ (15回/133人) ・低学年グループ野菜収穫、大根ほり (1回/75人) ・高学年グループ半ほり、大根ほり (2回/17人) ・わくわくキッズ (2回/49人) ・料理をしよう (2回/23人) ・やってみよう！焼き芋体験 (1回/16人) ・中高生タイム (10回/94人) ・とびだせ！中高生 (2回/16人) ・とまるぜ！中高生 (2回/31人)	A	前年に引き続き、調理や喫食のある事業をコロナ禍以前の形式・規模に戻して実施した。次年度についても同内容・規模で引き続き取り組んでいく。	B	【本町児童館】 各種料理教室等 37回/699人 ・幼児グループ半ほり (3回/72人) ・低学年グループ (19回/347人) ・高学年グループ (7回/107人) ・夏期クラブ夕食づくり (1回/60人) ・本町台所道場 (1回/12人) ・本町アートファクトリー (3回/47人) ・本町キャラバン (3回/54人) 【東児童館】 各種料理教室等 54回/936人 ・幼児グループ半ほり、大根ほり (3回/77人) ・低学年グループ (22回/428人) ・高学年グループ (14回/202人) ・わくわくキッズ (2回/44人) ・やってみよう！焼き芋体験 (1回/14人) ・料理をしよう (2回/22人) ・中高生タイム (8回/115人) ・とまるぜ！中高生 (2回/34人)	次年度についても同内容・規模で引き続き取り組んでいく。									児童青少年課

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課			
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答 ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年 進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦		
生涯にわたる食育推進 ③青年期から高齢期の食育推進													①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
51	40	1	学校における食育の推進と情報発信 [再掲]	学習指導要領に基づき学校ごとの食に関する指導全体計画を作成し、積極的に食育の推進を図る。	食に関する全体計画のもとに、保健体育科の健全な心身の成長を図るための学習や家庭科の調理実習学習などを実施した。	感染防止等に配慮しながら体験学習のさらなる充実を図る。ICT端末を活用した学習についてさらに研究し、実践するよう指導する。食育の目標達成に向けて給食指導の充実に努めていきたい。	B	令和9年度以降終了予定	食に関する全体計画のもとに、保健体育科の健全な心身の成長を図るための学習や家庭科の調理実習学習などを実施した。	感染防止等に配慮しながら体験学習のさらなる充実を図る。ICT端末を活用した学習についてさらに研究し、実践するよう指導の充実に努めていきたい。	B			○	◎	○				指導室	
52	40	2	給食を通じた食育 [再掲]	栄養教諭・食育リーダーを中心に、授業や給食委員会の活動・日々の給食を通して、望ましい食習慣を身につけさせる。	食育リーダー会議では、各校の取組みの情報共有を行った。	食育リーダー会で検討したことについて、各校や保護者、地域へ周知を図っていく。	B	令和9年度以降終了予定	食育リーダー会議では、各校の取組みの情報共有を行った。	食育リーダー会で検討したことについて、各校や保護者、地域へ周知を図っていく。	B	○	○	◎	○						指導室(学務課)
53	40	3	地域と交流した食育活動 [再掲]	給食だより・校内放送等での取組を含め、地域の生産者等と児童・生徒が交流する。	地域の生産者等との交流については、授業の一環として実施している学校がある。引続き指導室・栄養教諭と連携を取り、食育推進等の支援をする。	地域の生産者等との交流については、引続き授業の一環として実施できるよう小中学校や指導室に協力を求める。	B		地域の生産者等との交流については、授業の一環として実施している学校がある。引続き指導室・栄養教諭と連携を取り、食育推進等の支援をする。	地域の生産者等との交流については、引続き授業の一環として実施できるよう小中学校や指導室に協力を求める。	B			○	○	○	◎	○		学務課(指導室)	
54	40	4	家庭と協働した食育支援 [再掲]	望ましい食習慣の取組ができるよう支援するため、給食だより等の情報提供を充実させる。	小中学校全14校で給食だよりを毎月発行している。	今後も継続していく。	A		小中学校全14校で給食だよりを毎月発行している。	今後も継続していく。	A	○	○	○	◎		○	○		学務課	
55	40	5	ミニパンフレットによる情報発信	青年期向けの食育に関するミニパンフレットを作成し、関係機関に配する。	多摩府中保健所の青少年向けミニパンフレットと小倉井前食育甲のちらしを成人式に800部配布用として用意した。	令和7年度は、多摩府中保健所にて制作の「ちゅんとごはんマスタークイズ」のミニパンフレットを配布予定。	B		令和7年度は多摩府中保健所のマスコットキャラクター「PAKIたん」とちゅんごはんマスタークイズのQRコードを使用したステッカー800部作成し二十歳を祝う会にて配布した。	令和8年度は多摩府中保健所の「若い世代向けちゅんごはんのスヌ」を活用し普及啓発を行う。	B			○	◎	○	○			健康課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況				令和7年度進捗状況				効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み 及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み 及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
生涯にわたる食育推進 ③青年期から高齢期の食育推進													①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
56	41	1	栄養個別相談	生活習慣病等、個人のニーズに合わせた栄養に関わる相談を行う。 実施回数：7回 実施者数：13人	国民健康保険のポイント事業の対象者が多く、電話相談は2件だった。記録方法を見直し、対象者の属性を精査して周知方法に反映していきたい。	B		実施回数：6回 実施者数：11人 実施場所：保健センター	令和8年度からは市民の利便性向上のため、実施場所を保健センターに加えて上之原会館でも実施する予定である。	B			○	○	◎	○			健康課	
57	41	2	栄養講習会	生活習慣病や健康づくりに関するテーマを設定し、テーマに合わせた栄養講義や調理実習を行う。 栄養講習会：4回（未就学児・小学生とその保護者向けを除く）参加者数：41人	講義とデモンストレーション、試食、内容によっては調理実習を行った。参加者の年齢や性別が偏らないように年齢や性別を区切った講習会も継続していきたい。	B		栄養講習会：4回（未就学児・小学生とその保護者向けを除く）参加者数：34人	講義とデモンストレーション、試食、内容によっては調理実習を行った。テーマを検討しながら継続していきたい。	B			○	○	◎	○			健康課	
58	41	3	健康づくりフォーラム指導教室	糖尿病や骨粗しょう症など、疾病や年齢に合わせた栄養講習を行うことにより、疾病の予防や健康に対する意識の啓発、生活習慣の改善を支援する。 糖尿病予防教室：13人 骨粗しょう症予防教室：4人 いきいき健康教室：20人 血管若返り教室：13人 親子健康教室：21人(大人10人子ども11) ボディメイク教室：11人 糖尿病復習会：11人 計93人	骨粗しょう症予防教室の参加者が減少しているため、予防のための取り組みが最も効果的な10代の子どもの子育て中の世代にも対象を広げて実施予定。	B		糖尿病予防教室：14人 骨粗しょう症予防教室：1人 いきいき健康教室：27人 血管若返り教室：20人 親子健康教室：19人(大人9人子ども10人) ボディメイク教室：7人 糖尿病復習会：10人 計98人	ボディメイク教室の参加者が減少しているため、実施時間を午後に変更して実施予定。	B			○	○	◎	○			健康課	
59	41	4	特定保健指導	特定健康診査において生活習慣病を発病するリスクが高い結果となった方に対して、特定保健指導を行うことにより、疾病の予防や早期発見、健康に対する意識の啓発、生活習慣の改善を支援する。 特定保健指導対象者数 動機付け支援：470人 積極的支援：140人 特定保健指導利用者数 動機付け支援：54人 積極的支援：10人	特定健康診査において生活習慣病を発病するリスクが高い結果となった方に対し、特定保健指導を行った。今後も特定保健指導の利用率が向上するよう運動教室も併用しながら利用促進を行い、管理栄養士・保健師と共に、対象者にあった食生活の見直し等を行う。	B		特定保健指導対象者数 動機付け支援：459人 積極的支援：154人 特定保健指導利用者数 動機付け支援：87人 積極的支援：16人	特定健康診査において生活習慣病を発病するリスクが高い結果となった方に対し、特定保健指導を行った。今後も特定保健指導の利用率が向上するよう運動教室も併用しながら利用促進を行い、管理栄養士・保健師と共に、対象者にあった食生活の見直し等を行う。	B			○	○	○				保健年金課	
60	41	5	成人学校	食に関する様々なテーマを取り上げた講座等を開催する。															公民館	
61	41	6	成人学校「菜園教室」	【目的】額に汗しながらに親しみ、野菜の共同栽培を通じて作る喜びを分かち合います。また、土起こしから収穫までを体験する。 令和6年4月10日～令和7年3月12日 原則毎週水曜日実施（全45回） 延べ参加者892人	第4次小金井市生涯学習推進計画の中の「公民館を活用する学びの推進」で野菜づくり講座を事業の柱として位置付けている。令和6年度は4人で約30種類の野菜を育て、つくる喜びを体験した。	A		令和7年4月23日～令和8年3月11日 原則毎週水曜日実施（全45回） 延べ参加者932人	第4次小金井市生涯学習推進計画の中の「公民館を活用する学びの推進」で野菜づくり講座を事業の柱として位置付けている。令和7年度は24人で39種類の野菜を育て、つくる喜びを体験した。								◎	○	公民館	
62	41	7	6024・8020運動の推進	生涯を通じて健康的な食生活が実践できるよう、60歳～24歳以上、80歳で20分以上の歯がある方の増加を目指す。 歯周疾患の早期発見に努め、生涯を通じて自分の歯で過ごすことができるようにするため成人歯科健診を実施した。 受診者数：1863人	昨年同様、20歳から80歳までの5歳刻み節目年齢の方を対象に実施した。対象年齢について検診を図りながら、今後も継続して実施する。また、成人歯科健診を実施する方のうち、70歳、75歳、80歳を対象に口腔機能評価を実施した。	B		歯周疾患の早期発見に努め、生涯を通じて自分の歯で過ごすことができるようにするため成人歯科健診を実施した。 受診者数：1875人	昨年同様、20歳から80歳までの5歳刻み節目年齢の方を対象に実施した。対象年齢については、令和8年度より85歳まで拡大し、今後も継続して実施する。また、成人歯科健診を実施する方のうち、70歳、75歳、80歳を対象に口腔機能評価を実施した。令和8年度より85歳も対象に実施する。	B					◎				健康課	

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課			
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥		⑦		
63	41	8	配食サービス	高齢者や精神障がい者の健康的な食生活と安否確認等のため食事の配達を行うことにより、自立した食生活を支援する。	精神障がい者配食サービス 配食数：5,557食	安否確認や栄養に配慮した食事を届けることについては重要であると考えため、今後も継続する。	B		精神障がい者配食サービス 配食数：6,195食	安否確認や栄養に配慮した食事を届けることについては重要であると考えため、今後も継続する。	B			○							自立生活支援課
				<ul style="list-style-type: none"> ＜配食サービス(食の自立支援事業)＞ ●普通配食(65歳以上で介護の要支援以上の方に週3回夕食を配る事業) 配食数 延べ23,442食 利用者 延べ 233人 ●特別配食(65歳以上で介護の要支援以上の方に週4回～6回夕食を配る事業) 配食数 延べ 856食 利用者 延べ 5人 ●緊急配食サービス(退院などの理由で1週間程度配食する事業) 配食数 延べ 33食 利用者 延べ 7人 	食事の用意が困難となっている高齢者を対象として、配食サービスを実施。その他として、茶話会、栄養指導等の食関連事業も実施した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ＜配食サービス(食の自立支援事業)＞ ●普通配食(65歳以上で介護の要支援以上の方に週3回夕食を配る事業) 配食数 延べ19,875食 利用者 延べ 191人 ●特別配食(65歳以上で介護の要支援以上の方に週4回～6回夕食を配る事業) 配食数 延べ 875食 利用者 延べ 3人 ●緊急配食サービス(退院などの理由で1週間程度配食する事業) 配食数 延べ 0食 利用者 延べ 0人 ＜配食サービス(高齢者食事支援サービス事業)＞ 配食数 延べ 6,516食 利用者 延べ 122人 	食の自立支援事業については、食事の用意が困難となっている高齢者を対象として、配食サービス、茶話会を実施した。 また、高齢者向け配食サービスについては、配食利用者希望者の増加及び様々な介護食ニーズへの対応のため、民間配食事業者に委託する新たな配食サービス(高齢者食事支援サービス事業)を令和7年10月から試行的に開始し、食の自立支援事業については、令和7年度末をもって廃止とした。	A				◎							介護福祉課	
新			介護予防・フレイル予防普及啓発	高齢者が介護予防の知識を得て、地域でできるだけ自立した生活が継続できるよう高齢者が参加している通いの場に保健師が出向き、介護予防・フレイル予防の知識(栄養・口腔)についての講話を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ●小金井さくら体操管理会場参加者に対し、介護予防における栄養のポイントについてミニ講座を実施(年1回) 参加者 100人 ●介護予防講座(年3回) 参加者 延べ 69人 ●オンライン介護予防教室において、栄養について管理栄養士の講座を実施 参加者 基本コース 延べ 19人 継続コース 延べ 12人 ●高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の仕組み紹介アプローチとして、地域の通いの場参加者に対し、低栄養予防のポイントについて講話を実施 参加者 延べ 927人 	介護予防に関する講座等の中で、高齢期における栄養のポイントについて啓発を実施した。 引き続き介護予防・フレイル予防のための栄養のポイントについて普及啓発を行っていく必要がある。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●小金井さくら体操管理会場参加者に対し、介護予防における栄養のポイントについてミニ講座を実施(年1回) 参加者 109人 ●介護予防講座(年3回) 参加者 延べ 72人 ●高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の仕組み紹介アプローチとして、地域の通いの場参加者に対し、低栄養予防のポイントについて講話を実施 参加者 延べ 1048人 	介護予防に関する講座等の中で、高齢期における栄養のポイントについて啓発を実施した。 引き続き介護予防・フレイル予防のための栄養のポイントについて普及啓発を行っていく必要がある。	A			○	○	◎					介護福祉課	
				ミニパンフレットによる情報発信	高齢者向けの食育に関するミニパンフレットを作成し、関係機関に配する。	令和5年度に作成し、サイズ変更をしたものを栄養相談や出前授業で配布した。	令和6年度分の在庫を栄養相談や出前授業で配布予定。	B	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者向けの食育に関するミニパンフレットを栄養相談や健康づくりフォローアップ指導教室で配布した。 	今後も健康課事業で配布予定。	B	○	○	○	◎	○	○				

No.	頁	番号	事業名称	事業の内容	令和6年度進捗状況			令和7年度進捗状況			効果があったと思われる 食育の視点 ※2							担当課
					令和6年度事業実績 (具体的な数値等)	令和6年度に実施した取組み、及び 令和7年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	事業終了について (該当する場合のみご回答ください)	令和7年度事業実績 (具体的な数値等)	令和7年度に実施した取組み、及び 令和8年度以降の課題、対策等	自己評価 (対前年度進捗度) ※1	①	②	③	④	⑤	⑥	
5 計画の推進に向けて																		
(1) 施策の推進体制																		
65	42	1	食育推進会議	食育推進会議を継続して開催し、本計画の進捗状況を検証するとともに、必要な推進策を検討する。	令和6年度は予定回数（4回）を行うことができた。	今後も計画策定の予定と連動して会議を開催していきたい。	B		令和7年度は予定回数（4回）を行うことができた。	今後も計画策定の予定と連動して会議を開催していく。	B	◎	○	○	○	○	○	健康課
66	42	2	食育コーディネータの設置	食育に関する関係機関等との連携を促進する。	令和6年度活動状況：4件	今後も引き続き継続していく。	B		令和7年度活動状況：3件	今後も引き続き継続していく。	B	◎	○	○	○	○	○	健康課
67	42	3	食育推進検討委員会	市の食育推進事業の円滑な推進を図るため、関係課による食育推進検討委員会を開催する。	食育推進計画の進捗状況調査について1回実施。	今後も引き続き継続していく。	B		第5次食育推進計画策定スケジュールについて1回実施した。	今後も計画策定の予定と連動して実施していく。	B	◎	○	○	○	○	○	健康課
68	42	4	大学等との連携推進	若年層に対する対策及び食育に関する実態等の継続的な研究推進のため、大学等との食育推進事業の連携を推進する。	多摩府中保健所の青少年向けミニパンフレットと小金井市食育即ちらしを成人式に800部配布用として用意した。	令和7年度は、多摩府中保健所にて制作の「ちゃんごはんマスタークイズ」のミニパンフレットを配布予定。	B		令和7年度は多摩府中保健所のマスコットキャラクター「PARKたん」とちゃんごはんマスタークイズのQRコードを使用したステッカー800部を作成し二十歳を祝う会にて配布した。	令和8年度は多摩府中保健所の「若い世代向けちゃんごはんのススメ」を活用し普及啓発を行う。	B	○	○	○	◎	○	○	健康課

令和7年度 食育コーディネータ実績

(令和8年3月31日現在)

NO.	依頼日	依頼者(団体名)	依頼内容
1	R7.8.21	多摩府中保健所	公民館事業係に依頼し、食生活改善普及運動(9月1日～9月30日)に合わせて「からだ気配りメニュー店」のチラシを市内公民館にて配布した。
2	R7.8.21	多摩府中保健所	小金井市観光まちおこし協会に依頼し、食生活改善普及運動(9月1日～9月30日)に合わせて「からだ気配りメニュー店」のチラシを武蔵小金井駅、東小金井駅構内に配架した。
3	R7.8.21	多摩府中保健所	交通対策課に依頼し、食生活改善普及運動(9月1日～9月30日)に合わせて「からだ気配りメニュー店」のポスターをCoCoバス内に掲示した。